

リアホナ

総大会特集号





大管長会

大管長会の新しい写真。ゴードン・B・ヒンクレー大管長(中央), トーマス・S・モンソン第一副管長(左), ジェームズ・E・ファウスト第二副管長(右)は、大管長会としてともに奉仕するようになってから10周年を迎えた。3人は、1995年3月12日に任命された。

リアホナ

2 第175回年次総大会大会概要

●土曜午前の部会

- 4 開会に当たり
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 6 モルモン書——イエス・キリストについての
もう一つの証——分かりやすくして貴いこと
十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・バッカー
- 10 静かな細い声と、高鳴る心
管理監督会第一副監督
リチャード・C・エッジリー
- 13 子供たちは皆教えを受け
前中央初等協会会長 コリーン・K・メンラブ
- 16 今こそ用意をする時期である
十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン
- 19 変化の時代にあって変わらぬ真理
第一副管長 トーマス・S・モンソン

●土曜午後の部会

- 23 教会役員への支持
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 24 2004年度教会監査部報告
教会監査部実務運営ディレクター
ロバート・W・キャントウェル
- 25 2004年度統計報告
大管長秘書 F・マイケル・ワトソン
- 26 思いやりという美德
十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン
- 29 『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の持つ力
十二使徒定員会 リチャード・G・スコット
- 32 人の価値
七十人 ハロルド・G・ヒラム
- 34 什分の一——貧しくても従うべき戒め
七十人 リン・G・ロビンズ
- 36 最初の示現が結んだ実
十二使徒定員会
ディーター・F・ワークトドルフ
- 39 夫婦宣教師——
犠牲と奉仕から得られる
祝福
十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ

●神権部会

- 43 最も際立った特性
十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド
- 46 笑顔の裏に隠れた悪を
警戒しなさい
七十人
ニール・L・アンダーセン

48 主の方には
七十人 会長 ロバート・C・オークス

51 粘り強く努力する
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

54 神聖な奉仕の召し
第一副管長 トーマス・S・モンソン

58 ギャンブル
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●日曜午前の部会

- 62 聖なる場所に立つ
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 69 もう一人
十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード
- 72 信仰が答えです
七十人 会長 デビッド・E・ソレンセン
- 74 キリストのような友、これに勝る恵みはない
中央扶助協会第一副会長
キャスリーン・H・ヒューズ

77 結ばれた心
十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング

80 神が啓示された偉大な事柄
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●日曜午後の部会

- 84 何か願いがあるのか
十二使徒定員会 L・トム・ペリー
- 87 ボルノグラファー
十二使徒定員会 ダリン・H・オークス
- 91 兄弟たちを力づけなさい
七十人 ロバート・J・ホエットン
- 94 元気を出しなさい、
逆境の中で忠実でありなさい
七十人 アデマール・ダミアニ

96 年齢を重ねた人々の勧告に感謝する
七十人 スティーブン・B・オーブソン

99 主の深い憐れみ
十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー

102 結びの言葉
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●中央若い女性集会

- 104 クモラからの喜びのおとずれ
中央若い女性会長 スーザン・W・タナー
- 107 わたしのなすべき業
中央若い女性第一副会長
ジュリー・B・ベック
- 109 主は皆さんの名前を御存じです
中央若い女性第二副会長
イレイン・S・ダルトン
- 112 模範になりなさい
第一副管長 トーマス・S・モンソン

64 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

116 指導者の言葉——
大会の教えを生活に取り入れるために

117 わたしたちの時代のための教え

118 アロン神権者および若い女性用
リソースガイド

121 中央補助組織会長会

121 チャーチ・ニュース



第175回年次総大会大会概要

2005年4月2日土曜午前、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——ジェームズ・E・ファウスト副管長。開会の祈り——アール・C・ティンギー長老。閉会の祈り——ロバート・K・デレンバック長老。音楽——モルモンタバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ、マック・ウィルバーク；オルガニスト——リチャード・エリオット、ジョン・ロングハースト。「来たれ、予言者より」『賛美歌』13番；「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番、ウィルバーク編曲、未刊；「神は世を愛し」『賛美歌』107番、ケーセン編曲、未刊；「来たれ、主の子ら」『賛美歌』31番；「光の中進もう」『賛美歌』194番；「主のみ言葉は」『賛美歌』46番、ウィルバーク編曲、未刊

2005年4月2日土曜午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——ジョン・M・マドセン長老。閉会の祈り——W・ロルフ・カー長老。音楽——ユタ州オグデンおよびローガンのインスティテュート合同聖歌隊；指揮——ジョナサン・G・ウッドストック、ジェラルド・F・サイモン、ブレント・T・コトル；オルガニスト——ボニー・グッドリッフェ。「絶えず頼り主求む」『賛美歌』53番、サイモン編曲、未刊；「われみ言葉読む」『賛美歌』177番；「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番；「恐れず来たれ、聖徒」『賛美歌』17番、ウィルバーク編曲、未刊

2005年4月2日土曜夜、神権部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——D・トッド・クリストファーソン長老。閉会の祈り——フランシスコ・J・ビーナス長老。音楽——ブリガム・ヤング大学の神権者による聖歌隊；指揮——ロナルド・J・ステアリー；オルガニスト——クレグ・クリスチャンセン。「導きたまえよ」『賛美歌』41番、ホール編曲、未刊；「長き沈黙破りて出づ」『賛美歌』10番；「山の上に」『賛美歌』2番；「さらに聖くなお努めん」『賛美歌』74番、ステアリー編曲、ジャックマン刊

2005年4月3日日曜午前、一般部会

管理・司会——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。開会の祈り——菊地良彦長老。閉会の祈り——シャーリー・D・クリステンセン長老。音楽——モルモンタバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ、マック・ウィルバーク；オルガニスト——ジョン・ロングハースト、クレグ・ク

リスチャンセン。「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番；「麗しき朝よ」『賛美歌』18番、ウィルバーク編曲、未刊；「何を天に見しか」『賛美歌』9番；「わが神、わが王」『賛美歌』87番；“We Ever Pray for Thee”『賛美歌』[英文]23番、ウィルバーク編曲、未刊；「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番、ウィルバーク編曲、未刊

2005年4月3日日曜午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——カーロス・H・アマード長老。閉会の祈り——ウィリアム・W・バームリー長老。音楽——モルモンタバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ、マック・ウィルバーク；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ。「造り主の主を」『賛美歌』37番、ウィルバーク編曲、未刊；“Where Can I Turn for Peace?”『賛美歌』[英文]129番、ウィルバーク編曲、未刊；「正しかれ」『賛美歌』151番；「わかれにまた」『賛美歌』88番、ウィルバーク編曲、未刊

2005年3月26日土曜夜、中央若い女性集会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——スーザン・W・タナー。開会の祈り——エイミー・エンゲブレトセン。閉会の祈り——アン・M・ディップ。音楽——ユタ州スパニッシュフォークおよびセーレムの若い女性合同聖歌隊；指揮——クリスティー・フライ；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ。「来たれ、喜べや」『賛美歌』8番、アンズワース編曲、未刊；「長き沈黙破りて出づ」『賛美歌』10番、マーゲッツ編曲、未刊；「麗しき朝よ」『賛美歌』18番、ケーセン

編曲、ジャックマン刊；「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番、ゴータス編曲、未刊、「シオンの若者として」『リアホナ』2000年4月号、24

総大会の収録物の入手

総大会の各部会を収録したテープ類は、通常、教会管理本部配送センターから大会後2か月以内に多くの言語で入手できるようになっています。

インターネット上での大会説教

インターネットにより、多くの言語で総大会説教にアクセスすることができます。アドレスは次のとおりです。—— www.lds.org。“Gospel Library”，“General Conference”の順にクリックし、言語を選択してください。

ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとしては、訪問する会員の必要性に最も適した総大会説教の一つを選んでください。

表紙の説明

「1830年、イエス・キリストの教会が組織される」ジョセフ・ブリッキー画、複写は禁じられています

大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。ソルトレーク・シティー——クレグ・ダイヤモンド、ウェルデン・C・アンダーセン、ジョン・ルーク、マシュー・ライアー、クリスティーナ・スミス、ケリー・ラーセン、タムラ・H・ラティエタ、スコット・デービス、レス・ニルソン、ロバート・ペイン。ベルギー——アレクサンダー・ストゥルーバント。韓国——^{リ・ミンヒョ}李珉姫。メキシコ——セルジオ・マルドナード。ニュージーランド——リチャード・ステイブンス。フィリピン——ジェイミー・N・リベラ。スペイン——セルジオ・ディアス。



リアホナ 2005年5月号

第7巻5号 (25985 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー, L・トム・ペリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オックス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング, デイター・F・ウークトドルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ, ゲーリー・J・コールマン

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

企画編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

グラフィックディレクター:アラン・R・ロイボーグ

機関誌編集ディレクター:リチャード・M・ロムニー

編集主幹:マービン・K・ガードナー

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース, スーザン・バレット, シャン・ハトラ, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーバー, ラリソン・ポーター・ガート, ジェニファー・L・グリーンウッド, R・ハル・ジョンソン, キャロル・カستن, メルビン・リービット, サリー・J・オデカーク, アダム・C・オルソン, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テラー, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワーデル, キンバリー・ウェップ

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:ハワード・G・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ピクストン, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ウーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●[リアホナ]のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

年間予約/海外予約 2,400円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大番号 200円

[リアホナ]への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール: cur-liahona-imag@ldschurch.org

[リアホナ](モルモン書)に出てくる言葉「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルメニア語, アラビア語, イタリヤ語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブアノ語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, チェコ語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ルウエー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, トピア語, リトニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2005 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本

[リアホナ]に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール—cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines May 2005.

Japanese. 25985 300

[リアホナ]は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

May 2005 no. 5 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



話者リスト(50音順)

アイリング, ヘンリー・B, ……77
アンダーセン, ニール・L, ……46
ウークトドルフ, デイター・F, 36
エッジリー, リチャード・C, ……10
オックス, ダリン・H, ……87
オックス, ロバート・C, ……48
オープンソン, スティーブ・B, 96
スコット, リチャード・G, ……29
ソレンセン, デビッド・E, ……72
タナー, スーザン・W, ……104
ダミアニ, アデマール, ……94
ダルトン, イレイン・S, ……109
ネルソン, ラッセル・M, ……16
バッカー, ボイド・K, ……6
バラード, M・ラッセル, ……69
ヒューズ, キャスリーン・H, ……74
ヒラム, ハロルド・G, ……32
ヒンクレー, ゴードン・B, ……4, 58, 80, 102
ファウスト, ジェームズ・E, 51, 62
ヘイルズ, ロバート・D, ……39
ベック, ジュリー・B, ……107
ベドナー, デビッド・A, ……99
ペリー, L・トム, ……84
ホエットン, ロバート・J, ……91
ホランド, ジェフリー・R, ……43
メンラブ・コリー・K, ……13
モンソン, トーマス・S, ……19, 23, 54, 112
ロビンズ, リン・G, ……34
ワースリン, ジョセフ・B, ……26
テーマ別索引
あ愛 ……91, 94

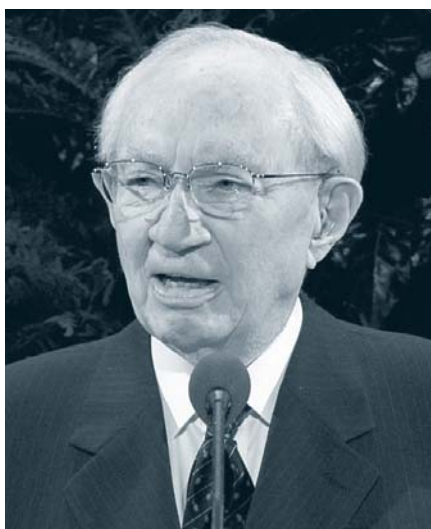
あがし証 10, 13, 36, 69, 96, 107, 109, 112
贖い ……10, 26
あがな憐れみ ……99
イエス・キリスト ……6, 10, 26
祈り ……6, 46, 109
受け継ぎ ……112
永代教育基金 ……4
教えること ……13, 29, 51, 69
思いやり ……26, 74, 91
か改宗・改心 ……77, 84, 91
回復 ……10, 43, 84, 109
家族歴史 ……19, 77
活発化 ……32, 54, 91
家庭 ……62
家庭の夕べ ……19
神の特質 ……109
感謝 ……4
犠牲 ……34, 39, 58
偽善 ……87
希望 ……94
義務 ……54
逆境 ……72, 94
ギャンブル ……58
教会の発展 ……4, 91
聖さ ……62
悔い改め ……16, 87, 94
個人の価値 ……32, 104
子供 ……13, 19
さ最初の示現 ……36, 80
死 ……16
自信 ……94, 99
従順 ……16, 32, 46, 48, 72, 99
しんがは 什分の一 ……34, 58
祝福 ……34, 99
常習性 ……58, 87
神権 ……43, 48, 54, 80
信仰 ……4, 6, 34, 39, 72, 94, 99, 102, 109
神殿と神殿活動 62, 77, 102
人道支援 ……102
信頼 ……72
真理 ……19, 102, 112
救いの計画 ……6, 29
スミス, ジョセフ ……36, 80, 104, 107, 109
聖文学習 ……6, 29
聖約 ……48, 54, 77, 104
聖霊 ……6, 10, 13, 36, 46, 99
選択の自由 ……16, 46
備え ……16, 69
た知恵 ……96
父なる神 ……80
伝道活動 29, 39, 69, 84, 107
道徳性 ……48, 58
な粘り強さ ……51
年輩者 ……96
は夫婦宣教師 ……39
負債 ……19
平和・平安 13, 62, 72, 94, 99
奉仕 39, 51, 54, 74, 91, 107
ボルノグラフィー ……87
ま模範 ……39, 112
モルモン書 ……6, 10, 80
や友情 ……74
誘惑 ……46, 112
救し ……32
預言者 ……96, 104
ら霊的な賜物 ……99
わ「わたしの福音を宣べ伝えなさい」 ……29

開会に当たり

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

前進するに当たり、わたしたちの責任はきわめて大きいですが、機会はすばらしいものです。



愛する兄弟姉妹の皆さん、この教会の世界中の会員を代表し、カトリックの隣人や友人の皆さんに、この悲しみの時にあって、心からのお悔やみを申し上げます。ローマ法王ヨハネ・パウロ2世は、キリスト教の大義を推し進め、貧しい人々の重荷を負うために、また、倫理観と人の尊厳を擁護して恐れず語るために、うまずたゆまず働いてこられました。わたしたちは、ヨハネ・パウロ2世のご逝去を、大勢の人々、とりわけ、彼の指導を仰いでこられた方々とともに悼んでいます。

さて、兄弟姉妹、この総大会を開会するに当たり、過去10年にわたるわたしたちの管理の職について少し話すのがふさわしいかと思えます。

1995年3月12日、大管長会という高く神聖な責任がわたしたちに与えられました。その後の大会で、わたしはこう述べました。

「さて、兄弟姉妹の皆さん、もう少しの頑張りを示し、視野を広げ、精神を集中して、福千年における末日聖徒イエス・キリスト教会の壮大な使命に対する知識と理解を深める時が来ました。今は堅固に立つべき時です。自分たちに与えられている使命の意義、大きさ、重要性をよく理解したうえで、ためらうことなく前進する時です。どのような結果になろうとも、それをいとわずに、正しいことをなすべき時です。戒めを守るべき時です。悲しみの中にある人々、また暗闇と苦しみの中をさまよっている人々に、愛と優しさを示す時です。すべての人間関係において、お互いに思いやりを示し、親切にし、節度ある態度で、礼儀正しくする時です。言い換えれば、なおいっそうキリストに近い生活をする時なのです。」(『主のみ業』『聖徒の道』1995年7月号、76-77)

10年前に呼びかけたことがどれくらい実現できているか、判断するのは皆さん一人一人です。

この10年は教会歴史においてすばらしい時節となりました。御業が目覚ましく開花しました。意義深い達成も数多く見られました。

この前進は、大管長会、十二使徒定員会、七十人または管理監督会だけの働きではありません。ステーク会長会、高等評議会のすべての会員、すべての監督会と定員会会長会、すべての補助組織会長会、そしてこの教会に属する全世界のすべての忠実で活発な会員、この人たちの信仰と祈り、努力、献身的な奉仕の結果なのです。



皆さんがどこにしようとも、一人一人にわたしの気持ちを伝え、皆さんの偉大で献身的な奉仕に感謝いたします。皆さんは何と力強い民でしょうか。

預言者ジョセフ・スミスを通して回復されたイエス・キリストの福音の威厳とすばらしさは、今日まばゆいほどの光を放っています。

この10年の歩みを振り返るときに、決して尊大になったり高慢になったりしてはなりません。そうではなく、様々な試みが達成されてきたことに対して、へりくだって感謝の念を抱くべきでしょう。

例えば、北アメリカに住む会員よりもそれ以外の地に住む会員の方が多くなるま



説教をするゴードン・B・ヒンクレー大管長の姿が、カンファレンスセンターの大型スクリーンに映し出されている。

で、教会は発展してきました。わたしたちは、会員が160か国の至る所にいる、立派な国際家族になりました。

この10年で新たに500以上のステークが組織され、新たに4,000以上のワードや支部が組織されました。そして300万人の新しい会員が教会に加わりました。

教育システムへの登録者数は約20万人増えて、10年前の倍になりました。青少年のほとんどは、より強くなり、より忠実になりました。

「永代教育基金」が設立されました。初めは希望と信仰しかない状態でした。しかし今日では、27か国に住む1万8,000人近くの若人が援助を受けています。彼ら

は訓練を受け、これまで何世代にもわたって甘んじてきた貧困という窮地から脱け出しています。技術は磨かれ、収入は増えています。

また神殿の数も激増しました。1995年に47の神殿がありました。現在119の神殿があり、今年あと3つの神殿が奉獻されます。

1995年にモルモン書は87か国語で出版されていました。今日106の言語で読むことができます。

そしてこの10年で、5,100万部のモルモン書が配付されました。

世界中に、文字どおり何千もの建物を建ててきました。以前に建設されたものに比べると質も良くなり、わたしたちの必

要に、より適したものとなっています。

それに加えて、今日の舞台となっているこのすばらしいホール、独創的で美しいカンファレンスセンターをソルトレーク・シティーに建設しました。

さらに世界中で苦しんでいる人や困っている人を助けるために、どこに住む人かにかかわらず手を差し伸べてきました。過去10年で数億ドル相当の現金や生活必需品を、人道的支援を通して教会員ではない方々に届けてきました。

全能者のこの業に対する証^{あかし}を述べるために、わたしたちは世界中を旅してきました。この10年でわたし個人は、160万キロ近くを旅して70数か国を訪れました。最

愛の伴侶は、1年前の4月6日に亡くなるまでともに旅をしました。そのときから寂しい日々を送っています。

しかし、将来へのわたしたちの希望は大きく、信仰は強固です。

わたしたちはまだ、将来起こることのほんのわずかしか目にしていません。

わたしは今年で95歳になります。こんなに長生きするとは夢にも思っていませんでした。わたしの人生は、テキサスで見たぼろぼろの有刺鉄線にさびたホチキスで取り付けられていた看板を思い出させます。こう書いてありました。

干ばつに焼かれ、
洪水に見舞われ、
野うさぎに作物を食い尽くされ、
保安官に土地を売られても、
わたしはまだここを離れない。

わたしは主がお許しになるかぎり、愛する友人や同僚である皆さんとともにいたいと思っています。そしてわたしの奉仕が受け入れられることを願っています。

わたしたちの土台は、主イエス・キリストの福音です。聖なる神権の権能がここにあります。主から直接授けられた人々の手により回復されたのです。天が開かれ、天の神とその愛する御子が少年預言者ジョセフに語られ、この最後の神権時代が始まりました。

前進するに当たり、わたしたちの責任はきわめて大きいですが、機会はすばらしいものです。

10年前の言葉を繰り返しましょう。「もう少しの頑張りを示し、視野を広げ、精神を集中して、福千年における末日聖徒イエス・キリスト教会の壮大な使命に対する知識と理解を深め」ましょう。

兄弟と姉妹の皆さん、これをもって、今朝のわたしから皆さんへの招きと歓迎の言葉といたします。この偉大な大会を開会するに当たり、愛と祝福と感謝をお伝えします。主の御霊がここで起こるすべてのことを導くように、へりくだってイエス・キリストの聖なる御名により祈ります。アーメン。

モルモン書—— イエス・キリストについての もう一つの証—— 分かりやすくくて貴いこと

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・バッカー

モルモン書には知恵と靈感、勧告と懲戒が数限りなく収められています。



ジョセフ・スミスは言いました。「わたしは兄弟たちに言った。『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることに、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」(モルモン書序文。History of the Church, 第4巻, 461も参照)

イエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書の初版は、1830年3月、

ニューヨーク州パルマイラで印刷されました。教育のない、田舎育ちのジョセフ・スミスは当時24歳でした。その前年、ジョセフは金版の翻訳に合計で約65日を費やしました。その期間が半分過ぎたころ、ジョセフは神権を受けました。印刷に要した期間は7か月でした。

わたしはモルモン書を初めて最初から最後まで読んだとき、次の約束も読みました。「[もし読んだこと]が真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問う[ならば、そして]キリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によって[わたし]に明らかにしてくださる。」(モロナイ10:4) この勧めについて知ったわたしは、勧めに従ってみることにしました。

すぐに示現を受け、すばらしい経験ができるものと期待していましたが、そのようなことは起こりませんでした。しかし、良い印象を持ち、信じるようになりました。

次の節では、さらに偉大な約束が書かれています。「聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう。」(モロナイ10:5, 強調付加) 聖霊についてはモルモン書に何度も説明されて

いますが、聖霊が実際どのように働かれるかは、よく分かりませんでした。

聖文を研究していくうちに、次のことが分かりました。「天使は聖霊の力で語る。したがって、天使はキリストの言葉を語る。〔そして〕キリストの言葉をよく味わう〔なら、〕キリストの言葉〔が〕なすべきことをすべて告げる〔という約束を受ける。〕」(2ニーファイ32:3)。

また簡潔にこう書かれています。「あなたがたが理解できないとすれば、それはあなたがたが求めもせず、また、門をたたきもしないためである。」(2ニーファイ32:4)

こうもあります。「あなたがたがその道によって入り、聖霊を受けるならば、聖霊は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう。」(2ニーファイ32:5) わたしは「聖霊の賜物たまものを授けるためのあんじゅの按手」によって教会の会員に確認されていたので、すでに聖霊を受けていました(信仰簡条1:4)。

わたしは無邪気な少年時代に、霊的に特別な経験を期待しましたが、特にそのような経験は得られませんでした。長年、説教やレッスンに耳を傾け続け、モルモン書を読み続けた末に、ようやく理解できるようになったのです。

ニーファイは、兄たちから暴力を受けたとき、天使から語りかけられたときのことを思い出させて言いました。「あなたがたは心が鈍っていたので、その言葉を感じる事ができませんでした。」(1ニーファイ17:45)聖霊は人の心に語りかけられます。それが理解できたとき、新約聖書であれ、モルモン書やほかの聖文であれ、なぜキリストの言葉が快い気持ちを与えてくれるのかが分かりました。やがて、わたしの疑問の答えはすべて聖文の中にあることが分かりました。

こうあります。「さあ、その言葉は次のとおりである。あなたがたはこれらを、自分自身とすべての人に当てはめてみるがよい。」(2ニーファイ11:8, 強調付加。1ニーファイ19:23-24; 2ニーファイ6:5; 11:2も参照)つまり、聖文はわたし自身に、そして、あらゆる人に当てはめることができるのです。



その時々に応じて特別な意味を帯びてくる聖句に出会うと、それを記した人がわたしの人生や感情について、円熟した深い理解力を持っていたことを感じます。

例えばこういうことです。命の木の実を取って食べた預言者リーハイがこう言います。「それでわたしは、家族にも食べてほしいと思い始めた。その実が、ほかのどんな実よりも好ましいことが分かったからである。」(1ニーファイ8:12) そこを何度も読みましたが、特に大きな意味を感じることはありませんでした。

預言者ニーファイもこう述べています。「わたしの子孫の知識となり利益となるように〔……わたし自身のこと〕を書き記す。」(2ニーファイ4:15) この節も何度も読みましたが、特に大きな意味を感じませんでした。しかし、子供が生まれたとき、リーハイとニーファイが子孫に対して、わたしたちが子や孫に感じるのと同じように深い気持ちを感じていたことが理解できました。

わたしは、聖文が分かりやすく貴重ということを知りました。若いころのジョセフ・スミスには、それほどするどい洞察力はなかったことでしょう。ジョセフにそのような洞察力があったとは思いません。持つ必要もありませんでした。版に記されたことを翻訳すればよかったのです。

このように、モルモン書には分かりやすく貴重洞察に至る所にあります。23歳の青年にはとても備わっていないような、深遠

な知恵や経験が反映されているのです。

どこのだれであろうと、モルモン書を読む人は靈感を受けることをわたしは知りました。

中には2度、3度と読んで初めて理解し、日常の出来事に関連づけられるようになった聖句もありました。

モルモン書を初めて読んだときには気づかなかった分かりやすく貴重教えをもう一つ紹介しましょう。わたしは18歳のときに徴兵されました。そのときになって初めて、戦争に行くのがわたしにとって正しいことなのだろうかとか大いに悩みました。やがて、モルモン書から答えを見つけました。

「彼ら〔ニーファイ人〕は君主制のために戦ったのではなく、権力のためでもなく、自分たちの家と自由と、妻子と、自分たちのすべてのもののために、特に礼拝の儀式と教会のために戦っていた。

彼らは、神に義務を負っていると感じていたことを行っていたのである。主は彼らに、また彼らの先祖に、『あなたがたは最初の攻撃についても、2度目の攻撃についても、罪を犯していないかぎり、敵の手によって殺されるに任せてはならない』と言われたからである。

主はまた、『あなたがたは血を流してでも自分たちの家族を守りなさい』とも言われた。したがって、ニーファイ人は自分自身と家族、土地、国、権利、宗教を守るた

めにレーマン人と戦っていたのである。」
(アルマ43：45-47)

この聖句のおかげで、進んで、また誉れをもって出征することができました。

もう一つの例です。わたしたちはあるとき大きな決断を迫られていました。祈っても不安だったので、ハロルド・B・リー長老のもとに行き、尋ねてみました。すると、決断したとおりに実行しなさいと言われました。それでもためらっているわたしに、リー長老はこう言いました。「始めから結果を見ようとするからいけないのです。」そしてモルモン書の一節を引用してくれました。「自分が見ていないからということで疑ってはならない。信仰が試されてからでなければ、証は得られないからである。」(エテル12：6)

リー長老はこうも言いました。^{くらやみ}「暗闇に2、3歩足を踏み入れてみなさい。そうすれば、光が現れてその先を照らしてくれるでしょう。」モルモン書の一節に端を発したこの経験は、わたしの人生を変えました。

皆さんは時々、ニーファイの次の言葉を実感することはありますか。「わたしは、前もって自分のなすべきことを知らないまま、^{みなま}御霊に導かれて行った。」(1ニーファイ4：6) 皆さんは、自分の至らなさを痛感することはありますか。

モロナイは「[自分たちの弱さのために、自分たちの言葉が]あざけ[られ]るのではないかと」心配しました。

「主はわたしに言われた。『愚か者はあざけるが、後に嘆き悲しむ。わたしの恵みは柔和な者に十分であり、彼らがあなたの弱さに付け込むことはない。』」

もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。わたしは人を謙遜にするために、人に弱さを与える。わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。』(エテル12：25-27, 強調付加)

人生は目まぐるしく変化します。至らなさを感ずり、落胆し、意気消沈し、不安になったときには、モルモン書を開いて、読

んでください。次の節、次の原則、次の章を読むまでに、あまり時間を置かないでください。

わたしの場合、証は突然にわき上がってはきませんでした。アルマが言うように、わたしの証も種から大きくなりました。「それはあなたがたの信仰を強めるであろう。あなたがたは、『これは良い種であることが分かる』と言う。見よ、それが芽を出し、生長し始めているからである。」(アルマ32：30) この種は、養うなら生長しますが、養わなければ、枯れてしまいます(アルマ32：37-41参照)。

何度か読んでも、力強い証が得られないかもしれませんが、落胆しないでください。そのような場合、ただモルモン書に登場するあの弟子たちと同じだけかもしれないのです。彼らは大いなる栄光のうちに神の力で満たされても「それを知らなかった」のです(3ニーファイ9：20)。

最善を尽くしてください。次の聖句を考えてください。「これらのことはすべて、賢明に秩序正しく行うようにしなさい。人が自分の力以上に速く走ることは要求されてはいないからである。しかしまた、賞を得るために勤勉に励むのは必要なことである。したがって、何事も秩序正しく行うようにしなさい。」(モーサヤ4：27)

モルモン書に述べられている霊的な^{たまもの}賜物が、現在の教会に現れています。つまり、ささやきや印象、啓示、夢、示現、訪れ、奇跡といったことがあるのです。主は力と大いなる栄光とをもって御自身を現すことがおできになり、時々そうされています。奇跡は起きているのです。

モルモンは言いました。「奇跡の日は終わってしまったと言えるであろうか。

天使が人の子らに現れることは、終わってしまったのであろうか。神は聖霊の力を人の子らに与えられなくなったのであろうか。時が続くかぎり、大地が存在するかぎり、地の面に救われる人が一人でもいるかぎり、神は聖霊の力を与えるのを控えられるのであろうか。

見よ、そうではないと、わたしはあなたがたに言う。奇跡が行われるのは信仰によるからである。」(モロナイ7：35-37)

一人で、また家族で、常に祈ってください。祈りは様々な方法でこたえられます。

「悪事は決して幸福を生じたことがない」という聖句のように(アルマ41：10)、聖句の中には、悪魔の存在とその業を示す言葉があります。

「悪魔はこのように働くからである。悪魔はだれにも善を行うように説き勧めない。また悪魔の使いも、悪魔に従う者も、そのように説き勧めない。」(モロナイ7：17)

歴代の預言者は、永遠の福音の教えは「キリストに穏やかに従」う人々を守ると教えました(モロナイ7：3)。

モルモンは現代を目にして、こう警告しました。「またこのことから、主が多くの苦難をもって御自分の民を懲らしめられなければ、まことに、死と恐怖と飢饉とあらゆる疫病を下されなければ、彼らは主を思い起こそうとしないことが分かる。」(ヒラマン12：3)

主の訪れを受けたニーファイ人はこう尋ねました。「『この教会をどのような名で呼ぶべき[でしょうか。]この件について民の中に論争がございますから。』」

……主は、彼らに言われた。『……民がこのことについてつぶやき、論じ合うのはなぜか。

彼らは、「キリストの名を受けなければならない」という聖文を読んだことがないのか。キリストとはわたしの名である。終わりの日にあなたがたは、この名によって呼ばれるのである。』(3ニーファイ27：3-5)

モルモン書の第1の目的はイエス・キリストを証することです。モルモン書の6,000以上の節、つまり半分以上の節は、直接イエス・キリストについて記しています。

「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」(2ニーファイ25：26)

モルモン書には知恵と靈感、勧告と懲戒が数限りなく収められています。それらは「[わたしたち]の中の弱い者および最も弱い者の能力に適する」ものです(教義

と聖約89:3)。また、謙遜であることを条件に、高い学識のある者にも豊かな養いを与えます(2ニーファイ9:28-29参照)。

モルモン書から以下のことを学ぶことができます。

救いの計画すなわち「偉大な幸福の計画」(アルマ42:8。アルマ42:5, 8, 12, 30も参照)

キリストの教義と贖い^{あがな}(2ニーファイ31:2-21; 32:1-6; 3ニーファイ11:31-40; 27:13-21参照)

死が必要な理由(2ニーファイ9:4-6; モーサヤ16:8-9; アルマ12:25-27参照)

霊界における死後の生活(アルマ42:11-14参照)

悪魔の業(2ニーファイ2:27; アルマ28:13; 3ニーファイ2:2参照)

神権の位(モーサヤ29:42; アルマ4:20; 5:3, 44; アルマ13:1-10参照)

聖餐^{せいさん}の祈り(モロナイ4:3; 5:2参照)

善悪を見分ける確かな方法(モロナイ7:16参照)

罪の赦しを保つ方法(モーサヤ4:26参照)

預言者からの明確な警告、人の贖いに関する多くのこと、そのほか人の生活に関する多くのこと。すべて完全な福音の一部なのです(教義と聖約20:9参照)。

モルモン書は旧約聖書の教えを支持しています。新約聖書の教えも支持しています。新旧約聖書から取り去られ、失われた「分かりやすくて貴い多くの部分」を回復しています(1ニーファイ13:28。1ニーファイ13:20-42; 14:23も参照)。モルモン書は確かにイエス・キリストのもう一つの証なのです。

教会は今年、教会設立175周年と、預言者ジョセフ・スミス生誕200年を祝います。教会では、ジョセフをたたえる言葉が多く書かれ、語られるでしょう。

ジョセフを中傷する言葉や文章も多く出回ることでしょう。ジョセフの名誉を損なおうとする人は、200年前の記録を調べてジョセフの欠点を探すでしょう。そのような人は、昔もいましたし、今もいます。そして将来もいるでしょう。

啓示はこう告げています。「わたしの油注がれた者に向かってかかとを上げる者



十二使徒定員会の会員たちにあいさつをするゴードン・B・ヒンクレー大管長、トーマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長の3人。

は皆のろわれる、と主は言う。わたしの油注がれた者がわたしの前に罪を犯すことなく、わたしの目にかなうことと、わたしから命じられたことを行つたのに、彼らは罪を犯したと叫ぶ者は皆のろわれる、と主は言う。」(教義と聖約121:16) 彼らは非常に厳しい罰を受けるのです。

預言者ジョセフ・スミスを弁護する必要はありません。イエス・キリストのもう一つの証であるモルモン書がジョセフを擁護します。ジョセフ・スミスが預言者、啓示者

であることを否定する人は、モルモン書を否定する何らかの根拠が必要となります。

第2の力強い擁護者は教義と聖約であり、第3は高価な真珠です。合本として出版されているこれらの聖典は、イエスがキリストであられることと、ジョセフ・スミスが預言者であることを揺るぎなく証しています。

わたしも、そのような証を持つ何百万の人々とともに証します。イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。

静かな細い声と、 高鳴る心

管理監督会第一副監督
リチャード・C・エッジリー

あかし
回復の奇跡を証してくれるのは、静かな細い声と高鳴る心なのです。



1995年、ソルトレーク・シティーで子供の栄養に関する科学セミナーが開かれた際、わたしは開会と歓迎の言葉を述べるように頼まれました。そこには24か国から96人の科学者が出席していました。話しながら聴衆を見渡したとき、服装や肌の色、言葉、その他はっきりとした特徴から、出席者が明らかに多くの国を代表していることに感動しました。

その3、4か月後、合衆国の東海岸で開かれた、あるステーキ大会に出席したときのことで、神権指導者会に備えて壇上に座っていると、一人のアフリカ人男性が礼拝堂に入って来て、通路側の席に座りました。何となく見覚えがあったのですが、どこで会ったのかは思い出せませ

んでした。隣に座っていたステーキ会長に顔を近づけ、その男性について尋ねると、次のような答えが返ってきました。「ああ、彼は教会員ではありませんよ。アフリカの有名な大学から来ている客員教授です。数か月前、ソルトレーク・シティーで開かれた科学セミナーに出席したとき、教会のパンフレットを手にしてさらに知りたいと思い、教会に関するものなら何でも読んだそうです。今では出られる集会にはすべて出席しています。」そして、冗談半分にこう付け加えました。「きつと扶助協会にも出ていると思いますよ。」

神権指導者会の後で、わたしはその客員教授に改めて自己紹介をしました。彼は、新たに真理の源を見いだしたことに胸を躍らせていると話してくれました。アフリカにいる家族も宣教師から福音を学んでおり、4週間後にはアメリカにやって来て、家族全員でバプテスマを受ける予定だと説明してくれました。

土曜日夜の成人のための集会後、この男性は説教台に駆け寄って来ると、胸をたたきながら興奮してこう言いました。「わたしの心はこのぐらい高鳴っています。抑え切れないほどです。家族がバプテスマを受けるまで4週間も待てるかどうか分かりません。」わたしは彼に、心を落ち着かせて、奥さんや子供たちを待ち、家族そろってバプテスマを受けた方がいいと思いますよ、と話しました。

エリヤが邪悪なフェニキアの女王イゼ

ベルから「自分の命を救うために立って逃げ」たとき、主は彼を高い山に導かれました。そこで彼は非常に珍しい経験をします。エリヤが山の上で主の前に立っていると、次のようなことが起こりました。「大きな強い風が吹……いた。しかし主は風の中におられなかった。風の後に地震があったが、地震の中にも主はおられなかった。地震の後に火があったが、火の中にも主はおられなかった。火の後に静かな細い声が聞こえた。」(列王上19:11-12)

時折、教会員ではない方々から、ほかの教会は会員数も活動状態も低下していると言われていたのに、わたしたちの教会はその両方において、なぜそれほど急速に発展しているのかという質問を受けます。その答えはただ、静かな細い声と高鳴る心です。忙しく目まぐるしい、騒々しいこの世にあって、それは風のようにもなく、火のようにもなく、地震のようにありません。ただ、静かな細い、しかし確かに聞き分けられる声であり、その声を聞くと、心が高鳴り始めるのです。静かに心が内に燃えることによって、この福音がイエス・キリストの回復された福音であることが分かります。この教会は、暗黒と混乱に閉ざされ、何世紀もの間失われていた、すべての教義と神権と聖約を備えています。そうです。回復の奇跡を証してくれるのは、静かな細い声と高鳴る心なのです。

静かな細い声と高鳴る心こそが、何百万という会員の心に、言葉にも行いにも奉仕にもイエスの生涯に倣いたいという思いを与え、何千という退職した夫婦に、通常は18か月、あるいはそれ以上の間伝道の奉仕をしたいという思いを与えるのです。快適な生活を捨て、自費で、中には大きな犠牲だと思われることをしてまで世に出て行き、奉仕します。温かいシャワーや快適なベッドが思い出の中だけのぜいたく品であるようなへき地で奉仕することもよくあります。

静かな細い声と高鳴る心に動かされ、何百、何千という若い男女が将来性のある仕事を辞め、学業を後に回し(時には



スポーツや奨学金をあきらめ)、恋愛を先に延ばし、自分の資金を使って主に仕え、福音の回復を宣べ伝えるために出て行きます。時にはあざけられ拒まれても、静かな細い声と高鳴る心が、清さや正直、そして原則のために堅く立つという望みと勇氣を若人に与えます。喜んで神の戒めを守り、恵まれない人々の重荷を負おうという気持ちを抱かせます。そうです、静かな細い声と高鳴る心には力があるのです。

アルマは、わたしたちの心の霊的な状態について、このように尋ねています。「あなたがたは霊的に神から生まれているか。」それに続けて「あなたがたの顔に神の面影を受けているか。あなたがたは心の中に、この大きな変化を経験したか」と聞いています(アルマ5:14, 強調付加)。言い換えれば、皆さんの心はイエス・キリストの証に感動し、高鳴っているのでしょうか。

わたしの心を動かし、高鳴らせるものは多くありますが、その中から3つのことをお話します。第1に、イエス・キリストがわたし自身の救い主であられ、その大いなる愛のゆえに、想像を絶する苦痛と、そして死さえも身に受けてくださったということに、わたしの心は高鳴ります。一人になって深く思い巡らし、イエス・キリストの血によって清められ、贖あがなわれることが

できると悟るとき、心は高鳴ります。自分が犯した様々な罪に苦しまずに済むようにと、キリストが受けてくださった苦しみ、支払ってくださった代価がいかに大きなものであったかについて深く考えるとき、心は高鳴ります。

第2に、わずか14歳の少年が森に入り、純真で謙遜な祈りをささげたことにより天が開かれて、神とキリストが御姿を現され、天使たちが降ったということを知り、わたしの心は高鳴ります。それによって、神権や聖約、そして純粋なままの教義も含め、イエス・キリストの完全な福音が回復されました。完全な回復された福音を世にもたらすために、この若き預言者がいかに大きな試練を堪え忍んだかを考えると、心は高鳴ります。天の御使いが降ったとき、サタンサタンの使いも人に働きかけていました。迫害が始まり、ジョセフの生涯も古代の預言者たちの生涯と同様、殉教によって幕を閉じました。あらゆる試練と迫害の中にあっても、若き預言者は決して揺らぐことなく、信仰を貫きました。

預言者ジョセフ・スミスのおかげで、わたしはキリストの贖いの偉大さについてさらによく理解できるようになりました。預言者ジョセフのおかげで、ゲツセマネの園の重要性をさらによく理解できるようになり

ました。そこはキリストが、罪だけでなく、痛みや弱点、試練、悲しみに伴うわたしたち一人一人の苦しみをも担うために、大いなる苦しみを受けられた場所でした。また、ジョセフのおかげで、主の大いなる最後の犠牲が、無限で永遠の犠牲であると理解できるようになりました。そして、最後の贖いを成し遂げられた行為に、救い主の深い愛が表れていることがさらによく理解できるようになりました。ジョセフ・スミスのおかげで、救い主に対する愛と感謝はさらに深まり、主への礼拝はさらに有意義なものとなりました。賛美歌集の中にはウィリアム・W・フェルプスの書いた賛美歌が数多く載っていますが、その中でもよく知られているのが「たたえよ、主の召したまいし 主と語りし預言者を」で始まる賛美歌です(「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番)。この賛美歌を歌うとき、わたしの心は高鳴ります。

そうです、わたしたちは熱意と喜びにあふれて「たたえよ、主の召したまいし 主と語りし預言者を」と歌います。そこで、いっそう深い敬虔さと感謝と感情を込めて、救い主について書かれた次の賛美歌を歌うのです。「ああ、わがため主は死にたもう 奇しき業 ああ、奇しき主のみ業」(「主イエスの愛に」『賛美歌』109番)。

救い主の贖いが個人個人にどのような影響をもたらすかについて、預言者ジョセフ・スミスによってわたしの人生にもたらされた啓発のために、わたしの心は高鳴ります。

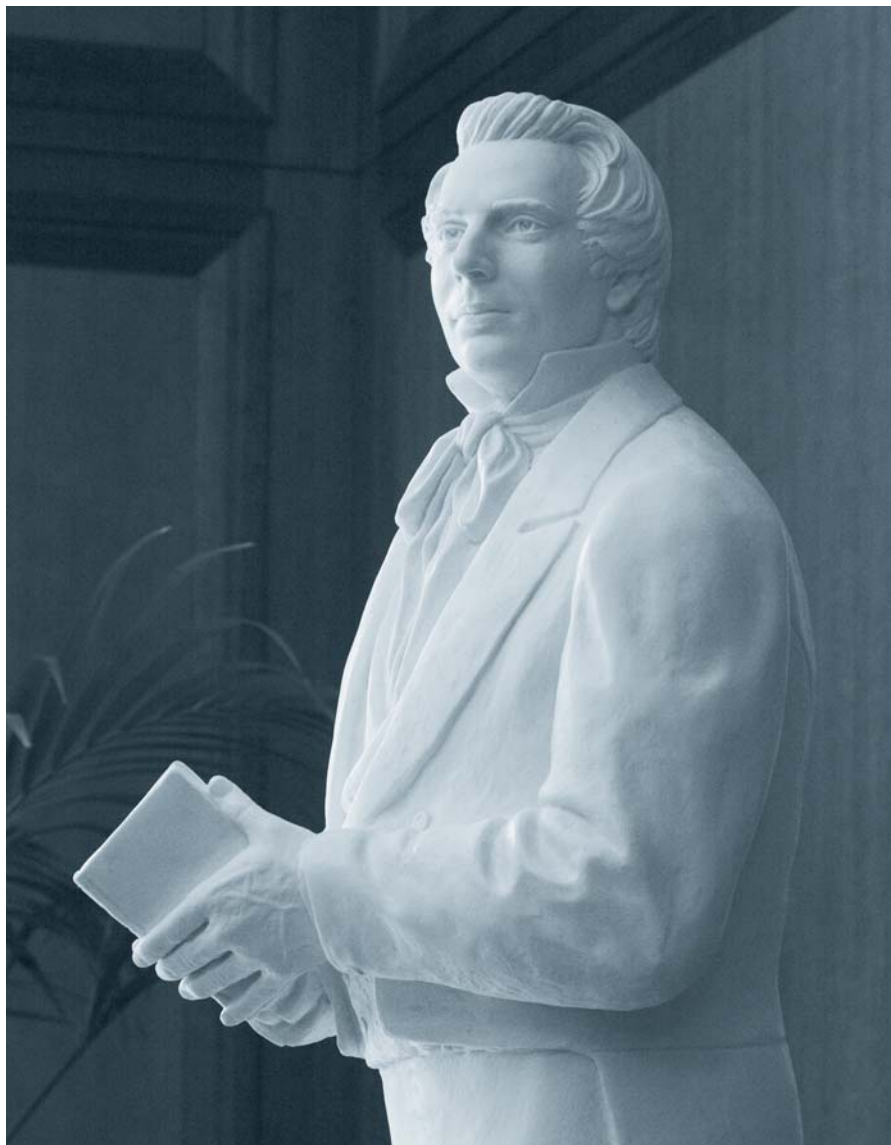
第3に、モルモン書の神聖な聖文を研究し、思い巡らすときに、わたしの心は高鳴ります。この聖典は聖書を補い、神の御子、贖い主、世の救い主イエス・キリストの神性をさらに証するものだからです。聖書と並ぶこの神聖な書物のおかげで、キリストの教義に対する理解は広げられ、聖書だけでは分からなかった多くの疑問への答えを見いだし完全に理解できるようになりました。モルモン書は、ジョセフが神の預言者であり、キリストが確かにジョセフに御姿を現され、純粋で完全なままの福音が回復されたことを証する、目に見える証拠です。

金属版に文字を刻むという骨の折れる作業、神の選ばれた者によって何世紀もの間、注意深く守られてきたという事実、そしてまさに奇跡と言える翻訳、そのすべてがあったからこそ、今モルモン書が存在するのです。この奇跡を思うとき、わたしの心は高鳴ります。この書物は、まさに聖なる書物という言葉がぴったり当てはまります。神はその大いなる愛のゆえに、わたしたちがこの書物を手にし、読み、研究し、さらにはそれが真実かどうかを試せるようにしてくださいました。しかし、最も大切なことは、神はわたしたちを愛するがゆえに、わたしに、そしてモルモン書が真実であるという個人的な啓示を求めるすべての人に、回復が真実であり、ジョセフ・スミスが真の預言者であったという、目で見、手で触れることのできる証拠を与えてくださるということです。

この神聖な知識についてモルモン書の預言者アルマはこのように証しています。

「あなたがたは、わたしが自分でこれらのことについて知っていることに気づかないのか。見よ、わたしは、自分が語ってきたこれらのことが真実であることを知っている。あなたがたは、わたしがどのようにしてこれらのことが確かであることを知ったと思うか。

見よ、わたしはあなたがたに言う。これ



らのことは、神の聖なる御霊^{みたま}によってわたしに知らされているのである。見よ、わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、幾日もの間、断食をして祈ってきた。そして、これらのことが真実であることを、わたしは今、自分自身で知っている。主なる神が神の聖なる御霊によってこれらのことをわたしに明らかにされたからである。……啓示の霊によって知らされたのである。」(アルマ5:45-46)

会員であれ、誠実に真理を求める人であれ、わたしたちはだれでも、古代の預言者アルマのように、これらのことが真実であると確かに知ることができます。これは大きな特権です。特権である以上に責任であると言えるでしょう。そのような特権が与えられているにもかかわらず、知

ろうとしないならば、それは膨大な損失です。主は言われました。「門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」(マタイ7:7) モルモン書の預言者ヤコブは「十分に固い決意をもって神のもとに来[なさい]」と言っています(モルモン書ヤコブ6:5)。自分の知識や肉体的な感覚に頼る必要はありません。学び、祈り、そしてさらに、古代の預言者アルマのように断食するときに、静かな細い声が聞こえ、心が高鳴ることでしょう。これらのことが真実であるという啓示を、神から個人的に与えられることを想像してみてください。そう考えるだけで、わたしの胸は高鳴ります。イエス・キリストの御名^{みたま}によって、アーメン。

子供たちは皆 教えを受け

前中央初等協会会長
コリーン・K・メンラブ

子供たちは、救い主を信じ、従うなら、この混乱した世の中で平安が得られることを知る必要があります。



最近世界中で起こっている災害には、胸が痛みます。特に、罪のない子供たちが犠牲者となる光景は耐え難いことです。必要な物と守りと愛を与えてくれる家族がいない子供の姿を目にします。手を差し伸べたい、何らかの方法で助けたい、苦しみから解放し、希望を与えたいと心から望んでいます。教会として援助する多くの機会があることに感謝しています。この子供たちを助けている大勢の人の努力に励まされています。

しかし、それぞれ異なる、過酷な状況にある子供たちを探すのに、遠くに目をやる必要はありません。知らず知らず、すぐそばの子供を見逃していることもあります。わが子を取り巻く危険な状況をほ

んとくに理解できているのでしょうか。物質的必要を満たしているかどうかはすぐに分かりますが、霊的必要の方はどうでしょうか。皆さんの子供たちはイエス・キリストの福音の光と平安を知っていますか。聖文にはこうあります。「あなたの〔子供たち〕は皆、主によって教えを受け、あなたの〔子供たち〕の平安は深い。」¹

愛に満ちた天の御父がおられること、世に光と希望を与えるために御父が御子イエス・キリストを送ってくださったこと、子供たちはそのことを知って平安を得る必要があります。

デンマーク人画家カール・ブロックの絵には、今日の世界の子供たちの霊的な苦しみが表されています。これはヨハネによる福音書第5章にある物語を美しく描いたもので、癒し主、慰め主であるキリストが中心に描かれています。主は布を持ち上げ、病気を背負って生まれてきた男性を御覧になっています。男はベテスダの池に入って奇跡的に癒されたいのですが、池に入れてくれる人がいませんでした。奇跡を待ち望んでいた男のそばに、癒す力を持つキリストが立たれたのです。

絵の背景として描かれた人々の中に、直接キリストを見ている人はいません。すぐそばにおられるのに、主を主として見ているのはこの男だけです。ほかの人は皆、日常の雑事に追われていて、キリストの偉大な力と、目の前で起ころうとしている奇跡に気づいていないのです。子供

と母親らしき女性にはイエスが見えていますが、ほかの人と同じで、イエスに注目してはいません。救い主のすぐそばにいなながら、子供に救い主の存在を教えていないのです。わたしたちも、キリストに近づく機会を逃していないでしょうか。日々の雑事によって霊の目が曇り、最も大切なことに注目していないのではないのでしょうか。主について学び主の愛を感じる機会を見逃してはいませんか。イエス・キリストの福音という最も大切なことを伝える機会、特に子供に伝える機会を逃していないでしょうか。わたしたちは皆、肝心なことを知りたいと望みつつも、混乱して雑踏に立ち尽くしている子供や若者の姿を見てきました。

このような子供たちの口から、わたしたちの多くが歌っている「光の中を歩めるように教えて」という声が聞こえてきそうです。その歌詞を思い出してください。

主の愛の光の中を歩めるように教えて
天の御父に祈れるように教えて
正しいことが分かるように教えて
光の中を歩めるように、どうか教えてください。²

わたしたちは子供に、イエス・キリストの福音のすばらしさと力と奇跡を、知り、感じ、喜ぶように教えているのでしょうか。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう勧告しています。「わたしたちが主イエス・キリストと呼ぶ御方のことを子供に教えましょう。子供に福音の偉大な救いの原則を教えましょう。」³ 子供たちは、救い主を信じ、従うなら、この混乱した世の中で平安が得られることを知る必要があります。

子供にどう教えたらよいでしょう。救い主の模範に従ってください。モルモン書には、復活した救い主が西半球の人々に御姿を現されたことが書かれています。民を教えておられた主は子供を御自分の周りに呼び寄せられました。そして、ともにひざまずいて、子供のために祈られました。また一人ずつ祝福されました。主は子供を喜ばれ、子供が高い所から教えを受けられるように、天を開かれました。



家族で子供と食卓を囲むとき、毎日の家族の祈りと聖文勉強に子供を呼ぶとき、また家庭の夕べをするときに、子供を愛し、教えるならば、救い主の模範に従うこととなります。そのようなときに、戒めを守り、永遠の家族としてふさわしくなるために、家族みんなで努力していることを理解させましょう。子供たちが主の光を理解し、感じられるようにするには、一対一で過ごし、御霊みたまに感じて適切な質問をしたり、適切なことを言ったりする必要があります。機会を作るならば、御霊から導きが得られるでしょう。

すぐそばに、すばらしく、有能な子供がいます。この世と次の世に平安を見いだせるように助けてあげてください。

子供はキリストの光を経験しなければなりません。それは光を選び、闇を退けるために必要です。モーセは奇跡的な経験

をしました。変貌へんぼうし、霊の目で神を見たのです。モーセが神について学び、神の栄光と業を見た後で、サタンが闇の中、混乱させる言葉をもって近づいて来ました。神の光と栄光を経験していたモーセにとって、その差は歴然でした。サタンに向かって大胆にこう言ったのです。「おまえはだれだ。見よ、わたしは……神の子だ。」⁴

誘惑に遭ったときにこう言えるよう、子供を福音の光で満たす必要があります。「自分が何者か知っています。神の子です。なすべきことを知っています。パプテスマを受け、聖霊を受け、戒めを守るのです。」さらにこう言えるようにしてください。「自分の将来を知っています。義にかなった若い女性になるのです。」あるいは、こうです。「義にかなった若い男性になり、神の神権を受けるのです。」この知識と光に満たされた子供たちは、暗闇を退け、福音が与えてくれ

る光と平安を選ぶ決意ができます。

福音が心に刻み込まれている子供たちは、生活の中に伸べられている主の御手に気づきます。子供は時々、大人が思う以上のことを理解し、行うことができます。福音の光を持っている子供には信仰があることが分かります。彼らは疑いません。11歳のサマンサは言いました。「福音は真実です。そう心で分かるんです。」3歳のベンジャミンは言いました。「お祈りすると、天のお父様が聞いて、こたえてくださるよ。お父様はぼくを愛していらっしゃるから。」福音の光を持っている子供たちは言います。「聖霊の導きに従うときには幸せな気持ちになるから、聖霊が生活の中で導いてくださっているのが分かります。」

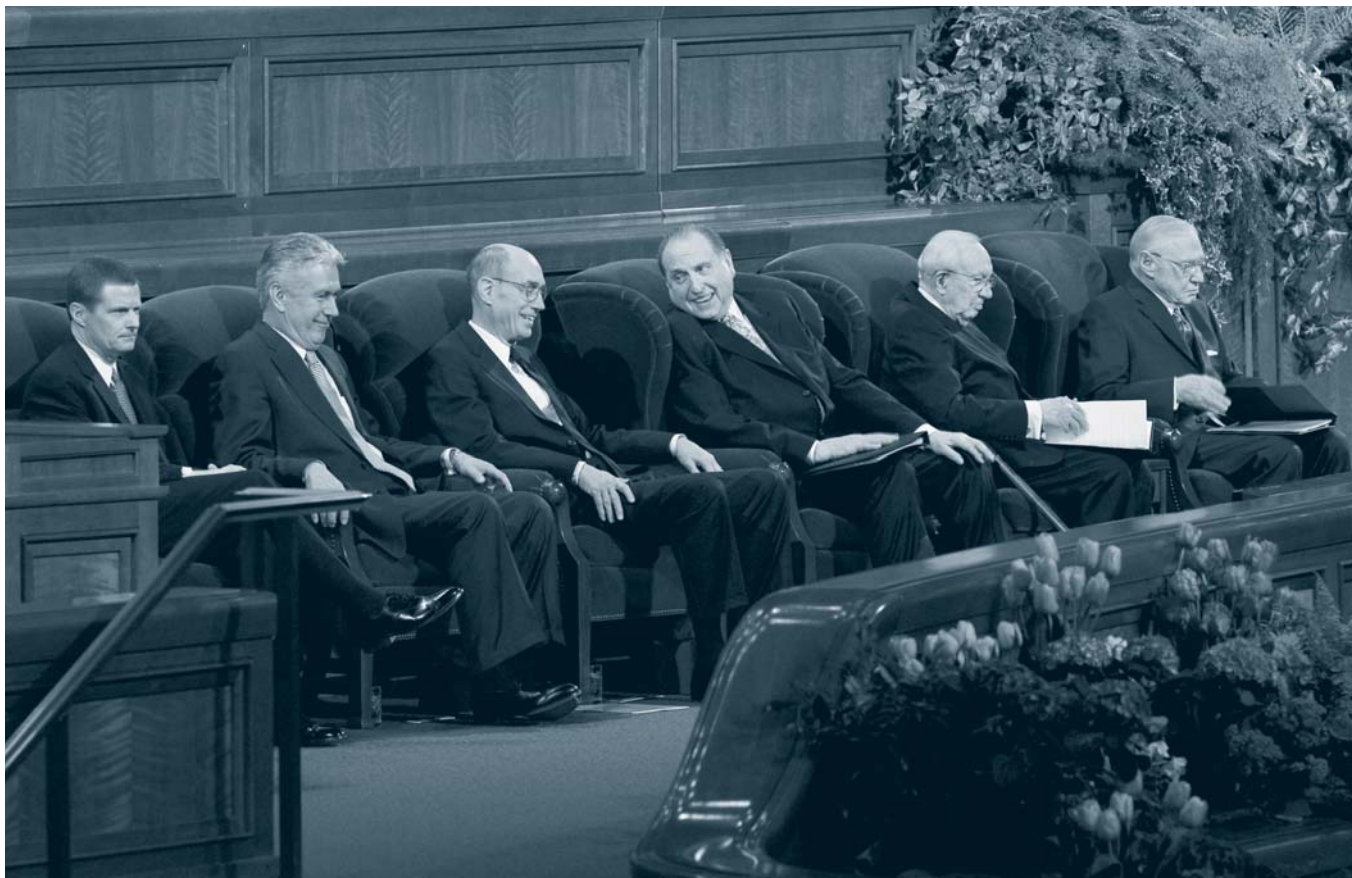
サムは聖霊が心に働きかけられることが分かり始めました。「聖霊って知っている？」と母親に聞かれ「温かい気持ちのことだよ」と答えました。サムはまた、生まれて2週間の弟が病気だったので、主に助けを求めて祈るように聖霊が教えてくださったとも言いました。

この子供たちが得た平安が理解できますか。

子供を教えるには望み以上のものが必要です。大人の側の努力が必要です。先ほど、クララ・マクマスターが書いた「光の中進もう」という歌を引用しました。マクマスター姉妹から曲を作ったときの話を聞きました。中央初等協会管理会にいたころに、子供を教えるというテーマの歌を作るよう依頼されたそうです。姉妹にとってそれは大変な責任で、どのように始め、完成させたらよいか分かるように祈りました。

一生懸命作って作品を提出しましたが、十分ではないと言われました。どう変えるべきかは教えてもらえず、良くなるまで続けるように言われました。改善方法が分からない姉妹は、霊的に参ってしまいました。もう一度主の導きを求め、手直しし、再度提出しました。同じことが3度繰り返された後で、やっと「完全な作品です。もう直す必要はありません」と言われました。

投げ出したいと思ったことは何度もありましたが、マクマスター姉妹は曲作りを



大会の部会が始まるのを待つ大管長会(右)と十二使徒定員会の3人の会員(左から、デビッド・A・ベドナー長老、ディーター・F・ウークトルフ長老、ヘンリー・B・アイリング長老)。

熱心に続けました。子供たちの生活を祝福する歌を作りたいかったのです。この靈感あふれる歌は、多くの国の様々な言語で、大人にも子供にも歌われています。この歌は、わたしの心からの望みを代弁しています。わたしはすべての子供にイエス・キリストの福音の光の中を歩むようになってほしいのです。この歌は「光の中を歩めるように教えて」という子供の願いで始まり、「喜んで、光の中を歩みます」⁵という決意で結ばれています。

子供を教えるには時間と努力が必要ですが、取り乱したりあきらめたりしてはなりません。子供にとって、「あなたの子孫の平安は深い」⁶という約束の成就是とても大切です。子供に、天の御父とイエス・キリストの愛を疑わせてはなりません。すべての子供に、自分の本質と義務と可能性を理解させましょう。

子供に手を差し伸べ、愛し、この世がどんな状況になろうとも、福音の光を持てば平安を得、主の約束を受けることが

できると教えてくださっている皆さんに感謝しています。

子供たち、特に世界中の子供たちにお伝えします。わたしはアメリカにいる多くの皆さんと、アフリカ、フィリピン、韓国、最近ではウクライナとロシアにいる何人かの皆さんに会いました。皆さんに会うために初等協会や、小児病院にまで行きました。家族や初等協会の先生、何より天のお父様とイエス・キリストが、皆さんをととても愛しておられることを理解してください。

神から受けた特権と祝福に、いつもふさわしくあってください。服装、言葉、振る舞いの高い標準を守って生活するならば、皆さんが天のお父様の計画に一生懸命に従おうとしていることが分かります。

皆さんが思うよりもずっと、わたしは皆さんの影響を受けています。わたしや初等協会の指導者に、そして特に、皆さんの両親の心に、喜びと希望を与えてくれてありがとう。皆さんを愛し、教えてくれ

る人たちに感謝するのを忘れないでください。皆さんは神の子供です。天のお父様から愛されています。いつでも、どこでも、お父様に祈ることができます。わたしはそのことを知っていて、皆さんにも知ってほしいのです。イエス・キリストをいつも覚え、従うならば今の生活に光と平安が、そして永遠に続く希望が得られることでしょう。イエス・キリストの御名^{みな}によって^{あかし}証します。アーメン。

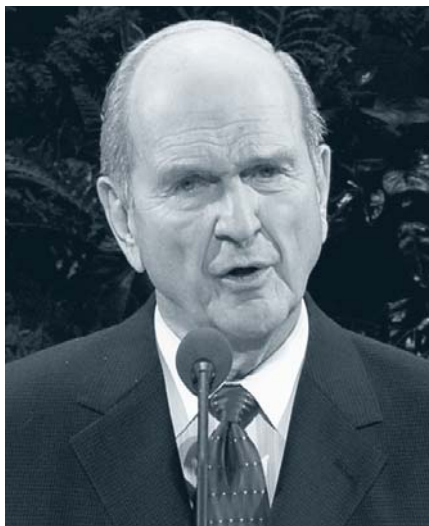
注

1. 3ニーファイ22:13
2. "Teach Me to Walk in the Light" 『子供の歌集』(英文), 177から逐語訳
3. "Messages of Inspiration from President Hinckley," *Church News*, 1999年9月4日付, 2
4. モーセ1:13
5. 『子供の歌集』(英文), 177から逐語訳
6. 3ニーファイ22:13

今こそ用意をする 時期である

十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン

今こそ神にお会いする用意をする時期……です。明日では遅いかもかもしれません。



愛する兄弟姉妹、前回の総大会の後、59年間連れ添った愛する妻が亡くなりました。いつもなら教会の責任で家を空けるわたしが、その土曜日は珍しく家にいて一緒に家事をしました。妻は洗濯をし、わたしは洗った衣服を運んでたたみ、片付けました。そしてソファに腰かけ、妻の手を取って一緒にテレビを見ていたとき、愛するダンツェルは静かに息を引き取ったのです。思いがけない突然の出来事でした。わずか4日前に、医師から定期健診の結果を受け取ったときには、検査結果は良好と出ていたのです。懸命に蘇生処置を施しましたが、息を吹き返すことはありませんでした。衝撃と悲しみで胸が張り裂けんばかりでした。最愛の友人であり、10人の子供の天使のような母、56人の孫の祖

母であった妻は、わたしたちのもとを去りました。

ダンツェルはいとしい、愛にあふれた伴侶というだけでなく、教師でもありました。その高潔な模範からは、信仰や徳、従順、憐れみを学ぶことができました。また、耳を傾け、愛することを教えてくれました。彼女のおかげで、わたしは夫、父親、祖父が受けることのできるあらゆる祝福を味わうことができました。

深い感謝の念とともに、世界中の友人から多くの愛の言葉を受け取りました。数え切れないほどの手紙や電話、カード、その他のメッセージが送られて来ました。どれにも妻に対する敬慕の念と、残されたわたしたち家族へのいたわりの気持ちがつつられていました。こうしたメッセージはあまりにも数が多かったため、残念ながら、すべてに返事を差し上げることはできませんでした。皆さん一人一人の大いなる親切に感謝します。ほんとうにありがとうございます。皆さんの言葉は、この悲痛のときに、家族にとって大きな慰めとなりました。わたしたちはほんとうにダンツェルを愛していました。妻がいないことを寂しく思います。

妻の突然の死から、非常に大切な教訓を学ぶことができます。今こそ神にお会いする用意をする時期であるということです。明日では遅いかもかもしれません。古今の預言者もこう宣言してきました。「現世は人が神にお会いする用意をする時期である。……悔い改めの日を引き延ばす

ことのないように……。」¹

今用意をする必要性

それでも多くの人が引き延ばします。² 預言者はこう戒めています。「あなたがたは……『わたしは悔い改めて神に立ち返ろう』と言うことはできない。あなたがたはこのように言うことはできない。なぜならば、現世を去るときにあなたがたの肉体を所有しているその同じ霊が、あの永遠の世で、あなたがたの肉体を所有する力を持つからである。」³ 別の預言者はこう付け加えています。「汚れている者は汚れているままになり、義にかなった者は義にかなった状態にとどま[る。]」⁴

「わたしたちがこの世において得る英知の一切は、復活の時にわたしたちとともによみがえる」⁵ という知識は大いなるものです。預言者ジョセフ・スミスからは、次のことも学べます。「神は、その声に聞き従い、戒めに従ったすべての者たちを、日の栄えの安息に招き入れる時を……お定めになっています。ここでいう『安息』⁶ とは、完成と栄光のことです。人はこの『安息』に入って祝福を享受する前に、王国の律法に従って用意をする必要があります。……神は人類家族に律法をお与えになりました。その律法に従えば、この『安息』を受け継ぐ用意ができるのです。」⁷ ネルソン姉妹は何と用意ができていたことでしょうか。

もしこの世の悩みや煩いのために落胆しているなら、この輝かしい目標ははるかかなたにあるように思えます。苦難に満ちた一日を終えた友人はこう叫びました。「なぜ生まれてきたんだろう。」神の計画はこの問いに答えてくれます。この世に生まれてきたのは肉体を得るためです。わたしたちは恋をし、結婚をしましょう。そして子供をもうけ、人生の労苦を味わうでしょう。(子供と人生の労苦をセットにしたことを許してください。どちらも人の成長に必要な要素だと思ふのです。)地球が創造され、教会が回復されたことにより、家族は聖なる神殿で結び固めを受けることができるようになりました。そうでなければ、全地は「ことごとく荒廃する」⁸ でしょう。

わたしたちは試みられ、試され、選択す

るために世にきました。⁹ 選択は行く末を決めます。人は「すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは……束縛と死を選ぶことも自由」¹⁰ なのです。主の道を選ぶ人は、迫害を堪え忍ぶでしょう。¹¹ しかし、その報いは確かです。忠実さを示した者は、「神の王国を受け継ぎます。」そして彼らの喜びは、とこしえに満たされる」¹² のです。ネルソン姉妹はこの報いを得ました。わたしと家族にとって何と大きな安らぎでしょう。

試練や試しは、豊かな人にも貧しい人にも同じように訪れます。何年も前、わたしは非常に裕福な男性の手術を担当しました。組織を採取した結果、この男性は癌で病状は進んでおり、癌細胞が体中に広がっていることが分かりました。検査結果を伝えると、男性はすぐに自分の財力に物を言わせようと思いました。治療のためならどこにでも行き、どんなことでもするつもりでした。健康を買い戻せると思ったのです。男性は間もなく亡くなりました。「どれだけの富を残したのだろうか」と問う人がいました。答えはもちろん「全部」です。

この男性が第一に求めたのは、この世のものでした。価値のない栄光を求めて人生を費やしたのです。彼のことを思うと、次の聖句が心に浮かびます。「見よ、あなたがたの試しの日はすでに過ぎ去った。あなたがたは自分の救いの日を引き延ばしたので、とうとう……間に合わなくなってしま[った。]」¹³

まったく対照的に、ネルソン姉妹は生涯を通じて、神のみもとに帰る時のために用意しました。一日一日を、生涯最後の日であるかのように生きたのです。地上での時間が貴重であることを理解していた妻は、毎分毎秒を大切にしました。

裁きの日など来ないかのように生きる人もいます。明日を恐れるあまり何もしない人や、昨日の失敗にくよくよして今日という日を無駄に過ごしている人もいます。日時計に刻まれた、ある詩人の言葉を心に留めてください。

わたしの影がとどまる所は
過去と未来の分岐点

その先には、まだ見ぬ時が眠る
暗闇に包まれ、だれの力も及ばない
影の後ろには、二度と戻ることのない
道が残る

失われた時、もはや使うことはできない
あなたが手に握るのは、たった一つの
時……

つまり、影がとどまる所、「今」だけなのだ¹⁴

どのように備えればよいのか

今こそ、用意をする時です。でも、どのように始めればよいのでしょうか。まずは悔い改めです。聖文にはこう書かれています。「自分たちの試しの生涯に悪いことをしようとしたならば、あなたがたは神の裁きの座の前で清くない者とされるであろう。清くない者は神とともに住むことができない……。」¹⁵ 神は次の簡単な規則をお与えになりました。「あなたがたはわたしの律法に従わなければ、この栄光に達することができない。」¹⁶

今こそ、自分の体を敬い、大切にする時です。この肉体は、霊が永遠にわたって宿る宮なのです。肉体の欲望は、霊の意志で制御しなければなりません。神の御心に添わないものをすべて拒む必要があります。¹⁷ わたしたちは「すべての悪を捨て、すべての善を固く守らなければなら[ず]、……神の口から出る一つ一つの言葉によって生きなければならない」¹⁸ のです。

世界中で恐ろしい災害が頻繁に起こっているために、神の存在を疑う人もいます。しかし実際、神はわたしたちを助けようとされているのです。こうおっしゃいました。「わたしの僕たちの口により、また天使たちの働きにより、またわたし自身の声により、また雷……、暴風雨……、地震と雹を伴う大嵐……、飢饉とあらゆる疫病の声により、……わたしはあなたがたを幾度呼び、永遠の救いをもってあなたがたを幾度救おうとしてきたことか。しかし、あなたがたは応じようとしなかった。」¹⁹

神は人が永遠の命を得ることを望んでおられます。それには聖約に従い、自分自身と家族と先祖のために神殿で儀式を受けなければなりません。家族や先祖なしには、完全な者とされることはないの



です。²⁰ 望むだけでは、神のみもとに戻れません。その祝福が基づく律法に従う必要があります。²¹

神の計画は公正です。「この福音を知らずに死んだ者で、もしとどまることを許されていたらそれを受け入れたであろう者[でさえも]皆、神の日の栄えの王国を受け継ぐ者」となります。²² 神の計画は憐れみ深いものでもあります。神は、「すべての人をその行いに応じて、またその心の望みに応じて」裁かれるのです。²³

今こそ、神の民に自分の名を連ねる時です。これは什分の一を払うことで行います。神は民を祝福するために什分の一の律法を定められました。²⁴ ネルソン姉妹はこの教えを繰り返して家族に教えました。²⁵

今こそ、神の目標を自分の目標とする時です。神の業であり、栄光である「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」²⁶ を自分の目標とすることができるのです。神殿結婚について救い主はこう宣言なさいました。「もしある男がわたしの律法であるわ



たし言葉によって、また新しくかつ永遠の聖約によって妻をめぐらせば、……王位、王国、公国、および力、主権、……〔そして〕すべての事柄について昇栄と栄光を受けるであろう。』²⁷ 主が愛されたように愛し、祈られたように祈り、主が堪え忍ばれたように最後まで堪え忍ぶことで、主の模範に倣う必要があります。²⁸

神の永遠の計画における死の重要性

死は、永遠に生きるうえで必要な要素です。その時がいつ来るかはだれにも分かりませんが、神の偉大な幸福の計画に欠かせないものなのです。²⁹ 主の贖いのおかげで、人は将来現実に復活することとなり、すべての人類に永遠の命への道が開かれました。³⁰ 神の律法に従うならば、この可能性は現実のものとなります。主は言われました。「わたしの戒めを守らなければ、あなたがたは決して天の王国に入れないであろう。」³¹ いつの日かわたしたちは主の裁きを受け、³² 天の御父のみもとに用意されている住まいに行きます。³³ そして神の愛にあふれる戒めに忠実に従った者には、日の栄えの栄光が待っているのです。³⁴

兄弟姉妹、わたしたちは生まれ、死にますが、死んだ後もまた別の王国で生き続けるのです。十分に備えていれば、死

は恐ろしいものではありません。永遠の見地から見れば、用意のできた人にとって時期尚早の死などないのです。

今こそ用意をする時です。用意ができていれば、死が訪れたとき、天の御父が忠実な子供たちに備えておられる日の栄えの栄光に進むことができます。一方、わたしや家族のように後に残されて悲しみに暮れる者たちは、キリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛し、神と人に仕えたいと心底願うことによって、身内を失った心の痛みを和らげることができます。³⁵ そのような信仰、そのような希望、そのような愛があれば、神の聖なる御前に戻るにふさわしい者となり、永遠の伴侶や家族とともに主の御前で永遠に生きることができるのです。これらをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

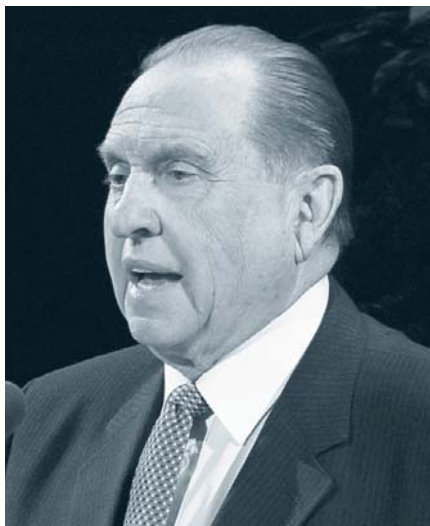
1. アルマ34:32-33。アルマ13:27も参照
2. 聖典にある次の言葉は、わたしたち一人一人を戒めている。「もはや心をかたくなにしないでほしい。見よ、今があなたがたの救いの時であり、救いの日である。したがって、あなたがたが悔い改め……れば、偉大な贖いの計画はすぐにあなたがたに効果を及ぼすであろう。」(アルマ34:31)
3. アルマ34:34、強調付加
4. モルモン9:14。2ニーファイ9:15-16; 教義と聖約88:27-32, 34-35; 130:2も参照
5. 教義と聖約130:18
6. 新約聖書において、安息という言葉は、「神の住まわれる天の幸福」という意味を持つギリシャ語の女性名詞 *katapausis* に由来する。したがってここで言う安息は、栄光の一要素を意味する。
7. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選(1976年), 54
8. 教義と聖約2:1-3; 138:48; ジョセフ・スミス—歴史1:39参照
9. 2ニーファイ9:27; 教義と聖約98:12; アブラハム3:24-26参照
10. 2ニーファイ2:27
11. 2テモテ3:12参照
12. 2ニーファイ9:18
13. ヒラマン13:38
14. ヘンリー・バン・ダイク, "The Sun-Dial at Wells College," *The Poems of Henry Van Dyke* (1911年), 345. ニューヨーク州オーロラ, ウェルズ大学に展示されている日時計と詩
15. 1ニーファイ10:21
16. 教義と聖約132:21。教義と聖約88:36-39も参照
17. モロナイ10:32。2ニーファイ2:21; モルモン9:28も参照
18. 教義と聖約98:11
19. 教義と聖約43:25
20. 教義と聖約128:15, 18参照
21. 教義と聖約130:20-21参照
22. 教義と聖約137:7
23. 教義と聖約137:9
24. マラキ3:10; 3ニーファイ24:10参照。什分の一はまた、将来の報復と焼き払いの日に対してその民を備えるものである(教義と聖約85:3参照)。
25. スペンサー・J・コンディー, *Russell M. Nelson: Father, Surgeon, Apostle* (2003年), 104参照
26. モーセ1:39。モーセ6:59; ジョセフ・スミス訳創世6:62(英文)も参照
27. 教義と聖約132:19。教義と聖約75:5; 101:65も参照
28. 2ニーファイ33:4; 3ニーファイ15:9; 27:21-22; 教義と聖約14:7参照
29. アルマ42:8-9参照
30. 1コリント15:50-54; 1ヨハネ5:11, 20; アルマ12:25; モルモン9:13; 教義と聖約46:14; 76:40-42, 50-59; 133:62参照
31. 3ニーファイ12:20
32. 1ニーファイ10:20; 2ニーファイ9:41-46; アルマ12:27参照
33. ヨハネ14:2; 教義と聖約98:18参照
34. 教義と聖約78:7; 131:1-3参照
35. 2ニーファイ31:20; モーサヤ16:7-8; モロナイ7:38-48参照

変化の時代にあって 変わらぬ真理

第一副管長

トーマス・S・モンソン

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、自分と家族を取り巻く危険に対抗して立ち上がらなければなりません。



愛する兄弟姉妹、この会場にいる方にも、世界各地で集まっている方にもお願いします。皆さんに話す、この特権ともいべき責任を果たせるよう、皆さんの信仰と祈りでわたしを支えてください。

最初に、皆さん全員を称賛したいと思います。この難しい世の中にあって、教会の若人はどの時代にも増して善良です。教会員の信仰、奉仕、一つ一つの行いは、称賛に値します。皆さんは、祈りを忘れず、信仰深く、慎み深く、正直であろうと努めています。互いに助け合っています。隣人に愛を示すようにしています。

しかし、現状に満足しないために、モルモン書のニューファイ第二書から引用します。

「その日、悪魔は……彼らを欺いて現世での安全を確信させるので、彼らは、『シオンの中では、すべてが良い。まことに、シオンは栄えており、すべてが良い』と言う。悪魔はこのようにして人々をだま[す。]」¹

「自己満足の木にたとえるなら、その木は何本も枝をつけ、春が来る度にますます多くの花を咲かせる」と言った人がいます。

自己満足に浸っている暇はありません。今は苦難の時代です。周囲のすべてがその事実を物語っています。わたしたちは、伝統的な家庭を破壊する力が忍び寄っていることをよく知っています。時々、テレビや映画は、この世的で不道徳な男女をヒーローやヒロインとし、とうてい手本にはなり得ない生き方をしている俳優を、世の模範であるかのようにもはやしています。なぜ盲人の手引きに従うのでしょうか。ラジオからうるさく聞こえてくる音楽は扇情的で、歌詞の内容は不道徳、危険な誘惑、人が思いつくあらゆる悪を描写したものです。

わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、自分と家族を取り巻く危険に対抗して立ち上がらなければなりません。この決意を貫けるよう、わたしの経験から例を挙げ、幾つかのアドバイスをしましょう。

まずは、家庭の夕べです。家庭の夕べは天の靈感を受けたものです。決して軽視してはなりません。家庭の夕べから、家族一人一人が霊的に成長し、至る所に

ある誘惑に立ち向かう力を得ることができます。家庭で学んだ教えはどのような教えよりも長く心に残ります。ゴードン・B・シンクレイ大管長や歴代の大管長が述べたように、「家庭は義にかなった生活の基であり、ほかのどのような手段も、家庭に代わり得ないし、大切な役割を果たしてはくれません。」²

著名な作家であり医学界の権威でもあるグレン・J・ドーマン博士はこう述べています。「新生児はまるで、情報を入れる前のコンピューターのようなものです。もっとも、新生児の方がコンピューターより断然優れているのですが。……8歳になるまでに赤ん坊の〔脳〕に刻み込まれたものは、恐らく一生残ると考えられます。この時期に誤った情報を刻み込んでしまうと、後で消し去ることは非常に難しくなります。」ドーマン博士はさらに、人間の一生の中で最も感受性が強いのは、2、3歳の幼児期であると述べています。³

次はわたしの好きな言葉です。「心は食器棚のようだ。何でも入れておける。」心という食器棚に、魂を安全に守り、天におられる御父のみもとに帰る助けとなるものが入っているかどうか確認しましょう。家族一人一人の食器棚も確認してください。そこに入れておくべきものは、福音の勉強や信仰、祈り、愛、奉仕、従順、模範的な行い、親切などです。

次に、負債について話します。現代は借金時代です。クレジットカードの広告が毎週のように郵送されて来ます。広告は普通、超低金利をうたっていますが、それが適用されるのは短期間です。一定の期間が過ぎると金利が大幅に上昇するのですが、それに気づく人はごくわずかのようです。J・ルーベン・クラーク副管長の言葉を引用します。クラーク副管長は、何年も前に大管長会の一員でした。彼のこの言葉はいつの時代にも当てはまる真理です。

「利息は借金をして払えばいいという考え方が、世界中どこでもまかり通っています。……

利息は眠ることも、病気になることも、死ぬこともありません。利息は入院しません。日曜日も働き続け、決して休みませ



ん。訪問も旅行もせず、娯楽にも興じません。退職もせず、解雇もされず、絶え間なく働き続けます。……一度借金をすれば、利息は昼夜を問わずあなたに付きまとうのです。あなたはそれを拒むことも、逃れることも、また忘れることもできません。利息は、懇願にも、威嚇にも、命令にも応じません。そして、やり方に口を挟んだり、反したり、要求に応じなかつたりしようものなら、たちまちあなたを押しつぶしてしまうのです。』⁴

兄弟姉妹の皆さん、ホーム・エクイティ・ローン(訳注——住宅の時価から住宅ローンの未払残高を差し引いた額を担保に設定する消費者ローン)の広告には、大変驚いてしまいました。それは、同じ家に二つ目の住宅ローンを組むようなものです。この手のローン広告は、もっとお金を借りて、欲しい物をどんどん手に入れなさいと誘惑してきます。この「第2の」ローンが支払えなくなった場合、家を失う危険がありますが、ローン広告は、そのことを隠しています。

「昨日の贅沢品は今日の必需品」などという格言めいた言葉で言い訳するのはやめましょう。不必要なものが必需品になることなどあり得ません。今日多くの新婚

夫婦が、何台もの車を持ちたがり、両親が一生働いて手に入れたような邸宅に住みたがります。そして、夫婦の給料の合計を基にした長期ローンを組むのです。事情が変わってからは遅すぎます。妻が出産したり、家族のだれかが病気になったり、失業したり、自然災害に遭ったりすると、そのような返済計画は、すぐに立ち行かなくなってしまいます。

収入の範囲内で生活することは絶対です。

次に、母親、父親、息子、娘の皆さんに向けて話します。

母親の皆さん、父親の皆さん、聞き上手になってください。ペースの速い現代において、コミュニケーションは必須です。聞く時間を取ってください。子供の皆さん、お父さんやお母さんに話をしてください。理解し難いかもしれませんが、皆さんの親は、皆さんが今直面しているような問題を、幾つも経験してきたのです。たいていの場合、親は子供よりも物事をはっきり見ることができます。親は毎日子供のために祈っています。そして、子供に助言を与えるために天の御父から靈感を受ける立場にいます。

母親の皆さん、家事を子供たちに分担させてください。言い聞かせて手伝わせる

より、母親自身でした方が簡単な場合がほとんどですが、子供に責任を果たすことの大切さを教えるのは、非常に大切です。

父親の皆さん、妻に愛といたわりを示してください。子供に忍耐してください。子供に贅沢品を与えてはなりません。世の中で自立することを学ぶ必要があるからです。

子供のそばにいるよう、お勧めします。臨終の床で「もっと職場にいればよかった」と後悔する人はいないと聞いたことがあります。

わたしの大好きな、ある親の模範を紹介します。アーサー・ゴードンの「浜辺の一日」という記事からの引用です。

「わたしが13歳、弟が10歳くらいのときのことです。父がサーカスに連れて行ってやろうと言いました。しかし昼どきになって電話が入り、急な仕事で、父は町まで行かなくてはならなくなりました。これでサーカスには行けなくなったなと思いました。しかし父は受話器に向かって言いました。『町へは行きません。今日はだめです。』

テーブルに戻って来た父に、母がほほえみ[ながら言いました。]『サーカスはまたいつか来るでしょ。』

父はこう答えました。『そうだね。でも、子供時代は二度と戻って来ないんだよ。』⁵

兄弟姉妹、子供と過ごす時間はあっという間に過ぎ去ります。一緒に過ごす機会を、先送りしないでください。こう言った人がいます。「明日を当てにしてばかりいる人の生涯には、何の思い出も残らない。」⁶

親の皆さん、子供が学校や仕事の目標を立てられるように助けてください。息子が礼儀を学び、女性や子供に対して親切に振る舞えるようにしてください。

ヒンクレー大管長は言いました。「次の世代を担う若人をどう訓練するかによって、数年後の世界が決まるのです。将来が心配であれば、まず子供のしつけについて考えてみることです。」⁷

使徒パウロから愛するテモテへの言葉がよく当てはまります。「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」⁸

親の皆さん、子供が手本として見習いたいと思うような生き方をしてください。

すべての家族に勧告します。先祖を探求してください。先人について、できるだけ多くの知識を得ることは大切です。先祖のことを知ると、自分についても何かしらの発見があります。

子供のころに、母方の先祖、ミラー家族が経験した話を聞きました。1848年の春、高祖父母であるチャールズ・スチュワート・ミラーとメアリー・マクガウン・ミラーは祖国スコットランドで教会に入り、スコットランドのルサーグレンの地を後にして大西洋を渡りました。ニューオリンズの港に着いた後、聖徒の一同とともにミシシッピ川をさかのぼり、1849年にミズーリ州セントルイスに到着しました。二人には11人の子供がいました。その一人、マーガレットがわたしの曾祖母です。

セントルイスに着いたミラー一家は、ソルトレーク盆地までの旅費を作る計画を立てていました。そうこうしているうちに、セントルイスにコレラが流行しました。ミラー家の人々も感染し、2週間のうちに相次いで両親と2人の男の子が亡くなりました。わたしの曾祖母マーガレット・ミラー



は当時13歳でした。

死者があまりにも多かったので、どんな金持ちでも棺が買えませんでした。そこで、生き残った男の子のうち、年上の子たちが、牛を入れておく柵を解体して、亡くなった家族のために粗末な棺を作ったのです。

ミラー家の9人の孤児と、そのうちの一人をめとった若者は、1850年の春に、4頭の牛と1台の荷車でセントルイスをたち、同年、苦勞の末に、ソルトレーク盆地に到着しました。

わたしはこの曾祖母の家族やそのほか

の気高い先人たちに、感謝と恩を感じています。彼らは福音を深く愛し、主を深く愛していました。持てるものすべて、自分の命さえも、末日聖徒イエス・キリスト教会のために喜んで犠牲にしたのです。こうした先祖と永遠に結び固められる神殿の儀式に、わたしは深く感謝しています。

亡くなった親族のために主の神殿で行う業が大切であることを強調します。

ちょうど2か月前の今日、わたしの家族はソルトレーク神殿に集まって、亡くなった先祖のための結び固めの儀式を行いました。それは、わたしたち家族にとって最



地元の集会所で大会に参加するフィリピン・マカティステークの家族。

も霊的な経験の一つとなりました。互いに対する愛を深め、先祖からの受け継ぎにふさわしい生き方をする義務があることを再確認することができました。

何年も前、末の息子のクラークがブリガム・ヤング大学の宗教クラスを受講していたとき、講義中に教師からこう聞かれました。「クラーク、お父さんの模範の中で、いちばんよく覚えているのは何ですか。」

教師は、クラークの答えを手紙で教えてくれました。息子はこう答えたそうです。「アロン神権の執事のとき、父と一緒にアイダホ州マラダに、キジ猟に行きました。その日は月曜で、猟のシーズンを終了する日でした。父と一緒に野原を歩いてキジを探しましたが、2、3羽しか見つからず、しかも全部逃げられてしまいました。そんな中で父が腕時計を見ながら言いました。「クラーク、銃から弾を抜きなさい。銃をこのくぼみに置いて、一緒にひざまずいて祈ろう。」わたしは、キジが見つかるように祈るのだらうと思っていましたが、そうではありませんでした。父はこう言ったのです。『十二使徒定員会のリチャード・L・エバンズ長老が重い病気を患っておられるんだ。だから今日はどこにしようかと正午になったら、十二使徒定員会の会員はその場でひざまずいて、心一つにして、エバンズ長老のために信

仰の祈りをささげることになっているんだよ。』わたしたちは帽子を取り、ひざまずき、祈りました。」

そのときのことはよく覚えていたが、息子がそこから学び、証^{あかし}を得ていたとは、夢にも思いませんでした。

数年前、ある少年がうちの近所で新聞配達をしました。少年は時々、仕事を十分に果たしていませんでした。投げた新聞は玄関前に落ちるはずなのですが、誤って茂みに入っていることや、ひどいときには、歩道のそばに落ちていることさえありました。そこで地域の住民が、抗議の署名運動を始めました。ある日、我が家にも抗議運動をしている人が来て、妻のフランシスに署名を求めました。「まだ小さい子だし、新聞が重すぎるのよ。精いっぱいやっているんだから、非難する気にはなれないわ。」そう言って妻は署名を断りました。ところが、署名する人は地域にたくさんいました。そして抗議書は少年の上司に送られました。

数日後、わたしが仕事から帰るとフランシスが涙に暮れていました。しばらく涙を流した後、妻は、例の新聞配達少年の遺体が自宅の車庫で発見されたという知らせが、たった今入ったのだと話してくれました。少年は自分の命を絶ったのです。非難の声が殺到し、耐え切れなくなった

ことは明らかでした。わたしたちは非難の署名を断っておいてよかったと思いました。人を裁かないこと、そして、だれにでも親切にすることの大切さを強烈に教える出来事でした。

わたしたちは救い主を模範としなければなりません。記録にあるように、救い主は「ますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛され」ました。⁹そして、「神が共におられるので、よい働きをしなから……巡回されました。」¹⁰

忘れてはなりません。神の知恵はしばしば人間にとっては愚かなことに見えますが、この世で学ぶことのできる最も大切な教訓は、神が語り、人がそれに従うとき、その人は常に正しいという教えです。

常に平和の君に従うことができますように。主は、従うべき道を文字どおり示してくださいました。主に従うなら、難しいこの時代を生き抜くことができます。主の聖なる計画に従えば、周囲を取り巻く危険から救い出されます。主は模範により道を示しておられます。主は誘惑を遠ざけられました。世界を上げようと言われても、お断りになりました。しかし命を求められたときには、差し出されたのです。

今、この場から始めましょう。主に従うことができますよう、イエス・キリストの御名^{みな}によってお祈りします。アーメン。

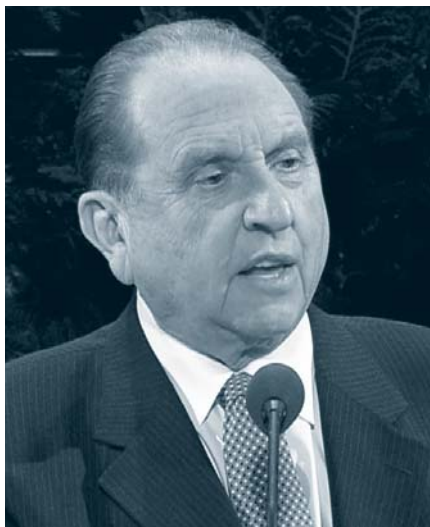
注

1. 2ニーファイ28:20-21
2. 大管長会からの手紙、1999年2月11日付。『リアホナ』1999年12月号、1参照
3. *How to Teach Your Baby to Read* (1963年、1964年)、43-45
4. Conference Report, 1938年4月、102-103
5. *A Touch of Wonder* (1974年)、77-78参照
6. メレディス・ウィルソンとフランクリン・レーシー、*The Music Man* (1957年)
7. 「あなたがたの幼い子供たちを見なさい」『リアホナ』2001年3月号、2
8. 1テモテ4:12
9. ルカ2:52
10. 使徒10:38

教会役員の支持

第一副管長

トーマス・S・モンソン



兄 弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長の依頼により、これから、教会の中央幹部、地域七十人、ならびに中央補助組織会長の名前を提議しますので、賛意の表明をお願いします。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビトナー・ヒンクレーを支持して下さるよう、また、第一副管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、第二副管長としてジェームズ・エスドラス・ファウストを支持して下さるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいればその意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・パッカーを、また十二使徒定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング、ディーター・F・ウ

ークトドルフ、デビッド・A・ベドナーを支持して下さるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

副管長、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持して下さるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

2005年5月1日をもって以下の人々を地域七十人から解任するよう提議いたします。

ホルヘ・O・アバド、カルロス・E・アグエロ、マルコス・A・アイトカイティス、グスタボ・A・バリオス、ルナ・J・カブレラ、エディソン・M・カブリート、タッド・R・カリスター、カール・B・クック、レイナルド・L・クイヨン、ホルヘ・L・デル・カステイヨ、ベンハミン・デ・オヨス、リンゼー・T・デイル、フレッド・C・ディマイヤ、エンリケ・R・フェアベラ、ロベルト・ガルシア、ラリー・W・ギボンズ、C・スコット・グロー、ジョン・A・ハリス、メルル・F・ハイアム、R・ランドール・ハフ、マイケル・L・ジェンセン、ポール・V・ジョンソン、高元龍^{ユウワンロン}、ウイルフレッド・R・ロベス、ロナルド・L・ラブランド、ジェフリー・J・マーチャント、ハンス・H・マットソン、E・イスラエル・ペレ

ズ、ホルガー・D・ラコウ、アルフォンソ・ラモス、カルロス・C・レベロ・シニア、マンフレッド・H・シュツツェ、J・ミッチェル・スコット、ホセ・A・テスクエアラ・ダ・シルバ、ローウェル・M・スノー、ヒエルモ・トレス、ローランド・N・ウォーカー。

この兄弟たちの奉仕に感謝の意を表明して下さる方は、その意を表してください。

これまで中央初等協会会長として奉仕してきたコリーン・K・メンラブ姉妹、シドニー・S・レイノルズ姉妹、ゲール・M・クレッグ姉妹を、感謝の挙手をもって解任するよう提議いたします。

感謝を表明して下さる方はその意を表してください。

マーリン・K・ジェンセン長老を教会歴史家および記録者として支持するよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、同様をお願いします。

わたしたちは七十人第一定員会の新たな会員として、ベンハミン・デ・オヨス、デビッド・F・エバンズ、C・スコット・グロー、リチャード・G・ヒンクレー、ポール・V・ジョンソン、ポール・E・コーリカー、ポール・B・パイパー、ユリシス・ソアレスを、また、七十人第二定員会の新たな会員として、高元龍^{ユウワンロン}、ウォルフガング・H・ポール、ローウェル・M・スノー、ポール・K・ジブラウスキーを支持して下さるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、同様をお願いします。

以下の人々を地域七十人として支持して下さるよう提議いたします。



ネルソン・L・アルタミラノ, マニユエル・アラヘズ, セルジオ・E・アビラ, マルセロ・P・ボルファリーニ, シェーン・M・ボーエン, デビッド・R・ブラウン, フェルナンド・E・カルデローン, ミルトン・デ・ロチャ・カマルゴ, ダニエル・M・カニヨレス, I・ポロスキ・コードン, フェデリコ・F・コスタレス・ジュニア, ジョン・C・ダルトン, ヒーバー・O・ディアス, ルイス・G・ホワート, フィリック・ゴーツ, ロナルド・J・ハモンド, ミゲル・イダルゴ, パトリック・キアロン, ドナルド・J・カイズ, クリスチャーン・H・クレウエグ, ラリー・R・ローレンス, ロバート・W・リーズ, F・ルネ・オレ, グレンドン・ライオンズ, フアン・A・マチュカ, ライムンド・モラレス, プレント・H・ニールソン, カルロス・S・オバタ, アレハンドロ・M・ロブレス, ヘラルド・L・ルビオ, ガビド・センカンス, ファビアン・L・シナンバン, デック・スマイバート, ハンス・T・ソレンセン, アイビーン・ステერი, ミゲル・R・バルデス, ギャリー・W・ウォーカー, リチャード・C・ザンブラノ。

賛成の方は皆、その意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

わたしたちは、シェリル・クラーク・ラントを中央初等協会会長として、マーガレット・スウェンセン・リファースを第一副会長として、ビッキー・藤井・松森を第二副会長として支持するよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

そのほかの中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会を現状のまま支持してください。よう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

提議は、全員一致で賛意の表明が得られたようです。

兄弟姉妹の皆さんの変わらぬ信仰と祈りに感謝します。

新たに召された中央幹部ならびに中央初等協会会長会は、壇上の席に座ってください。

2004年度教会監査部報告

教会監査部実務運営ディレクター
ロバート・W・キャントウェル提出

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会に対して提示



愛する大管長会の皆さん。
教会監査部は、教会のほかのあらゆる部門や運営組織から独立しており、教会資産の保全と基金の収支が適切に管理されているかを監査するうえで必要なあらゆる記録やシステムから情報を入手する権利があります。監査を実施する人々は、公認会計士、公認内部監査人、公認情報システム監査人、そのほかの資格ある専門家によって構成されています。

教義と聖約第120章で啓示されているように、教会基金の支出の承認は、^{しゅうぶん} 什分の一配分評議会が行います。同評議会は、大管長会、十二使徒定員会および管理監督会で構成されています。教会基金の支出が承認された後、教会の各部門は、承認された予算と基金の支出を、教会の方針と手続きに従って管理します。

監査の結果、教会監査部では、2004年度において、教会のすべての資材、献金、基金の支出、および教会資産は、適切な会計と承認された予算、および教会の方針と手続きに従って管理・記録されているという見解に達しました。

以上、謹んで報告いたします。

教会監査部
実務運営ディレクター
ロバート・W・キャントウェル

2004年度統計報告

大管長会秘書

F・マイケル・ワトソン提出

兄 弟姉妹の皆さん、大管長会は、2004年12月31日現在の会員数の増加と現況を示す以下のような記録を発表しました。

教会ユニット数

ステーク ……………2,665
伝道部 ……………338
地方部 ……………646
ワードと支部の合計 ……………26,670

教会員数

教会員総数 …………… 12,275,822
記録上の子供数の増加 ……………98,870

バプテスマを受けた改宗者 ……241,239

宣教師

専任宣教師数 ……………51,067

神殿

2004年に奉献された神殿数 ……………3
(ガーナ・アクラ神殿,
デンマーク・コペンハーゲン神殿,
ニューヨーク州マンハッタン神殿)
2004年に再奉献された神殿数 ……………2
(アラスカ州アンカレッジ神殿,
ブラジル・サンパウロ神殿)
儀式が執行されている神殿数 ……………119

2004年4月以降に他界した著名な教会員

ニール・A・マックスウェル長老(十二使徒定員会)

デビッド・B・ヘイト長老(十二使徒定員会)

マージョリー・ペイ・ヒンクレイ姉妹(ゴードン・B・ヒンクレイ大管長夫人)

ルビー・オルソン・ヘイト姉妹(デビッド・B・ヘイト長老夫人)

ダンツェル・ホワイト・ネルソン姉妹(十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老夫人)

サラ・メリッサ・プロートベント・ポールセン・ソレンセン姉妹(元中央初等協会副会長, 元七十人定員会会員のリン・A・ソレンセン長老夫人)

ナオミ・マックスフィールド・シャムウエー姉妹(元中央初等協会会長)

オリーブ・アイリーン・ロビンソン・ダンヨン・クリステンセン姉妹(元中央初等協会副会長)

ジョアン・ブラックハースト・スペンサー姉妹(元中央扶助協会書記)

大管長会, 弔意を表す

土 曜午後の部会の冒頭, ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は, 以下の弔辞を読み上げた。

「わたしたちは, 全世界の人々とともに, ローマ法王ヨハネ・パウロ2世が亡くなられたことを追悼いたします。ローマ法王は, 傑出した信仰とビジョン, 知性を兼ね備えた人でした。法王の勇氣ある行動は, 世界中の人々の心を動かしました。後に続く世代にも同様の感動を与えることでしょう。

法王は, 自由, 家族, そしてキリスト教を擁護するために絶えず声を発しました。原則と道徳に関して決して妥協せず, 世界の貧しい人々への哀れみの心は, 尽きることがありませんでした。」◆



思いやりという美德

十二使徒定員会

ジョセフ・B・ワースリン

思いやりは日の栄えの生活に欠かせない要素です。思いやりはキリストのような人が周りに示す態度です。



何年も前に監督に召されたとき、教会にあまり来ていない人たちを監督会で訪問したいと思いました。福音の祝福を取り戻すために、何かできることはないか知りたかったのです。

ある日、50代の男性を訪ねました。評判のよい機械工です。最後に教会に出席したのは少年のころだったと話してくれました。その日、何かが起きたのです。当時のクラスでの振る舞いが原因でした。どう見ても騒ぎすぎたのでしょうか。怒った教師は彼をつまみ出すと、「もう戻って来なくていい」と言ったのです。

彼は二度と戻りませんでした。

40年以上も前の思いやりのない一言が、そこまで深い影響を及ぼすものかと驚きました。しかし、実際そうだったのです。そして結果的に、彼は二度と教会に戻りませんでした。妻も子供たちも同様です。

わたしは謝り、彼がそのような扱いを受けたことを悲しく思うと告げました。そして、深く考えもしないで言ったのはか昔の一言によって、家族が教会活動を通して得られる祝福を逃していたことを実に残念に思うと伝えました。

そして言いました。「40年たった今、教会の過ちを正させてください。」

わたしは全力を尽くしました。そして彼が歓迎され必要とされていることを伝えました。最終的に、この男性が家族と一緒に教会に戻り、信仰深い忠実な会員となったことは大きな喜びでした。とりわけ、この兄弟は優れたホームティーチャーとして働きました。ほんのささいな思いやりのない一言が、生涯にわたって、あるいは次の世まで影響を及ぼすことをよく理解していたからです。

思いやりは、偉大さの本質であり、これまで出会った立派な人々が皆持っていた特質です。思いやりは扉を開く鍵であり、友情を築きます。また、心を和らげ、生涯にわたる関係を作り出します。

思いやり深い言葉は、発せられた瞬間に人の心を高めるだけでなく、何年にもわたって心の中に響きます。大学生だったころ、フットボールの試合でいいプレーをしたと、7歳上の男性が褒めてくれました。男性は、試合中のプレーを褒めただけでなく、スポーツマンとしての振る舞いにも注目してくれたのです。60年以上も前のことですが、その男性が当時の会話を覚えているとは思えませんが、わたしはそのときの思いやり深い言葉を今でもよく覚えています。その男性は、後に教会

の大管長となったゴードン・B・ヒンクレーでした。

優しさと思いやりという特性は、ヒンクレー大管長と切り離せない関係にあります。1963年に父が亡くなったとき、最初に家を訪ねてくれたのは大管長でした。その優しさを決して忘れません。大管長は母に祝福を授け、何よりも、まだ多くの祝福が用意されており、母の生涯は麗しいものになると約束してくれました。この言葉は母とわたしに慰めを与えてくれました。大管長の思いやりを決して忘れません。

思いやりは日の栄えの生活に欠かせない要素です。思いやりはキリストのような人が周りに示す態度であり、職場や学校、教会、とりわけ家庭におけるわたしたちの言動の基盤とすべきものです。

救い主イエスは、思いやりと哀れみの最大の模範でした。主は病人を癒し、生涯の大半を一人または大勢の人を教え導くことに費やされました。多くの人にさげすまれていたサマリヤの女に優しく話しかけられ、弟子たちには、幼い子供たちを来るままにさせておきなさいと教えられました。罪を犯したすべての人に優しく接し、罪人ではなく罪を責められました。また、何千人ものニーファイ人が、進み出て主の両手と両足にある釘の跡に触れるのを許されました。しかし、最も崇高な優しさは、贖いの犠牲の中で示されたものでした。それによって、あらゆる人が死の縄目から解放され、悔い改めという条件の下、罪の結果から解き放されるのです。

預言者ジョセフ・スミスも、年齢を問わずあらゆる人に思いやりを示しました。預言者の思いやりに触れたある子供はこう語りました。

「兄とわたしは、ジョセフのれんが造りの店と呼ばれる建物近くの学校に向かっていた。しかし、前日の雨で地面はぬかるみ、学校の前は特にひどかったため、兄のウォーレスとわたしは泥にはまり、足が抜けなくなってしまったのです。幼いわたしたちは、とうとう泣き出してしまいました。ずっと抜け出せないのではないかと思ったからです。けれども見上げると、子供たちの愛する友、預言者ジョセフ・スミ



スがやって来るのが見えました。彼はわたしたちをもっと高くで乾いた所に移すと、しゃがんで泥まみれの靴をきれいにしてくれました。それからハンカチを出して涙でぬれた顔をふいてくれたのです。ジョセフ兄弟は優しい励ましの言葉をかけると、喜んで学校へ見送ってくれました。』¹

家庭ほど思いやりを必要とする場所はありません。それは父から学びました。父はいつも母の助言に耳を傾けました。それによって、さらに立派で、賢明で、思いやり深い人物になることができたのです。

わたしも父に倣^{なら}って、妻の見解に耳を傾けてきました。妻の意見を大切にしています。例えば妻が、「それはどうかしら……」と言ったときには、すぐに耳を傾け、何か間違っ^{たら}たことをしてはいないか考えるようにしています。多くの場合、妻が言い終わらないうちに、心の中では立派な謝罪の言葉が完成しているのです。

実際、妻は思いやりと優しさ、哀れみの模範です。そして、妻の意見、勧告、支えはかけがえのないものとなっています。

妻がいればこそ、わたしもさらに賢明で、思いやり深い男性になれるのです。

わたしたちが語る言葉や声の調子、一言に潜む怒りや静かな思いを、子供たちや周りの人は見えています。思いやり深い言動とそうでない言動の両方を見て学びます。家族への接し方以上に、ほんとうの自分をさらけ出している場面はないのです。

わたしはしばしば、なぜ批判せずにはいられない人がいるのか不思議になります。恐らく批判すること自体が習慣となり、当然と考えるため、そういう習癖があることすら考えないのでしょうか。彼らは、ジョーンズ姉妹の指揮の方法から、スミス兄弟のレッスンの教え方や庭木の植え方まで、あらゆる人を批判しているように見えます。

批判をしたところでだれも傷つけてはいないと考えるときでも、実は往々として結果が伴います。監督に什分^{じゅうぶん}の一を渡して、「これは監督さんのためだよ」と言った少年のことを思い出します。絶好の機会だと考えた監督は、「什分の一か、断食

献金か、それともそれ以外なのか、ちゃんと印を付けるんだよ」と教えました。それでも少年は、その献金が監督のためだと言い張りました。理由を尋ねると、少年はこう答えたのです。「だって、今まででいちばん困った監督だって、パパが言ってたよ。」

教会は、完全な人たちが理想的な言葉を話し、欠点のない思いや感情を抱く場所ではありません。そこは不完全な人たちが集まり、互いに励まし合い、支え合い、仕え合って、天の御父のみもとへ帰る旅路を進めるところなのです。

この人生で、わたしたちはそれぞれ異なる道を旅します。進み具合は千差万別です。ある人を悩ます誘惑も、皆さんにとっては問題ないかもしれません。また皆さんにできることも、人には難しい場合があるのです。

自分より不完全な人を決して見下したりしないでください。相手が自分と同じように上手に裁縫やスポーツや仕事ができないからといって、決して怒らないでください。

わたしたちは皆、天の御父の子供であり、同じ目的を持って世にきました。それは心と魂と思いと力を尽くして御父を愛するようになるためであり、自分を愛するように隣人を愛するためです。²

神の王国における自分の価値を知る一つの方法は、次のように尋ねることです。「人々の可能性を引き出すために、どれくらい助けているだろうか。周りの教会員を支えているだろうか。それとも批判しているだろうか。」

もしだれかを批判しているなら、教会を批判していることになります。しかし人の成長を助けているなら、神の王国を築いているのです。天の御父が思いやりを満ちておられるように、わたしたちも思いやり深くならなければなりません。

教義的な教えで知られるジェームズ・E・タルメージ長老は、苦しみの中にあつた近隣の家族に深い思いやりを示しました。まったく面識のない人たちでした。まだ使徒に召される前、新米の父親だったタルメージ長老は、近所の大家族がジフテリアに苦しんでいることを知りました。非常に恐ろしい病気です。その家族が教会員であるかどうかは問題ではありませんでした。長老の思いやりと慈愛が行動へと駆り立てたのです。扶助協会は援助できそうな人を必死で探しました。しかし、感染性の病気のため皆しりごみしてしまいます。

長老がその家に着いたとき、幼児の一人はすでに死亡し、ほかの二人もひどく苦しんでいました。長老は直ちに仕事に取りかかり、散らかった家を掃除し、幼児の埋葬の準備をし、病気の子供たちの体をきれいにし、食事をさせました。そうやって一日を過ごしたのです。翌朝、その家に行ってみると、夜のうちに子供がもう一人亡くなり、3人目の子供はまだひどく苦しんでいました。長老は日記にこう記しています。「幼い女の子はわたしの首にしがつき、何度も顔や服に向けてせきをした。……でも、その子を離すわけにはいかなかった。結局、その子が亡くなるまでの30分間、わたしはこのいたいけな少女を抱きながら、室内を歩き回った。



その子は、午前10時に苦しみながら亡くなった。24時間以内に3人の子供がこの世を去ったことになる。」長老はそれから埋葬の準備を手伝い、葬儀で話をしました。³長老はこれをすべて面識のない隣人のためにしたのです。キリストのような思いやりを持つ人物の何と偉大な模範でしょうか。

心が思いやりで満たされると、人を批判しなくなります。救い主は教えられました。「人をさばくな。そうすれば、自分もさばかれることがないであろう。また人を罪に定めるな。そうすれば、自分も罪に定められることがないであろう。ゆるしてやれ。そうすれば、自分もゆるされるであろう。」⁴またこう教えられました。「あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ、あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられるであろう。」⁵

「でも」と皆さんは言うでしょう。「人が無礼な態度を執ったらどうすればよいのですか。」

愛してください。

「不快なことをされたら？」

愛してください。

「傷つけられたら？ もちろん何かするでしょう。」

愛してください。

「罪を犯したら？」

答えは同じです。思いやりを示し、愛してください。

なぜでしょうか。ユダは聖文の中でこう教えました。「疑いをいだく人々があれば、彼らをあわれみ〔なさい。〕」⁶

思いやりを示すことで、どれほど遠大な影響を及ぼし得るのかはだれにも分かりません。

兄弟姉妹、イエス・キリストの福音は世を超越した教えです。ここでやっている業は、やがて起こる、さらに偉大で想像もできないようなことの予型でしかないのです。

天は預言者ジョセフ・スミスに開かれました。ジョセフは、生ける神とその御子イエス・キリストにまみえたのです。

この時代にあつて、預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、地上を歩み、わたしたちのために導きを与えます。

天の御父がわたしたちを愛してくださるように、わたしたちも御父の子供たちを愛する必要があります。

思いやりの模範となり、救い主の言葉に従うことができますように。「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」⁷これらの真理をイエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。

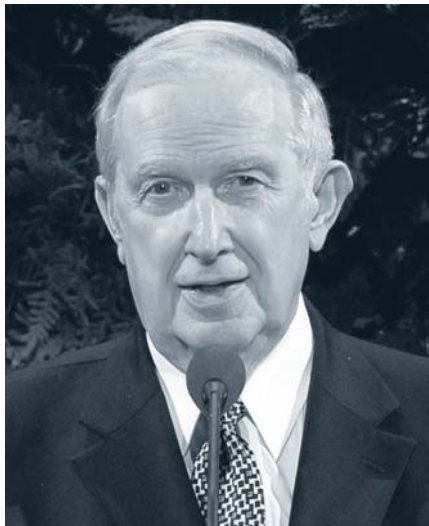
注

1. Margarette McIntire Burgess, *Juvenile Instructor*, 1892年1月15日, 66-67
2. マルコ 12:30-31 参照
3. ジョン・R・タルメージ, *The Talmage Story: Life of James E. Talmage—Educator, Scientist, Apostle*, (1972年) 112-114 参照
4. ルカ 6:37
5. マタイ 7:2
6. ユダ 1:22
7. ヨハネ 13:35

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の持つ力

十二使徒定員会
リチャード・G・スコット

このすばらしい資料がいかにも伝道の働きに役立つか、ぜひ試してみてください。



イエス・キリストの教会が回復されたことを伝える輝かしいメッセージを、容易に愛する人々や友人に分ち合えるようになりました。このすばらしい進歩について皆さんとともに考える機会が与えられていることを感謝しています。宣教師はこの進歩によって熱いものを思いと心に感じています。なぜなら、彼らはあらかじめ決められた言葉に束縛されることなくメッセージを力強く教え、主イエス・キリストと預言者ジョセフ・スミスの証^{あかし}を述べることができるからです。おもに専任宣教師が使うことを想定して開発されたものですが、この資料は子供たちを伝道に備えさせたいと考えている両親にとっても非常に有益であることが実証されています。宣教師として召された青年男女や夫婦は宣教師訓練セ

ンターに入る前からこの資料を使って準備を始めています。アロン神権者の兄弟たちを伝道に備えさせるうえで役立つことを実感した神権指導者もいます。またこの資料は新会員が証を強め、教えに従うことができるよう力を尽くしている神権組織と補助組織にとっても大きな価値があります。これから、この新しい資料『わたしの福音を宣べ伝えなさい』とこの『宣教師デイリープランナー』などの計画用ツールについて話します。

まず、わたしがなぜ『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に夢中になっているかを話しましょう。これまでになかったほど伝道活動を深く掘り下げていることがその理由です。わたしは長年、宣教師たちに「あなたの伝道の目的は何ですか」と尋ねてきました。この質問に対する答えはまちまちでした。計画的に努力するために必要なはずの、はっきりした目的を持っていない宣教師がほとんどでした。このガイドの1ページには、宣教師としての真の目的が力強く説明されています。その目的とは、すなわち、「人々にキリストのもとへ来るよう勧めることです。そのためあなたは、イエス・キリストとキリストの贖い^{あがな}を信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊^{たまもの}の賜物を受けること、最後まで堪え忍ぶことを通して、彼らが回復された福音を受け入れられるよう助けるのです。」続いて、御霊に導かれるままにそれのように実行するかが記されています。

以前の宣教師用資料は、それが用いら

れていた時期は効果がありました。けれども世界は劇的な変化を遂げています。社会の根底部分を形成している価値観がサタンとサタンに荷担する者たちによる激しい攻撃にさらされています。そのため、神が再び地上に置かれた完全な真理を分かち合う方法を緊急に改善しなければならなくなったのです。分かち合う事柄には、神の幸福の計画と、神の偉大な預言者ジョセフ・スミスを通してその計画が地上に回復されたこと、主の御名^{みかど}によって行う神権の権能を持つイエス・キリストの教会が完全な形で再び地上に回復されたことを人々に理解してもらうことも含まれます。

ヒンクレイ大管長はこのことについてよく分かるようにこう説明しています。「これまで長年にわたり、宣教師は標準教授法(レクソンプラン)を使ってきました。これはすばらしい成果を上げてきました。……しかし残念なことに、この方法は多くの場合、暗記した事柄を提示するにとどまり、御霊と個人の証を欠く結果になっていました。……

宣教師はレッスンの概念^{かんぺき}を完璧にマスターします。しかし、……聖なる御霊の導きの下に自分自身の言葉で概念を教えるべきです。[宣教師は]レッスンの概念を自分のものにしなければなりません。しかしそれだけでなく、聖霊に導かれるままに自分の言葉でそれらの概念を……教えなければなりません。」¹

この原則が『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の大きな柱となっています。世界中の宣教師は今や、イエス・キリストの福音の回復についてのメッセージ、救いの計画、基本的な戒め、福音の律法と儀式を自分の思いと心に刻み込みます。その後、御霊の導きによって自分の言葉でレッスンを教えるのです。これによって、このガイドを用いる宣教師の働きは劇的に改善されています。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の各章には、聖なる御霊の導きを認め、理解する方法についてこの上なく大切な情報が記されています。効果的に勉強する方法や、教える技術を磨く方法についての聖文が列挙されています。一つの章では



なぜモルモン書がわたしたちの宗教のかなめ石なのか、人生の重要な問題に対してモルモン書はどのように答えを与えてくれるのか、モルモン書はどのように信仰を築き、人々を神に近づけてくれるかを説明しています。ほかにも、わたしたちのメッセージが真実であることを確認するためにモルモン書はどのように確かなよりどころとなっているかを教えています。宣教師は希望、慈愛、愛などキリストのような特質を伸ばす方法を学びます。愛は、すべての実りある伝道活動の土台となるからです。また、伝道地の言語を習得するための優れた方法が提案されています。時間をもっと賢明に使うために、明確で効果的な計画を立てる手段が用意されています。教える人を見つけて備えさせるための有効な方法が紹介されています。バプテスマ、確認、定着に結びつく決意をしてそれを貫けるように助けるため

の具体的な指導が与えられています。この手引きには専任宣教師、ステーキとワードの指導者、会員の働きを結びつける方法が記されています。さらに多くの新会員が、彼らの助けによって、教会という家族に確実に移行することができるのです。バプテスマと確認の儀式を通してイエス・キリストの御名を受け、戒めを守ることを決意するならば、生涯を通じて主の約束された祝福を受けるという確かな確信を持つことができます。

多くの宣教師は『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に記されている靈感あふれる教えを実践することにより、確信をもって教え、聖霊による確認の証を受ける力を飛躍的に高めています。最近、二人の伝道部長補佐からジョセフ・スミスの示現の物語を紹介してもらいました。わたしが求道者の役をしました。どのように対応するかを見るために、質問攻めにしようと

思っていました。しかし、できませんでした。練習であったにもかかわらず、メッセージを伝える彼らの誠実さ、純粋な気持ち、提示する優れた技術に心を打たれたからです。

皆さんも宣教師たちがどれほど大きな進歩を遂げているかを目にすることができます。家庭に宣教師を招いて、最初のレッスンを聞いてください。近所の人を家に招くことができればもっとよいでしょう。宣教師たちは御霊に導かれて、天の御父が世の歴史が始まって以来、御自分の子供たちに幸福の計画を伝えるために、預言者を用いてこられたことを、自分の言葉で説明することでしょう。父なる神と御子イエス・キリストがジョセフ・スミスを訪られた聖なる示現について語る宣教師の証を心で感じてください。地上で神の御名によって行う権能とともに完全な福音が回復されていく、一連の出来事を宣教師は上手に説明することでしょう。宣教師がこれらの靈感あふれる真理を人々に教える場面に皆さんは立ち会うことができます。皆さんが同席することによって、これらの大切な真理を初めて耳にする人々を大いに力づけることができるのです。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』とその計画ツールを制作したのは大管長会、十二使徒定員会、そのほかの中央幹部、そして献身的で経験豊かなスタッフで結成された最強のチームです。この開発に携わった人々は『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の概念構成、組み立て、資料の完成に当たって、主の導きが聖霊を通して与えられたことを証しています。

14の伝道部で幅広いテストを実施した後に、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の内容について調整が行われました。大管長会と十二使徒定員会はその結果を検討し、修正を加えた後に、承認しました。そして2004年10月15日、全世界に向けた衛星放送で伝道部長と伝道部の指導者に『わたしの福音を宣べ伝えなさい』が紹介されました。続いて、世界中の宣教師全員に英語版の資料が配付されました。多くの宣教師は英語を話しませんが、それで

も新しくなった伝道活動について幾らか実感しました。興味深いことに、英語を話さない一部の伝道部では英語を学ぶ機運が高まりました。今年の初めには、日本語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語の『わたしの福音を宣べ伝えなさい』が配付されました。年末までには宣教師が使うほとんどの言語で資料が入手できるようになります。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』から祝福を受けるのは宣教師ではありません。

●ある伝道部長の妻は参照聖句を含めて『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の一言一句を研究して、深く考えました。そして、それまで思い切って実行できなかったことを始めました。親戚の人にモルモン書を読み、研究し、深く考えるよう勧めたのです。彼女の勧めを受け入れたその親戚は大きな祝福にあずかりました。

●ある家族は『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を使って、子供たちに伝道の準備をさせています。次のような報告が届いています。「最初に割り当てを受けたのは17歳の息子でした。案の定、息子はガイドの中から最も短い部分を探し出しました。けれども、20分に及んだレッスンの中で息子は心を込めて原則を教え、聖句と証で締めくくったのです。」

●息子を伝道に備えさせている父親はこう言っています。『『わたしの福音を宣べ伝えなさい』のおかげで……人生の目的について、また教会員として、父親として、夫としての義務と責任を永遠の見地から、はっきりと理解できるようになりました。……また、それらの責任をよく果たすための具体的な手段を見つけられました。』彼の息子は、昨日、宣教師に召されました。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』が導入されてからわずか7か月の間に非常に多くの事柄が成し遂げられてきました。しかし、この実にすばらしい伝道のツールにすべての人がさらに熟達するとき、このガイドによって収められる成功は、最高潮に達することでしょう。

バプテスマの聖約を交わす人々が、生涯を通じて教会員のすべての祝福にあず



ニュージーランド・オークランド・ハーバーステークセンターで大会の放送が始まる前に求道者を待つ、ニュージーランド・オークランド伝道部の宣教師たち。

かれるよう助けるため、会長会や神権役員会、ワード評議会ではこれらの資料を活用するようお願いします。バプテスマの準備をしている個人別に作成する新しい進歩状況報告書を活用することによって、宣教師と会員たちの働きを効果的に調整することができます。会員と宣教師が力を合わせて『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の原則を実行するならば、新しい改宗者がいつまでも活発でいるのはきわめて容易になると、わたしは確信しています。

大管長会は『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の中で宣教師にとって確かな動機づけとなるメッセージを与えています。これは皆さんが伝道活動を行うときにも励ましとなることでしょう。このように述べられています。「伝道の業以上に大きな感動を与え[る]業はほかにはありません。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』は、あなたがより良い備えをし、霊的に成熟した宣教師となり、説得力豊かな教師となるよう助けることを目的としています。……天の御父の栄光あふれる業に力を尽くす決意をいっそう強めてくださるようお願いいたします。……あなたが謙遜に、また祈りをもって主に仕えるとき、主は報いと豊かな祝福を与えてくださるでしょう。」²

このプログラムの持つ可能性を理解できたでしょうか。個々の生活の中でこの伝道ツールを理解し、実際に使い始めるときに、皆さんはわたしと同じような感動を覚えることでしょう。『わたしの福音を

宣べ伝えなさい』は以前の専任宣教師用資料と違って、指導者や会員ならだれでも教会の配送センターから入手できます。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』のもたらす最大の祝福は、恐らく帰還宣教師の生活に反映されることでしょう。この資料の靈感あふれる内容を理解し、実践することによって進歩を遂げた彼らは、優れた親となり、有能な教会指導者となり、立派な社会人となることでしょう。

全世界の宣教師を代表して、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の編集と印刷と配送に携わってきた献身的なスタッフの皆さんに心からの感謝をお伝えします。この資料を効果的に活用するために技術を磨いている伝道部長と宣教師一人一人にも感謝しています。特に、靈感を与えてくださった主に感謝します。親として子供を伝道に備えさせるとき、教会指導者として新しい改宗者を助けるとき、会員として福音を分かち合うとき、個人として奉仕に備えるときなど、このすばらしい資料がいかに伝道の働きに役立つか、ぜひ試してみてください。皆さんがそうするとき、救い主がわたしたちを祝福し、導いてくださるよう願っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

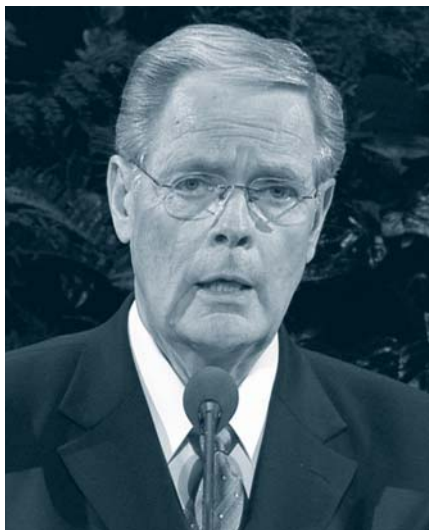
1. 「伝道活動」『世界指導者訓練集会』2003年1月11日、19
2. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい』v

人の価値

七十人

ハロルド・G・ヒラム

一人の人間が【与え得る】影響を……考えると、主が次のように言われるのも、当然のことなのでしょう。「人の価値……を覚えておきなさい。」



忘れられない印象を残した一つの話があります。何年も前に、あるステーキ大会の土曜の夜の部会で聞いた話です。話者は若い母親でした。このような話でした。「わたしは今、曾祖父の系図を調べています。曾祖父には大勢の息子や娘がいて、皆、教会員でした。

ところが、曾祖父と家族はある日曜日を最後に教会に行かなくなり、二度と戻りませんでした。理由は分かりません。

わたしの調べたところでは、この曾祖父には1,000人を超す子孫がいます。」

そして彼女は、忘れられないことを言いました。「この1,000人の子孫の中で、今教会に集っているのはわたし一人です。」

彼女がそう話したとき、思いを巡らせました。「影響を受けたのは1,000人だけだろうか、いや1,000人以上いるに違いない。」

答えは明らかです。隣人や友人は、本来その家族から受けたはずの霊的な影響力を受けられませんでした。息子や娘たちはだれ一人伝道に出ませんでした。彼らの証に感動するはずだった人々はバプテスマを受けませんでした。バプテスマを受けなかった人々は、当然伝道にも出ません。つまり、その曾祖父の選択の結果、今日教会員になっておらず、この集会にも出席していない人々が恐らく何千人といえるのです。

話に耳を傾けながらわたしは思いました。「何という悲劇だろう。もしわたしがその場にいたならば、この父親か、家族全員か、あるいは神権指導者に何か話して、この家族が、また将来この家族の大勢の子孫が被ろうとしている災いを食い止める助けになれたかもしれないのに。」

残念ながら、今となってはその機会はありません。しかし、現在と未来のことについては手を施すことができます。この曾祖父と同じような状況にある人々に、こう言いたいと思います。あなたが今、家族と子孫にしようとしていることを深く考えてください。あなたの思いと行いが家族と子孫に与える影響をよく考えてください。

教会の教義に納得できない点があると言うのなら、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長が昨年フランスのバリで2,000人以上の会員を前にして語った、次の勧告を吟味してください。「兄弟姉妹の皆さんにお願いします。この教会の何らかの教義に疑問があるというのなら、それをぜひ試してみてください。行ってみてください。その

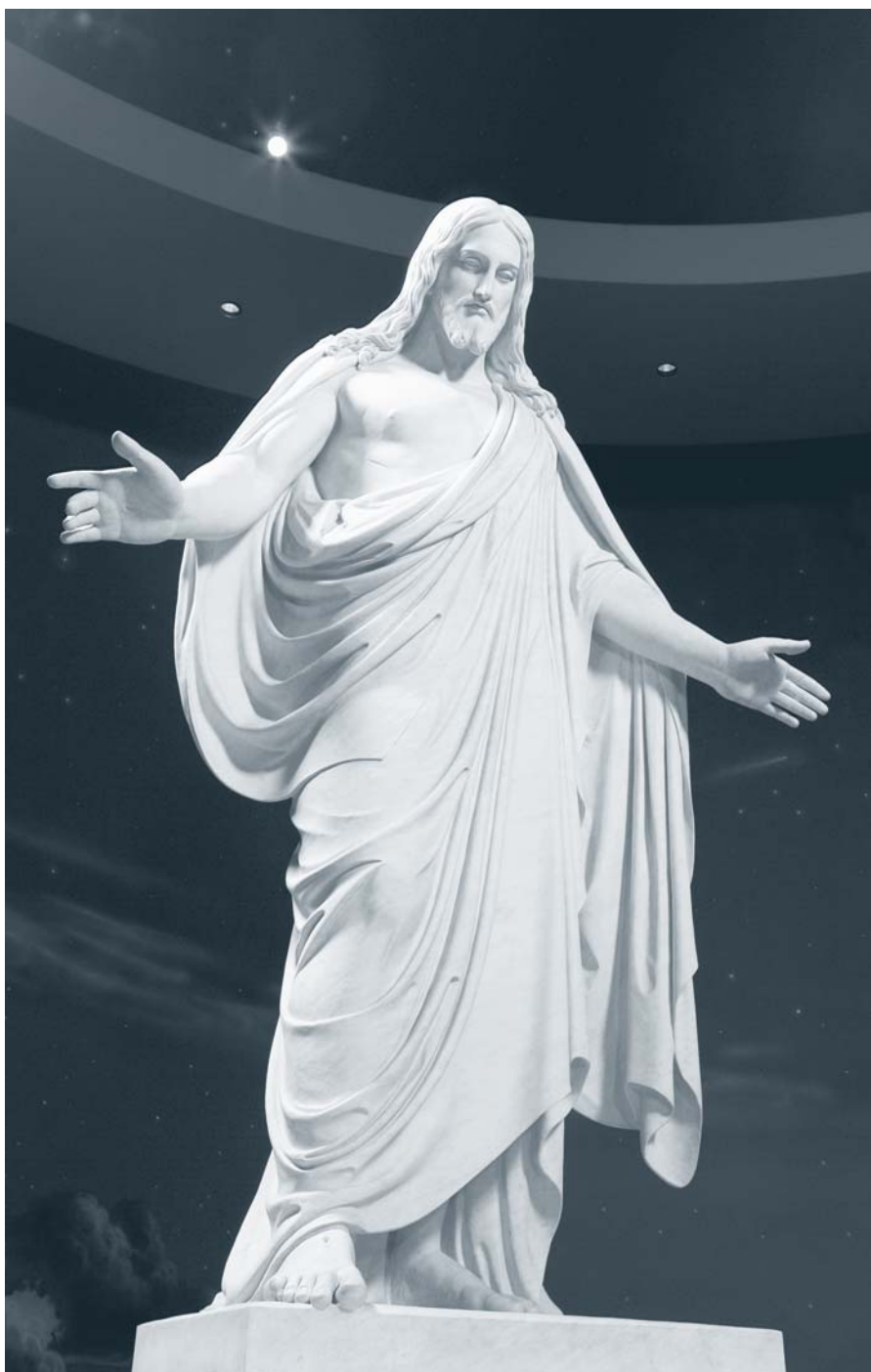
原則に従ってみてください。ひざまずき、それについて祈ってみてください。神はこの業が真実なものであるという知識を皆さんに与えてくださるでしょう。」

不当な扱いを受けたと感じているなら、進んで赦してください。何かの理由で不愉快な記憶があるのなら、それを捨ててください。必要なら監督に話してください。ステーキ会長と話し合ってください。

すべての人に、特にいずれ曾祖父や曾祖母になる人にお伝えします。たとえどんなにプライドが傷つくようなことがあっても、あなた自身と大勢の子孫が受けるはずの永遠の祝福を放棄するのは、あまりにも代価が大きすぎます。モルモン書ではベニヤミン王がこう指摘しています。「そしてさらにあなたがたは、神の戒めを守る者の祝福された幸福な状態についても考えてほしい。見よ、これらの者は物質的にも霊的にも、すべてのことについて祝福を受ける。そして、もし最後まで忠実であり続けるならば、彼らは天に迎えられ、決して終わりのない幸福な状態で神とともに住めるのである。」(モーサヤ2: 41)

将来、道からそれそうな曾祖父を持つ子供たちにお伝えします。忠実であり続けてください。家庭の中で、また周囲の人に、模範を示してください。家庭や交際する人々に、平安と調和をもたらすためにできることをしてください。問題を起す人ではなく、解決する人になってください。忘れないでください。モルモン書の中で、父リーハイがつぶやき始めたとき、周囲の励ましとなり、問題の解決策を見つけたのは義にかなった息子ニーファイでした。多くの場合、荒海を渡る船を安定させることができるのは、義にかなった子供たちなのです。

監督やステーキ会長の皆さんにお伝えします。当時一握りしかいなかった地区代表のための集会に、皆さんも出席できたならよかったのと思います。その集会で、L・トム・ペリー長老は、長老の職に昇進する見込みのある会員や教会に熱心ではない会員、つまり将来曾祖父になる人たちを、体温計にたとえました。その



ならない務めの大半をどのように副会長や高等評議員に委任して自由に動ける時間を確保し、励ましが必要な人と面接する時間を作ったかを個人面接のときに話してくれました。ステーキ会長室には個人や夫婦が招かれました。ステーキ会長はその場で彼らのことを知り、助言を与え、より善い者となるように、生活を整えるように、主に従う人々に注がれる祝福を受けるように勧めました。彼らが教義のすばらしさを理解するように、有能な指導者や教師の手を借りました。ステーキ会長はよく面接中に「祝福しましょうか」と尋ねたそうです。「ステーキの大勢の会員の頭の上に手を置きました」と彼は言いました。

翌日のステーキ大会の一般部会で、非常に多くの人々が涙を浮かべていることに驚きました。ステーキ会長の解任を望んでいなかったためではなく、生活を祝福してくれた若いステーキ会長に対する深い愛のための涙でした。何かに促されてわたしはこう尋ねました。「ステーキ会長に頭に手を置いてもらった人は、何人いらっしゃいますか。」手を挙げた人の数に驚きました。そのとき、こう思いました。「今だけではなく、永遠にわたってこの偉大な人の名前を祝福する人は、何人いるだろう。」その人々は、この愛にあふれた指導者のおかげで、幾世代もの大勢の子孫という遺産を残す曾祖父となるでしょう。そして皆が彼を祝福された者と呼ぶでしょう。

一人の人間がこれほど大勢の人の生活に影響を与えることを考えると、主が次のように言われるのも、当然のことなのでしょう。「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。」(教義と聖約18:10)

まだ小さな子供でも、10代の若者でも、あるいは大人でも、将来曾祖父となる人を助けるために、わたしたち皆が自分にできることを考えられますように、また、主を知り、主を愛する子孫という義なる遺産をすべての人が残せますように、イエス・キリストの御名により、アーメン。

たとえを聞き、教会や教会員に対して積極的な気持ちを持っている人々が、たくさんいることを思い出しました。励ましを与え、道を示しさえすれば、そのような人々は戻って来るでしょう。

割り当てを受けて出席した、あるステーキ大会について話しましょう。ステーキ

を再組織するために、ステーキ会長と副会長が解任され、新しいステーキ会長会が召されることになっていました。その若い前ステーキ会長は、ほぼ10年間すばらしい働きをしてきました。霊の巨人であるばかりか、見事な管理手腕を発揮しました。彼は、ステーキが果たさなければ

じゅうぶん 什分の一 ——貧しくても 従うべき戒め

七十人
リン・G・ロビンズ

時の初めから、真の犠牲とは、忠実さを証明するものでした。



チャールズ・ディケンズの不朽の名作『クリスマス・キャロル』に登場するボブ・クラチットは、クリスマスの日を家族と一緒に過ごしたいと望んでいました。「もし差し支えないようでしたら」とボブは雇い主のスクルージに申し出ました。「差し支えるよ」とスクルージは言いました。「『冗談じゃない。休んだ分の半クラウンを給料から差し引いたら、君はひどい目に遭ったと思うだろうね、きっと。……だが、君はわたしがひどい目に遭っているとは思わないだろう。仕事をしない雇い人に、一日分の給料を支払うというのに。』クラチットは1年にたった1度のことだと言いました。するとス

クルージはこう言いました。「毎年12月25日になる度に、人の懐からかすめ取っていくにしては、まずい言い訳だな。』」スクルージのように心底自分本位で「生まれながらの人」にとって、犠牲を払うことは、常に差し支えるものなのです。

生まれながらの人には、自分のことだけを考える性癖があります。自分を最優先するばかりでなく、神をも含めて他人のことを二番目に位置づけることさえ、ほとんどありません。生まれながらの人にとって、犠牲を払うというのは当たり前のようにできることではありません。より多く得たいという、飽くことのない欲求の持ち主だからです。いわゆる「どうしても避けられない出費」が常に収益以上に思えるため、「十分に」持っているという感覚には永遠に手が届きません。ちょうど守銭奴スクルージがそうだったように。

生まれながらの人は金銭をため込んだり、または全財産を使い果たしてしまったりする傾向があることから、賢明にも主は、古代のイスラエルの民に犠牲をささげるよう命じられました。すなわち家畜の群れのうち、最後のものでも最も貧弱なものでもなく、初子をささげるように、また畑の収穫の残り物ではなく初物をささげるようにと命じられたのです(申命26:2; モーサヤ2:3; モーセ5:5参照)。時の初めから、真の犠牲とは、忠実さを証明するもので

した。

犠牲を払おうとしない人の中には、両極端な二つのタイプがあります。一方は犠牲を払うのを好まない貪欲な富者であり、他方は犠牲を払いたくてもできないと思いつている貧者です。しかし飢えに苦しんでいる人に向かって、食べるのを控えるようになどと、どうして言えるでしょうか。また犠牲を払うことを期待されていないくらい貧しいという貧困のレベルが存在するのでしょうか。あるいは貧窮すぎるために什分の一を免除されるべき家族が存在するのでしょうか。

主は福音の原則を分かりやすく説明するために、しばしば極端な状況を探り上げてお教えになります。ザレパテのやもめ女の話は、極度の貧困を示す一例であり、憐れみが正義から何も奪うことができないうと同様に、犠牲をささげる機会を奪うことができないという教義を教える際によく用いられます。実際、どれだけ多く差し出したかではなく、何を犠牲にしたかによって、より正確に犠牲の価値は測られるのです(マルコ12:43参照)。食料棚に食物がぎっしり詰まっているときではなく、むしろ空っぽのときに、信仰は試されるのです。そのような決定的な瞬間において、危機は人格を形成しません。あらわにするのです。危機は試しなのです。

ザレパテのやもめ女は、預言者エリヤの時代に生きていました。預言者エリヤの言葉によって、主は3年半の間、地上に干ばつを送られました(ルカ4:25参照)。飢饉が増大し深刻になったために、多くの人が死に瀕してしまっていました。このような状況を背景に、このやもめ女の話は展開するのです。

主はエリヤに「立って……ザレパテへ行[き]なさい。わたしはそのところのやもめ女に命じてあなたを養わせよう」と言われます(列王上17:9)。ここで興味深いのは、やもめ女とその息子が死の淵に立って初めて、エリヤはザレパテに行くよう告げられたということです。それはやもめ女にとって、餓死に直面するという、まさに信仰が試される極限の状態だったのです。

ザレパテの町に着いたとき、エリヤはやもめ女が薪を拾っているのを見ました。

「……彼はその女に声をかけて言った、『器に水を少し持ってきて、わたしに飲ませてください。』」

彼女が行って、それを持ってこようとした時、彼は彼女を呼んで言った、『手に一口のパンを持ってきてください。』

彼女は言った、『あなたの神、主は生きておられます。わたしにはパンはありません。ただ、かめに一握りの粉と、びんに少しの油があるだけです。今わたしはたきぎ2、3本を拾い、うちへ帰って、わたしと子供のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです。』(10-12節)

一握りの粉というからには、ごく少量でしょう。恐らくせいぜい一人分にしかならないでしょう。この事実を踏まえると、エリヤの応答には興味をそそられます。「エリヤは彼女に言った、『恐れるにはおよばない。行って、あなたが言ったとおりにしなさい。しかしまず、それでわたしのために小さいパンを、一つ作って持ってきなさい。……』」(13節、強調付加)

さてこの答えは利己的に聞こえないでしょうか。最初にできたパンというだけでなく、ことによると一つしかないパンを要求しているのですから。わたしたちは両親から、まず人を優先するようにと教えられなかったのでしょうか。ことに紳士たる者は女性を優先するように、とりわけ飢えに苦しむ寡婦を優先するようにと教えられなかったのでしょうか。このときザレパテのやもめ女が選ぶ道とは、自分が食べるという選択肢でしょうか、それとも最後の食事を犠牲にして死を早める道でしょうか。恐らく彼女は、自分の食物を犠牲にすることでしょう。しかし飢え死にしそうな息子の食物を犠牲にすることが、果たしてできるのでしょうか。

エリヤは、祝福は試しの後にやって来るといふ教義を理解していました(エテル12:6;教義と聖約132:5参照)。エリヤは利己的だったわけではありません。主の僕として、与えるためにそこにいたのであって、受けるためではありませんでした。物語を続けましょう。

「『しかしまず、それでわたしのために小さいパンを[すなわち最初にできたパンを]、一つ作って持ってきなさい。その後、あなたと、あなたの子供のために作りなさい。』

「主が雨を地のおもてに降らす日まで、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えない」とイスラエルの神、主が言われるからです。』

彼女は行って、エリヤが言ったとおりにした。彼女と彼および彼女の家族は久しく食べた。

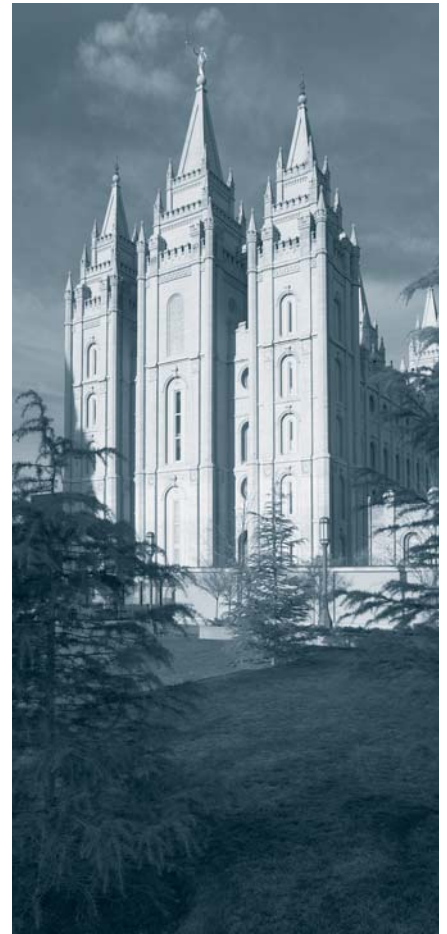
主がエリヤによって言われた言葉のように、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えなかった。」(13-16節、強調付加)

主が最も極端な状況を例にとって教義を説かれる理由の一つは、言い訳する余地をなくすためです。最も貧しいやもめ女に対してさえ、最後の握りを犠牲にするよう主が求められるのであれば、犠牲を払うのは「差し支える」とか難しいとか考えるあらゆる人にとって、どこに弁解の余地があるでしょうか。

監督や宣教師は、貧しい人たちに什分の一の律法を教えるに当たって、決して躊躇したり、信仰に欠けることがあったりしてはなりません。「この人には什分の一を納める余裕がない」と同情するのはなく、「この人は什分の一を納めないわけにはいかない」と考える必要があるのです。

援助の必要な人を助けるために監督が第1にすべきことの一つは、什分の一を納めるように勧めることです。このやもめ女と同様に、もし貧窮の状態にある家族が、什分の一を納めるか食べるかという決定を迫られていたとしたら、什分の一を納めるべきです。そして監督は、自立できるようになるまで、食物と必需品を援助するのです。

1998年10月に、ハリケーン・ミッチによって、中央アメリカの多くの地域が甚大な被害を受けました。ゴードン・B・シンクレイ大管長は、被災者について非常に心を痛めました。食物や衣服、家財道具など、あらゆるものを失った人が多くいました。大管長は、ホンジュラス共和国のサンペド



ロスラヤテグシガルパ、ニカラグア共和国のマナグアなどの各都市に住む聖徒を訪れました。各都市でこの現代の預言者が伝えたメッセージは、愛にあふれた預言者エリヤが飢えたやもめ女に告げたのと同様に、犠牲を払い、什分の一の律法に従うようにというものでした。

貧困にあえぐ人に犠牲をささげるようにと、どうしたら言えるのでしょうか。食物や衣服の積み荷が、それを受け取る人たちにとって緊急事態を乗り越える助けになることを、シンクレイ大管長はよく理解していました。しかし大管長がその人たちに抱いている関心や愛は、物質的支援をはるかに超えたものでした。人道支援の大切さはもちろんのこと、最も大切な助けは人ではなく神からもたらされるものであることを、大管長は知っていたのです。預言者が願っていたのは、助けを必要としている人々が、マラキ書で主によって約束されているように、自ら天の窓を開くことができるよう助けることだったのです(マラキ3:10;モーサヤ2:24参照)。

ヒンクレー大管長は、被災した人たちが什分の一を納めるなら、食卓には常に食物が並び、着る物に不自由せず、また常に住む場所に困らないと教えました。

給仕をする際、いったん食事を済ませた後や料理を出してしまった後に、遅れてやって来た人のために新たに食物を調達するよりは、食事が始まるにもう一皿用意の方が簡単です。同様に、主に差し上げるに足だけの「残り物」があるよう願うよりは、初子や初物の実を差し出す方が、実際にたやすいことではないでしょうか。わたしたちが祝宴の主催者だとしたら、主は榮譽ある客人であって、最初に給仕すべき御方ではないでしょうか。

愛する母、エブリン・ロビンズは、わたしが4歳のときに什分の一の律法について教えてくれました。母はバンドエイドの空箱をくれました。ふたが付いたブリキ製の缶でした。その中に什分の一用の1セント硬貨をためておき、監督のところを持って行くように教えてくれたのです。わたしは、母とバンドエイドの箱に対して、また什分の一を納めることによってもたらされた数々の祝福に対して、永遠にわたって感謝します。

『クリスマス・キャロル』の中で、スクルージは生き方を変えました。もはや過去のスクルージではありません。同様に、この福音は「悔い改めの福音」です。日々の生活においてもっと完全に犠牲の律法に従うように御霊の声^{みたま}が促すのであれば、わたしたちも今日からその変化を体現し始めることができますように。

犠牲を通して従順の完全な模範となってくださった主に、心から感謝しています。主は「罪に対する犠牲として御自身を」ささげられました。そしてリーハイの言葉にあるように「神にとって初穂」となられました(2ニーファイ2:7, 9, 強調付加)。主とこれら主の教義について、イエス・キリストの御名^{みな}により証^{あかし}いたします。アーメン。

注

1. *The Annotated Christmas Carol*, マイケル・パトリック・ハーン編(1976年), 69, 強調付加

最初の示現が 結んだ実

十二使徒定員会

ディーター・F・ウークトルフ

**ジョセフ・スミスもわたしを支えてくれた人の一人です。ジョセフのキリストに
対する証^{あかし}は、救い主に対する自分の証を築くうえで助けとなりました。**



わずか6か月前、わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の忠実な会員の皆さんに十二使徒定員会会員として支持されました。この召しは多くの人にとって驚きでしたが、特に孫たちはびっくりしたようです。孫たちはこう言いました。「だって、おじいちゃんだよ！ 遊んだり、散髪したりしてくれる普通の人だよ！」

10月の総大会の後、妻とわたしは電話で子供たちと話しました。すると孫の一人が言いました。「ぼくたちは、ソルトレーク・シティーから遠く離れていて会えないんだから、総大会でお話したときに、手を振ってくれたらよかったのに。」それ以来、今回の大会までまだ子供や孫たちに会っていませんので、今日ここで孫を喜ば

せるために手を振りたいと思います。また、すばらしい会員の皆さんのかけがえない祈りと愛に感謝して、皆さんにも妻とわたしから手を振らせてください。

ドイツで過ごした少年時代、わたしは様々な場所と様々な状況の中で教会に集いました。奥まった粗末な小部屋や、堂々とした別荘、また非常に近代的で機能的な教会堂もありましたが、どの建物にも共通する一つの重要なことがありました。それは、会員が一つの家族として支部やワードに集うとき、神の御霊^{みたま}がそこにあり、救い主の愛が感じられたということです。

ツピッカウの礼拝堂には、古い空気式オルガンがありました。毎週日曜日には、青少年がオルガンに空気を送る重いレバーを上げ下げする役目を与えられていました。わたしはアロン神権者になる前から、時々この大切な役目を助ける特権にあずかりました。

会衆が大好きな回復の賛美歌を歌っている間、わたしはオルガンの空気が途切れないように全力でレバーを上げ下げしました。オルガン奏者の目を見れば、わたしの仕事が満足のいくものか、もっと空気を送らなければならないか、はっきりと分かりました。この責任の重さと、オルガン奏者が寄せてくれた信頼をいつも誇りに思いました。そして責任を与えられ、この偉大な業の一端を担っていることにすばらしい達成感を抱いていました。

この責任にはもう一つ特権がありまし



た。送風係の席からは、礼拝堂の正面を飾るステンドグラスの窓が実によく見渡せたのです。ステンドグラスには、ジョセフ・スミスが聖なる森にひざまずいて天を仰ぎ、光の柱を見上げている、最初の示現の場面が描かれていました。

会衆が賛美歌を歌っているときや、会員が話や証をする間、わたしはよく、歴史に残るこの神聖な瞬間を描いたステンドグラスを見ていました。そして、ジョセフが天の御父に使われる者として定められ、知識と証と神聖な教えを受けている様子を心に描いていました。

この信仰深い少年は、勇気をもって天の御父に熱心に祈る決断をし、御父は愛をもってその祈りにこたえられたのです。このステンドグラスに描かれた聖なる森の美しい情景を見ていると、わたしは特別な御霊を感じました。

わたしは第二次世界大戦後のドイツに住む一人の少年でした。最初の示現から100年以上もたった時代に、バルマイラから何千キロも離れた廃虚となった町に暮らしていたのです。しかし聖霊の普遍的な力によって、ジョセフ・スミスが確かに神とイエス・キリストにまみえて、御二方の御声を聞いたことを心と思い確信しました。神の御霊は、年若いわたしの心

を鼓舞するとともに、その神聖な瞬間が世界に広がる業の始まりとなり、「全地に満ちるまで転がり進む」ことを確信させてくれたのです(教義と聖約 65:2)。わたしは聖なる森での神聖な経験に関するジョセフ・スミスの証を信じました。そして今は確信しています。神は再び人類に語られたのです。

当時を振り返ると感謝の念がわいてきます。実に多くの友人が、回復されたイエス・キリスト教会についての証を築けるよう、年若いわたしを助けてくれたからです。彼らの証を信じることから始めたわたしは、やがて心と思いに御霊による神聖な証を受けることができました。ジョセフ・スミスもわたしを支えてくれた人の一人です。ジョセフのキリストに対する証は、救い主に対する自分の証を築くうえで助けとなりました。ジョセフ・スミスが神の預言者であるという御霊の証を認識する前から、わたしの幼い心は、ジョセフは神の友達なのだから、わたしの友達でもあるとごく自然に感じていました。ジョセフ・スミスに信頼することができました。

聖文には、神を求め、愛し、戒めを守る者には御霊の賜物が与えられると記されています(教義と聖約 46:9参照)。「すべての人があらゆる賜物を与えられるわ

けではない。賜物は多くあり、各人に神の御霊によって一つの賜物が与えられるのである。

ある人にはある賜物、またある人には別の賜物が与えられて、すべての人がそれによって益を得られるようになっている。」(教義と聖約 46:11-12)

今日、わたしは自分の少年時代の証が、預言者ジョセフ・スミスの証や、「イエス・キリストが神の子であり、世の罪のために十字架につけられたことを……聖霊によって」知っていた教会の多くの友人によって強められたことを実感しています(教義と聖約 46:13)。すばらしい模範と思いやりにあふれた愛と助けの手は、いっそうの光と真理を切望していたわたしに、聖文に記されたもう一つの特別な御霊の賜物を与えてくれました。「ほかの人には、続けて忠実であれば自分もまた永遠の命が得られるように、彼らの言葉を信じる事が許される。」(教義と聖約46:14) 何とすばらしく、貴い賜物でしょう。

心からへりくだれば、この賜物を受ける祝福にあずかって、信仰を持ち、まだ見えていない真実のことを待ち望めるようになります(アルマ32:21参照)。主の御霊を妨げようとせず、聖文と生ける預言者の言葉を試すならば、たとえ信じようとす

る望みを持つだけであっても、心は広げられ、理解力に光が注がれるのです(アルマ32:26-28参照)。

救い主は、その偉大な執り成しの祈りの中で、この^{あわ}憐れみ深い原則を世のすべての人に説明されました。使徒だけでなく、すべての聖徒、そして今日あらゆる地に住むわたしたちのためにもささげられたこの祈りの中で、主はおっしゃいました。

「わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。

父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」(ヨハネ17:20-21, 強調付加)

このように、ジョセフ・スミスの最初の示現は、個人と家族の生活、ひいては全人類に祝福をもたらします。わたしたちは預言者ジョセフ・スミスの証を通してイエス・キリストを信じるようになるのです。人類の歴史を通じて、預言者や使徒たちは、ジョセフのような神の訪れを経験しています。モーセは顔を合わせて神にまみえ、自らが「[神の]独り子にかたどられている」神の子であることを知りました(モーセ1:1-6参照)。使徒パウロは、ダマスコへ向かう途中で復活されたイエス・キリストにまみえ、主の偉大な宣教師として召されたことを証しました(使徒26:9-23参照)。また、カイザリヤで裁判にかけられていたパウロが天の示現について証したとき、強大な力を持つアグリッパ王は「おまえは……わたしをクリスチャンにしようとしている」と言いました(使徒26:28)。

ほかにも、多くの古代の預言者がキリストについて力強い証を述べています。このような現れは、古代・近代を問わず、信じる人をすべての義と希望の神聖な源である神、すなわち天の御父とその御子イエス・キリストへと導きます。

神がジョセフ・スミスと語られたのは、



戦争や戦争のうわさ、自然災害や個々人の苦しみの多い、不確かで不安定な時代にあっても、神のすべての子供たちを御自身の憐れみと愛によって祝福するためでした。救い主はおっしゃいました。「見よ、わたしの憐れみの腕はあなたがたに向けて伸べられている。わたしは来る者をだれでも受け入れよう。わたしのもとに来る者は幸いである。」(3ニーファイ9:14)そして、この招きを受け入れる人はだれでも、「たぐいない豊かな神の愛に取り巻かれ」るのです(アルマ26:15)。

預言者ジョセフの証と最初の示現が真実であることを信じ、熱心に研究し心から祈るなら、「1820年の早春、美しい晴れた日」にジョセフと語られた世の救い主について確固とした信仰を持てるようになるでしょう(ジョセフ・スミス-歴史1:14)。

イエス・キリストを信じる信仰と、主とその普遍的な^{あがな}贖いに対する証は、単に神学的に価値ある教義ではありません。むしろ、そのような信仰は普遍的な賜物であり、言語、人種、肌の色、国籍、あるいは社会経済的状況を超越した、世のすべての人にとってすばらしいものです。分

別を使ってこの賜物を理解しようとする人もいるかもしれませんが。しかし、信仰の賜物の力を最も深く感じる人は、この祝福を進んで受け入れようとする人々です。その祝福は、心から悔い改める道を選んで、神の戒めに従うことで、汚れのない清い生活を送ることから得られます。

預言者ジョセフ・スミスを覚え、敬うとき、わたしは感謝の気持ちでいっぱいになります。ジョセフは、善良、正直、^{けんそん}謙遜であり、知性と勇氣に富んだ心の優しい少年で、神への揺るぎない信仰を持っていました。そして高潔さを備えていたのです。その謙遜な祈りはこたえられ、天は再び開かれました。ジョセフ・スミスは実際に示現を見ました。彼はそれを知っていました。神がそれを御存じであることをジョセフは知っていました。否定することはできなかったのです(ジョセフ・スミス-歴史1:25参照)。

ジョセフ・スミスの働きと犠牲により、天の御父と、その御子であり、贖い主、救い主であるイエス・キリストを、ほんとうの意味で知ることができるようになりました。そして聖霊の力を感じ、わたしたち神の子のために用意された御父の計画を知ることができました。わたしにとって、これは確かに最初の示現が結んだ実でした。

幼いときに、ジョセフ・スミスが神の預言者であり、示現によって父なる神と御子イエス・キリストにまみえたという、純真な信仰に恵まれたことを感謝します。ジョセフ・スミスは、神の賜物と力によってモルモン書を翻訳しました。これまで何度もその証を確認してきました。

最も小さい者の一人として、しかし、召しにおいてはイエス・キリストの使徒の一人として、主が確かに生きておられ、メシヤであられることを証します。わたしは、全人類の救い主、贖い主であるイエス・キリストについて、個人的な証があります。その知識は、神の御霊の言い尽くせない平安と力を通して与えられました。わたしの心からの願いは、永遠にわたって清く忠実に主に仕えることです。

イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

夫婦宣教師——犠牲と奉仕から得られる祝福

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ

天の御父は皆さんを必要としておられます。救い主イエス・キリストが指揮される神の業は、皆さん一人一人が蓄えた独自の特質を必要としているのです。



4年前の総大会で、専任宣教師として奉仕する夫婦についてお話ししました。そして「聖霊が皆さんの心の琴線に触れられ、どこかの夫または妻が、自分の伴侶を静かにつつき、真理に目覚める瞬間〔決断の瞬間〕が訪れる」ように祈りました。¹ 後にある姉妹がまさにその経験を書き送ってくれました。「わたしたちは居間でくつろぎながら、総大会のテレビ中継を楽しんでいました。……長老のお話を聞いていたとき、感動で胸がいっぱいになりました。主人と二人、顔を見合わせました。その瞬間、人生が永遠に変わったのです。」

夫婦宣教師の年代、またはそれに近い年代の皆さんに、今日は人生を永遠に変えることのできる祝福について証します。

天の御父は皆さんを必要としておられます。救い主イエス・キリストが指揮される神の業は、皆さん一人一人が蓄えた独自の特質を必要としているのです。どんな伝道の経験にも信仰と犠牲と奉仕が必要ですが、やがて必ず豊かな祝福が注がれます。

この祝福について話し合うと、前に紹介した4つのFを当然思い浮かべることでしょう。つまり恐れ(Fear)、家族の問題(Family Concerns)、適切な伝道の機会を見出すこと(Finding the right mission opportunity)、そして財政(Finances)です。² 今回はもう一つ、もっと大切で強力なF、信仰(Faith)を加えます。信仰によって初めて、次の神の勧告に従うことができるからです。「あなたがたの仕える者を、今日、選びなさい。」³ 「あなたがたを造られた主なる神に仕えることを選びなさい。」⁴ そして、信仰の試しを通して初めて、奇跡的な祝福を受けることができます。その祝福こそ、わたしたちが自分にも家族にも注がれることを求めるものです。こうあるからです。「もしも人の子らの中にまったく信仰がなければ、神は人の子らの中で何の奇跡も行うことがおできにならない。したがって、彼らが信じてからでなければ、神は御自身を現されなかつた。」⁵

ここで、過去4年間に届いた手紙や報告の中から、この奇跡的な祝福の一部を紹介させていただきます。アイダホ出身のある

謙遜な夫婦は、主からロシアへ行くよう召されたとき、信仰によって恐れを克服しました。召しを受諾する手紙にこう書いています。「わたしたちがこのような召しを受けるとは、だれも想像できなかったでしょう。どうやってロシア語を学んだらいいのか、どうしたらお役に立てるのか、見当もつきません。不安におののきながらも、信仰に頼ってこの召しをお受けします。主と主の預言者はわたしたち以上に、わたしたちがどこで奉仕すべきか御存じなのですから。」10か月後、少しだけロシア語が分かり始めたこのアイダホの夫婦に引率されて、ロシアの小さな支部から30人の聖徒がスウェーデン・ストックホルム神殿に到着しました。聖文はこう教えています。「このように、神は人が信仰によって偉大な奇跡を行うことができるように、一つの手段を与えてくださいました。」⁶ こうして神の業はその子供たちによって達成されます。それは「信仰もまた地に増すため、……わたしの完全な福音が弱い者や純朴な者によって世界の果てまで……宣べられるため」です。⁷

もう一組の夫婦は、信仰をもって家族の問題に取り組みました。ある忠実な姉妹からの手紙です。「伝道に出るといふ決心は難しくありませんでした。でも、97歳になる母は、わたしたちが行ってしまうことで非常に不安になっていました。それでも母は、わたしたちの伝道によって家族が祝福されると聞き、大いに慰められたのです。」ある忠実な兄弟も、年老いた両親を残して伝道に出ることを心配していました。両親にその思いを告げると、父親がこう答えました。「おまえたち夫婦が伝道に出ない言い訳に母さんとわたしを使わないでほしい。二人で祈って、御霊の導きに従いなさい。」

家族を残して伝道に出た初期の宣教師たちに、主は次のように確約しておられます。「彼らができるかぎりへりくだった心で……これを行うならば、主なるわたしは彼らに、わたしがその家族に必要なものを与えると約束をしよう。」⁸

確かに家族の問題は大切であり、軽んじるべきではありません。しかし、主の



祝福がなければ、家族の問題に対処することはできませんし、犠牲を払って専任の夫婦宣教師として奉仕するときに、必要な祝福が豊かに与えられるのです。例えば、ある夫婦は、教会から離れている末娘を残して伝道に出ることを心配していました。忠実な父親はこのように書いています。「娘のために絶えず祈り、定期的に断食してきました。すると、総大会の最中に、御霊がこうささやいたのです。『伝道に行けば、娘のことはもう心配しなくてもよくなるでしょう。』そこで監督と面接をしました。召しを受けた翌週、娘とボーイフレンドは婚約しました。アフリカにたつ前に、家で娘の結婚パーティーをしたとき、わたしは〔家族を集めて〕家族会議を開き、……主とジョセフ・スミスについて証しました。……そして一人一人に父親の祝福を授けたいと言いました。長男とその妻から始めて、家族の最も若い者まで祝福を受けました……〔その中には結婚したばかりの娘の夫もいました。〕」

夫婦で伝道に出ることを考えるとき、この夫婦のように家族を参加させることは良いことです。家族会議を通して、子供たちは両親を支援していることを伝えることができます。また、必要とする特別な助けを申し出たり、両親が不在の間に自分たちが力づけられるよう神権の祝福を受けたりすることもできます。必要な場合は、両親が子供から神権の祝福を受けることもできます。この手紙の忠実な父親が

家族一人一人に祝福を授けたことにより、娘の夫は聖霊の力を感じました。父親はこう記しています。「伝道1年目が終わるころには、〔娘の夫の〕心が教会に対して和らぎ始めました。そして帰還する少し前に夫婦で訪ねに来てくれたときは、スーツケースに彼が初めてそろえた教会用のスーツが入っていました。娘夫婦はわたしたちとともに教会に出席しました。そして、わたしたちが帰還してから、娘の夫はバプテスマを受けたのです。1年後、二人は神殿で結び固めを受けました。」⁹

この話にまつわる個々の出来事は特別かもしれませんが、原則は「主よ、み旨のまま行かん」¹⁰と行うすべての人に当てはまります。主を信頼するなら、適切な伝道の機会が与えられることを証します。主がおっしゃったように、「もしわたしに仕えようとする人があれば、その人を父は重んじて下さるであろう。」¹¹

伝道の機会について考えると、世界中の多くの夫婦は、奉仕への十分な願望を抱きながら、十分な資金に欠けています。そのような状況にあるなら、適切な伝道地は聞き慣れない名前の遠い国ではないかもしれません。ふさわしい召しは自分のステークや地域内で奉仕することかもしれません。「あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。」¹²親族や監督または支部長に相談してください。主の僕は皆さんの現状をよく理解してい

るので、皆さんは専任宣教師としての永遠の祝福を受けられることでしょう。

特別な事情があるために自ら伝道できなければ、伝道に出る人を資金面で援助することを考えてみてはどうでしょうか。資力に応じたできる限りの犠牲は、宣教師と彼らが仕える人々だけでなく、あなた自身と家族にも祝福をもたらすでしょう。

さて、若いときに伝道に出ることができなかった人に向けてお話しします。皆さんは宣教師として奉仕し成長する機会がなかったために、何年もの間、後悔にさいなまれ、あるいは自分は決して十分とは言えないと感じてきたかもしれません。過去でなく、未来を見るよう助言します。夫婦宣教師になる準備を今日始めましょう。毎月少しずつ貯金し、聖文を研究し、教会の召しを受け入れてください。周りの人々への主の愛を感じて、主から愛と信頼を受けられるように祈ってください。皆さんはいつの日か、伝道のすべての祝福を享受できるでしょう。

それは何とすばらしい祝福でしょうか。結婚51年目に、こう聞かれました。「いつごろの生活をもう一度したいですか。」わたしは躊躇せず^{ちゅうちよ}に答えました。「妻と二人で、主の伝道の業に携わったときの生活です。」別の夫婦も同じような思いを述べています。「伝道に出る決断は、新たな活力、新たな感動、新たな友人、新たな場所、新たな課題を与えてくれました。夫婦としていっそう親密になり、共通の目標を持った本物のパートナーになりました。何よりもすばらしいのは、霊的な引退生活に代えて、新たな霊的成長をもたらしてくれたことです。」兄弟姉妹の皆さん、霊的な引退生活に入らないようにしましょう。

ここで、世界中の監督と支部長の皆さんにお願いします。これから6か月の間に、すでに伝道を計画している人を除いて、各ユニットから少なくとも一組の夫婦宣教師を推薦するよう考えることは可能でしょうか。この課題を達成するうえで貴重な人材は、すでに伝道を経験したワードにいる熟年の会員です。わたしのワードでは靈感を受けた監督が、帰還した夫婦宣教師と将来の夫婦宣教師を対象にした、



特別な集会を開きました。わたしたちが犠牲と奉仕について証を述べると、伝道は確かに「[主の]恵みの豊かさを知る」¹³ 召しであると、御霊が皆に証しました。

また、あるステーキ会長は、夫婦宣教師クラスを作って、宣教師になれる夫婦を霊的に鼓舞し、伝道の備えを助けていると聞きます。神権指導者の皆さん、祈りを込めて専任宣教師としての伝道を奨励しようとするときに、このことを忘れないでください。伝道に召される夫婦は、世界中で主の業の達成を助けるだけでなく、何世代にもわたって花開く奉仕の種を自分の家族に植え付けるのです。わたしは今も、イギリスで夫婦宣教師として奉仕し、子孫に模範を示してくれた両親の影響に感謝しています。

将来の夫婦宣教師の皆さん、監督から伝道の面接に呼ばれるまで待つ必要はありません。自分から監督のところへ行ってください。気持ちを打ち明けてください。伝道に関しては、主はわたしたちに希望を述べるように期待しておられます。そうすれば、伝道に出るよう促してくれた御霊

が預言者に靈感を与え、わたしたちを正しい任地に召してくれると信頼することができるのです。

教会には実に多くの召しがあります。教会教育システムで、青少年を含め真理を知りたいと望む人を教える召しもあれば、福祉や人道支援活動、神殿、家族歴史センター、伝道本部、教会史跡などで働く召しもあります。「同胞^{ほらから}に最も大いなる善を行い、……あなたの主である者の栄光を増す」¹⁴ 召しです。

幾つか例を挙げましょう。インドに召された夫婦は、目の見えない子供たちが通う学校で衛生施設を建てる手伝いをし、また、彼らが点字のタイプライターを手に入れられるようにしました。ハワイで働く夫婦は、会員20人の小さな支部を200人にまで発展させ、70人の会員と一緒に神殿に参入できるように備えました。ペルーでは、孤児院にいる550人の子供たちのために、夫婦宣教師が薬やクリスマスのおもちゃを用意しました。カンボジアの夫婦は、インスティテュートで教え、支部で指導者として働きました。その支部の会

員数は、わずか10か月後には180人に増えました。ロシアで伝道した夫婦は、地元の農家を助けて、ジャガイモの収穫を国営農場の11倍にしました。フィリピンの夫婦は、質素な生活を送る約700家族にウサギの飼育と菜園の耕作方法を教え、ペンシルベニアの夫婦は、60人の家族歴史記録を助けました。その内の半分が別の宗派の会員でした。ガーナで伝道した夫婦は、井戸掘りや井戸の修理を助けて、近隣の村々や難民キャンプに住む19万人に水を供給しました。

それぞれの伝道が、人の目にこれほど目覚ましい結果を生むかどうかにかかわらず、主の目には、奉仕するすべての人が、計り知れない貢献をしているのです。皆「あわれみによって変化を生み出している」¹⁵ からです。夫婦宣教師は世界中の専任宣教師にとって、また神権指導者や補助組織の指導者にとって、素晴らしい手本であり、強さの模範です。今日紹介した夫婦をはじめ、様々な立場で、延べ数百万時間を同胞のために奉仕している何千人もの夫婦宣教師に、心から感謝し



ます。

兄弟姉妹の皆さん、この業に従事したいという思いを感じたら、その思いがどれほど静かなものであっても、奉仕する日を引き延ばさないでください。今こそ備えの時、召しを受ける時、犠牲を払う時、賜物や才能を分かち合う時、そして自分自身と家族のために神の祝福を受ける時です。ゴードン・B・ヒンクレー大管長が語ったように「もっと多くの夫婦宣教師が絶えず必要とされてい[る]」のです。¹⁶ この業が進めば進むほど、その必要は増すば

かりです。経験、成熟、知恵、そして何よりも信仰が最も円熟した年代にあるわたしたちが、わたしたちにしかできない方法でその必要を満たすために立ち上がりましょう。

とりわけわたしたちには、そうする特別な理由があります。今までの人生を振り返れば、自分自身と家族に対して、天の御父と御子イエス・キリストがどれだけ寛容であられたかが分かるはずですが。ある忠実な兄弟はこう説明しました。「わたしたち夫婦は5回伝道したいと希望してい

ます。神様から頂いた5人のすばらしい子供一人につき1回です。」個人的にどんな祝福を受けたかに関係なく、わたしたちは皆、何よりも大いなる祝福を頂いていることを証します。「神〔天の御父〕はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さい」¹⁷り、御子イエス・キリストは「御自分の命を捨てるほど、……世を愛しておられる」¹⁸からです。主の贖いの犠牲がその愛の究極の表現であることを特別に証します。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、犠牲と奉仕によって主の愛に報い、主の神聖な次の約束にあずかることは最もすばらしい特権です。「わたしの名のために、わたしの大義において自分の命を捨てる者は、再びそれを見いだすであろう。すなわち、永遠の命を見いだすであろう。」¹⁹ わたしたちがそうできるよう、イエス・キリストの御名により心から祈ります。アーメン。

注

1. 「夫婦宣教師——奉仕の時」『リアホナ』2001年7月号, 28
2. 『リアホナ』2001年7月号, 28参照
3. アルマ30:8
4. モーセ6:33
5. エテル12:12, 強調付加
6. モーサヤ8:18
7. 教義と聖約1:21, 23
8. 教義と聖約118:3
9. 教義と聖約31:1-2, 5
10. 「み旨のまま行かん」『賛美歌』172番
11. ヨハネ12:26
12. マタイ6:32; 3ニーファイ13:32
13. 「われらは天の王に」『賛美歌』157番〔英語〕から和訳
14. 教義と聖約81:4
15. 欽定訳ユダ1:22から和訳
16. 「教会の監督たちへ」『世界指導者訓練集会』2004年6月19日, 27
17. ヨハネ3:16
18. 2ニーファイ26:24
19. 教義と聖約98:13

最も際立った特性

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド

神の神権(は)、……神のまことの教会にとって独特で不可欠なもので(す)。



70年近く前、当時教会の副管長として働いていたデビッド・O・マッケイ大管長は、総大会に集っていた会衆にこう質問しました。「もし今[皆さん]一人一人が、末日聖徒イエス・キリスト教会の最も際立った特性を……一言で表すように言われたら、何と答えますか。」

マッケイ大管長はこう続けました。「わたしは、……直接の啓示による神の権威と答えます。」¹

その神の権威とは、もちろん聖なる神権のことです。

ゴードン・B・シンクレイ大管長は次のように証を付け加えました。「[神権とは]神の権威の委託であり、地上にあるほかのいかなる力や権威とも異なります。……死の幕の向こう側まで届く地球における唯一の力です。……神権がなければ名ばかりの教会になり、神の事柄を執行する権

威を持たない[教会]になります。」²

ちょうど4週間前、ジェームズ・E・ファウスト副管長はブリガム・ヤング大学のデイポーショナルで学生に向けてこう語りました。「[神権]は教会のあらゆる働きを動かし、管理します。神権の鍵と権威がなければ、教会もありません。」³

今晚、初めに3つの短い引用を紹介したのは(ほかにもたくさん追加できたと思います)、ある1点を強調するためです。それは、神の神権が、その鍵と儀式、神聖な起源、そして地上でつなぐことが何でも天でつながれる能力とともに、神のまことの教会にとって独特で不可欠なものであり、それがなければ末日聖徒イエス・キリスト教会は存在しないということです。

預言者ジョセフ・スミスの生誕200年と教会設立175周年を祝うこの記念すべき年に、わたしはこの聖なる神権の回復、この神聖な特権、この最高の賜物、そして幕の両側にいる人々の生活の中で神権が果たす役割について、証を添え、永遠の感謝を述べます。

この世と永遠を結ぶという神権のきわめて重要な働きは、救い主が地上での務めの間に御自身の教会を組織されたときに明らかにされました。主は先任使徒のペテロにこうおっしゃいました。「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。」⁴ 6日後、主はペテロ、ヤコブ、ヨハネを山の上に連れて行き、彼らの前で栄光のうちに変貌されました。そして、以前の神権時代の預言者

たち、少なくともモーセとエリヤ⁵が栄光とともに現れて、それぞれが持っていた様々な鍵と力を授けました。

残念なことに、この使徒たちはやがて殺されるか、そうでなければ地上から取り上げられました。そして彼らの神権の鍵も一緒に取り去られ、結果として、人類の間で1,400年以上も神権がない時代、神聖な権威のない時代が続きました。しかし、今晚わたしたちが祝う現代の奇跡と驚くべき歴史の一部は、以前の時代と同じ天の使者が現代に戻って来て、全人類を祝福するために彼らが持つ、以前と同じ力を回復したことなのです。

1829年5月、ジョセフ・スミスはモルモン書を翻訳している最中に、バプテスマに関する記述に行き当たりました。筆記者であったオリバー・カウドリとそのことについて話し合い、二人は熱心に神に祈りました。オリバーは次のように書き記しています。「わたしたちはバプテスマと聖なる御霊の祝福にあずかる方法を知るために、心を込めて力強い祈りをささげました。……また聖なる神権の権威とその神権により管理する力を熱烈に求めました。」⁶

その「力強い祈り」にこたえてバプテスマのヨハネが現れ、今晚この話を聞く若い男性に与えられているアロン神権の鍵と力を回復しました。数週間後、ペテロ、ヤコブ、ヨハネが、使徒の鍵を含むメルキゼデク神権の鍵と力を回復するために地上に戻って来ました。天の使者が訪れることのできる神殿が建つと、1836年4月3日に、かつて変貌の山で起きたことが現代にも起きたのです。以前シンクレイ大管長はそれを「カートランドの啓示の滝」と呼びました。救い主とモーセ、エリヤ、エライアスが栄光のうちに預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現れ、それぞれの神権時代の鍵と力を二人に授けました。この訪れの最後には、とどろき渡る次の宣言がなされました。「それゆえ、この神権時代の鍵はあなたがたの手にゆだねられている。」⁷

預言者ジョセフが簡潔で雄弁な信仰箇条に次の一条を入れたのもうなずけます。「わたしたちは、福音を宣べ伝え、その儀



式を執行するためには、人は預言によって、また権能を持つ者による^{あんじゆ}按手によって、神から召されなければならないと信じる。』⁸ 神の権能をもって行動するには、単なる社会契約以上のものが要求されるのは明らかです。それは宗教教育や会衆の委託によって生じるものではありません。神の承認された業においては、人が教会や街角や神学校で得た既存の力よりも大きな力がなくてはなりません。事実、宗教を求める多くの誠実な人々は、回復へと至った時代について知り、そのような時代があったことを公に認めています。

確かに、当時の少数の人々は、聖職者が特別な聖なる権威を主張することを好みませんでした。しかしほとんどの人は、神によって認可された神権を待ち望みながらも、どこに行けばそれを見いだせるのか分からずにいました。⁹ そのような状況の中で、啓示によりジョセフ・スミスを通して神権の権能が戻って来たことは、かの有名なチャールズ・ウェスリーが勇気をもって語った言葉に共感した人々の何世紀にもわたる苦悩を和らげたことでしょう。チャールズ以上に有名な兄のジョンが権威もないのに聖任するという決断をした

とき、宗教上の意見で対立したチャールズは、皮肉めいた手紙を書き送りました。

男や女の気まぐれで、
何とたやすく司祭が誕生することか。
ウェスリーがコークを聖任したなら、
だれがウェスリーを聖任したのだろうか。¹⁰

この挑戦的な質問の答えとして、回復されたイエス・キリストの教会では、ワードの新しい執事や彼を管理する監督、また教会全体を管理する預言者がそれぞれ行使する権能について、神権の系譜をたどることができます。その系譜は途切れることなく続き、この天からの比類ない賜物を携えて神の御子から遣わされた天使にまでさかのぼるのです。

わたしたちは教会として、また教会内の個人や家族として、どれほどその祝福を必要としているのでしょうか。一つの例を紹介します。

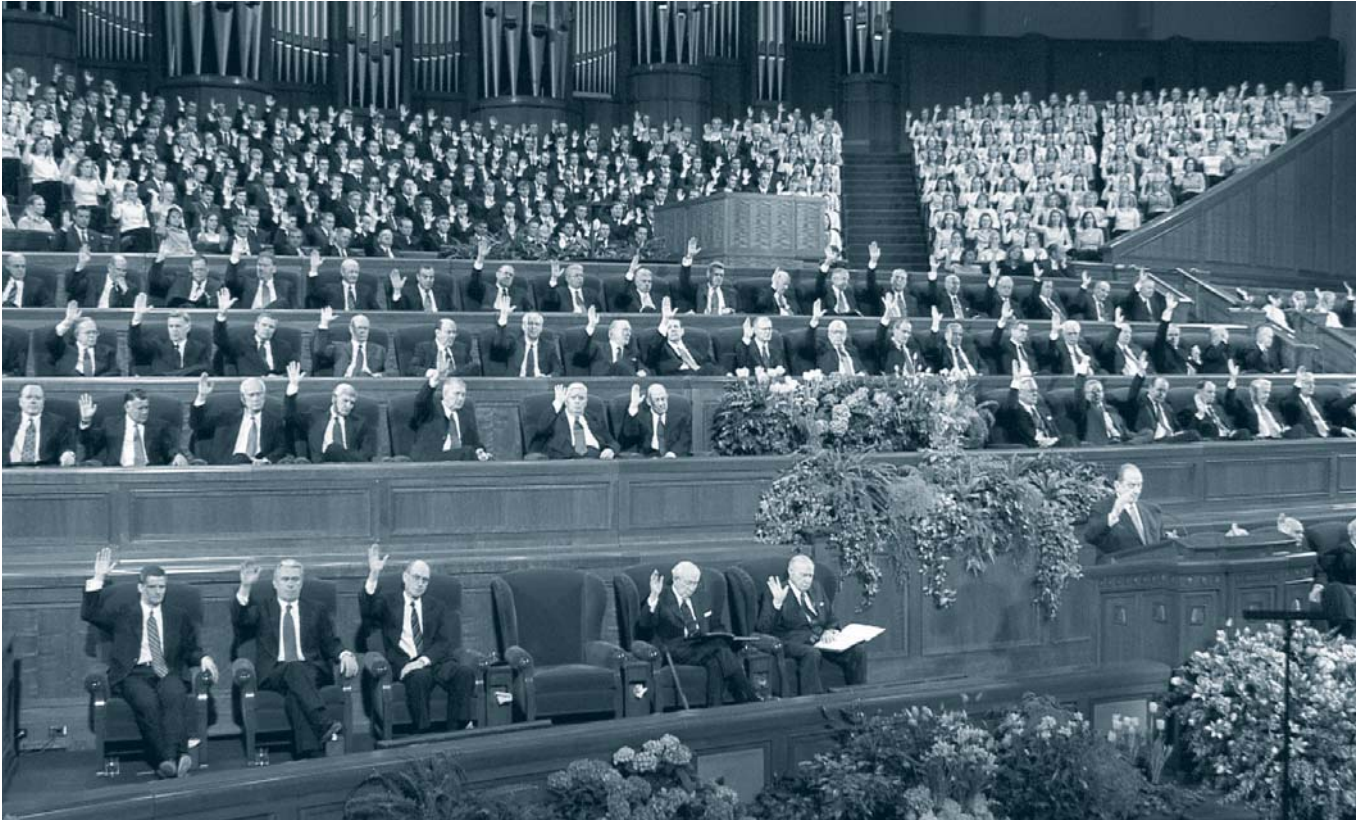
先ほど、教会歴史のカートランド時代の話をしました。1836年と1837年は、設立間もない教会にとって、財政的にも、政治的にも、教会の内部的にも、かつてないほどの困難に直面した年でした。その苦

難のさなかに、ジョセフ・スミスは驚くべき預言的な促しを受け、最も能力のある人々(最終的には十二使徒定員会全員)を外国に伝道に出したのです。それは、最終的に当時の教会を危機から救う、大胆で靈感あふれる手段でした。しかし当初は、聖徒にとって耐え難い重荷でした。それは伝道に行く人々にとってつらいことでしたが、残された人々にとっては、恐らくもつらい経験だったでしょう。

ロバート・B・トンプソン長老の言葉を引用します。

「長老たちがイギリスに出発する予定の日が来ました。わたしは〔ヒーバー・C・〕キンボール兄弟がいつ出発するのか確認しようと、彼の家〔立ち寄りました。〕これからカナダでの伝道を始めるに当たって、キンボール兄弟と2,300マイル旅を共にしようと思ったからです。

ドアが少し開いていたので中に入ると、目の前の光景に驚きました。じゃまをしているような気がして遠慮しようかと思いましたが、その場所に釘付けになって動けませんでした。父親は神に思いを打ち明け、〔懇願して〕言いました。『スズメを気かけ、鳴き声を上げるヒナを養ってくださる神様、わたしが留守の間、妻と幼い子供たちの必要を満たしてください。』それからキンボール兄弟は、族長のように、自分の職の権能により家族一人一人の頭の上に手を置いて父親の祝福を残し、……自分が外国で福音を宣べ伝えている間、家族を神の御手にゆだねたのです。〔祝福を〕授けている間、キンボール兄弟の声は、周りを取り囲んだ子供たちのすすり泣く声にかき消されました。彼らは〔幼いながらに強くなろうとしていましたが、非常に難しいことでした。〕……キンボール兄弟は言葉を続けましたが、彼も胸がいっぱいで、いつものように語ることはできませんでした。……何度か言葉を詰まらせ、……大粒の涙が頬をぬらしました。それは彼の心の内を表していました。わたしも涙をこらえることができませんでした。」トンプソン兄弟はこう述べています。「思わずわたしも涙を流し、ともに泣きました。それと同時に、



このような状況に立ち会う特権が与えられたことに感謝しました。』¹¹

このような情景は、末日聖徒イエス・キリスト教会の中で、形を変えて何千回も繰り返されてきました。恐怖、窮乏、召し、危険、病気、事故、死。わたしはそのような瞬間に立ち会ってきました。わたし自身についても、家庭の中でも責任を果たすうえでも、神の力が現れるのを見てきました。また悪が叱責され、自然の力が制御されるのを見てきました。わたしは困難という山を動かし、不吉という紅海を分けるとはどういうことか知っています。また滅ぼす天使が「過ぎ越」す¹²ことが何を意味するか知っています。「神の御子の位に従う聖なる神権」の権能を受け¹³、その力を行使してきたことは、わたしと家族にとって、この世で望むことのできる最高の祝福です。結局、これが日々の生活における神権の意味なのです。神権には祝福を与える、無上で、永久で、普遍の能力があるのです。

そのような祝福への感謝の念を胸に、わたしはこの記念すべき年に皆さんや生者と死者の聖歌隊とともに「たたえよ、……主と語りし予言者を」¹⁴と歌います。ジョセフ・

スミスはアダム、ガブリエル、モーセ、そしてモロナイ、エリヤ、エライアス、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、バプテスマのヨハネ、そしてほかの多くの人々と語りました。¹⁵ まことに「主の召したまいし」¹⁶ 預言者、聖見者なのです。若人も老人も、少年も成人も、父親も息子も、ジョセフ・スミスを通して回復された神権と、その鍵と儀式を大切にしましょう。神の力は神権の鍵と儀式によってのみ現れ、それなしには現れないのです。¹⁷ 神権が回復されたことを、またいつの時代にも、それが神のまことの教会において不可欠で「際立った特性」であることを、神権の源である御方、主イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

1. Conference Report, 1937年4月, 121
2. "Priesthood Restoration," *Ensign*, 1988年10月号, 71
3. "Where Is the Church?" ディボーションナルでの説教, プリガム・ヤング大学, 2005年3月1日, 8
4. マタイ16:19
5. マタイ17:1-3

6. リチャード・ロイド・アンダーソン, "The Second Witness of Priesthood Restoration," *Improvement Era*, 1968年9月号, 20で引用, 強調付加

7. 教義と聖約110:16:1-15節も参照
8. 信仰箇条1:5, 強調付加
9. 回復の時代のアメリカにおける、神権に関する問題の徹底検証は、デビッド・F・ホランド, "Priest, Pastor, Power" *Insight*, 1977年秋号, 15-22を参照
10. C・ビューフォート・モス, *The Divisions of Christendom: A Retrospect*, (日付なし)22で引用

11. オーソン・F・ホイットニー, *Life of Heber C. Kimball* (1945年), 108-109で引用

12. 教義と聖約89:21

13. 教義と聖約107:1-3参照

14. 『賛美歌』16番

15. ジョセフ・スミスは幕の向こう側にいる多くの預言者や使者と語り合った。そのうちの数人だけが聖典に挙げられている。教義と聖約128:20-21参照。

16. 『賛美歌』16番

17. 教義と聖約84:19-21参照

笑顔の裏に隠れた悪を警戒しなさい

七十人
ニール・L・アンダーセン

救い主への理解と愛が深まるにつれて、主の光は周囲のすべてを照らすようになります。やがて、悪の正体がよく見えてきます。



今 晩わたしは、ゴードン・B・シンクレイ大管長が「最も優れた世代」¹と呼んだ若い男性の皆さんにお話しします。世界中で皆さんの徳を目にしています。皆さんは善を行おうと努力している神の息子です。どうぞ、わたしの話を自分自身に向けられた話として受け止めてください。

忠実な末日聖徒である親友の経験を紹介いたします。ここでは「友人」と呼ぶことにします。理由は分かってもらえることでしょう。

FBIの特別捜査官として働いていた友人は、合衆国に違法な薬物を密輸入している犯罪組織を捜査していました。

あるとき、もう一人の捜査官とともにあるアパートに近づきました。麻薬密売人

がコカインを売っているところだと考えたのです。友人はそこで起こったことをこう説明しました。

「売人がいる部屋のドアをノックしました。ドアを開けた容疑者は、わたしたちを見るなり、視界を遮ろうとしました。しかし手遅れでした。テーブルのコカインが見えていたのです。

テーブルに着いていた男女がすぐさまコカインを片付け始めました。証拠隠滅を阻止しなければなりませんから、わたしはドアに立ちただかっていた容疑者を即座にわきへ押しのけました。押しのけるときに男と目が合いました。奇妙なことに、その目には怒りも恐れもなく、男はわたしに向かってほほえんでいたのです。

そのままざしと無邪気なほほえみから、危険はないと判断したわたしは、その男にはかかわらずにテーブルに向かいました。容疑者に背中を見せたのです。その瞬間、次の警告が強烈な印象として心にわき上がりました。『笑顔の裏に隠れた悪を警戒しなさい。』

即座に容疑者を振り返りました。手を大きな前ポケットに突っ込んでいます。わたしは本能的にその手をつかんでポケットから引き抜きました。その手には、セミオートマチックのピストルが、いつでも撃てる用意をして、しっかりと握られています。もみ合いになり、武器を取り上げました。』²

後にこの密売人はほかの事件で殺人罪

が確定しました。そして、もしわたしの友人があたのとき振り向かなかったなら、殺していただろうと豪語したそうです。

わたしは、友人の心に浮かんだ「笑顔の裏に隠れた悪を警戒しなさい」という警告についてよく考えます。今晚皆さんに話したいのは、そのことです。

まず知っていることを確認しましょう。善は神から来ます。悪は悪魔から来ます。³しかし、この二つの力は、宇宙の中で競い合う同等の力ではありません。善の頂点にあるのは、キリスト、すなわち、御父の独り子であり、この世界をはじめ多くの世界を造られた御方です。贖い主は、復活された御方であり、完全な御方です。⁴わたしはこの御方が生きておられることを知っています。

その一方で悪魔は、「悪を行うよう……にと人に説き勧め」⁵ます。「彼は天から落ちて、とこしえに惨めな状態になった」⁶ので、「すべての人が自分のように惨めになる」⁷ように、あらゆることをしています。悪魔は偽り者であり、敗者なのです。⁸

救い主の力と悪魔の力とは、まったく比べものになりません。それはまるで、地上最強の軍隊と、保育園で駆け回る、水鉄砲を握り締めた2歳児の集団を比較するようなものです。⁹

しかしながら、この地上では悪が影響力を持つことを許されています。そのため、人には善と悪から選ぶ機会が与えられているのです。聖文にはこうあります。「神は思いのままに行動することを人に許された。しかし人は、一方に誘われるか他方に誘われるかでなければ、思いのままに行動することはできなかった。」¹⁰

善と悪のどちらかを選ぶという行為は、地上での経験の中心を成します。最後に人生を振り返るとき、どれだけ裕福だったとか、運動が得意だったとか、友達が多かったとか、影が薄かったとかは、大した問題になりません。

働き、勉強し、笑い、楽しみ、踊り、歌う。この世では様々な経験ができます。全部素晴らしい経験ですが、生きる理由の根幹ではないのです。¹¹ 悪を退け善を選ぶことこそ、この世に生まれた理由です。¹²



「悪を選びたい」などという人はいないでしょう。皆、善を選びたいのです。しかし、悪よりも善を選ぶのは、必ずしも容易ではありません。笑顔の裏に悪が隠れていることが多いからです。次の警告を聞いてください。

「あなたがたは悪いものを神から出たと思わないように……気をつけなさい。」¹³

「誘惑に陥らないように、常に目を覚ましていて祈らなければならない。サタンはあなたがたを〔得る〕ことを願っているからである。」¹⁴

「サタン〔は〕あなたがたを打ち破るために、あなたがたを欺こうと努めてきた。」¹⁵

どれも「笑顔の裏に隠れた悪を警戒しなさい」と言っているのです。

最初は救い主に忠実でいようと心から思っていたのに、途中で道をそれてしまった若者を何人か知っています。一見安全そうなものの裏に隠れた悪に注意していなかったのです。娯楽や楽しみ、人気にばかり目が向き、それがもたらす結果には目をつぶっていたのです。

では、どうすれば安全そうなものの裏に隠れた悪を見抜けるでしょうか。

すでに答えを知っているでしょうが、幾

つか例を挙げましょう。

まず、両親と話をしましょう。画期的なアイデアだとは思いませんか。わたしたち父親はとても完全とは言えませんが、皆さんを愛していますし、母親と一緒に、皆さんに善を選んでほしいと強く望んでいます。

次に、預言者に従ってください。わたしたちが支持する15人の預言者、聖見者、啓示者は、人の目には時々見えないものを見る力を神から与えられています。ヒンクレイ大管長は、笑顔の裏に隠れた悪について簡潔で具体的な勧告を与えています。¹⁶ さらに、『若人の強さのために』は、靈感された指針が載っています。¹⁷ 主は、ヒンクレイ大管長の勧告に従う人に、「あなたがたの前から闇の力を追い払〔う〕」¹⁸ と約束してくださっています。笑顔の裏に隠れた悪を見抜き、誘惑から離れることができます。

非常に大切なのは、聖霊の導きを受けることです。義になつた生活をすれば、静かな細い声が思いと心に語りかけるようになりますと主は約束しておられます。¹⁹ 皆さんはそれを感じたことがあります。御霊みたまの声を知っています。²⁰

聖霊たまものの賜物は霊的な賜物です。この賜物はデリケートで、ふさわしくないところにはとどまりません。御霊に背いたり無視したりした翌日に、その力を期待することはできません。しかし、御霊のささやきを聞き、義にとどまっていれば、御霊は皆さんの大きな力となるでしょう。わたしの友人を肉体的な危険から救った聖霊は、皆さんを霊的な危険から救ってくださるでしょう。

最後に、救い主に対する自分の証あかしを得てください。熱心に祈ってください。だれも見えていないときにモルモン書を読んでください。独りになって、イエスはどのような御方なのか、イエスの生涯と犠牲は自分にとってどれほど重要かを考えてください。

ジョセフ・スミスの模範を思い出してください。ジョセフは夜、自分の意志で、ろうそくをともして聖書を読みました。ジョセフは独りで森に入り、祈りました。²¹

救い主への理解と愛が深まるにつれて、主の光は周囲のすべてを照らすようになります。やがて、悪の正体がよく見えてきます。²²

イエス・キリストが救い主であられることを知っています。主の偉大さと栄光、主

の尊厳と威光は言葉で表すことができません。主は御父とともに預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は現代の神の預言者です。兄弟の皆さん、わたしたちは主の聖なる神権を持っています。ふさわしく生活すれば、祝福されて笑顔の裏に隠れた悪を見破ることができるようになります。このことを、イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

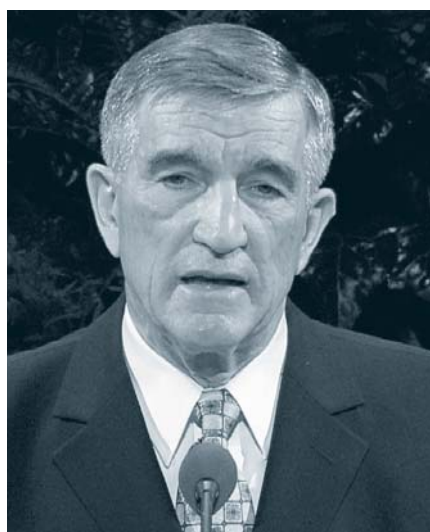
1. 「選ばれた種族」『聖徒の道』1992年7月号、74
2. 私信、2005年3月7日付
3. モロナイ7:12参照
4. ルカ24:36-39;ヨハネ1:14;3ニ-ファイ12:48;教義と聖約76:23-24参照
5. モロナイ7:17
6. 2ニ-ファイ2:18
7. 2ニ-ファイ2:27
8. 教義と聖約93:25参照。『聖句ガイド』「悪魔」の項、10-11も参照
9. モーセ1:1-22参照
10. 2ニ-ファイ2:16
11. ゴードン・B・ヒンクレー「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、30;「改宗者と若い男性について」『聖徒の道』1997年7月号、56;「いつか結婚する女性にふさわしく生活する」『聖徒の道』1998年7月号、56
12. 2ニ-ファイ2:27参照
13. モロナイ7:14参照
14. 3ニ-ファイ18:18
15. 教義と聖約50:3
16. 『リアホナ』2001年4月号、30参照
17. www.lds.org 参照,
“Serving in the Church,” “Aaronic Priesthood/Young Men,” “For the Strength of Youth” をクリック
18. 教義と聖約21:6
19. 教義と聖約8:2参照
20. 教義と聖約18:36参照
21. ジョセフ・スミス—歴史1:11-20参照
22. モーセ1:1-22参照

主の方には

七十人会長会

ロバート・C・オークス

主は、だれが信頼できるかをお知りになる必要があります。



今 晩わたしは、主に仕えるよう呼びかけるなじみ深い賛美歌についてお話したいと思います。「主の方には誰が立つや恐れず聞かん 時は至る」(『賛美歌』165番)。

この時満ちる神権時代は、キリストの再臨を待ち設けながら、悪との最後の戦いに備える時期であり、そのため、だれが主の側にいるのかを知ることは大変重要なのです。主は、だれが信頼できるかをお知りになる必要があります。

神権者の皆さんは、主の軍勢の一員としてふさわしくありたいと願っていることでしょう。現在、教会の中には、300万人の神権者がいて、アロン神権者と、メルキゼデク神権者の割合は半分ずつです。

残念ながら、年齢に関係なく、あまりにも多くの男性が、無断で外出する兵士のように、姿を消しています。

かつて、彼らも神妙な面持ちでいすに

腰かけ、権能を受けた人から頭に手を置かれ、神権を授けられたのです。その日、彼らは一様に、従順と奉仕の聖約を主と交わしました。

この聖約の重要性を理解するためには、「神権とは何か」と自問する必要があります。注意深い執事ならだれでもその答えを知っています。神権とは神の御名において行動する力です。

これは、執事、教師、祭司の皆さんにどう当てはまるでしょう。まず聖餐をパスし、準備し、祝福する権能があるということです。非常に重要なことではありませんか。

現在記録に残っている中で、最初に聖餐式を管理されたのはだれでしょうか。もちそん、それは主イエス・キリストです。その晩キリストは、ゲツセマネの園で苦しみを受ける前に、聖餐を準備し、祝福し、弟子たちに配られました。ですから、この聖なる儀式を行う人は、実は救い主御自身の代理を務めているのです。何と特別なことでしょう。

バプテスマのヨハネは、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリの頭に手を置いてアロン神権を授け、こう宣言しました。「……わたしはアロンの神権を授ける。これは天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の救済のために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。」(教義と聖約13:1) これは幾つになっても、重要な責任です。この責任を受けている人は、明らかに主の側にいます。

メルキゼデク神権の場合はどうでしょう。教義と聖約第84章にはこのように書かれています。「また、この大神権は福音をつかさどり、王国の奥義の鍵、すなわ



メキシコで、神権部会のために集会所に集った父親と息子たち。

ち神の知識の鍵を持つ。」(19節) この神権には、管理し、導き、祝福し、癒し、教え、結び固める力があります。奉仕の業に携わる兄弟たちは、明らかに主の側にいて神権を行使しているのです。

神権の結び固めの力を行使した人物として最も偉大な例の一つに、ヒラマンの息子であるニーファイの物語があります。神の御言葉を熱心に説いたニーファイに、主は結び固めの力を授けられました。それは「あなたが地上で結ぶことは何でも天で結ばれ、あなたが地上で解くことは何でも天で解かれる」という力です(ヒラマン10:7) ニーファイは、どの神権時代を生きたとしても、主の軍勢の力強い指導者であったことでしょう。

天の御父は、人を何と信頼しておられることでしょう。御自分の力の一部を人に分け与え、地を満たして転がり進む壮大な業の担い手になれるようにしてください。

神権の権能を授ける方法は、非常に注意深く教えられています。12歳になった

とき、父のチャールズ・オークスと当時監督だったジョージ・コラードは、わたしの頭に手を置いて、アロン神権を授け、執事の職に聖任しました。

何年後に、ゴードン・B・ヒンクレー長老が、この、天から指示された同じ方法に従って、わたしを七十人の職に聖任しました。どの聖任も神から信頼されていることの表れであり、主の側に立って奉仕する新たな機会なのです。

軍隊が組織されると、通常戦いは広大な戦場で繰り広げられますが、この霊の戦いはまったく異なります。霊の戦いは日々、個人の心の中で繰り広げられ、主の軍勢は貪欲、利己心、肉欲といったサタンの力に立ち向かいます。

ヒラマンが率いた2,060人のたくましい若い戦士たちが肩を並べている絵は、この軍勢には非常に堅固な肉体が必要だったことを表しています。しかし、勇敢な心さえあればだれでも、この戦いに参加できるのです。

11歳の孫のアンドリューは、車いすの

生活を余儀なくされています。恐らく、一生この状態は続くでしょう。アンドリューは今年の秋、執事に聖任されて、主の神権の軍勢に加わるでしょう。彼の肉体的な障害は、この戦いでは問題になりません。なぜなら、選択という混沌とした戦場で使う武器は、槍や剣ではないからです。

主の武具として不変の価値を持つものは、真理、正義、信仰、祈り、そして神の御言葉です(エペソ6:13-18参照)。これらの武器を操るのは、わたしたちの思いと言葉と行いです。一つ一つの義にかなった思い、言葉、行いが、主にとって勝利となるのです。

ですからこの戦いでアンドリューに不利な点はありません。両親からよく教えを受けてきたアンドリューは、神権者に仲間入りする準備ができています。

この戦いの報酬は非常に高価です。その賞とは、まさに神の息子娘としての霊、つまり、永遠の救いです。このような霊を得るか失うかは、徳高く清らかであるかどうかにかかっています。慈愛と奉仕、



信仰と希望があるかどうかにか懸かっているのです。

アンドリューは執事に召され、ワードの執事定員会に入ります。そこでは、聖餐のパスと断食献金を集めることを学びます。まさに互いを思いやるために、神権定員会が存在するわけですから、定員会はアンドリューを大切にしてくれることでしょう。主の神権の軍勢は、まさにそのようにして、定員会に組織されるのです。

わたしは人生の大半を合衆国空軍のパイロットとして過ごしました。わたしが属していた飛行中隊の隊員たちは、40年過ぎた今でも固いきずなで結ばれています。

空軍パイロットとして受けた訓練の基本中の基本は、同じ任務についている仲間の飛行機を守ることでした。彼の背後に敵機が近づいて来ないか、常に後方をチェックするのです。

飛行戦隊のほかのパイロットを守ることが大切だとするならば、主の側に確固として立つために、定員会の会員が互いに離れず、守り合うことも大切なはずです。だれか群れから迷い出たら、出て行って熱心に探し出すのです。

主の側に確固として立つことは、^{こんにち}今日では特に価値があります。今は終わりの時であることを、預言者はいつも指摘して

います。わたしたちは、時のしるしによって最後がそこまで来ていることを知っています。サタンもそのことを知っています。サタンとその軍勢は、休むことを知らないようです。

世界神権指導者訓練集会で、ヒンクレー大管長は世の中の不道徳な状態についてこのように述べています。「ソドムとゴモラの時代がはたして現在よりも悲惨だったかどうか、わたしには分かりません。」

続けてこのように言っています。「これら二つの都市とそこに住む邪悪な民は滅ぼされてしまいました。今日、似たような状況が見られ、全世界に^{まんえん}蔓延しています。天の御父は御自身の息子や娘が道をそれていくのを天から御覧になり、悲しんでおられることでしょう。」「力強く確固として立つ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日、20)

この先預言者は、このような警告をどれほど言い続けなければならないのでしょうか。

ダリン・H・オークス長老は、最近の総大会で、こう言いました。「再臨のしるしは周囲の至る所に見られ、その頻度と激しさは増しているように思われます。……わたしたちは再臨の事実を変えることも、その正確な時を知ることもできません。しかし、自らの備えを進め、周りの人々が備えるうえで影響を与えることはできます。再

臨の時に起こると預言されている事柄に対して物質的および霊的な備えをする必要があります。」「(「再臨への備え」『リアホナ』2004年5月号、7-9)

この警告はカリブ海地域を襲った未曾有のハリケーン災害や、東アジアの津波被害が発生するかなり前に発せられていました。

「主の方には」という賛美歌の中に、「時は至る」つまり「今こそ、その時である」という言葉があります。司令官モロナイのように、信仰と福音の原則にしっかり根ざす時が来ています。今こそ、執事、教師、祭司、監督、長老、七十人、大祭司、祝福師が必要です。今こそ、主イエス・キリストの^{あがた}贖いの犠牲に感謝を示す時です。今こそ、純潔の律法、^{じゅうぶん}什分の一、知恵の言葉、安息日^{きよ}を聖く保つという、基本的な戒めを従順に守ることによって、信仰を示す時です。

今こそ、福音のメッセージを紹介することによって、隣人に警告する時です。今こそ、身だしなみと慎みの模範、徳と清らかさの模範を世に示す時です。人を墮落させ破壊するポルノグラフィの汚れた泥におぼれて、神権の力を台なしにしてはなりません。

今こそ、バプテスマの水をくぐり主と交わした聖約を顧みる時です。今こそ、主の神権の誓詞と聖約を受けたときに交わした聖約を顧みる時です。今こそ、聖なる神殿で交わした聖約を顧みる時です。

今こそ、主の側にいることを示す時です。

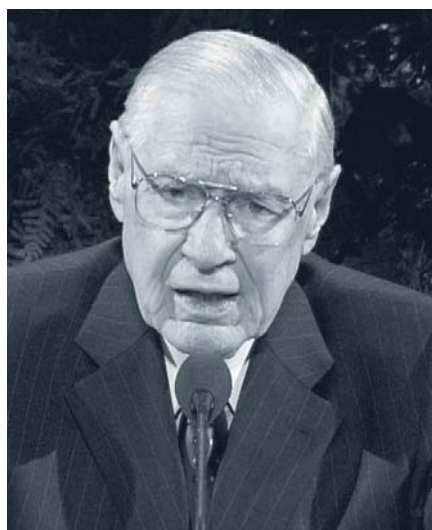
兄弟の皆さん、この業は主の業です。イエス・キリストの福音は、預言者ジョセフ・スミスを通して、この末日に完全に回復されました。キリストはこの教会の^{かしら}頭として、生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレーを通して教会を導いておられます。キリストは、地上を治めるために将来再びおいでになり、わたしたちはいつの日か、各々主の^{みまえ}御前に立って、思いと行いと心の望みに応じて裁きを受けるのです。キリストはわたしたちの救い主であり、贖い主です。このことを主の聖なる御名によって証します。アーメン。

粘り強く努力する

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

粘り強い努力とは、難しい状況に直面し、他人から「無理だ」と言われてもあきらめないことです。



今日^{きょう}日七十人第一定員会と第二定員会の会員に召された兄弟たちを歓迎します。彼らは信仰と能力と固い決意を備えており、あらゆる側面から見て、その職を果たすうえでふさわしい人たちです。

愛する兄弟の皆さん、世界各地で神権者として忠実にまた献身的に主の業に携わっている皆さんに敬意を表します。皆さんの熱心な働きと奉仕に感謝しています。教会にとって皆さんは大いなる力です。

この集会にアロン神権を持つ兄弟たちと集えることをうれしく思います。皆さんの年代だったころ、わたしはよく、「この世でどのような働きができるのだろうか。どうしたらそれが分かるのだろうか」と考えました。当時の唯一の明確な目標は伝道に出ることでした。召しが来ると、わたしは一心に働きました。そして伝道の経験

は北極星のように、その後の人生を導いてくれたのです。大切な教訓の一つは、教会の召しを最後まで忠実に果たすなら、主は道を開き、考えてもみなかった機会や祝福を与えてくださるということでした。

若い男性の皆さんは、伝道に出ることによってこの祝福を得ることができます。最近ある青年から、宣教師の召しを全うすることによってどれほど多くを学んだか聞きました。この青年の経験から、皆さんが学ぶことのできる事柄を幾つか紹介します。これらは機会と祝福をもたらしてくれるものです。

1. 時間を賢く管理し、使う方法
2. 熱心に働くことの大切さ、つまり正しいものを刈り取ること
3. 指導力
4. 人との接し方
5. 福音を研究することの価値
6. 権威を尊重すること
7. 祈りの大切さ
8. へりくだり、主に頼ること¹

1930年代にソルトレーク・シティーのグラナイト高校に通っていたころ、運動、演劇、音楽、演説の分野で秀でている友達が何人かいました。そのまま人生で成功を取めた人もいましたが、ほとんどは才能や能力に恵まれていながら粘り強く努力し続けなかったため、その能力を生かし切れませんでした。これとは対照的に、同じ学校でそれほど目立たなかったものの、熱心に粘り強く努力し、勉学に励んだ人たちは、優れた医師、エンジニア、教育者、法律家、科学者、実業家、職人、電気技術者、配管工、起業家となりました。

一般的に、成功を取めるには粘り強く努力して、問題にぶつかっても落胆しないことが大切です。ニュース解説者、著述家として有名なポール・ハービーはあるときこう言いました。「いつの日かわたしが世に言う成功者になって、『成功の秘訣は何ですか』と尋ねられたら、簡単にこう答えるたいものです。『転んだら起き上がることです。』²

粘り強い努力についてすばらしい模範を示した人物に、マリー・キュリー夫人がいます。キュリー夫人はフランス人物理学者である夫のピエール・キュリーとともに「資金も、外部からの励ましも援助もなく、雨漏りのする古いあばら家で、瀝青ウラン鉱と呼ばれた品質の悪いウランウム鉱石からラジウムを分離させる研究を続けていました。そして487回目の実験が失敗したとき、ピエールは絶望して言いました。『これは無理だ。きっと100年はかかる。ぼくが生きている間はできないよ。』するとマリーはひるむ様子もなく言いました。『もし100年かかるとしたら、それは残念なことだけど、でもわたしは生きているかぎり何度でも続けます。』³ キュリー夫人はついに実験を成功させました。彼女の粘り強い努力によって、癌患者はその恩恵に浴しています。

粘り強い努力とは、難しい状況に直面し、他人から「無理だ」と言われてもあきらめないことです。1864年、大管長会は、使徒であるエズラ・T・ベンソンとロレンゾ・スノーの二人に、アルマ・スミス、ウィリアム・W・クラフ両長老とともにハワイ諸島へ伝道に赴くよう指示しました。一行はホノルルから小さな船に乗り換えてライナの小さな港へ向かいました。ところが浅瀬に近づいたときに波が高くなり、船は大波に襲われて45メートル以上持ち上げられ、波間へ落とされました。そして第2の波がやって来たとき、船は泡立つ海に転覆したのです。

岸にいた人たちは救命ボートを出し、沈みかけた船の近くで泳いでいた3人の兄弟を引き上げましたが、スノー兄弟の姿が見当たりませんでした。このような状況を何度も経験している現地の人たちは、辺



り一帯を泳いでスノー兄弟を探しました。すると、ついに一人が水中で何かに触れたのを感じ、スノー兄弟を海面まで引き上げました。体は硬直し、ボートに引き上げるときは死んでいるようでした。

スミス長老とクラフ長老はひびぎにスノー兄弟を乗せると、静かに癒しの儀式を施し、彼が助かり、無事に家族のもとへ帰れるよう主に願い求めました。岸に着くと、大きな空たるが置かれている浜辺にスノー兄弟を運びました。そしてたの上のうつ伏せにすると、体を前後に揺らして海水を吐き出させようとした。

長老たちはしばらく続けましたが、息を吹き返す様子はありませんでした。見守っていた人たちは、これ以上努力しても無駄だと言いました。しかし、固い意思を持った長老たちはあきらめませんでした。そして主が祈りを聞き届けてくださるという静かな確信とともに再び祈ったのです。

そして長老たちは、当時としては珍しい行動に出ます。スノー兄弟の肺を膨張させるために口移しによる人工呼吸を試みたのです。自然な呼吸ができるまで、空気を吹き入れては吸い出しました。二人はこれを交代で、スノー兄弟の肺が膨らむまで粘り強く行いました。しばらくすると、命が戻って来るかすかな兆しを感

じました。「それまでは死人のように開いたままだったまぶたがかすかにまばたき、さらにどの奥が静かに音を立てたのが蘇生への最初の兆しでした。兆候は次第に大きくなり、はっきりしてきて、その後に意識を完全に回復したのです。」彼らの粘り強い努力と憐れみ深い神の恵みによって、主の僕は4人全員が生き残り、使命を全うしました。⁴

スノー長老はその後大管長になり、その在任中、会員に什分の一とささげ物をささげるよう強く求めることにより、教会の財政を安定させました。

さらに言うと、この物語に登場したアルマ・スミスは、ハウズミルの虐殺のときに銃で撃たれ、股間接の辺りを吹き飛ばされたあの少年でした。アルマの母親は、重傷を負った患部に軟膏を塗って手当てをしました。そして靈感に従い、5週間うつ伏せにしたまま寝かせておきました。すると関節の失われた箇所軟骨が出てきたのです。こうしてアルマは通常の生活を送れるようになっただけでなく、ハワイで伝道し、教会のために生涯をささげることができました。⁵

末日の預言者は皆、神権と祈りと働きを通して確固とした決意を示してきました。ジョセフ・スミスは粘り強く努力することによって万物の回復を実現しました。最

初の示現について当時の有力な宗派の説教者に打ち明けた瞬間から、ジョセフは軽蔑とあざけりの生涯を送ることになります。けれども、ジョセフは決してくじけることなく、揺るぎない証を残しました。

「わたしは実際に光を見た。その光の中に二人の御方を見た。そして、その方々が実際にわたしに語りかけられたのである。たとえ示現を見たと言ったことで憎まれ、迫害されたとしても、それは真実であった。……わたしは示現を見た。わたしはそれを知っていた。神がそれを御存じであるのを、わたしは知っていた。わたしはそれを否定できず、またそうする勇気もなかった。」⁶

ブリガム・ヤングの生涯は堅忍不拔の優れた模範でした。常に忠実であり、固い決意を持っていました。ジョセフ・スミスの死後、ブリガム・ヤングは住み慣れた家と実り豊かな土地を後にして、6万の人々を不毛の地へ導いて行くことを固く決意していました。現代史の中でこれに匹敵する大移動はありません。人々は荷車で、徒歩で、そして手車を引いてやって来ました。そして砂漠に花を咲かせたのです。

1995年、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、教会の大管長として初めて報道機関に紹介されたとき、どのような事柄に焦点を当てるつもりかと尋ねられました。大管長はこう答えました。「『続け、励め、進め』です。わたしたち大管長会の目指すところは、前任者たちが築いてきた偉大な業を推し進めることです。これはわたしたち全員にとっても大いなる目標です。続けて、励み、進んで、最後まで堪えぬ必要があります。

ヒンクレー大管長が現在の職に就いてから成し遂げてきた偉大な事柄の一つは、並々ならぬ粘り強い努力による神殿建設です。教会の大管長に就任して以来、87の神殿が奉獻、再奉獻、または建設を発表されてきました。神殿建設におけるこの偉業は、世界の歴史に並び立つものがありません。神殿には人を善に向かわせる大きな力があり、世に多くの祝福をもたらしています。ジョージ・Q・キャノン副管長が語ったように、「神殿建設のために

礎石が置かれるとき、また主が御自身の聖なる神権者に啓示された秩序に従って神殿が完成するときにはいつも、地上のサタンの力は弱まり、神と神を敬う人々の力が増[します。] また、わたしたちのために神の力によって諸天が揺れ動き、永遠の神と神の御前に住む諸天使の祝福がわたしたちのうえにもたらされる」のです。⁸

わたしたちは命のあるかぎり、神権の召しを忠実にまた勤勉に果たさなければなりません。「いつまでホームティーチャーとして働けばいいのだろう」と考える人もいます。ホームティーチングは神権の召しである、というのがその答えです。ホームティーチャーの召しは、監督や神権指導者ができると判断するかぎり、特権として与えられます。ジョージ・L・ネルソン兄弟を知っている人もいるでしょう。ソルトレーク・シティの著名な弁護士であり、監督、ステーク会長、祝福師を務めた人です。ネルソン兄弟は教会に対して完全に献身し、100歳になってもホームティーチャーとして働きました。彼は当時こう言いました。「わたしはホームティーチャーとして働くのが好きです。いつまでもホームティーチャーでいたいと願っています。」⁹ ネルソン兄弟は101歳で亡くなりました。最後まで忠実でした。

バプテスマを受けて教会に入りたいと願う人は「最後までイエス・キリストに仕える決心を」¹⁰ するよう主から求められています。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は94歳のときにこう語りました。「わたしはこれまでずっと神権を尊んで大いなるものとするために励んできました。そしてこの世で最後まで堪え忍び、次の世で忠実な聖徒たちと交わることを願ってきました。」¹¹ 主がおっしゃったように、もし主の弟子になりたいと思うなら、主の御言葉のうちにとどまっていなければなりません。¹² 主は教会と会員たちを驚くべき方法で祝福してこられました。それは、会員たちが忠実であり、粘り強く努力してきたからです。神権の聖なる業が神から与えられたものであることを、イエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。



注

1. ダン・カーチナー、個人的な会話
2. マービン・J・アシュトン、Conference Report, 1981年10月, 126。または *Ensign*, 1981年11月号, 89
3. スターリング・W・シル、Conference Report, 1974年10月, 86。または *Ensign*, 1974年11月号, 62
4. エライザ・R・スノー、*Biography and Family Record of Lorenzo Snow* (1884年), 276-281
5. "Amanda Smith," アンドリュー・ジェンセン編、*Historical Record*, 全9巻 (1882-1890年), 第5巻, 83-88
6. ジョセフ・スミス—歴史1:25
7. ジェフリー・R・ホランド「信念と勇氣の人」『聖徒の道』1995年6月号、大管長特別記事, 2
8. "The Logan Temple" *Millennial Star*, 1877年11月12日付, 743
9. エリナー・G・ハイド, "At 100 Years Old, He's Faithful Home Teacher," *Church News*, 1998年6月6日付, 7
10. 教義と聖約20:37
11. Conference Report, 1970年10月, 92。または *Improvement Era*, 1970年12月号, 27
12. ヨハネ8:31参照

神聖な奉仕の召し

第一副管長

トーマス・S・モンソン

人は義務を果たすことによって、幸福と平安を感じます。



わたしも、この大会で新しい召しを受けた兄弟姉妹を歓迎します。また名誉の解任を受けた皆さんに、心からのお祝いの言葉を申し上げます。この業は前進します。皆さん一人一人を愛しています。

愛する兄弟の皆さん、今晚皆さんにお話ができる特権を光栄に思います。この壮大なカンファレンスセンターが、若いも若きも、神の神権を持つ者で埋め尽くされている光景を見るのは大きな喜びです。また、同じような神権者のグループが世界中で集っていることを考えると、この責任に圧倒されそうになります。主の靈感によって思いが照らされ、言葉に力が与えられるよう祈ります。

ジョセフ・F・スミス大管長は神権についてこう語りました。「聖なる神権とは、神が人に委託された権能、すなわち、……神の御心みこころを話す権能であり……神聖なも

のです。神権の神聖さを損なってはなりません。神権を持つ者……は神権を敬い、尊ばなければなりません。』¹

神権の誓詞と聖約はわたしたちすべてに関係するものです。メルキゼデク神権を持つ者にとって、それは神の律法に忠実かつ従順であり、与えられる召しを尊んで大いなるものとしなければならないという義務と責任に関する宣言です。アロン神権を持つ者にとっては、将来の義務と責任に関する宣言であり、今この瞬間からその義務と責任に備えられるようにします。

大管長会の一員だったマリオン・G・ロムニー長老はこう語りました。「すべてのメルキゼデク神権者は、熱心さと厳粛な思いで、自分に授けられたこの誓詞と聖約の意味に心を向けなければなりません。この誓詞と聖約の課す務めを怠る人は、必ずや落胆と悲しみ、そして苦しみを経験することになるのです。』²

スペンサー・W・キンボール大管長はこう付け加えています。「神権の聖約は戒めに背くことによって、また義務を果たさないことによって破られます。したがって聖約を破るには、ただ何もしなければよいのです。』³

ある名高い牧師はこう語りました。「人は金銭のためによく働き、他人のためにはもっとよく働く。しかし、大義のためには献身するとき、最もよく働く。……喜んでもっと多くのことをしようと思わないかぎり、義務は正しく果たされない。』⁴

人は義務を果たすことによって、幸福と平安を感じます。詩人はこう記しました。

わたしは眠り、夢を見た。人生は喜びであると。

わたしは目覚め、理解した。人生は義務であると。

わたしは行い、悟った……

義務は喜びであると。⁵

義務を伴う召しは、神権者が与えられた割り当てにこたえるとき、静かにやって来ます。控えめで有能な指導者だったジョージ・アルバート・スミス大管長は、こう言いました。「皆さんの義務は、第1に、主が望んでおられることを知り、それから〔自らの持つ〕聖なる神権の力と強さによって、人々の前で召しを尊んで大いなるものとし、人々が喜んで皆さんに従うようにすることです。』⁶

召しを尊んで大いなるものとするとは、どういう意味でしょうか。それは、召しが威厳と重要性をもって確立されることであり、だれの目にも尊く、称賛に値するものとして映るようにし、さらに召しを拡大・強化して、それによって人々に天の光を輝きわたらせることです。

では、どのようにして召しを尊んで大いなるものとするのでしょうか。簡単に言えば、召しに伴う奉仕を行うことです。長老は長老としての義務を学び、実行することにより、聖任された召しを尊んで大いなるものにします。これは長老だけでなく、執事、教師、祭司、監督、そのほかすべての神権の職にある人に当てはまります。

詩人であり作家でもあるロバート・ルイス・ステューブソンは言いました。「わたしは義務をよく果たしてきたので、喜びがどのようなものか知っています。』

兄弟の皆さん、ベニヤミン王の勧告を思い起こしてください。「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりまおさず、あなたがたの神のために務めるのである……。』⁷

助けを必要としている人々を救い出し、いっそう義になつた、より良い道を歩めるよう手を差し伸べましょう。正しい道から迷い出ている神権者とその妻子が必要としていることについて真剣に考えま

しょう。彼らの声にならない心の叫びに耳を傾けるなら、それが聞き慣れたものであることが分かります。「手を取り、導き、ともに歩んでください。道を見いだせるように助けてください。いつかみもとに住むために、なすべきことすべてを教えてください。」⁸

教会に来なくなった人を再び連れ戻す仕事は、怠け者や空想家には向いていません。子供は成長し、両親は老いていきます。時間は待ってくれません。促しを受けたら、そのまましておくのではなく、行動を起こしてください。すると主は道を開いてくださいます。

忍耐という神聖な徳を求められることがしばしばあります。監督だったころ、わたしは一人の男性を訪問するよう促しを受けました。奥さんはある程度教会には積極的で、子供たちも同様でした。しかし、この男性は働きかけに対し、まったく反応を示しませんでした。夏の暑い日でした。わたしは、ハロルド・G・ギャラガーのドアの網戸をノックしました。ギャラガー兄弟がいすに座って新聞を読んでいるのが見えました。彼は目を上げようともせずに「どなたです？」と尋ねました。

「監督です」と答えました。「家族の皆さんとお話して、ぜひとも教会にいらっしゃるようお勧めに参りました。」

「要らないよ。今は忙しいんだ」というそっけない対応でした。まだ新聞から目を離しません。耳を傾けてくれたことにお礼を言って、玄関を後にしました。

それから間もなく、ギャラガー家はカリフォルニアへ引っ越してしまいました。年月が過ぎました。十二使徒定員会の会員として事務室で仕事をしていたある日、秘書の声が聞こえてきました。「以前モンソン長老のワードにいらした、ギャラガー兄弟という方がお見えになっていて、お話ししたいとおっしゃっていますが。」

わたしはこう返事しました。「その人は、ウエスト・テンプルストリート南5番街のビッシングプレースに家族と住んでいたハロルド・C・ギャラガーという人ですか。」

秘書は「ええ、その方です」と言いました。事務室にお通しするように言いました。



わたしたちは彼の家族について楽しく語らいました。ギャラガー兄弟はこう言いました。「昔、夏の暑い日に、わたしはいすから立ち上がろうともせずに、あなたをドアの所で立たせたままにしていたことをおわびしに来ました。」教会に活発に集っているかどうかを尋ねました。すると、彼はほほえみを浮かべながらこう答えました。「今、ワードの第二副監督をしています。教会に誘ってくださったのに、不愉快な態度を執ってしまったことが、度々心に浮かんでいたものですから。何か行動に移そうと決心したのです。」

それからハロルドが亡くなるまで、わたしたちの間には何度も行き来がありました。ギャラガー夫妻と子供たちは教会で多くの召しを立派に果たしました。

デビッド・O・マッケイ大管長の副管長を務めたステイブン・L・リチャーズ長老はこう宣言しました。「普通、神権は単純に『人に託された神の力』と定義されています。」そして、こう続けています。「この定義は正しいと思いますが、わたしは実際の目的から、神権を奉仕の観点から定義するのが好きで、よく神権を『奉仕の完全な計画』と呼んでいます。……神

権は奉仕の道具であって、……これを使おうとしない人は失うことがあります。なぜならば、神権をないがしろにする人は『その職にいるにふさわしい者と見なされない』と啓示によってはっきりと言われているからです。』⁹

今年1月、わたしはある女性のために行われた意義深い奉仕の業を見る特権にあずかりました。彼女は何年も前、わたしが監督を務めていたころにワードにいた会員でした。名前はアデルといい、二人の成人した娘と、ソルトレーク盆地のローズパーク地区に何年も住んでいました。娘の一人には障害がありました。アデルは夫を亡くし、経済的な問題に苦しみ、試練の多い人生を送ってきました。

ある日、福祉団体が主催する「ジンジャーブレッド・ハウスプロジェクト」に取り組んでいた一人の人物から電話がありました。アデルの家を改装したので来てほしいというのです。アデルの家の内装工事は、親切で寛大な多くの人の手により、実に3日3晩にわたって行われました。だれもがボランティアで働き、資材はあちこちの地元業者が無料で提供してくれました。また、この内装工事が完成するまでの期間、アデルと二人の娘は数マイル離れた町に迎えられ、親切なもてなしを受けたのです。

アデルと二人の娘を乗せた車が、内装工事の終わった家の前に到着した瞬間にわたしも居合わせました。3人を待っていた人々の中には、家族や友人だけでなく、このプロジェクトに昼夜を分かたず取り組んだ多くの職人もいました。彼らがこの結果に満足しており、アデルと娘たちの反応を見るのを心待ちにしているのは明らかでした。

3人は目隠しをされて車から降りました。目隠しが外され、アデルと娘たちが振り返って、新しい家を見たときというのは、どんなに胸躍る瞬間だったことでしょう。すばらしいプロジェクトの完成に文字どおり茫然自失の状態でした。玄関が様変わりし、家全体が拡張され、屋根が新しくなっていました。外観は新築のように、傷一つありませんでした。3人は涙を



こらえることができませんでした。

わたしはアデルやほかの人たちと一緒に家に入りましたが、室内を美化し、改善するために行われた工事に驚嘆しました。壁にはペンキが塗られ、床の敷物は取り替えられていました。家具もカーテンもドレープも新しくなっていました。台所の食器棚は取り替えられ、新しい調理台と器具が据え付けられていました。家全体が上から下まで修理されていました。どの部屋も染み一つなくきれいになっていました。アデルと娘たちは文字どおり言葉を失っていました。しかし、家を新築同様にするために懸命に働いた人々の表情にも、まったく同じ深い感動が見て取れました。目には涙があふれ、自分たちの手でアデルと二人の娘の生活にもたらした喜びを目の当たりにしました。夫を亡くした女性の重荷が軽くなっただけでなく、作業を進めていく中で、この計画が無数の人々にも感動を与えたのです。

この計画に参加することで、皆がさらに善い人となりました。

教会の偉大な教師の一人であるハロルド・B・リー大管長は、分かりやすい言葉で神権について語りました。「神権者になるとき、わたしたちは主の代理人になります。神権者は、主の用向きを受けている者として、召しに取り組まなければなりません。」¹⁰

さて、皆さんの中には、生まれつき人気だとか、自分はその召しを確固として果たすだけの力がないと感じている人もいるでしょう。忘れないでください。この業は皆さんやわたしだけのものではありません。主の業なのです。そして兄弟の皆さん、主の用向きを受けているときには、主の助けを頂く権利があるのです。主はわたしたちが重荷に耐えられるようにしてくださることを覚えておきましょう。

教室で行われる講義は、時として威圧的なこともあります。最も効果的なレッスンは、礼拝堂や教室の外で行われることがあります。何年も前の春のことです。わたしのワードと隣のワードの会員は、アロン神権者全員を連れて野外活動に出かけました。青少年たちは、アロン神権の回復を記念して例年行われるこの活動を楽しみにしていました。この特別な日、わたしたちはバスに乗って約150キロ北のユタ州クラークストーン墓地へ行きました。その美しく静かな場所で、モルモン書の三人の証人の一人であるマーティン・ハリスの墓碑の周りにアロン神権者を集めました。マーティン・ハリスの墓を示した美しいみかげ石を囲むと、当時隣のワードの監督であったグレン・L・ラッド長老がマーティン・ハリスの略歴を説明し、彼とオリバー・カウドリ、デビッド・ホイットマーの証をモルモン書から読みました。若い男性たちはじっと耳を傾け、かつて天使にまみえ、その目で実際に金版を見た人物の墓地に自分たちは立っているのだということを理解しました。彼らは恭しくそのみかげ石の墓碑に触れ、そこで聞いた言葉や感じた気持ちについて深く考えました。

それから開拓者の墓碑の方へ歩いて行

きました。ジョン・P・マームバーグという名の記された墓碑に次のような言葉が刻まれていました。

我が家から光が去った。
わたしたちが愛したあの声はもう聞こえない。
心の中のうつろな思いは、
何をもってしても満たされることはない。

わたしたちは、犠牲を払うことと真理を守るために自らをささげることについて青少年と語りました。義務、名誉、奉仕、愛、すべてがその墓碑の傍らで教えられました。当時を思い出すと、今でも青少年がハンカチで涙をぬぐう姿が見えてきます。感動し、決意したことを証する彼らのすすり泣く声が今でも聞こえてきます。そのときの若人は皆、先を行き、後から来る人のために道を示す開拓者になろうと決意したことでしょう。

それからグループごとに地元の公園に行き昼食を取りました。家路に就く前に、美しいローガン神殿に立ち寄りました。暖かい日でした。わたしは青少年に広々とした芝生で一緒に横になり、青空を見上げるように勧めました。絶え間なくそよ風が吹く中を波のような白雲がたなびいていました。わたしたちは開拓時代に建てられたその壮大な神殿の美しさに驚嘆しました。そして神聖な儀式と永遠の聖約について話し合い、教訓を学び、感動を覚えました。聖約や約束が単なる言葉以上の意味を持つようになりました。青少年の心には、神殿に入るためにふさわしくなりたいという気持ちが芽生えました。心が救い主に向き、主の存在を身近に感じました。「わたしについてきなさい」と招く主の優しい声が聞こえ、心に感じられたように思いました。

神聖な奉仕の召しに喜んでこたえるすべての人に、次のような約束が与えられています。「主なるわたしは、わたしを畏れる者に憐れみ深くかつ恵み深く、また最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。

彼らの受ける報いは大きく、彼らの栄



光は永遠である。」¹¹

わたしたちすべてがこの神聖な約束を受ける資格を得られるよう、救い主イエス・キリストの御名により心から祈ります。アーメン。

注

1. *Gospel Doctrine*, 第5版(1939年), 140
2. Conference Report, Mexico City Mexico Area Conference, 1972年, 73
3. *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編(1982年), 497
4. ハリー・エマーソン・フォスディック, *Vital Quotations*, エマーソン・ロイ・ウェスト編(1968年), 38
5. ラビンドラナース・タゴール(1861–1941年)
6. Conference Report, 1942年4月, 14
7. モーサヤ2:17
8. ナオミ・W・ランドール「神の子です」『讃美歌』189番(英語から和訳)
9. Conference Report, 1937年4月, 46
10. Conference Report, Mexico City Mexico Area Conference, 1972年, 77
11. 教義と聖約76:5–6

ギャンブル

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

もしこれまでポーカーやいかなる形であれギャンブルをしたことがないなら、始めないでください。しているとしたら、今やめられるうちにやめてください。



愛する兄弟の皆さん、すばらしい集会に参加してきました。これまで話されたことをすべて支持するとともに、わたしの祝福を皆さんに残したいと思います。

最初^{きょう}今日の午後、七十人定員委員会として支持をした兄弟たちについて少し述べさせていただきます。

中央幹部として奉仕するにふさわしい資質を備えた兄弟たちが文字どおり何百人もいるとわたしは確信しています。そのような人々は至る所にいます。今日支持された兄弟たちは、特別な責任を果たすために選ばれました。たいいていの場合、財政面での犠牲が伴いますが、彼らはいりません。

支持された人の中には、お気づきのよう^うにわたしの63歳になる息子もいます。わたしが推薦したわけではないことをはっきりとお伝えしておきます。推薦する

権限を持った人々によってなされたことです。わたしは、身内を推薦することについては慎重に配慮するようにしています。弁護士^の言葉のとおり、息子の推薦に関しては、話し合いへの参加を辞退しました。しかしながら、彼があらゆる面でふさわしく資格のある人物であると確信しています。何より、彼には偉大ですばらしい母親^がいました。父親も褒めてあげられればよいのですが。

このことについて触れたのは、ただ、身内を推薦することについてわたしが神経質になっているからです。どうか、わたしとの関係^のことで、彼をいぶかしく思わないでください。彼にはどうすることもできないのです。

では、今晚、話したいテーマに移ります。最近、教会員の間でも、特に教会の青少年の間でも一般的になりつつある事柄について、教会はどのような立場を取っているのか、という問い合わせが数多く寄せられています。その要請にこたえて話したいと思います。様々な形のギャンブルについてです。

かつて合衆国大統領を務め、^{かもく}寡黙の人として知られていたカルビン・クーリッジの話を紹介しましょう。ある日曜日、クーリッジが教会から帰宅すると、妻が尋ねました。「牧師様は何について話されたの。」すると、クーリッジは「罪」と答えます。妻は、「それで何ておっしゃったの」と尋ねると、短い答えが返ってきました。「罪には反対だつて。」

わたしもギャンブルに関する質問については、同じように短く答えたいと考えて

います。わたしたちは、それに反対しています。

ギャンブルは世界中ほとんどどこでも行われており、盛んになっています。ポーカーをする人がいます。競馬やドッグレース^にかける人がいます。ルーレットやスロットマシンで遊ぶ人がいます。バーや酒場やカジノなどに集まってはカード遊びに興じている人もいます。さらに、家庭でも実に広く行われています。数多くの人がカード遊びをしないではいられなくなっています。中毒になっています。そして多くの場合、それは破滅的な習慣へとつながっていきます。

しかもギャンブルにかかわるようになった人の大部分が、そこにつき込む費用を工面でできずにいます。そのため多くの場合、妻子から経済的安定さえ奪ってしまうのです。

ポーカーは大学生の間でも、また高校生^の間にさえ、流行となりつつあります。

ここで、『ニューヨークタイムズ・ニュース・サービス』(New York Times News Service)の記事を読んでみましょう。

「マイケル・サンドバーグにとって、それは数年前に、友人との間でほんのわずかの小銭^ををかけることから始まった。

しかし昨年^の秋には、彼の言葉によれば数千万円の収入源となり、このまま今の生活を続けるか法律大学院(ロー・スクール)に進むかの二者択一^をを迫られることとなった。

22歳になるサンドバーグは、基本的には時間を使い分けている。政治学を専攻する大学4年生としてプリンストンへ通い、高額なかけ金のポーカーをするためにアトランティック・シティへも通っているのだ。……

サンドバーグの例は、国内の大学に広がるギャンブル革命の極端な一例ではあるが、サンドバーグ自身はこの現象を爆発と呼んでいる。つまりテレビで放映されるポーカー大会やオンラインでポーカーのできるウェブサイトの増殖などで、流行に一気に火がついたからである。

専門家の話では、大学のキャンパスにギャンブルが流行している状況はだれも



が実感しているという。例えば、12月にはコロンビア大学の女子学生クラブが、80人もの参加者を集めて最初のポーカー大会を主催した。最低参加料として10ドルを取ったにもかかわらずである。また、ノースカロライナ大学でも、10月には175人の参加者を集めて第1回大会が開催された。二つの大学とも応募者はいっぱい、参加待ちのリストができるほどであった。ペンシルベニア大学でも、大学の電子メールのリストをのぞくと、毎晩どこかで個人主催のゲームの案内が出ている状況である。(ジョナサン・チェン, "Poker Is Major College Craze," *Deseret Morning News*, 2005年3月14日付, A2)

同じことがこのユタでも起こっています。

ある母親から、次のような手紙を受け取りました。

「19歳になる息子は、インターネットでポーカーをしています。インターネット関係者は、参加者が未成年であるかどうかには関心がない[ようです]。必要なことは、ネット上に口座を持っているかどうかだけです。息子はほぼ1年間、ひたすらポーカーをし続けています。以前は仕事をしていましたが、それも辞めてしまいました。インターネット中毒になってしまい、今ではお金をかけてポーカーをしているのです。常時ポーカーの大会に参加しています。勝つとその賞金で必要なものを買っています。息子のしていることといえば、いすに座ってインターネットで遊んでいるだけです。」

合衆国内で様々な形の宝くじやギャンブルが合法化されていない州は、今では

ユタ州とハワイ州だけになったと聞いています。教会員からの手紙によれば、教会の若人でも、ギャンブルを始めたきっかけがポーカーだったということが明らかになってきています。働かずに何かを手に入れるということの味を覚えつつあります。そうすると、合法的にギャンブルの行われている州外へ旅行するようになります。

ある評論家が次のような手紙をくれました。「この悪が、最近、非常に多くの人の生活に忍び込み始めたことが分かります。テレビではどこでもその種の番組をやっていますし、ESPN〔訳注——合衆国のケーブルテレビ放送〕では、『著名人ポーカー大会』や『全米ポーカー選手権』などといった番組まで放送しています。」

先ほどの母親の手紙はこう続きます。「最近、夫は友人から、料金を支払って地元のポーカー大会に参加しないかという誘いを受けました。その友人はこう言っています。『こんなのはギャンブルじゃないよ。お金をこの箱に入れて、勝った者が箱ごと持ち帰る、それだけさ。』」

それがギャンブルなのではないでしょうか。そうです。まさにギャンブルそのものです。ギャンブルというのは、端的に言えば、金銭を取りながら、それに見合う正当な対価を、品物やサービスの形で提供しないプロセスのことです。

現在ではかなり大規模な州の宝くじがあります。かつてはほとんど例外なく法律で禁じられていたものです。それが今では、税収入を得る手段の一つとして運用されています。

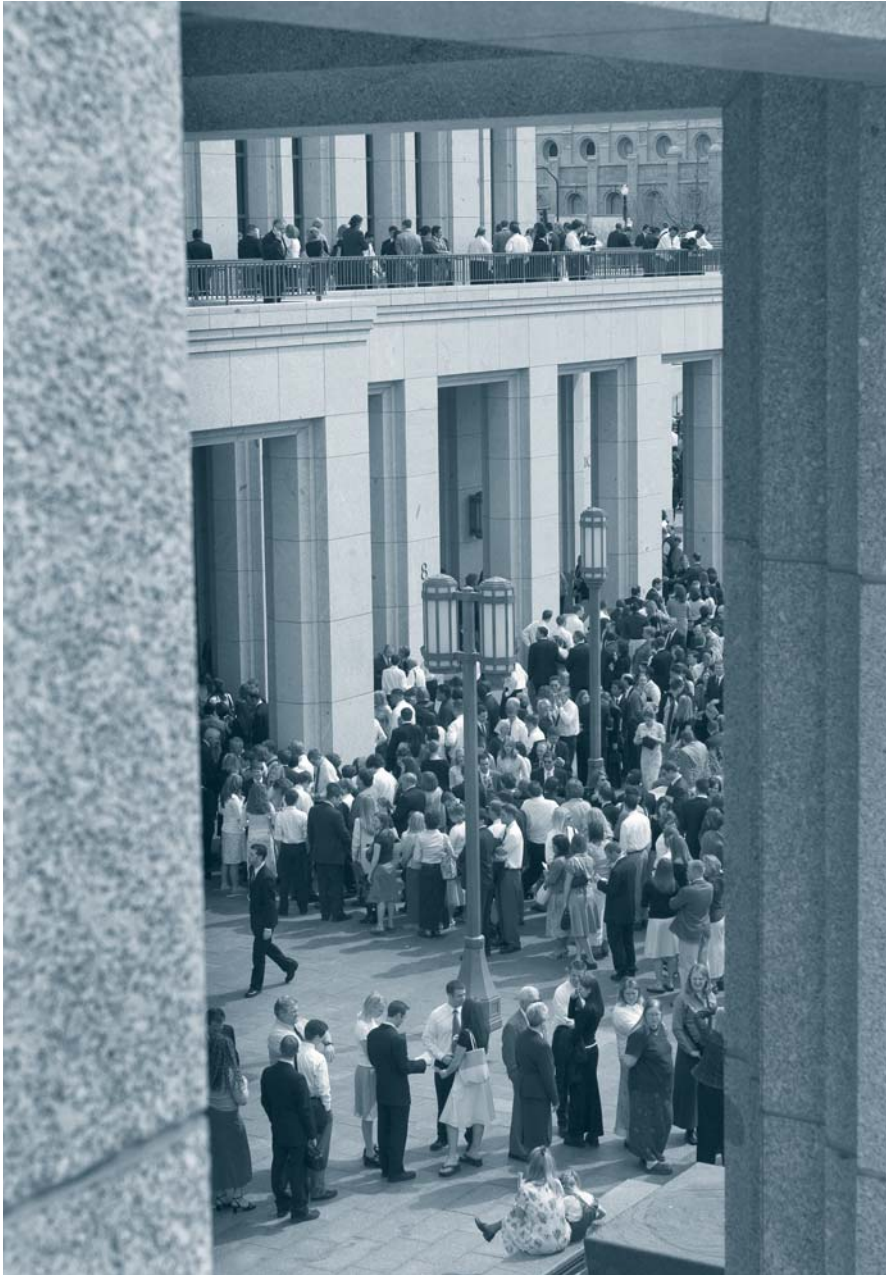
20年ほど前に、大会で次のような話をし

たことがあります。「最近ニューヨーク州が、1等3本の合計が4,100万ドル〔約45億円〕という宝くじを発表し、その過熱ぶりは最高潮に達しました。人々はくじを買うために並んで列を作りました。一つの当たりくじは、21人の工員が共同購入したものでした。2等は778人、少額当選も含めた当選者の合計は11万3,000人でした。いい話のように聞こえるかもしれませんが。」

しかし、外れた人は3,599万8,956人もいます。いずれも当たることを期待してお金を払いながら、何も手に入れることができなかった人々です。〔「主の大義」『聖徒の道』1986年1月号, 53参照〕

アメリカの州の中には、州の収入源とするため、カジノに重い税金を課しているところもあります。カジノを運営する会社の方も、利益を上げる必要があります。そういう状況でも当たり券を持つ人が出てきますが、券を購入しても当たらなかった人たちには、まったく見返りがないのです。

主がこの教会を設立されたとき、^{じゅうぶん} 什分の一の律法を与えてくださったことに心から感謝しています。かつて、あるよその教会の役員と話をしたことがあります。その教会では、わたしの知るかぎり、運営費の大半をビンゴに頼っていました。わたしはこの男性に言いました。「ご自分の教会の運営費を調達するために、什分の一を導入しようとお考えになったことはないのですか。」彼はこう答えました。「ありますよ。わたしだって、ビンゴではなくて什分の一が実践できたらいいと思っています。でも、わたしの生きているうちにそんな変化は起こりそうにありません。」



カジノは、インディアン保護特別保留地ができたころ、土地所有者の収入を確保する手段として開設されたものです。わずかの人が勝ち、大半が負けます。だれかが勝ち経営者が利益を上げるためには、そういうシステムにならざるを得ないのです。

最近、教会の若人がこのようなことを言いました。「映画を見るために5ドル払うのも、ポーカーをするために5ドル払うのも、考え方は同じではないでしょうか。」

同じではありません。前者は支払いに対して何らかの見返りがありますが、後者では賞金を得る者は一人しかなく、残

りの人には何の見返りもありません。

経験から分かることは、ポーカーをしているとやがてギャンブル中毒になるということです。

この教会では初期のころからギャンブルを戒めてきました。

1842年当時、ジョセフ・スミスは、聖徒がミズーリ州に居住していたころの状況を次のように記述しています。「わたしたちは土地を幾つも購入し、産物に恵まれ、教会内だけでなく隣人とも平和で幸福な日々を送っていました。しかし、真夜中に酒盛りをし、安息日を破り、競馬やギャンブルに興じる隣人について行くことはで

きませんでした。……初めのうちはわたしたちをあざ笑う程度でしたが、次第に迫害するようになり、ついには暴徒を組織してわたしたちの家を焼き、教会員の多くの兄弟たちにタールを塗って羽根を付け、鞭打つに至ったのです。そればかりか、暴徒は法律や正義、人間性を無視し、聖徒をその地から追い出してしまいました。」(ジェームズ・R・クラーク編、*Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*, 全6巻 [1965-75年], 第1巻, 139)

ブリガム・ヤングは、1844年10月に、ノーブーに関して次のように言っています。「わたしたちはできれば、あらゆる酒屋やギャンブル施設、さらにそのほかあらゆる賭博場やその活動を一扫したいと願っています。また、わたしたちの中に飲酒癖のある者や邪悪を行う者がいない状況を作り出したいと思っています。」(*Messages of the First Presidency*, 第1巻, 242)

教会の大管長や副管長たちは、繰り返しこの悪について語っています。3人の大管長に副管長として仕えたジョージ・Q・キャノン^{とぼく}は、次のように言っています。「世界には数多くの悪が存在しており、若い人々をその攻撃から守る必要があります。その悪の一つがギャンブルです。この悪は様々な形を取ってはいるものの、そのことごとくが好ましくなく、参加が許されるものは何もありません。」(*Gospel Truth: Discourses and Writings of President George Q. Cannon*, ジェレルド・L・ニュークワイスト選, 全2巻 [1974年], 第2巻, 223)

ジョセフ・F・スミス大管長は次のように述べています。「教会はギャンブルを認可していません。むしろ道徳的に間違ったものとして、強く反対しています。偶然で勝敗が決定するゲームや宝くじといったものもすべてこのギャンブルと見なしています。また教会員が関与することを強く戒めています。」(“Editor’s Table,” *Improvement Era*, 1908年8月号, 807)

ヒーバー・J・グラント大管長も次のように勧告しています。「教会は昔も今も一貫して、いかなる形のギャンブルにも反対しています。偶然に左右されるゲームや職

業、あるいは、いわゆる関連事業にも反対しています。それは人から金銭を取り上げ、それに見合う対価を支払うことなくその金銭を奪ってしまうことになるからです。また、教会員や概して地域社会が常に維持してきた高い倫理観をおとしめたり壊したりする傾向のあるものについては、すべて反対しています。』(Messages of the First Presidency, 第5巻, 245)

スペンサー・W・キンボール大管長も次のように言っています。「創世の初めからかけ事はその種類を問わず禁じられています。無償で、努力もせず、正当な代価も払わずに何かを得ると、人は勝ち負けに関係なく退廃し傷つきます。」「わたしを主よ、主よ、と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか」『聖徒の道』1975年8月号, 376参照)

今晚、わたしたちとともに出席しているダリン・H・オークス長老は、1987年に、この話題に関して当時のリックス・カレッジで実に見事な説教を行っています。その演題は「ギャンブル——道徳的に間違っていて、政治的に愚かなもの」(“Gambling—Morally Wrong and Politically Unwise”)というものでした(Ensign, 1987年6月号, 69-75参照)。

教会の立場を述べたこの説教にわたしも付け加えたいと思います。偶然で勝敗が決定するゲームは、害もない遊びのように見えるかもしれませんが。しかし遊んでいる人の表情を実際に眺めると、必死になっている様子がうかがえます。そしてどんな場合でも、あまりにも数多くの人が、一見罪もないようなこうしたことを行って中毒状態に陥っているのです。教会は昔も今もこの遊びに反対しています。もしこれまでポーカーやいかなる形であれギャンブルをしたことがないなら、始めないでください。しているとしたら、今やめられるうちにやめてください。

時間を過ごすためなら、もっと良い方法があります。関心やエネルギーを注ぐ良い方法がほかにあるのです。素晴らしい読み物も周囲には数多くあります。まだまだ十分に活用していません。音楽を学んだり楽しんだりすることもできます。ダンスやハイキングやサイクリングといっ

たことを一緒に行って楽しく過ごすだけでもいいのです。少年少女はそのように健全な方法で一緒に楽しい時間を過ごすことができるでしょう。

わたしは今、ある新しい本を読んでいます。それは最近オックスフォード大学出版局が出した本で、わたしたちにとってなかなか興味深いことが載っています。その中に、チャペルヒルにあるノースカロライナ大学の研究スタッフによる成果が紹介されています。これはアメリカの10代の人々の宗教的かつ霊的な生活に関するものです。様々な宗派や伝統を持つ10代の若人に研究者がアンケート調査をしました(クリスチャン・スミス、メリンダ・ランドクウィスト・デントン共著、Soul Searching: The Religious and Spiritual Lives of American Teenagers(2005年)参照)。

研究の結果、末日聖徒の青少年は、同年代の若人に比べて、自分の信仰についてよく知っており、宗教への献身度が高く、社会的な行動に関しても教会の教えに従っていることが分かりました(イレイン・ジャービック、“LDS Teens Rank Tops in Living Their Faith,” Deseret News, 2005年3月15日付, A3)。

ある研究者は次のように述べています。「末日聖徒の教会では、10代の若者に多くを期待している。そして、……多くの場合、若者はそれにこたえているのである。」

調査の結果、わたしたちの若人の傾向として、両親と同じ信仰を持ち、1週間に1度は同じ信仰を持つ人々と一緒に宗教行事に参加し、断食など、何らかの自制的な事柄に取り組み、自分の信仰に疑いを抱いていないということが分かったのです。

この研究に関して複数の解説者が、教会の青少年が朝早く起きてセミナーに出席していることに言及しています。あるセミナーの生徒の声です。「朝早く起きるのはほんとうに大変です。でもそうすることで祝福を受けています。一日を始めるためには、素晴らしい方法です。」

研究者たちは、教会の青少年が一人残らず完全だというのではなく、弱さも散見するが、おおむね著しく秀でていると指



摘しています。こうした高校生にはポーカーで遊ぶ時間などないとわたしは付け加えておきます。

今晚わたしの話を聞いている若い友人の皆さん、皆さんの存在はわたしたちにとって実に大きな意味があります。かけがえのない存在なのです。この教会の会員として、また神権を持つ者として、皆さんには偉大な責任があります。どうか価値のないものを追い求めて時間や才能を浪費しないでください。もしそのようなことをするならば、価値あることを行う能力が低下することになります。また、学校で勉強する感覚も鈍ると、わたしは考えています。さらに両親をがっかりさせ、何年かたって振り返って見たとき、自分自身に失望することになるでしょう。

若い皆さんが持っている神権には、天使の働きを行う特権が与えられています。はっきりとお伝えしておきますが、天使の働きを行えるということは、偶然に支配されるゲームにふけているのとは、比較できない特権です。

「選べ、正義を選べよ。」(「選べ、正義を」『賛美歌』152番)

天の祝福が皆さんに注がれるよう、へりくだって祈ります。この業が真実であるというわたしの証と、この業に携わっているすべての人に対するわたしの愛を残します。イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。

聖なる場所に立つ

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

世界中の聖徒の皆さんに助言します。地理的に可能なら、聖なる場所に立つ機会を増やす努力をしてください。



愛する兄弟姉妹、そして世界中の友人の皆さん、皆さんにお話しできることは、喜びでもあり、また大変な責任でもあります。皆さん一人一人に愛と尊敬と感謝をお伝えします。

わたしたちは求めもせず必要ともしていない情報の洪水の中にいます。一生かかっても吸収できないほどの情報が、ほんの1日のうちに生み出されています。ほんとうにすばらしい人生を送るためには憩いの場と心の平安が必要です。¹ ではどうしたらよいのでしょうか。答えはただ一つです。忍び寄る悪に打ち勝たなければなりません。主の次の勧告に従う必要があります。「わたしの思いは、わたしの名を呼び、わたしの永遠の福音に従ってわたしを礼拝する者が皆集まり、聖なる場所に立[つことである。]」²

聖くない場所に立たざるを得ないことがあまりにも多すぎます。わたしたちは、

主の御霊を遠ざける低俗で、俗悪で、破壊的なものに、取り囲まれています。ですから、世界中の聖徒の皆さんに助言します。地理的に可能なら、聖なる場所に立つ機会を増やす努力をしてください。最も神聖な場所は、聖なる神殿です。神殿は神聖な安らぎに満ちています。家族を神殿に連れて行き、永遠の結び固めをするにふさわしくなるよう努力してください。亡くなった先祖の記録を探求し、神殿で結び固められるようにしてください。聖い者となる努力をしなければなりません。すなわち「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になるのです。そうするならば、わたしたちは神との個人的な関係を維持し、強めることができます。

聖さは霊に力を与えてくれます。聖くなるには信仰を持ち、神の律法と儀式に従う必要があります。そうすれば、神はわたしたちの信仰により、心を清めてくださいます。俗悪で低俗なものが心からぬぐい去られるのです。神の御心に従い聖くなると、主の目から見て何が正しく、何が間違っているのかが直感的に分かるようになります。聖くなった人は、静けさの中で、善を促し、悪を悟らせる声を聞くことができるのです。

聖さは義の基準でもあります。1862年2月16日、ソルトレークのタバナクルで説教したブリガム・ヤング大管長は「聖さを主にささげる」という言葉を使いました。ヤング大管長はその言葉の意味をこう説明しています。「この30年の経験から、あらゆる瞬間に、聖さを主にささげなければ

ならないということを学びました。聖さを主にささげるには、すべてを、公平に、正しく、憐れみ深く、正直に行う必要があります。全能者の御霊を常に受けるには、これ以外に方法はありません。」⁴

昨年、孫夫婦が両親とともに、新しく建設されたニューヨーク州マンハッタン神殿に行きました。人であふれる大都會の喧騒は、耳に痛いほどでした。タクシーが神殿の前に止まると、孫の妻のキャサリンは涙ぐみました。神殿の外にいただけで、その神聖さを感じたのです。二人は神殿に入り、騒々しい世界を離れて、主の宮で礼拝をささげました。それは忘れることのできない神聖な経験となりました。

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はこう教えています。「時にはこの世の喧騒を離れて、神の神聖な宮の中に足を踏み入れ、神聖さと平安の中に主の御霊を感じる必要があります。」⁵ カートランド神殿を奉獻した際のジョセフ・スミスの祈りは、まさにこたえられています。「主の宮の敷居を越えて入って来るすべての者が、あなたの力を感じ、……これがあなたの宮、あなたの聖さのある所であることを認める促しを感じますように。」⁶

祝福師ジョセフ・スミス・シニアの神殿に対する思いが、その葬儀の席で語られました。「主の宮の中にいること、そこで祈り求めること、それがジョセフ・スミス・シニアの毎日の喜びでした。彼はそこでたくさんの祝福を享受し、天の御父との甘美な交わりに時を忘れました。彼は、太陽が東の空を染めるずっと前に、ただ独りで、神殿の神聖な廊下を歩きました。草木もまだ眠りに就いている時間に宮の壁の内側で心の願いをささげたのです。そのような聖なる環境で、天からの示現が心に開かれ、彼の魂は永遠の喜びを味わったのです。」⁷

「主の宮居、聖きを主に捧ぐ」という言葉がすべての神殿に掲げられていることを大変うれしく思います。聖なる場所を表すこの言葉は、旧約聖書にも記されています。ゼカリヤはこう記しています。その日には、「馬の鈴の上に『聖きを主に捧ぐ』と、記され……エルサレムおよびユダ



末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

大管長会

2005年4月現在



第一副管長
トーマス・S・モンソン



大管長
ゴードン・B・ヒンクレー



第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング



ディーター・F・ウーグトルフ



テビッド・A・ベドナー

七十人会長会



アール・C・キング



D・トッド・クリストフアーソン



テビッド・E・ソレンセン



チャールズ・D・テイタ



メリル・J・ペイトマン

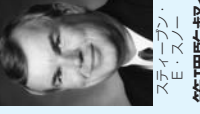
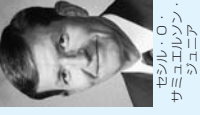
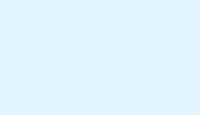
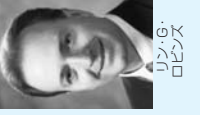
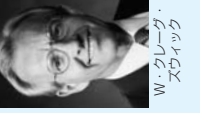
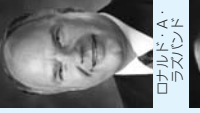
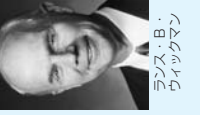
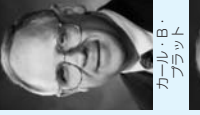
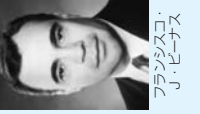
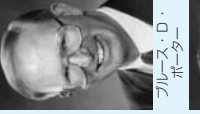
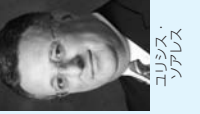
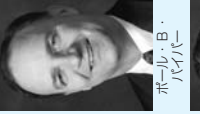


ジョン・H・グロバー

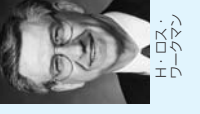
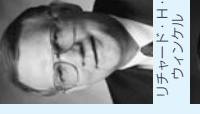
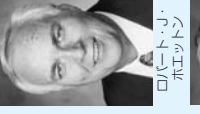
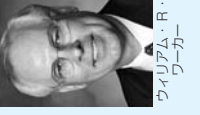
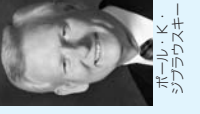
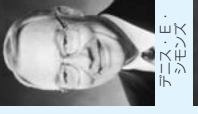
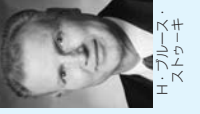
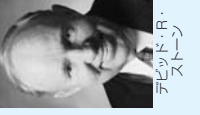


ロバート・C・オークス

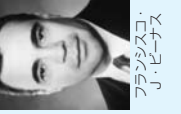
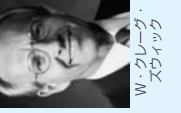
七十人第一定員会



七十人第二定員会



管理監督会





ベルギー・アントワープの集会所の外で語り合う会員たち。



左——日曜午後の部会の放送が始まる前に衛星放送の受信状況を確認するスペイン・マドリード東ステーキの会員。

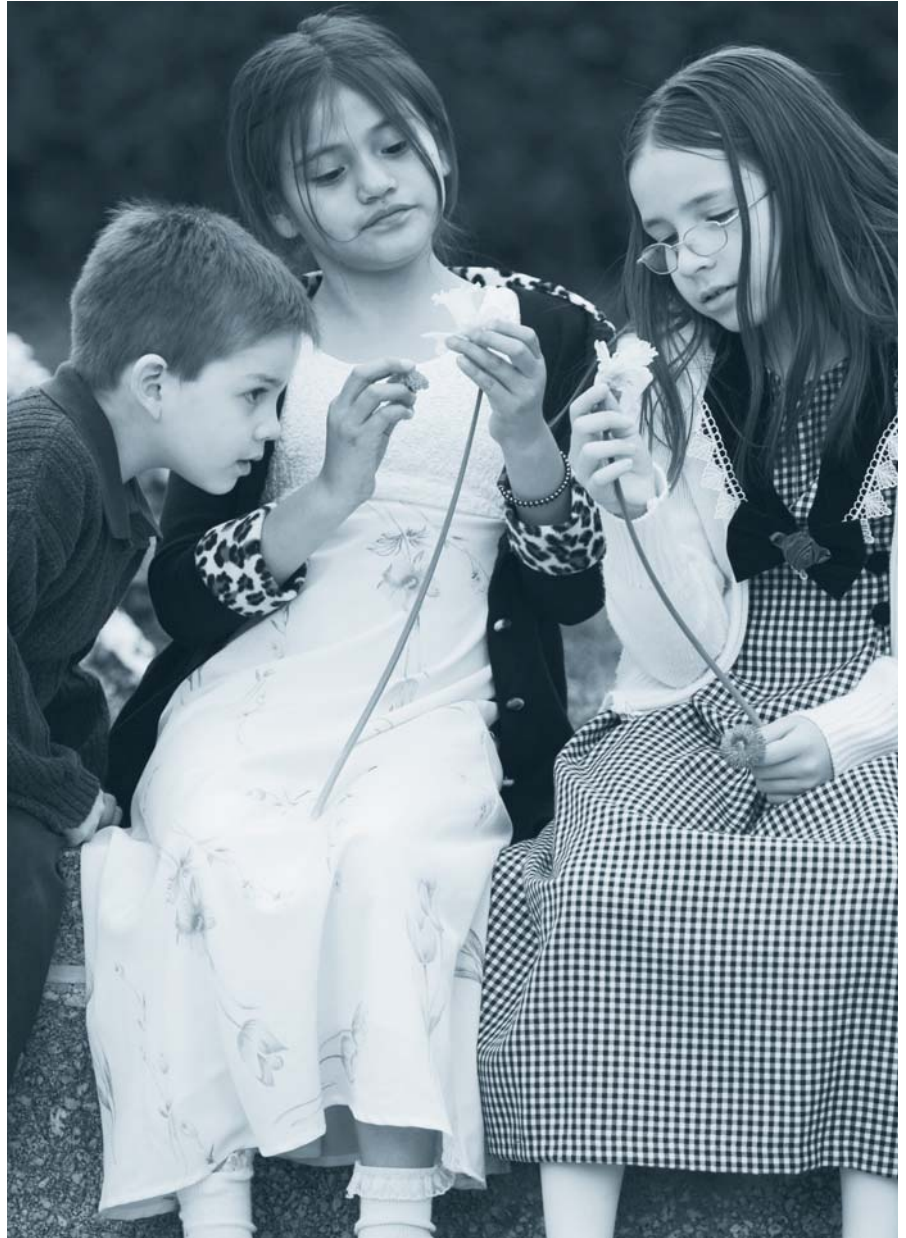
上——フィリピン・マカティで大会の放送に出席した夫婦。

のすべての鍋は、万軍の主に対して聖なる物となる。』⁸ ソルトレーク神殿のドアノブは見事です。精巧な細工が施され、一つ一つに「聖きを主に捧ぐ」という言葉が刻まれています。

65年以上前、ユタ州南部に住んでいたとき、その小さな町の幾つかの建物に「聖きを主に捧ぐ」という言葉が掲げられていました。それを見てとてもうれしかったのを覚えています。このすばらしい言葉は、たいてい協同組合の建物や監督の倉など、町で特に重要な建物を美しく飾っていました。わたしは大型商業施設としては草分け的存在であるZCMIの株券を持っています。これらの株券にはジョン・テラー、ブリガム・ヤング、ウィルフォード・ウッドラフ、ジョセフ・F・スミス、ロレンゾ・スノー、ヒーバー・J・グラント、ジョージ・アルバート・スミス、デビッド・O・マッケイが署名しています。すべての株券には「聖きを主に捧ぐ」という文字が印刷されています。聖さの大切さを表すこの言葉は今、どこへ行ったのでしょうか。信仰や献身を表すたくさんの言葉とともに消えてしまったのでしょうか。

日々の生活で大いなる祝福を得るには、神殿に度々参入し、人知を超えた神との霊的な関係について学ばなければなりません。聖なる場所に立てるよう、さらに努力する必要があります。神殿の儀式で聖約を交わし、その聖約を守るならば、聖さを安全に保つことができます。神殿の神聖な業に対する気持ちを高めるために、神殿で学ぶ奥深い霊的な事柄を深く考えるようにお勧めします。パウロが言うように、「文字は人を殺し、霊は人を生かす」⁹ のです。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう述べています。「もしメルキゼデク神権に聖任されたすべての教会員が神殿推薦状を持つにふさわしい生活をし、主の宮に入り、神と証人の前で、厳かに聖約を新たにするならば、わたしたちはより善い民となるでしょう。不貞はまったくと言っていいほどこの民から姿を消すでしょう。離婚も、ほとんど見られなくなるでしょう。心の痛みや苦悩を遠ざけることができる



でしょう。家庭は、平安と愛と幸福に満たされるでしょう。妻や子供たちの目から涙が消えるでしょう。今よりもずっと感謝と尊敬の念を持つようになるでしょう。主に喜ばれ、さらに豊かに祝福されるようになることは間違いないのです。』¹⁰

末日聖徒は聖なる御霊の促しを受けているので、家族の歴史を探求し、神殿に参入しなければなりません。しかし、なによりも、個人の聖さと家族の聖さを守るために、神殿に参入しなければならないのです。

神殿のほかにも、この地上にもう一つ神聖な場所があります。言うまでもなく、それは家庭です。わたしは家庭で聖さを学

んだおかげで、神殿の聖さに備えることができました。宣教師として初めてブラジルにたつ前に、神殿で着られるようにと、母が愛情を込めて神殿衣を作ってくれました。今では古び、擦り切れてしまいましたが、その神殿衣は、聖なるものに対する母の愛を象徴する、特に神聖なものです。

愛する妻、ルースのおかげで、これまでずっと、我が家は、聖さを主にささげる精神を敬う場所でした。いつもよくできたわけではありません。失敗もありました。しかし努力しました。若いころ、仕事や、教会の召し、市民としての義務を果たすことなどで忙しくしていると、妻のルースが



優しい言葉で、わたしには父親として家庭の中で果たすべき責任があることを思い出させてくれました。

例えば、家庭の夕べの時間になったら知らせてくれ、その日のレッスンのテーマは何かよいかを優しく提案してくれたものです。また、家族の誕生日や子供たちの活動など、大切な日を忘れないように助けてくれました。妻は今でも、このような重要で価値ある助けをいつもしてくれます。ほんとうに家庭を聖なる場所にしたければ、主の御霊を招くために、さらに熱心に努力する必要があります。

礼拝堂も聖なる場所として主に奉献されています。わたしたちは主の聖なる日

に祈りの家に行き、聖餐^{せいさん}を取るようにと言われています。¹¹ 聖餐を頂くことは、厳粛で神聖な特権です。礼拝堂は、福音の原則について学ぶ場所です。また、子供の祝福や会員の確認、聖霊の賜物を授けるための儀式が行われます。そして、福音が真実であることについて^{あかし}証を述べる場所でもあります。テキサスで改宗したある女性は、礼拝堂に足を踏み入れたときに、それまでに経験したことのない聖い気持ちを感じたと語っています。

聖い民となるための努力がもっと必要です。今は時満ちる時代です。ジョセフ・スミスを通して非常に多くのものが回復されました。そのため、わたしたちは主

と特別な関係にあります。すべての鍵^{かぎ}を持つピンクレー大管長から委任され、権能を授かり、指示を受けて、大切な責任を担い、守り、果たしているのです。そのようなわたしたちは、主の子供として、すべてにおいて、さらに高い義のレベルを目指して、日々努力すべきです。サタンのあらゆる影響力から常に身を守らなければなりません。

ブリガム・ヤング大管長は教えました。「人生のあらゆる瞬間で、聖さを主にささげなければならない[の]です。……全能者の御霊を常に受けるには、これ以外に方法はありません。」主が一人一人を祝福してくださり、皆が聖なる場所に立ち、聖さを主にささげるという特別な責任を果たすことができますように。聖なる場所に立つならば、自分と家族に必要な、霊的な守りが得られるのです。聖なる場所に立てば、この時代に主の言葉を携えて行くための助けが得られます。聖なる場所に立つならば、現代の邪悪な影響に打ち勝ち、救い主に近づくための助けが得られます。そのようにするならば、主から永遠にわたって祝福を受け、「信仰にも働きにも」¹² 力ある者となれることを証します。イエス・キリストの御名^なによって、アーメン。

注

1. " 'Overworked Americans' or Overwhelmed Americans? " *Business Horizons*, 1994年1-2月号, 62-66
2. 教義と聖約101:22
3. 1テモテ4:12
4. *Deseret News*, 1862年4月2日付
5. 「伝道と神殿、そして管理の職」『聖徒の道』1996年1月号, 60
6. 教義と聖約109:13
7. *History of the Church*, 第4巻, 193-194
8. 欽定訳ゼカリヤ14:20-21から和訳
9. 2コリント3:6
10. 「伝道と神殿、そして管理の職」『聖徒の道』1996年1月号, 60
11. 教義と聖約59:9
12. ヒラマン10:5

もう一人

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード

さらに多くの天の御父の子供たちに手を差し伸べるために、熱心に働く、強い証を持った宣教師がよりいっそう必要です。



兄弟姉妹、数週間前、バラード姉妹とわたしはプロボ宣教師訓練センターで話をする機会がありました。宣教師たちの意欲に満ちた、輝く笑顔を見て、わたしたちは主の御霊を感じ、感動しました。このすばらしい宣教師たちは、回復されたイエス・キリストの福音のメッセージを世界に届ける準備をよくしていました。主に仕えるために、霊的備えをさらに徹底しなさいという預言者の勧めにこたえてくれた両親、監督、ステーク会長、そして特に、若い人たちに感謝しています。

宣教師資格の「基準を上げ」たとき、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はこう述べました。「伝道は過酷です。体力と活力が必要です。鋭敏な心と理解力が求められます。信仰、望み、一身をささげて働く姿勢が必要です。清い手と純粋な心が求められます。」

続けてこう言いました。「主イエス・キリストの大使として……召される人々について、その標準を高めなければならない時が来ました。……ふさわしさを備えていない人には、胸躍る福音のおとずれを伝えるために世界に出て行くのを、とても許すことはできないのです。」(「伝道活動」『第1回世界指導者訓練集会』2003年1月11日, 17)

今日、より高い資格を備えた宣教師が求められています。「自制心を養い、世の中の低い標準よりもはるかに高い標準に従って生活し、罪を避け、あらゆる活動において高い標準を保つ」という預言者の勧告を受け入れ、伝道に備えてきた若い男性が必要なのです(「伝道活動」17)。

339の伝道部において、主の業は拡大しています。ですから、すべての若い男性が12歳で執事に、14歳で教師に、16歳で祭司に、それぞれふさわしく聖任され、18歳から19歳でメルキゼデク神権をふさわしく授かるように、わたしたちはさらに努力していく必要があります。そのためには、若い男性の心を主への愛で満たし、また主の贖いへの理解と感謝、驚くべき回復についての明察で満たしていかなくてはなりません。

青少年が福音の回復の意義を理解し、また神が天の御父であり、御自分の子供たちをすべて愛しておられることを確信し、イエスが救い主であり、御父と御子がこの最後の神権時代を始めるためにジョセフ・スミスを訪れられたことを確信すると、このメッセージを世界に知らせるために貢献したいと願うようになります。回復

のメッセージの真実性を証する具体的な証拠としてモルモン書を理解している青少年は、この真理を天の御父の子供たちに教えるために役割を果たしたいという望みで満たされるようになります。

宣教師訓練センターの宣教師たちと話したときに、伝道への備えとして何をしておけばよかったと思うか聞いてみました。とりわけ、以下の事柄が挙がりました。

● 聖文の勉強に集中して、もっと教義を学んでおく。

● 勉強の仕方と心から祈る方法を学んでおく。

● 自制心と勤勉さを身に付けておく。

● 宣教師の義務をよく理解しておく。

● 教える経験をより多くしておく。

● 監督や両親から綿密な面接を受けておく。

兄弟姉妹の皆さん、力を合わせて、イエス・キリストの福音をはっきりと力強く、教会のすべての青少年に教えてください。両親と協力し、すべての青少年を伝道と生涯にわたる奉仕に備えてください。教会に積極的であるかどうかにかかわらず、教会の貴い青少年一人一人を捜し求め、内に秘められているキリストの光を輝かせてください。ボイド・K・パッカー長老はこう述べています。「キリストの光は太陽の光と同じように普遍的なものです。人がいる所ならどこでも、キリストの御霊があります。あらゆる人が持っています。……人類を祝福し恩恵をもたらすすべてのものに靈感を与えています。善そのものをはぐくんでいます。」(「キリストの光」『リアホナ』2005年4月号, 13)

つまり、すべての人にキリストの光が宿っているのです。両親、教師、指導者の責任は、青少年の心の中心に証の炎が燃え上がるまで、彼らの光を輝かせ続けること、さらには、一人一人の青少年にその炎を携えて行かせ、人々の内にあるキリストの光が明るく輝くように助けさせることです。

もちろんサタンはそのことを知っていて、青少年を支配して、教会の教えを無視させようと躍起になっています。ですから、両親、指導者、教師はともに相談し、



若い男性と若い女性のことを一人残らず知らなくてはなりません。教会員として熱心であるかどうかを問わず、知る必要があります。

宣教師に求められる基準が厳しくなったのは事実です。これは両親や指導者に求められる基準も厳しくなったということです。すべての若い男性が伝道に出られるように、わたしたちも信仰を増し、さらに努めていく必要があります。

ヒンクレー大管長はまた次のような懸念について述べました。「わたしたちはもっと多くの宣教師を必要としています。宣教師の資格に関する基準を高めるというメッセージは、送る宣教師の数を少なくするようという合図ではなく、若い男性が宣教師の務めにさらによく備え、また彼らをそのような務めにふさわしい状態に保て

るよう、早くから若い男性に働きかけるようにという両親と指導者への呼びかけなのです。ふさわしく、肉体的および情緒的に能力のあるすべての若い男性は、この最も大切な業のために奉仕する備えをするべきです。」「(「教会の監督たちへ」『世界指導者訓練集会』2004年6月19日、27)

同様に若い女性について大管長はこう述べています。「宣教師として働く独身の姉妹に関する以前の勧告について、多少の誤解が生じています。わたしたちは幾らかの若い女性を必要としています。彼女たちは目覚ましい働きをします。長老たちには入って行けない家庭に入っていくことができます。しかし若い姉妹たちには伝道に出る義務はないことを心に留めておかなければなりません。彼女たちは自分たちには若い男性と同等の義務があ

ると感じるべきではありませんが、行きたいと願う人もいるでしょう。」「(「教会の監督たちへ」27)

兄弟姉妹の皆さん、なすべき仕事が山のようにあります。主の御霊が世界の多くの国々を覆っています。かつて閉ざされていた扉が開かれつつあります。今やわたしたちの手の届く所にいる、さらに多くの天の御父の子供たちに手を差し伸べるために、熱心に働く、強い証を持った宣教師がよりいっそう必要です。すべての人はわたしたちの兄弟姉妹であり、わたしたちには彼らに回復のメッセージを教える責任があります。

忠実に専任宣教師として奉仕する人の生活には、すばらしいことが起こります。伝道活動は簡単ではありませんが、無限の価値があります。伝道を終えて立派に

帰還した人は、伝道中に身に付けた生き方と奉仕の精神によって、自分自身と子孫の人生を祝福することでしょう。宣教師は、教会の各組織の力強い指導者や教師となるための備えをして帰還します。子供に福音を教えることのできる、義にかなった父母になる備えをして帰還します。専任宣教師の活動は、宣教師自身にとっても、また宣教師に出会い、教えるを受ける人々にとっても同様に祝福となります。

さて、監督や支部長の皆さんに特別なお願いがあります。皆さんは、基準に達していて、今年伝道の召しを受ける準備をしている人たちをすでに知っていることでしょうか。すべてのユニットの指導者にお願いします。両親と相談し、すでに決意を固めている人以外に、伝道に出られる若い男性を少なくとももう一人見いだすために祈ってください。教会の2万6,000以上のワードや支部から、すでに伝道に送り出そうとしている人たち全員と、それに加えてあともう一人を伝道地に送り出すなら、専任宣教師の数は増大し、福音をあらゆる国民、部族、国語の民、民族に告げ知らせるという神の命令に、その分だけ近づくことでしょう。もちろんこの宣教師たちは、ふさわしく、忠実で、健康で、献身的でなくてはなりません。恐らくもう一人の人は、まだ準備ができていないかもしれません。ですから両親とステークとワードの評議会の皆さんに、今年召しへの備えができる人が分かるように、聖なる御霊の識別の力に頼ってほしいのです。

彼らに手を差し伸べるに当たり、わたしの友人の経験を覚えておいてください。この友人は、馬が大好きなすばらしい女性と結婚するまで、馬を所有したことがありませんでした。新婚の妻をあとと言わせようと思った友人は、ある晩、これから子馬の調教をしに牧場に行くと言いました。友人は子馬より体重があり、子馬より分別もありました。友人は、手綱を引きさえすれば、子馬は言うことを聞くようになるだろうと思っていました。あつと言う間の、簡単な仕事だろうと思って



いました。

友人は手綱を取り付け、子馬の前に立って、手綱を引きました。子馬は抵抗しました。彼はさらに強く引き、子馬はさらに強く足を踏ん張りました。とうとう力任せに引いて、子馬を倒してしまいました。何度やっても同じことの繰り返しです。友人はこの訓練をこう評価しました。たったの4、5分で、見事に、子馬に転ぶことを教えた。馬の前に立ち、綱を持つだけで、子馬は転ぶようになったのです。

その様子を見ていた妻は、見るに見かねてこう提案しました。「子馬の前に立って引くのではなく、綱を子馬に巻きつけて、並んで歩いてはどうかしら。」友人にとっては残念なことでしたが、妻の提案が功を奏しました。

だれでも命令されたり、無理強いされたりすると抵抗したくなるようです。しかし、もし若い男性の肩に腕を回し、並んで歩くなら、若い男性は奉仕したいという望みを持つようになるでしょう。伝道に出られるもう一人の人の証を強めるときに、そのことを思い出してください。

家族、ステーク、ワード、あるいは支部で、豊かな伝道の伝統を築くために、よく考慮すべき事柄を3つ提案します。

第1に、すべての青少年に自分が何者かを理解させてください。初等協会に入るとすぐに、子供たちは「神の子です」を

歌います(『賛美歌』189番)。神の子であるということの真の意味を理解させてください。完全な福音を簡単に手にすることのできる今の時代に生きているということは、子供たちが前世で勇敢な決断をしたからであるということ、思い起こさせてください。教会の若人は義と真理に固く立つ必要があります。進んで奉仕することによって天の御父と主イエス・キリストに愛を示すならどのような祝福が得られるかを、若人ははっきり知る必要があります。

第2に、教義を教えてください。青少年のプログラム全体を見ると、活動や社交は適切な位置づけがされていますが、改心や決意を促すのは教義です。青少年は、イエス・キリストの福音が理解できるように、両親や教会の指導者や教師が助けてくれることを期待する権利があります。聖霊が青少年の心に真理を確信させ、その心の中にあるキリストの光に火をつけてくださいます。そうすれば、十分に備えられた宣教師をもう一人送ることができず。昨日リチャード・G・スコット長老は、福音を教えるために宣教師が現在使っている『わたしの福音を宣べ伝えなさい』という新しいガイドは、皆さんにも役立つ資料であると話しました。

最後に、一部の若い男性や若い女性にとっては、過酷でチャレンジに満ちた伝道に出ることは賢明ではないことを付け加えておきます。神権指導者から、専任宣教師として伝道に出なくてもよいと言われた場合には、家族とともにその決定を受け入れて、生活を続けてください。神殿で救いの儀式に参加する備えをしたり、別の方法で奉仕する機会を探したりしてください。そしてすべての会員にお願いします。様々な教会の召しを果たすすべての忠実な青少年を支え、励まし、大きな愛と理解を示してください。

兄弟姉妹の皆さん、イエス・キリストの神聖な使命について証します。より多くの青少年と夫婦が伝道に出るよう靈感を与え、励ますときに、皆が主から祝福を受けるように祈ります。イエス・キリストに御名により、アーメン。

信仰が答えです

七十人会長会

デビッド・E・ソレンセン

鍵となるのは、たとえ物事がうまく運ばなくても、いや、物事がうまく運ばないときにこそ、信仰と従順が答えであるということを忘れないことです。



1950年代初頭、合衆国は朝鮮半島で交戦中でした。当時、政府が採用していた徴兵制のために、若い男性は伝道に出ることが許されておらず、それどころか軍隊に入るよう義務づけられていました。そのことを知っていたわたしは大学在学中に陸軍予備軍将校訓練部隊に入隊しました。わたしの夢はいちばん上の兄のように将校になることでした。ところが、クリスマス休暇中に帰郷したときのこと、ホームワードの監督、バーン・フリーマン兄弟から監督室に呼ばれました。フリーマン監督はわたしに、ゴードン・B・ヒンクレイという名の若い教会の指導者が合衆国政府と交渉した結果、合衆国内にある教会の各ワードから若い男性一人を宣教師として召してもよいという合意に達した、と告げました。その場合、宣教師として召された男性は、その任期中、自動的に徴兵猶予の適用を

受けるということでした。

フリーマン監督は、その知らせについて祈っていたときに、自分のワードを代表して働く専任宣教師として、このわたしを推薦すべきであると感じたというのです。わたしは彼に、自分にはすでに別の計画があること、陸軍予備軍将校訓練部隊に入隊しており、将校になる望みがあるということを説明しました。監督は穏やかな口調で、次のように再度強調して言いました。「この特別な時期に伝道に出ようあなたを推薦すべきだと強く感じました。」そしてこう言ったのです。「家に帰って、両親に話し、今晚、自分の答えを持って戻って来てください。」

わたしは帰宅し、両親にその日の出来事を話しました。二人は、監督は靈感を受けている、喜んで主の奉仕への招きにこたえるべきだと言いました。陸軍将校になるという夢が遠のくことに、わたしがどれほど落胆しているか母には分かりました。母は次のような聖文を引用しました。

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。

すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」¹

その夜、わたしは監督室に戻り、監督の勧めに応じました。監督はわたしに陸軍徴兵事務所に行き、自分の決定について報告するようと言いました。

わたしは監督に言われたとおりにしました。驚いたことに、陸軍徴兵事務所の所長であった女性にこう言われました。「伝道の召しに応じた場合、陸軍予備軍将校訓練部隊に再入隊する前に召集令状

を受けます。そして将校としてではなく、下士官兵（訳注——将校より下の位）として働くことになります。」

予想外の展開となりましたが、伝道自体はすばらしい経験でした。ほかの宣教師と同様、わたしの人生も伝道を通じて変わりました。ただ、合衆国陸軍に徴兵されるという政府の召集令状は、先の言葉どおり、伝道の召しから解任される約1か月前に送られて来ました。

基礎訓練キャンプと憲兵学校を終えたわたしは、陸軍基地に配属され憲兵として働くことになりました。ある夜のこと、わたしは捕虜の団を一晩掛かりで一つのキャンプ地から別のキャンプ地へと護送する任務を与えられました。

その夜、団は移動半ばで休憩を取りました。指揮官はわたしたちにレストランに入って、残りの時間ずっと目を覚ましていられるようコーヒーを飲むように指示しました。指揮官はすぐにコーヒーを辞退するわたしの姿に気づきました。彼はこう言いました。「君、移動の残りの時間、眠くならずに済むように少しコーヒーを飲んでおきなさい。自分が担当している捕虜の中から一人でも脱走したり、問題を起こしたりする者が出たら困るからね。」わたしはこう答えました。

「指揮官殿、わたしは謹んで辞退いたします。わたしはモルモンで、コーヒーを飲まないのです。」

指揮官はわたしの返答を受け入れず、もう一度コーヒーを飲むように勧めてきました。

わたしも、もう一度、丁重に断りました。わたしはバスの後部座席に座り、武器を手を持ち、ずっと目を覚ましていられるように、また武器を使う必要がないように心の中で祈りました。移動は何事もなく終わりました。

数日たって、同じ指揮官から個人的な面接をしたいのでオフィスに来るように言われました。彼は「この前の夜を徹しての移動の間、君が目目を覚ましていられないのではないかと心配だったが、自分の信念を貫く姿勢に好感を持った」と言いました。それから驚いたことに、彼



は「自分の補佐が転勤することになったので、君を次の補佐に推薦することにした」と言いました。

それからの2年間のほとんど、わたしは幾度となく指導的かつ管理的な任務を果たす機会にあずかりました。結果的に、わたしは軍務に就いていた間、以前には想像できなかったほどの有意義な経験を行うことができました。

この短い話から、またこれまでの人生で得たこのような数々の経験から、わたしたちの煩い、心配、苦しみに対する答えは信仰と従順であるということを知りました。主イエス・キリストに対する信仰こそわたしたちの人生を変え、わたしたちを救いへと導く真の力なのです。

どうすればこの信仰をはぐくむことができるのでしょうか。それは行動することによってです。わたしたちはニーファイが勧告しているように「行って、主が命じられたことを行」²わなければなりません。また母が愛をもって教えてくれたように、「心をつくして主に信頼」しなければなりません。感謝すべきことですが、たいいていの場合、信仰を行使して、主の御心^{みこころ}を行う人は、その従順に対して豊かな祝福を受けることができます。

しかし、時として、最善を尽くして主に仕えていても、苦しみを体験することがあります。きわめてチャレンジに満ちた状況に直面している人が知り合いの中にいるかもしれません。例えば、病気の子供が

いる両親について考えてください。その子供のためにだれもが全身全霊で祈り、断食します。しかし、最終的には亡くなってしまふことがあります。あるいは犠牲を払って伝道に出る宣教師について考えてください。そのような宣教師であっても恐ろしい病気にかかることがあります。そして重度の障害者となったり、長期にわたる苦痛を経験したりすることがあるのです。あるいは、能力の限りを尽くして信仰深く従順に生活しているのに望んでいる子供にまったく恵まれない女性について考えてください。家族のために良い家庭をつくらう、子供を正しく育てようと全力を尽くしているのに、夫に見捨てられる妻もいます。聖文には、例えば、燃える炉の中に投げ込まれたシャデラク、メシャク、アベデネゴのように、偉大な信仰を示した後に救われた人々の例が数多く記録されています。しかし同時に、深い信仰を持っていたにもかかわらず危機の中にあつて神の助けを受けなかった人々の例も数多く記録されているのです。アビダナイは火あぶりの刑で殺されました。バプテスマのヨハネは断首の刑を受けました。アルマとアミュレクの言葉を信じた人々は火の中に投げ込まれました。努力していても、必ずしもすべてがうまくいくとは限りません。鍵となるのは、たとえ物事がうまく運ばなくても、いや、物事がうまく運ばないときにこそ、信仰と従順が答えであるということをお忘れしないことです。

わたしたちが逆境に立ち向かうときに主の助けがあると主御自身が約束されたことをお忘れなさい。主は苦しむ者に特別な思いやりを持っておられます。「悲しんでいる人たちは、さいわいである。彼らは慰められるであろう」と言われたのは、主御自身です。³

贖いの業の中で、救い主はすべての苦しみを受けられました。主は肉体的、情緒的苦痛がどのようなものを御存じです。主は喪失と裏切りの悲しみを御存じです。しかしそれでも主は、最終的には、愛、忍耐、謙遜、そして従順が真の平和と幸福につながる道であることを示されました。主はこう言われました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。」しかし、わたしたちが単なるこの世的な慰めを超えたものを追い求めるように、イエスは次のような言葉を付け加えられました。「わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。」⁴ 世の人々は平安とは葛藤や苦痛のない状態だと考える傾向がありますが、主はたとえ苦しくとも慰めを与えてくださいます。主もその生涯で葛藤や苦痛を免れることはありませんでした。しかし、恐れはなく、豊かな意義深い人生を送られました。使徒ペテロは次のように記しています。「善を行って苦しみを受け、しかもそれを耐え忍んでいるとすれば、これこそ神によみせられることである。

あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。……

ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。」⁵

イエス・キリストを自分の救い主として受け入れたわたしたちは、キリストの功德にひたすら頼らなければなりません。主はわたしたちが最善を尽くした後、わたしたちを救われます。わたしたちが雄々しく信仰を働かせ、キリストの功德に頼りつつ前進するときに、何をするにつけ

でも、主はわたしたちを祝福し、導いてくださいます。主はわたしたちを強め、試練の中にあっても平安を与えてくださいます。「わたしたちは、見えるものによらないで、信仰によって歩いているので〔す。〕」⁶ わたしたち一人一人がもっと主に信頼を置くことができるように、そして主に対する信仰を増し加えることができるように祈ります。

さて、兄弟姉妹の皆さん、お話を終わるに当たって、わたしはもう一つの話に触れたいと思います。過去何年にもわたって、わたしは祝福され、ヒンクレー大管長を身近に観察することができました。皆さんに思い出していただきたいのは、彼が生ける預言者であると同時に、生ける聖見者でもあるということです。ヒンクレー大管長には、ほかの人々には見えないものが見えるのです。大管長には識別の賜物^{たまもの}があります。大管長は楽道家ですが、現実主義者でもあります。わたしは主に心から感謝しています。ヒンクレー大管長を生き長らえさせ、また過去10年にわたって、大管長とその二人の高潔な副管長に教会を導く力を与えてくださったからです。ヒンクレー大管長の神聖な導きを通して、教会は広範囲にわたる多くの祝福、また目に見えない多くの祝福を受けてきました。わたしは声を大にして皆さん一人一人にお勧めします。大管長の助言と導きにもっと厳密に従ってください。なぜなら文字どおり「主はその民のために、一人の聖見者を立てられた」からです。⁷

イエスはキリストであられます。ジョセフは回復の預言者です。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は生ける預言者です。イエス・キリストの御名^{みな}によって、アーメン。

注

1. 箴言3:5-6
2. 1ニーファイ3:7
3. マタイ5:4
4. ヨハネ14:27
5. 1ペテロ2:20-23
6. 2コリント5:7
7. モーセ6:36

キリストのような友、 これに勝る恵みはない

中央扶助協会第一副会長
キャスリーン・H・ヒューズ

神はその子らの必要を御存じです。そしてしばしば、わたしたちを通して、助け合うように促されるのです。



その日は大勢の人の親切に心を動かされ、人生を通して友人がどんなに大切だったかを痛感して神殿を後にしました。主はこれまで何度もわたしの心を動かされましたが、それは往々にして、友の手を通じて、つまり友を仲立ちとしてなされました。

ちょうど38年前の4月、結婚したばかりのデーンとわたしは、父と母に会うためにニューメキシコへ行きました。父は、州の北部にある山岳地帯へ日帰りのドライブに連れて行ってくれました。その日の午後、タイヤがパンクして道路わきで立ち往生している車に出会いました。運転手は、スペアタイヤもパンクしているので、タイヤを修理してもらうために近くの町まで乗せて行ってもらえないかと父に頼みました。父は、車の中にはその人の家族も乗っているのを見て言いました。「町へ行っても、日が暮れるまでに戻っては来られないでしょう。こうしましょう。あなたのタイヤはわたしのと同じサイズのようなので、わたしのスペアタイヤを使ってください。次にアルバカーキに来られることがあったら、そのときに持って来てください。」その人は父の言葉に驚いて言いました。「わたしがどこのだれかも御存じないのに。」すると父はいつもの調子で答えました。「あなたは正直な方のような。必ず返しに来てくれると信じていますよ。」

数週間後、あのスペアタイヤはどうなったのか父に尋ねてみました。無事に戻っ

数 週間前、夫と一緒に神殿に参入しました。中に入ると、神殿で奉仕をしているワードの友人が迎えてくれました。彼女とのあいさつから始まったその日の経験はすばらしいものになりました。以前にいたワードや地域社会の友人、そして様々な召しでも働いた兄弟姉妹など、これまでなかったほど大勢の人と会い、奉仕を受けました。最後に会ったのは美しい若い女性でしたが、見覚えがありませんでした。でも話し始めると、わたしが最初に若い女性の会長を務めたときのローレルクラスにいたロビンだとすぐに分かりました。思い出や近況を話し合いながら、彼女はあの時期がどんなに有意義だったかを話してくれました。わたしも同感でした。

て来たそうです。当年90歳になる父は、今でも前と変わらない生活をしています。父ぐらいの年の人は「食事の宅配」を受けている人が多いのですが、父は「高齢者」に宅配する側なのです。また病人や、人生の幕を閉じようとしている友人の病床を訪ねたり、ロータリークラブの毎年恒例の清掃奉仕にはチェーンソーを持って駆けつけたりしています。父の生き方やすることを見ていると、ポイド・K・パッカー長老の言葉を思い出します。父はまさに、「福音には活発」だったのです（「齢を重ねた男女」『リアホナ』2003年5月号, 82）。父の生涯は、賛美歌にあるように、周りの人に善い影響を及ぼし、皆を豊かにしているのです（“Each Life That Touches Ours for Good,” *Hymns* [英文], 293番参照）。父は友情というものをよく理解しています。

扶助協会の会長会にいと、主の愛が感じられないという言葉時々耳にします。しかし、思いやりを示してくれる人の行いの中に主の御手を見いだそうとするなら、主の愛をもっと身近に感じられるのではないのでしょうか。支部やワードの会員、近所の人、あるいは見知らぬ人からさえも、祝福を受け、キリストの愛を受けているのではないのでしょうか。ヘンリー・B・アイリング長老はこう教えています。「あなたは救い主を代表するよう召されています。あなたの証は主の御声となり、あなたがだれかを支える手は主の御手となります。……」（「神からの召し」『リアホナ』2002年11月号, 76）もしわたしたちがキリストの御名によって人を支えることができるならば、わたしたちも支えもらうことができます。

あるホームティーチャーは毎月欠かさず、夫を亡くした高齢の女性を訪問しています。それもただ訪問するだけではなく、秋には冷房装置に防寒の処置を施し、暖房装置のフィルターを点検します。これは神の愛なのか、それともホームティーチャーの愛なのか、どちらでしょうか。もちろん両方です。

「キリストのような友の優しい行いは



信仰を深め、
人生を豊かなものにしてくれる
これに勝る賜物はない
これに勝る恵みはない」
(*Hymns* [英文], 293番)

わたしは、人生を通じて、キリストのような友達に恵まれてきました。青少年時代の友人や、これまでに集ったすべてのワードで家族に祝福をもたらしてくれた大勢の人々などです。イエス・キリストの福音に対する信仰と献身、奉仕、賢明で優しい指導は生活を豊かにしてくれました。友人の中にはわたしとはまったく異なる人もいます。意見が合わなかったり、お互いに気に障るようなこともあります。しかし、友情があればそんなことは問題ではありません。むしろ喜んで違いを受け入れることができます。様々な経歴、年齢、民族が入り交じったステークを訪問するのは楽しいことです。

今わたしは、パーキン姉妹やピングリ

一姉妹、そしてほかの補助組織会長会と管理会の姉妹たちとともに奉仕することで、特別な篤い友情と姉妹同士のきずなを経験しています。皆とてもすばらしい女性です。心から愛しています。3年間一緒でしたから、会長会の姉妹たちはわたしをよく知っています。わたしの信仰や証がどんなものかよく分かってくれますが、同時に不安や悩みも理解してくれます。また指導者訓練の長い旅の後で疲れているときなどには、調子が良くないことも承知してくれます。わたしは二人の愛と忍耐を感じ、心にかけてくれるのが分かります。彼女たちの証と祈りはわたしを強め、その笑顔は一日を明るくしてくれます。あらゆる意味で、わたしたちは姉妹です。

わたし自身の家族ともずっと同じようにしてきました。妹がこの数か月間癌と闘っています。遠くに住んでいますが、電話で話すとき身近に感じます。妹がこの厳しい試練に立ち向かう中で、愛と祈り、思



い出や心からの証を分かち合ってきました。妹たちは皆わたしの大事な友です。兄や弟たち、愛する夫や子供たちも、そして孫たちも友達です(どんなに孫たちが騒がしくてもです)。

教会が回復された当時、新しい会員たちは「シオン」を築くために、一か所に集まりました。シオンは場所であり目的、つまり精神だったのです。しかし現在では、全会員が一か所に集まることはしません。支部やワードがわたしたちのシオンだからです。会員が互いに思いやるときに、シオンの精神を身に受けるのです。しかし残念なことに、教会員に感情を傷つけられて、教会から遠ざかる兄弟姉妹が時々います。もし皆さんがこのような問題のどちらかの側にいるならば、つまり傷つけた側または傷つけられた側であるならば、赦しを求め、あるいはその問題にどのように対処すべきだったかを考えてみてください。次のようなキリストの言葉を思い起こしてください。「わたしはあなたがたに言う。一つとなりなさい。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。」(教義と聖約38:27)

最近、ある女性からジョセフ・スミスについての質問を受けました。彼女は明らかにジョセフの召しと使命について疑問を持っていました。話している間に、主がオリバー・カウドリに言われた言葉が心に浮かびました。「わたしの僕ジョセフ〔の傍らに〕忠実に……立っていなさい。」(教義と聖約6:18)彼女に会った日もそうでしたが、わたしは人生のいかなるときでも、「彼女はジョセフの傍らに立って

た」と言われたと思います。ジョセフの友でいたいのです。

ジョセフ・スミス自身も大勢の人の善き友でした。ジョセフはこのように語っています。「友情は、『モルモニズム』の崇高な基本原則の一つです。世界を大改革し、教化し、戦争や抗争を鎮め、人を友や兄弟にする〔ためにあります。〕」(History of the Church, 第5巻, 517)

ジョセフは友情が単なる抽象的な概念ではないことを知っていました。ある日ジョセフは、暴徒によってある兄弟の家が焼き払われてしまったことを知りました。教会員が気の毒がっているのを聞いた預言者は、ポケットからお金を出して言いました。「わたしがこの兄弟を気の毒に思う気持ちを、5ドルのお金で表そうと思います。皆さんは……どのくらい〔彼のことを〕気の毒に思っていますか。」(ハイラム・L・アンドラス、ヘレン・マエ・アンドラス共編、They Knew the Prophet [1974年], 150)

わたしたちは友情について、預言者ジョセフと同じように考えているでしょうか。感じている善いことを具体的な助けとして実行に移しているでしょうか。神はその子供たちの必要を御存じです。そしてしばしば、わたしたちを通して、助け合うように促されるのです。このような促しに従って行動することは、聖なる地を歩くこととなります。だれかの祈りにこたえて神の代理人として奉仕する機会を与えられることになるからです。

兄弟姉妹の皆さん、もしわたしたちが預言者ジョセフの友であるならば、救い主の友でもあります。わたしたちは「主の

御名に身をささげる」(Hymns [英文], 293番)と断言できるような生活をしているでしょうか。ジョセフ・スミスは自らをささげました。今年、時満ちる神権時代を到来させた預言者ジョセフをたたえるに当たり、預言者が人類の友であっただけでなく、主の友でもあり、主に自らをささげたことを心に留めましょう。預言者はこう語っています。「わたしは神がわたしの友であられることを知っているの、自分の運命に満足するよう努めます。神を信じて安らぎを見いだすのです。」(The Personal Writings of Joseph Smith, デイジー・C・ジェシー編 [1984年], 239; つづりと句読点を現代の表記法に合わせて一部変更)

わたしたちにとって究極の友情とは、天の御父と御子イエス・キリストとの友情であることは明らかです。救い主は愛を込めて言われました。「あなたがたを友と呼ぼう。あなたがたはわたしの友である」。(教義と聖約93:45) 主が最も強く望んでおられることは、わたしたち兄弟姉妹を天の御父のみもとへ連れ戻すことです。ですからわたしたちの進むべき道は明らかです。それは生活の中で、全力を尽くして、キリストの特質と属性を身に付けることです。主の戒めに従い、主の業と御心を行うことです。

神殿で多くの愛する人たちに迎えられたあの日のことを思い出すと、わたしたちの日々の生活も同じように祝福されたものとなるのではないかと、よく想像します。あときキリストの純粋な愛をかいま見たように感じました。わたしたちはそのような慈愛で心を満たさなければなりません。わたしは、様々な背景を持つあらゆる世代の友人たちが協力し合いながら、イエス・キリストの教えに添った生活を送るワードや支部について思い描いています。

キリストが生きておられることを、今日ここに証します。主に感謝しています。自分が常に主の友でいられるよう、そして同時に皆さんの友でもいられるように祈っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

結ばれた心

十二使徒定員会

ヘンリー・B・アイリング

皆さんがバプテスマを受けたとき、先祖は希望をもって皆さんを見ていました。彼らは、自分を見つけ……るために子孫の一人が聖約を交わすのを見て喜(びました。]



わたしのメッセージは教会の改宗者に向けたものです。今日、教会員の半数以上は、8歳を過ぎからバプテスマを受ける選択をした人たちです。ですから少数派ではありません。皆さんに伝えたいのは、主がどれほど皆さんを愛し、信頼しておられるか、そして何より、主がどれほど皆さんを頼っておられるかということです。

皆さんはバプテスマを受けたとき、主の愛の少なくとも幾分かを感じました。何年も前に、わたしは20歳の若者をバプテスマの水に導きました。同僚とわたしが福音を教えたのです。回復された福音を聞いたのは、家族の中で彼が初めてでした。この若者はバプテスマを施してほしいと願いました。御霊の証によって、救い主の模範に従いたいと望んだのです。主は、罪がなかったにもかかわらず、バプテ

スマのヨハネからバプテスマをお受けになりました。

バプテスマの水から引き上げたとき、この若者は驚いたことに、涙を流しながらわたしの首に手を回して「ぼくは清い。ぼくは清い」と耳もとでささやきました。そして彼の頭の上に手を置き、メルキゼデク神権の権能をもって聖霊を授けると、その同じ若者は言いました。「祝福の言葉を聞いていたとき、火のようなものが体を伝って頭から足まで走るのを感じました。」

バプテスマの経験は一人一人違ったものでしょう。しかし、皆さんはそこで、与えられた祝福の大切さを多少なりとも感じました。そしてバプテスマのとき以来、自分が確かに約束を受け、主と約束を交わしたことを実感してきました。また、イエス・キリストの贖いのおかげで、バプテスマを通して清められたこと、聖霊を伴侶とする^{あがな}ことで、心が変化したことを感じてきました。皆さんの望みは変わり始めました。

だれかが「わたしは改宗者です」と言うと、わたしは「家族ではかに福音を受け入れた人はいますか」と尋ねます。受け入れた人がいる場合、その改宗者はどのように親やきょうだい、あるいは祖父母の生活に幸せな奇跡が起きたかをうきうきと話してくれます。だれかの家族が同じ祝福と幸福にあずかっていると知るのはうれしいことです。「いいえ、今のところ教会員はわたしだけです」と言うときは、ほとんど決まって両親のことを話し、次のように言います。「いえ、まだです。でも、努

力を続けています。」その声の調子から、その改宗者が努力をやめることは決してないと分かります。

聖約を受け、祝福を受けることを主が認められたとき、皆さんがこのような気持ちを抱くことを主は御存じでした。教会に入って感じた祝福を家族にも味わってほしいと願うことを知っておられたのです。さらに、聖なる神殿で主が交わされる約束の喜びを知るようになると、その願いがもっと強くなることも御存じでした。主はふさわしい人々と神殿で聖約を交わして下さいます。わたしたちは主の戒めを守ると約束し、主はわたしたちが忠実なら、来るべき世で家族ともに主と永遠に暮らすことができると約束して下さいます。

主はその愛にあふれた優しさにより、皆さんが両親や祖父母と永遠に結ばれたいという望みを持つことを御存じでした。わたしの祖父は、わたしが訪問することをいつも楽しみにしていたようでしたが、皆さんにもそのようなおじいさんがいたかもしれません。わたしはいとこたちが同じことを言うまで、祖父がいちばんかわいがっていた孫は自分だと思っていました。その祖父も亡くなりました。祖父母もその先祖も皆亡くなりました。皆さんの先祖の多くは、福音を受け入れる機会も、皆さんが受けた祝福と約束を受ける機会もないまま世を去りました。主は公平で愛にあふれた御方であるため、皆さんやわたしのために道を備えて下さいました。主が注がれたすべての祝福を先祖にも上げたいという望みを、わたしたちが抱けるようにして下さったのです。

それを可能にするための計画は初めからありました。主は御自身の子供たちに、ずっと昔に約束をお与えになりました。旧約聖書の最後の書は預言者マラキの書です。その最後の言葉は優しい約束であるとともに厳しい警告でもあります。

「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。

彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。

これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。』¹

この言葉の幾つかは理解すべき重要な言葉です。主の大いなる恐るべき日はこの世の終わりです。エホバ、つまり、メシヤが栄光のうちに来られます。悪人はすべて滅ぼされます。わたしたちは終わりの時に生きています。ですから、交わした約束を果たす時間は瞬く間に過ぎてしまうかもしれません。

主がなぜエリヤを送ると約束されたかを知ることは大切です。エリヤは神から大いなる力を受けた偉大な預言者でした。神が御自身の子供たちにお与えになる中で、最も大いなる力をエリヤは持っていました。それは結び固めの権能、すなわち地上でつなぐことを天でもつなぐ力です。神はその権能を使徒パウロにお授けになりました。そして主はエリヤを送るという約束を果たされました。エリヤは1836年4月3日、カートランド神殿が奉獻された直後に、預言者ジョセフ・スミスを訪れました。カートランド神殿は、福音の回復後に建てられた最初の神殿です。ジョセフはその神聖な瞬間についてこう述べています。

「……もう一つの大きいなる栄えある示現が突如わたしたちに開かれた。死を味わうことなく天に取り去られた預言者エリヤが、わたしたちの前に立って言った。

『見よ、マラキの口を通して語られた時がまさに来た。』……主の大いなる恐るべき日が来る前に彼〔エリヤ〕が遣わされ、

先祖の心を子孫に、子孫の心を先祖に向けさせ、全地がのろいをもって打たれることのないようにする、と証した人である。

『それゆえ、この神権時代の鍵はあなたがたの手にゆだねられている。これによってあなたがたは、主の大いなる恐るべき日が近く、まさに戸口にあるのを知ることができる。』²

教会に入ったとき、皆さんは自分の心が今いる家族と霊界にいる家族の両方に向けられたのを感じました。また主はもう一つの示現をお与えになり、皆さんがその気持ちをどうすべきか分かるように



してくださいました。

ジョセフ・スミスの後も、主は教会を導くために預言者を召されました。その一人がジョセフ・F・スミスです。スミス大管長は、救い主が霊界を訪れたときのことを示現で見ました。それは主の死と復活の間に起きたことでした。³大管長は、救い主が死の縄目を断たれ、主の贖いのおかげで復活できると知った霊たちが喜ぶのを見ました。またすべての霊に福音を宣べ伝え、聖約と祝福を選ぶ機会を与えるために、主が霊の間で僕たちを組織されるのを見たのです。その聖約と祝福とは、皆さんに授けられ、皆さんが先祖に望んでいるものです。すべての霊にその機会が与えられているのです。

スミス大管長はまた、霊界にいる天の御父の子供たちへ福音を携えて行くために、救い主が召された指導者たちを見ました。その中には父祖アダム、母エバ、ノア、アブラハム、エゼキエル、エリヤがおり、モルモン書の預言者たち、ジョセフ・スミスやブリガム・ヤング、ジョン・テラ

一、ウィルフォード・ウッドラフなど終わりの時の預言者もいたと、大管長は記しています。このような宣教師たちがどんなに強い力をもって先祖に福音を教え、その心に触れるか考えてみてください。霊界で救いのメッセージを聞く末日聖徒の先祖の中に、それを拒む人はほとんどいないであろうと、生前ウィルフォード・ウッドラフが言ったのも不思議ではありません。⁴

皆さんの先祖の多くは、宣教師の教えが真実であるという証を受け入れているでしょう。証を受け入れた人は宣教師にバプテスマを施すよう頼みます。しかし、霊界にいる人たちはそれができません。皆さんが非常に大切にしているこの儀式はこの世でしかできないのです。この世のだれかが聖なる神殿に行き、霊界の人のために聖約を受けなければなりません。ですから、わたしたちには先祖の名前を探し出し、生者の助けなしには受けることのできない儀式を先祖が受けられるようにする義務があります。

そのことを知ると、わたしの思いは、待っている先祖だけではなく彼らを教える宣教師にも注がれます。わたしはいつか霊界にいる宣教師と会うことになります。皆さんもそうです。先祖と一緒に立っている忠実な宣教師のことを考えてください。先祖を愛し、教えてくれた人です。そしてわたしと一緒に、近づくとほほえんでいる先祖やその宣教師の姿を思い浮かべてください。彼が改心させた皆さんの先祖は、皆さんが救い出しに来るまで、バプテスマも家族の結び固めも受けられなかったのです。そのような場ではどういった振る舞いが適切なのか分かりませんが、きっと彼らは皆さんの首に手を回し、感謝の涙を流すことでしょう。

宣教師と先祖のほほえみを想像できるなら、皆さんが救い主とまみえるときのことを考えてください。救い主と向き合って話すのです。主は皆さんと、御父の霊のすべての子供たちのために、罪の代価を払ってくださいました。主はエホバです。エリヤを遣わしてくださいました。完全な愛をお持ちの主は、結び固め、祝福する



神権の力を授けてくださいました。そして皆さんを信頼し、生きている間に福音を聞かせてくださったのです。こうして、先祖に福音をもたらすという義務を引き受けるチャンスを与えてくださいました。それは先祖が得られなかった貴重な機会でした。行いと信仰の代価を払って先祖の名前を探し出す人々を、主がどれほど感謝しておられるか想像してみてください。彼らは、主と先祖をこよなく愛しているため、先祖が最も大いなる神の賜物である永遠の命を得られるよう努めているのです。主はわたしたちの先祖に永遠の犠牲を払ってくださいました。先祖が永遠の命という主の贈り物を選べるように、何であろうと代価を払った人々を、主は愛し、感謝なさるでしょう。

皆さんの心はすでに先祖に向けられているので、代価を高いとは思わないかもしれません。簡単なことから始めます。家族についてすでに知っていることを書き出してください。両親と祖父母の名前や生年月日、死亡年月日、結婚した日を書

く必要があるでしょう。可能であれば場所も記録すべきです。覚えているものもあるでしょうし、親類に聞くこともできます。出生、結婚、それに死亡証明書を持っている親類がいるかもしれません。コピーを取って整理してください。先祖の生涯について分かったことがあれば、書き留めて保管してください。ただ名前を集めているわけではありません。この世では会うことのない人たちが、愛する友人になるのです。皆さんの心が彼らの心と永遠に結ばれます。

手始めに、過去にさかのぼって身近な数世代を探すことができます。それによって、助けを必要としている多くの先祖が分かります。教会のワードや支部には、神殿に提出する名前を準備するのを助けてくれる人が召されています。こうして先祖は神殿で聖約を受けます。そして霊の獄から開放され、家族、つまりあなたの家族と永遠に結ばれるのです。

先祖を調べる機会や義務は、世界の歴史の中で最もすばらしいものです。これ

までにない多くの神殿が世界中にあります。世界中でより多くの人が、エリヤの霊を感じ、先祖の生活の様子や出来事を記録するよう促されてきました。先祖を探すための資料がこれまでになかったほど多くあります。また主は知識をお与えになり、数年前には奇跡と思われていた科学技術によってその情報を世界中で利用できるようにしてくださいました。

それらの機会とともに、わたしたちには主の信頼を保つためにさらに大きな義務が課せられます。多く与えられた者は多く求められるのです。⁵ 身近な数世代を見つけた後、先祖の探求はもっと難しくなります。代価が高くなるのです。世代が古くなるにつれ、記録は不完全になります。同じ家系のだれかも先祖の探求をしていると、見つけた先祖がすでに神殿のすべての祝福を受けていると分かることもあります。そこで皆さんは難しく大切な選択をしなければなりません。先祖の探求をやめて、難しい部分をもっと慣れた人に任せてしまいか、あるいは、またいつ

か時を改めて探求を行うかという誘惑に遭うのです。しかし同時に、どんなに困難でもこの仕事を続けなければとも感じることでしょう。

先祖の探求を続けるか決めるとき、探すのが実に困難な名前は、実在する人の名前であることを忘れないでください。皆さんはその人たちのおかげでこの世に存在し、いつか霊界で再会するのです。皆さんがバプテスマを受けたとき、先祖は希望をもって皆さんを見ていました。彼らは、自分を見つけて自由にするために子孫の一人が聖約を交わすのを見て喜ぶまで、何世紀もかかったのかもしれませんが。再会したときに先祖の目に浮かぶのは、感謝か大きな失望のどちらかです。彼らの心は皆さんと結ばれています。彼らの望みは皆さんの手にあります。先祖の探求を続けると決意するとき、皆さんは自分の能力を超えた力を得ます。

数日前に夢を見ました。見知らぬ名前と、一部しか読めない日付が書かれた白い紙が見えました。わたしは起き上がると家族の記録を調べました。紙に書かれた名字は、300年前にイートンブレイと呼ばれた場所で母方の先祖とつながった家系のものでした。だれかが長い待ち時間の終わりを心待ちにしているのです。わたしはまだその人を見つけていません。しかし、愛にあふれた神が、家族を贖うというこの神聖な業の中で、祈りにこたえて助けを送ってくださるという確信を再び得ることができました。家族を贖う業は、神の業そして栄光であり、わたしたちが必ず果たすと約束したものです。これらをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

1. マラキ4:5-6
2. 教義と聖約110:13-16
3. 教義と聖約138章参照
4. "Discourse by President Wilford Woodruff" *Millennial Star*, 1894年5月21日付, 339-340
5. ルカ12:48参照

神が啓示された偉大な事柄

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

預言者ジョセフの神聖な召しと、ジョセフを通してもたらされた神の啓示という堅固な基の上を、わたしたちは前進して行きます。



愛 する兄弟姉妹の皆さん、何度か耳にしていると思いますが、今年の12月には預言者ジョセフ・スミスの生誕200年を記念します。それまでの期間、この意義深い日を祝うために、様々なことが行われるでしょう。

数々の本が出版され、様々な学者を招いてシンポジウムが開かれるでしょう。野外劇や新しい映画など、ほかにも多くの企画があります。

これらを期待しつつ、わたしはジョセフが残した最も偉大な功績を受け継ぐ第15代大管長として、彼の聖なる召しについて証を述べるべきであると感じています。

わたしは今、1冊の貴重な本を手に入れています。これは今から152年前の1853年、イギリスのリバプールで、オーソン・プラ

ットによって印刷されました。ルーシー・マック・スミスが息子の生涯についてつづったものです。

ジョセフが天使モロナイから受けた数々の訪れや、モルモン書が世にもたらされたことについて詳細に記されています。

本の中には、ジョセフが天使に会ったことを聞いた兄のアルビンが、家族全員でジョセフの語る「神が啓示された偉大な事柄」に耳を傾けるべきだと言った、と書かれています (*Biographical Sketches of Joseph Smith the Prophet and His Progenitors of Many Generations* [1853年], 84)。

神が預言者ジョセフを通して啓示された偉大な事柄——これが今日の話のテーマです。わたしたちの教会の教義や礼拝の仕方の中には、ほかのあらゆる教会と明らかに異なるものがたくさんあり、それらはすべて若き預言者ジョセフを通して神から啓示されました。その中の幾つかについて話します。皆さんにとっては聞き慣れたことですが、繰り返し学び、思い巡らす価値のある事柄です。

最初の偉大な事柄といえややはり、神御自身と、その愛する御子であり復活した主イエス・キリストが御姿を現されたことでしょう。思うに、この壮大な示現は、時の中間における主の降誕と生活、死と復活以来の、最も偉大な出来事です。

これに匹敵するような出来事の記録はほかにありません。

人々は何世紀にもわたって、集まっては神の性質に関する議論を繰り返していました。325年、コンスタンティヌスは様々な分派の学者をニケーアに集めました。2か月に及ぶ激しい討論の末に、妥協して一つの定義を受け入れました。これはその後何世紀にもわたって、キリスト教徒の神会に関する教義的信条となりました。

その定義を読み、少年ジョセフの語ったことと比較してみてください。ジョセフはただ、神が自分の前に立って、語りかけられたとだけ言っています。ジョセフはその目で神を見、その耳で神の御声を聞くことができたのです。神は人のような形をし、骨肉の体を持っておられました。神の傍らには、復活した主が、別の御方として立っておられました。そして神はその御方を御自分の愛する子であると紹介され、ジョセフは御子とも言葉を交わしました。

その驚くべき示現が開かれた短い時間に、ジョセフは神に関して昔の学者や聖職者のだれよりも多くの事柄を学んだのです。

この神聖な示現の中で再確認されたのは、主イエス・キリストが文字どおり復活されたことが疑いようのない事実であるということです。

神に関するこの知識は、何世紀にもわたって世の人々から隠されていました。これこそ、神が御自身の選ばれた僕に啓示された、最初の偉大な事柄だったのです。

そして、末日聖徒イエス・キリスト教会が真実であるかどうかは、この示現が現実に起こった真実の事柄であるかどうかにかかっています。

次に、神が啓示されたもう一つの非常に重要な事柄について話します。

キリスト教社会は聖書を神の御言葉として受け入れています。しかしほとんどの人は、聖書がどのようにしてできたかについては何も知りません。

わたしは最近、著名な学者の書いた、ある新刊書を読みました。そこに書かれていることから判断すると、聖書の中の各書は非体系的とも思える方法で1冊の本にまとめられたことは明らかです。あ



る出来事が起こってからそれが記録されるまでに、長い期間が経過してしまった場合も幾つかあります。それを考えると、「聖書は真実だろうか。ほんとうに神の御言葉なのだろうか」という疑問を持つ人もいるかもしれません。

わたしたちは、正確に翻訳されているかぎりそれは真実であると答えます。聖書が作られるに際しては、確かに主の御手がありました。しかし現在、そのような書物は聖書だけではありません。聖書に書かれている重要で意義深い真理に関す

る、もう一つの証があるのです。

聖文には、「すべての事がらは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する」と書かれています(2コリント13:1)。

モルモン書は神の賜物と力によりもたらされました。それは、地から叫ぶ声のように、神の御子を証しています。イエス・キリストの降誕、教導の業、十字架の刑と復活、またアメリカ大陸のパウンティフルという地に住んでいた義人たちに御姿を現されたことについて書かれています。

手に取り、読み、そして試してみること

のできる、形あるものです。その中には神からの約束が書かれています。何百万という人がそれを試して、真実の神聖な書物であることを知りました。

モルモン書はアメリカで出版された本の中で、読者に最も影響を与えた20冊の中に選ばれました。選んだのは、この教会以外の人々です。

聖書は旧世界の証であり、モルモン書は新世界の証です。両者はともに手を取り合って、イエスが父なる神の御子であられることを宣言しています。

この10年間だけで、5,100万冊のモルモン書が出版されました。今や106の言語に翻訳されています。

全能の神からの啓示として世にもたらされたこの神聖な書物は、まさにわたしたちの主が神であられるというもう一つの証です。

モルモン書はキリスト教世界のすべての人が手を伸ばし、喜んで受け、信奉したいと思っ**て**然るべき、躍動感にあふれた証です。なぜなら、それは預言者ジョセフに与えられた啓示として、偉大で基本的な真理をさらに増し加えてくれるものだからです。

もう一つは回復された神権です。神権とは神の御名によって行動する権能であり、どんな宗教にとっても権能はかなめ石となるものです。最近読んだもう1冊の本は、原始キリスト教会の背教に関するものでした。その教会の権能が失われてしまったら、どうやって回復されるのでしょうか。

神権の権能は一つの源からしかもたらされません。それは天から来ます。救い主が地上におられた時代にその権能を持っていた人々の手によって授けられました。

最初に、バプテスマのヨハネがアロン神権すなわち小神権を授けました。次に、主イエス・キリストの使徒であったペテロ、ヤコブ、ヨハネが訪れ、ジョセフとオリバー・カウドリにメルキゼデク神権を授けました。この神権は地上におられた主御自身の手によって、3人の使徒に与えられたものです。主は言われました。

「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐこ



韓国で、大会の途中で賛美歌を歌うために準備をする若い姉妹。

とは、天でもつながれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。」(マタイ16:19)

回復という美しい物語は、教会が組織される場面へと移ります。それは今週からさかのぼってちょうど175年前の1830年のことでした。教会の名前そのものも啓示によって示されました。だれの教会だったのでしょうか。ジョセフ・スミスの教会でしょうか。それともオリバー・カウドリの教会でしょうか。いいえ。この末の日に地上に回復されたイエス・キリストの教会だったのです。

預言者ジョセフに与えられた、この教会独自のもう一つの偉大な啓示は、家族が永遠の命を受けるための計画に関するものでした。

家族は全能の父なる神の創造物です。あらゆる人間関係の中で最も神聖なものであり、人が負うすべての義務の中で最も重要なものです。社会の根本を成す組織です。

神が預言者ジョセフを通して語られた啓示によって、家族をこの世だけでなく、永遠にわたって結び固めるのに必要な教義と権能がもたらされました。

この教義だけでも、効果的に教える能力がわたしたちにあれば、子供を愛し、互いに愛し合う何百万もの夫婦の関心を引くことでしょう。でも、彼らの結婚は「死が二人を分かちまで」の間しか、効力を持たないのです。

幼い子供たちには罪がないということも、神が預言者ジョセフという器を通して与えられたもう一つの啓示です。いわゆるアダムとエバの原罪というものの影響を取り除くために、幼児洗礼が一般的に行われています。回復された教義では、バプテスマは人が各々犯した罪の赦しを受けるためにあると教えられています。バプテスマを受けると、神と人は聖約を結びます。バプテスマは責任を負う年齢に達し、善と悪を見分けられるようになった人に施されるものです。全身を水に沈めるこの儀式は、イエス・キリストの死と埋葬、そして主が復活によってよみがえられたことを象徴しています。

もう一つの啓示された真理について話しましょう。

神は人を偏り見ない御方であると教えられています。しかし、生きている人が受けられるすべての祝福を、この世を去った人々のためにも備えているのは、わたしの知るかぎりこの教会だけです。死者の救いに関する偉大な教義は、この教会独特のものです。

人は、「救われた」と語るその口で、自分の先祖は救われておらず、救われることができないと認めています。

すべての人のためになされたイエスの贖いは、偉大な身代わりの犠牲です。主は全人類の身代わりとなり、その方法を示されたのです。人が他人のために何かをするというこの方法は、主の宮における儀式の中で行われています。わたしたちは主の宮で、福音を知らずに世を去った人々のために奉仕します。死者は、自分のために行われた儀式を受け入れることもできれば、拒むこともできます。地上

に生きる人と同じ条件の下に置かれているのです。死者にも生者と同一機会が与えられています。もう一度言いますが、全能者は何とすばらしく、栄光に満ちた方法を預言者ジョセフへの啓示を通して備えられたことでしょうか。

人の持つ永遠の性質も啓示によって明らかにされています。わたしたちは神の息子であり、娘です。神はわたしたちの霊の御父です。わたしたちはこの地上に来る前に存在し、個性を持っていました。そして、神の計画に従って、この地上に生まれてきました。神から与えられた選択の自由を使って行動し、自らのふさわしさを試すために、この地上にいるのです。そして、死んだ後も生き続けます。人の永遠に続く命には3つの段階があります。1つ目は前世、2つ目は現世、そして3つ目は来世です。死をもってこの世に別れを告げた後、人は幕を通り、ふさわしい天の領域に入ります。これもまた、この教会だけが持つ独特で貴い教義であり、啓示によって知らされたものです。

預言者ジョセフ・スミスの頭に神が注がれた、非常に多くの知識と権能について短くまとめて話しました。時間があれば、ほかのことにも触れられたでしょう。ただ、もう一つ話しておかなければならないことがあります。それは、現代の啓示に関する原則です。預言者ジョセフが記した信仰簡条に、次のような宣言があります。

「わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。」(信仰簡条1:9)

この困難な時代にあって発展を続け、全地に広がりつつある教会が、導かれ、前進するには、天の御座から絶えず啓示を受ける必要があります。

祈り、主の御心を切に求めるとき、道が示され、啓示が下り、主は行くべき道を進みゆく主の教会を祝福してくださることを証します。

預言者ジョセフの神聖な召しと、ジョセフを通してもたらされた神の啓示という堅固な基の上を、わたしたちは前進して行きます。今日に至るまで、多くのことが成し遂げられてきました。しかし、この回



復された福音を「あらゆる国民、部族、国語、民族」のもとに携えて行くには、さらに多くの成し遂げるべき事柄が残されています(黙示14:6)。

信仰をもってともに進む者として、皆さんと交わる機会を大変喜ばしく思います。皆さんもよく知っているように、背負っている荷が時には重いこともあります。でも、不平を言うのはやめましょう。信仰をもって歩み、分を尽くしましょう。

200周年を祝う今年、神からこれほどまでに多くを啓示された預言者ジョセフに、わたしたち自身の行いによって尊敬の意を表そうではありませんか。

1805年のある寒い日、バーモント州でジョセフの人生に日が昇りました。1844年のうだるように暑い午後、イリノイ州でその日は沈みました。38年半という短い生涯の中で、たぐいまれな知識と賜物と教義が、彼を通して豊かに注がれました。客観的に見ても、それに匹敵するものはありません。主観的に言うなら、それは全世界に住む何百万という末日聖徒一人一人の心に宿る証の本質であり、わたしも皆さんもその中の一人であることを誇

りに思っています。

わたしは少年時代、バリトンのすばらしい声を持つ男性が歌う、ジョン・テラー作詞の賛美歌を聞くのが大好きでした。

聖見者、聖見者、聖見者なるジョセフ……
彼を思うと、胸は愛に満ちあふれる
神に選ばれ、人類の友であった彼は
神権を再びこの世にもたらし
過去と未来をも見通し……
天の世界を示してくれた
("The Seer, Joseph, the Seer"
『賛美歌』[1948年、英語]、296番)

ジョセフはまことに聖見者であり、啓示者でした。生ける神の預言者であり、その時代と後の世に生きるすべての人に向けて語ったのです。

最後に、わたしの厳粛な証を付け加えます。ジョセフが神によって召され、徳高い人生を送り、死をもってその証を結び固めたことを、贖い主、主イエス・キリストの聖なる御名によって証します。アーメン。

何か願いがあるのか

十二使徒定員会
L・トム・ペリー

誠実に真理を求める人たちは、自分たちの問いの答えを見つけています。主の回復された教会を通して主を見いだしているのです。



の上なくすばらしい聖歌隊の後にお話しするのはとても難しいものです。聖歌隊の皆さん、美しい音楽をありがとうございました。

「その翌日、ヨハネはまたふたりの弟子たちと一緒に立っていたが、

イエスが歩いておられるのに目をとめて言った、『見よ、神の小羊。』

そのふたりの弟子は、ヨハネがそう言うのを聞いて、イエスについて行った。

イエスはふり向き、彼らがついてくるのを見て言われた、『何か願いがあるのか。』(ヨハネ1:35-38)

今日、世の中が実に様々な意味で「何か願いがあるのか」という質問の答えを探しています。永遠の魂を培ってはいくれないような事柄に一生懸命になっている人があまりにも多すぎます。

ヨーロッパ中央地域会長会とともに列車で集会に向かっていたときの経験を用い

て説明しましょう。一緒に行動するその機会を利用して、自分たちの割り当てについて話し合っていました。通路を挟んだ向かい側に座っていた男性が興味を持ち、「あなたがたはプロテスタントですか、カトリックですか」と質問してきたので、「どちらでもありません。わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員です」と答えました。その人はこの教会について聞いたことがあると言い、さらに続けて言いました。「この国であなたがたの教会が発展することはまず無理ですよ。政府はカトリックとプロテスタントの教会しか認めていませんからね。政府の財政援助を受けているのはこの二つだけです。政府の財政援助が受けられない教会は存続できませんよ。」

わたしたちは、教会の運営は政府の援助がなくても大変うまくいっていること、それは什分じゅうぶんの一という主のシステムを使っているからであることを説明しようと思いました。しかし、彼はその国でこの教会が発展することはないと言い張り、恐らく、もっと別な国で努力した方がよいだろうと言いました。もちろん、わたしたちは主のシステムが成功していることを証しあかしし、世界各地で建設中のすべての礼拝堂と神殿に関しても、資金の借入れをせずに進行していることを話しました。その人はとても驚いたようでしたが、納得はしてもらえませんでした。

政府の援助がなくても教会が存続できることを納得させられないと分かり、話題を変えようと思いました。そこでわたしはこう尋ねました。「今この国でいろいろな

変化が起きていますが、その結果はどうなるでしょうか。人口が減って、反対に移民が増え、ついにはあなたは自分の国にいながら少数派となってしまいますね。」

母国への大きな誇りをもってその人はこう答えました。「そんなことには絶対になりません。」

わたしは反論しました。「移民の増加が国の出生率を上回った場合も、お考えは変わりませんか。」彼はそれに対し、「この国でそのようなことは絶対にあるはずがない」との主張を繰り返しました。そのような事態になる前に国は移民を禁止するだろうというのです。

わたしはさらに続けて言いました。「現在のこうした傾向がある中で、どう食い止められるとおっしゃるのですか。」

彼の口から出た次の答えにびっくりしてしまいました。「わたしは82歳です。そのような問題が現実になったときには、とくに死んでいますよ。」

世界のこのような地域に福音を宣のべ伝えるときに直面する大きな問題は、宗教や霊的な事柄に関する世間の無関心です。多くの人が今の生活を大変心地よく思っており、飲み食いし、楽し〔む〕以上のことを必要だとは思っていません(ルカ12:19-20参照)。この世では、自分のこと以外に何も興味がないのです。

先進国では、人の信条や行動が非常に世俗的になりつつあり、その結果、人間は何をしてもかまわないのだと考える人が非常に大勢います。個人が考慮すべきことは、その人自身とその人が住む限られた狭い社会だけで、それ以外には、だれをも何をも勘定に入れる必要がないという考え方です。

この世俗的なライフスタイルが根付いている社会は、霊的、道徳的な高い代価を支払わなければなりません。地上の子供たちを治めるために主が確立された律法を無視して、いわゆる個人の自由を追求していけば、のろいを招くことになります。のろいとはつまり、極端な世俗性と利己主義、公衆道徳と個人道徳の衰退、権威に対する公然とした反抗です。

そのような世俗的な社会について教義

と聖約第1章16節には次のように表されています。「彼らは主の義を打ち立てるために主を求めようとせず、すべての人が自分の道を、自分の神の像を求めて歩む。その像は俗世の形であ……る。」

主が教会の民に、預言者に従い、世が求めるものとは異なるものを求めるようにと教えられた理由がここにあります。第1章の17節と18節を続けて読んでみましょう。

「主なるわたしは、地に住む者に下る災いを知っているのです、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアを訪れ、彼に天から語り、戒めを与えた。

また、ほかの者たちにも戒めを与えて、彼らがこれらのことを世に宣言するようにした。これはすべて、預言者たちによって書き記されたことが成就するためである。」

イエス・キリストの教会が「教訓に教訓、規則に規則」を重ねて地上に回復されたのは(教義と聖約98:12)、預言者ジョセフ・スミスを通してでした。ジョセフ・スミスは神の助けによってモルモン書を翻訳して出版しました。アロン神権とメルキゼデク神権がジョセフとオリバー・カウドリに授けられ、人類の救いのための神聖な儀式が再び始められました。

はっきりと宣言します。末日聖徒イエス・キリスト教会は「何か願いがあるのか」という問いに対する答えを持っています。この教会は、男性と女性が救い主とその福音を見いだすための手段です。ここに集っている大勢の皆さん、そして、世界中でこの大会を見ているさらに多くの皆さんは豊かに祝福されています。なぜなら、皆さん全員が回復された教会を探し求め、そして、見いだしたからです。

この教会は改革ではなく、回復の結果、世にもたらされました。先日の中央ヨーロッパでの経験は、宗教改革を行った初期のクリスチャン指導者たちに対する敬意と、彼らが担った役割への理解をさらに深めるものとなりました。改革の発端は、教義上の誤りを正そうとする彼らの努力でした。それらの教義上の誤りは、地上での務めの間に救い主がお立てになった教会からの長い背教の時代に生じ



たものです。ジョセフ・スミスは神の預言者であり、主の代弁者でした。そして、神の王国を打ち立て、主イエス・キリストの再臨に備えるために大切なすべてのものを回復しました。救い主を求めるときに大切なのは、主の教会を通して求めることです。主のみもとに帰るために必要なすべての救いの儀式は、主の回復された教会を通してのみ受けられるのです。

イエス・キリストの福音を分かち合うことには、想像もしなかったほどの難しさがあることを、現在の責任を通して実感しました。そのことを、教会員の皆さんすべてに知ってほしいと思います。とは言っても、日々新しい希望の片鱗を目にします。それはおもに主の祝福によるものですが、この地区の指導者や会員、宣教師の努力の賜物たまものでもあります。誠実に真理を求める人たちは、自分たちの問いの答えを見つけています。主の回復された教会を通して主を見いだしているのです。多くの実例の中から、3つの例を挙げてみましょう。人生に新たな信仰へんりんと新たな希望を見いだした父親と、ヤングシングルアダルト、そして、独身の姉妹の話です。

ある4人家族は最初、姉妹宣教師から話しかけられました。母親と子供たちは初めからモルモン書をよく読んで毎日祈り、教会に出席したいと思っていました。しかし父親は、母親と違ってキリスト教徒ではなかったために態度を崩しませんでした。自分の信念を見直すべきだとは、

まだ感じていなかったのです。

姉妹宣教師たちは、イエス・キリストについて重点的に教えるようにという靈感を受けました。彼女たちはこう言います。

「ジョセフ・スミスについて、またジョセフのキリストへの信仰について教えました。さらに、最初の示現からキリストについて分かる事柄、救い主に対する預言者ジョセフの証について教えました。モルモン書の中から一緒に読んだ箇所、また、家族で読むように勧めた箇所のすべてが、救い主についてもっとよく学んでもらうのに役立ちました。こうしてわたしたちは彼らが信仰をはぐんでいく姿を目の当たりにするようになったのです。彼らは居間に誇らしげにキリストの額を飾りました。その絵はわたしたちがプレゼントしたものです。」

父親の心が変化したのは、妻がバプテスマを受けたいと告げ、息子たちもバプテスマを受けるべきかを知るために祈る決心をしたときでした。そのときから父親はモルモン書をよく読むようになり、バプテスマについて祈るようになりました。教会が真実かどうかを知りたいと誠実に望むことで父親は変わり、家庭における霊の指導者となりました。一家がバプテスマを受ける直前に、父親は什分の一の献金用紙と封筒が欲しいと言いました。戒めを守ることを一刻も遅らせたくなかったのです。

別の例です。18歳から30歳までのヤン



グシングルアダルトの活発化を図るプログラムを作った結果、教会活動にあまり活発でなかった一人の若い兄弟が再び活発に集うようになりました。教会で行われた活動の最初の夜、出席者の中で宣教師以外の会員はその兄弟だけでした。しかし、この兄弟はその後の数週間で、およそ30人もの人を家庭の夕べなどの活動に連れて来たのです。

この兄弟はウェブサイトのデザイナーで、パートナーと組んで事業を始めました。現在は、このウェブデザイン会社に勤める二人と一緒に住んでいます。二人とも教会員ではありません。証を人に伝えるのに彼はとても勇敢です。例えば、キリスト教の教義を勉強したことがある一人の部下を、ヤングシングルアダルトプログラムにかかわっている宣教師に紹介しました。その人は今、活動に毎回出席しています。彼を教える宣教師を助けるために、この兄弟は、自分でも福音が真実であるという証をしているのです。

もう一つは、ドイツのハンブルク出身の若い女性の例です。この人は人生における霊的な意味を見つけられませんでした。そこで、神に祈って何をすべきかを尋ね始めました。3日間断食をし熱心に祈った後のある朝、家から歩いてバス停に向かいました。ところがバス停に着くと、その日に必要な鍵^{かぎ}を幾つか家に忘れて来たことに気づきました。家に戻り、鍵を取るとまたバス停まで歩きました。いつも乗るバスに乗れなかったことで、すっかり動揺していました。

ちょうどそのころ、二人の宣教師がハンブルク市の近くでバスに乗っていました。バスの中で突然、バスを降りたら最初に会った人に話しかけなければならないと感じました。バスを降りるとすぐにこの若い女性が目に入りました。二人は教会について簡潔に話をし、レッスンの約束を作りました。彼女もすぐに、長老たちが祈りの答えとして送られてきたと感じていました。教会の会員たちが宣教師と協力してこの

女性を教えるとともに、ワードの皆に受け入れられていると彼女が感じるようにしました。彼女はイエス・キリストの回復された福音のメッセージを受け入れ、3週間でバプテスマを受けました。そして現在、ワードの若い女性のプログラムで活躍しています。

主は地上で働いておられたとき、教会員の心に信仰をはぐくみ、福音の中で成長を続けるためには、組織が必要であることを知っておられました。今紹介した家族も、兄弟も、姉妹も、主の教会を見つけて教会に強められたことにより、救い主を見いだしています。

使徒たちの死後、教会全体を導き、各地の教会に指示を出す、中央の指導者がいないまま、教会は徐々に背教していきました。この歴史が教えることは明らかです。救い主の指示の下に、教会の管理を中央集権化する必要があるということです。それにより、救いと昇栄に必要な教義と儀式を与えることができるのです。

ポルノグラフィー

十二使徒定員会

ダリン・H・オークス

わたしたちは皆、個人の行動を改め、いっそう努力して……ポルノグラフィーの容赦ない攻撃から、愛する者たちと環境を守ろうではありませんか。

聖書には、主が地上での務めを果たしておられた間、正しい権能と組織を備えた教会をお立てになったことを証明する記述がたくさんあります。例えば、パウロはこう宣言しました。

「そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。

それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、

わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。

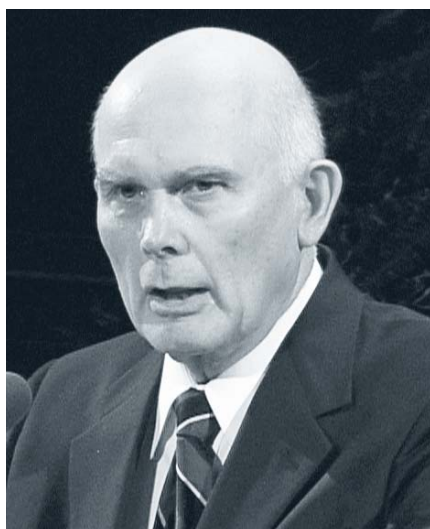
こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく、

愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。」(エペソ4:11-15)

信仰箇条の第6条にもはっきり述べられています。「わたしたちは、初期の教会にあったと同一の組織、すなわち、使徒、預言者、牧者、教師、祝福師などがあることを信じる。」

わたしたちは世界に向けて宣言します。神権は回復されました。神の統治される教会が地上にあります。わたしたちを神のみもとに導いてくれる、神の方式が確立されています。「何か願いがあるのか」という問いかけに対する最良の答えが教会にあることを、わたしたちは信じています。救い主はこう教えられました。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6:33)

れんがを一度に一つずつ積み上げて建物ができるように、救い主の真の教会も一度に一つの改心、一つの証、一つのバプテスマによって立てられます。どこにしようと、皆が主の教会を求め、見つけ、そして、立てることができるように、謙遜に祈ります。わたしたちが求める主イエス・キリストの御名によって、アーメン。



昨年の夏、オークス姉妹とわたしは2年にわたるフィリピンでの奉仕の機会はずばらしく、故郷へ帰ることも大きな喜びでした。家から離れているときには、周囲の物事を新しい観点で、さらに深い感謝の念と、時には新たな懸念を抱きながら見るものです。

わたしたちがアメリカを離れていた間に、ポルノグラフィーがこの国を襲っているのを目にして心を痛めていました。何年もの間、教会の指導者は性的な欲望をかき立てるような画像や言葉の危険性について警告してきました。今日、商業的利益を目的として作られ広がったポルノグラフィーの破壊的な影響力が、悪の雪崩のごとく社会に蔓延しています。

前回の大会で、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は話の時間のすべてをこのテーマに費やし、「わたしたちの間でさえ、これ

が非常に深刻な問題となっている」と、明瞭な言葉で警告しました(「悲劇をもたらす悪」『リアホナ』2004年11月号、60)。ステーキ大会で会う監督の多くが、この問題について深く憂慮しています。

メルキゼデク神権者の皆さん、そして若人の皆さん、今日わたしはポルノグラフィーについて話します。多くの人がこれにさらされており、そのせいで霊を汚している人が多いことを知っています。

話をこのテーマに絞るとき、預言者ヤコブと同じ気持ちを感じます。彼はその時代の人々に、感じやすい妻や子供の前でひどくあからさまに話さなければならぬのは悲しいことであると語っています。難しい責任であっても、彼はそうしなければならなかったと言っています。神がお命じになったからです(モルモン書ヤコブ2:7-11参照)。わたしも同じ理由でそうしています。

自分の名前を付けた書の第2章で、ヤコブは「みだらな行い」について男性を叱責しました(23、28節)。また、彼らが「妻子の前に良くない手本を示して、感じやすい妻の胸を張り裂けさせ、子供たちの信頼を失った」と述べています(35節)。

甚だしく邪悪な「みだらな行い」とは何のことでしょうか。すでに何人かが悪事に手を染めていたことは明らかです。しかし、ヤコブの偉大な説教の主眼は、すでに犯した悪事ではなく、心の中にある悪事についてなのです。

ヤコブは説教を始めるに当たり、こう述べました。「〔彼らは〕今までわたしが宣べてきた主の御言葉に従ってきた。」(モ



ルモン書ヤコブ2:4)しかし、ヤコブは人々の心の思いを見抜き、彼らが「神にとって[非常に]忌まわしく思われる罪を犯し始めている」と言っています(5節)。そして「あなたがたの心が邪悪であることをあなたがたに証言しなければならない」とも述べています(6節)。ヤコブは「だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫かんいんをしたのである」と語られたイエスと同じことを話しているのです(マタイ5:28。3ニーファイ12:28;教義と聖約59:6;63:16も参照)。

30年以上前、わたしはブリガム・ヤング大学の学生たちに、読んだり見たりするものについて、「不道徳な性的関係を助長する文学」を避けるように強く勧告し、次のようなたとえを引用しました。

「わいせつな内容や性欲をかき立てるような物語や写真は、汚い食べ物や汚染された食物よりも害を及ぼします。体には有害な食物を受けつけない防衛作用があります。生死にかかわるわずかな例外はありますが、有害な食物を食べると、病気にはなっても、それが果てしない害悪を及ぼすことはありません。これに対して、汚れた話、わいせつな話、性欲をかき立てるような画像や書籍に絶えず接している人は、頭脳というこの優れた情報検索システムの中にそれらを記録として残すことになります。脳は汚らわしいものを吐き出すことができません。いったん記録されると、それは呼び出すことができるテーマとして脳の中にとどまり、ゆがめられた映像が心

に浮かんできて、人生の健全な道からあなたを遠ざけるのです。!」

兄弟の皆さん、監督や専門のカウンセラーはポルノグラフィーにかかわる男性が増加しているのを目の当たりにしていると言わなければなりません。その多くが活発会員です。ポルノグラフィーにかかわっている人たちは明らかにその深刻さを軽視しており、神の神権を行使し続けています。だれにも気づかれたいと思っているからです。しかし本人が知っています。そして兄弟たち、主も御存じです。

ポルノグラフィーは神殿推薦状の面接の質問に含めるべきだと提案がありますが、すでに含まれています。面接を受ける人が霊的な感受性と、主の宮で礼拝する人に期待される正直さを持っていれば、少なくとも5つの質問が告白と話し合いへとつながるはずですが。

救い主の印象的な教えの一つは、隠れてポルノグラフィーを見ている人に当てはまります。

「偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。杯さかずきと皿との外側はきよめるが、内側は貪欲らんごくと放縦とで満ちている。

盲目なパリサイ人よ。まず、杯の内側をきよめるがよい。そうすれば、外側も清くなるであろう。」(マタイ23:25-26。アルマ60:23も参照)

救い主は続けて、目に見える部分は手入れをするのに、内なる人を清めないでいる人たちをとがめていらっしゃいます。

「あなたがたは白く塗った墓に似ている。外側は美しく見えるが、内側は死人の骨や、あらゆる不潔なものでいっぱいである。

このようにあなたがたも、外側は人に正しく見えるが、内側は偽善と不法とでいっぱいである。」(マタイ23:27-28)

このような偽善が霊にすぐに及ぼす影響は破滅的です。ポルノグラフィーを求め、それにふける人々は神権の力を失います。主は宣言されました。「わたしたちが自分の罪を覆い隠そうと……するとき、まことに天は退き去り、主の御霊は深く悲しむ。そして主の御霊が退き去ると、その人の神権、すなわち権能は終わりである。」(教義と聖約121:37)

ポルノグラフィーを見る人は御霊を伴侶とする権利も失います。ポルノグラフィーは霊性を破壊する幻想を生み出します。「肉の思いは死」——つまり霊の死です(ローマ8:6。2ニーファイ9:39も参照)。

聖典には、主の御霊は汚れた宮には宿らないことが繰り返し述べられています。ふさわしい状態で聖餐せいあんを受けるとき、わたしたちは「いつも御子の御霊を受け……」と約束されています。その約束にふさわしくなるために、わたしたちは、「いつも御子を覚え[る]」と聖約します(教義と聖約20:77)。性的な刺激のためにポルノグラフィーを求め、それにふける人々がその聖約を破っていることは明らかです。また、神聖でない、不純な行いから遠ざかるという聖約も破っています。そのような人は主の御霊を受けることができません。そのような人は皆、使徒ペテロの勧めに耳を傾けるべきです。「だから、この悪事を悔いて、主に祈れ。そうすればあるいはそんな思いを心にいただいたことが、ゆるされるかも知れない。」(使徒8:22)

兄弟たち、皆さんはわたしがポルノグラフィーの精神衛生面や犯罪行為などに対する影響について話しているわけではないということにお気づきでしょう。わたしは霊性に対する影響について、すなわち主の御霊を伴侶とする力、神権の力を行使する資格について語っているのです。

ポルノグラフィーは最も大切な個人的な

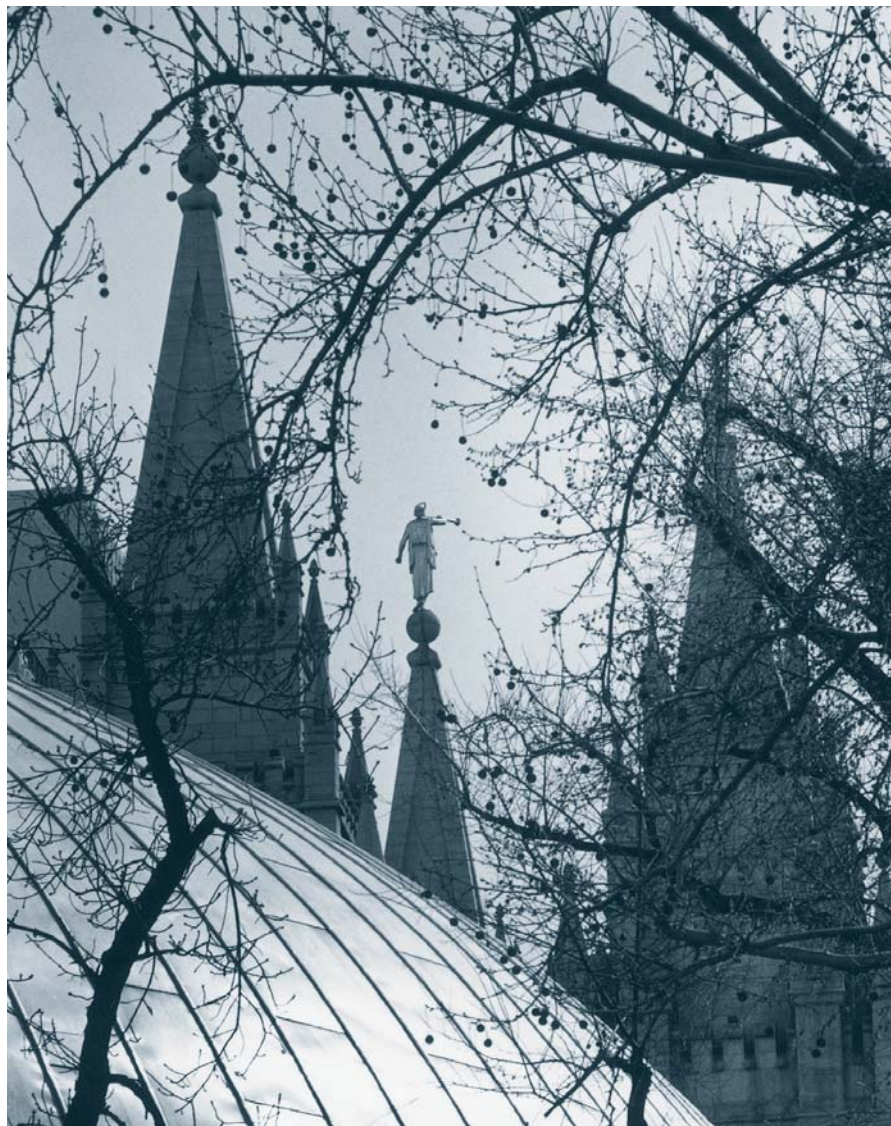
関係にも致命的な傷を負わせます。昨年10月、ヒンクレー大管長は神権を有する男性に向けた説教の中で、ある女性からの手紙を引用しました。その女性は、ポルノグラフィーが「心と魂を奥底まで傷つけ、……関係を壊し……てしまう」ということを教会員に警告してほしいと大管長に依頼しました(『リアホナ』2004年11月号, 60)。

最近のステーキ大会で、ある女性が似通った手紙をわたしにくれました。彼女の夫は教会で長い間大切な召しを受けていながら、ポルノグラフィーの中毒にかかっていました。そして、この問題を神権指導者に深刻に受け止めてもらうことが困難だと語っていました。「過剰に反応しすぎだとか、わたしのせいだとか——そんな答えばかりでした。現在の監督はよくやってくれます。夫は15年に及ぶポルノグラフィー中毒と向き合っています。しかし、今となっては15年の長きにわたる習慣を断ち切るのはいっそう困難ですし、その間に失ってきたものは計り知れません。」

ポルノグラフィーは、異性ととの間に正常な感情に基づく、ロマンチックで霊的な関係を築く能力を損ないます。また、不適切で異常な、違法行為に立ちはだかる道德の壁を破壊します。良心が鈍くなるにつれ、ポルノグラフィーを見る人は自分の人生やほかの人々の人生に及ぼす影響を考へることなしに、自分が目にしてきたことを行動に表すようになります。

また、中毒性もあります。意思決定の力を損ない、見る人を「とりこ」にし、取りつかれたように何度も繰り返させます。ポルノグラフィーと強い薬物の中毒になった男性は、このように比較しています。「わたしに言わせれば、コカインなんて比べものになりません。わたしは両方に手を染めたことがあります。……最も中毒性の高い薬物をやめることでさえ、[ポルノグラフィーをやめる努力]と比べれば何でもありません。」(2005年3月20日付けの手紙)

ある人々は、見ているのは「ソフト」であって、「ハード」ではないという議論をして、習慣を正当化しようとしています。ある賢明な監督はこのことを、悪を悪と認識しないことだと言いました。彼が引き合い



に出したのは、見る選択を正当化するために、「あれよりはましだ」、あるいは「良くないのはたった一場面だけだ」などと比較する人々です。しかし、何が悪であるかを判断するのは程度ではなく、その影響です。御霊が退き去るほど長く邪悪な思いを抱くならば、人は霊的な守りを失い、^あ悪しき者の力と命令に支配されるのです。この監督が言うところの「いつでも可能な性的興奮」のために(2005年3月13日付けの手紙)、インターネットやその他のポルノグラフィーを見るなら、大いなる罪の汚れを負うことになります。

ベニヤミン王の偉大な説教は悲惨な結末を述べています。わたしたちが主の御霊から身を引くとき、義の敵となり、強烈な罪の意識にさいなまれ、「主の御前から^{みまご}しりごみ」するのです(モーサヤ2:36-

38参照)。そして「そのような者には^{あわ}憐れみは及ばない。したがって、その者の最後の状態は、決して終わることのない苦痛に耐えることである」と結論づけています(39節)。

ダビデ王の悲劇的な事例を考えてください。ダビデはイスラエルの霊の巨人でありながら、見るべきでないものを見てしまいました(サムエル下11章参照)。見たものに心を奪われた王は、十戒の二つの戒めを破りました。その始まりが「あなたは姦淫してはならない」という戒めです(出エジプト20:14)。こうして、預言者でもあった王は昇栄から落ちたのです(教義と聖約132:39参照)。

しかし救いとなるのは、この苦痛へと続く墮落の道をだれも歩む必要がないということです。この恐ろしいエスカレーター

にとらわれたすべての人には、方向を変える鍵が与えられています。脱出できます。悔い改めて清くなることができます。

息子アルマは語っています。

「まことに、わたしは自分のあらゆる罪と不義を思い出し、そのために地獄の苦しみを味わった。……

……神の御前に行くことを考えるだけで、わたしは言いようのない恐怖に責めさいなまれた。……

そして苦痛に責めさいなまれていたときに、わたしは自分の多くの罪を思い出してひどく苦しみながら、見よ、かつて父がイエス・キリストという御方の来臨について民に預言するのを聞いたことを思い出した。イエス・キリストは神の御子であり、世の罪を贖うために来られるというのである。

心にこの思いがはっきりと浮かんできたとき、わたしは心の中で、『おお神の御子イエスよ、苦汁の中におり、永遠の死の鎖に縛られているわたしを憐れんでください』と叫んだ。

さて見よ、このことを思ったとき、わたしはもはや苦痛を忘れることができた。まことに、わたしは二度と罪を思い出して苦しむことがなくなった。

おお、何という喜びであったことか。何という驚くべき光をわたしは見ただことか。まことに、わたしは前に感じた苦痛に勝るほどの喜びに満たされたのである。』(アルマ36:13-14, 17-20)

このような中毒に陥り、誘惑に悩まされている兄弟たち、道はあります。

第1に、それが悪だと認識してください。言い訳や、正当化をしないでください。少なくとも4半世紀にわたり、指導者たちは、男性、そして女性や子供たちにもこの悪を避けるように訴えてきました。² 現在、教会機関誌にはこのテーマに関する警告や情報、助言が数多く載っています。今年と去年だけでも、20以上の記事が発行済み、あるいは発行予定です。³

第2に、主と主の僕の助けを求めてください。ヒンクレー大管長の言葉を心に留めてください。

「自分を縛りつけている中毒を取り除



いてくださるように、心の奥底から、主に願い求めてください。また、勇気を奮い、監督の愛に満ちた導き、必要ならば、思いやりのある専門家の助言を求めてください。』(『リアホナ』2004年11月号, 62)

第3に、それを避けるために、あらゆる努力を払ってください。もしポルノグラフィーにかかわる場にいると分かったら——これはこの世に生きているだれにでも起き得ることです——そのときはエジプトのヨセフの模範に従ってください。女性の誘惑が迫ったとき、彼は誘惑を避け、「外にのがれ出」しました(創世39:12)。

いかなる程度であっても誘惑に負けてはなりません。罪を遠ざけ、必ず起こる破滅に向き合わねばならないような事態を避けるのです。スイッチを切り、目をそらしてください。どんな犠牲を払ってでも避けるのです。健全な道に心の思いを向けるのです。聖約を思い起こし、忠実に神殿に参入してください。前に話した賢明な監督はこう述べています。「エンダウメントを受けた神権者が定期的に神殿で礼拝しているかぎり、ポルノグラフィーに屈することは絶対にあり得ません。神殿での礼拝に無関心になったときに、そうなるのです。」(2005年3月13日付けの手紙)

愛する人々を守るためにも行動しなければなりません。両親は、家族が煙や一酸化炭素にさらされたら警告できるように、警報装置を設置します。霊を脅かすものに対しても、防御策を講じる必要があります。例えば、インターネットの接続を制限するフィルターを用いたり、何を見ているのかだれでも分かる場所にモニターを置いたりすることができます。そし

て、家族の霊的な強さを培うべきです。愛にあふれた関係や家族の祈り、聖文学習を通してこれを行うのです。

最後に、ポルノグラフィーを支援してはなりません。あなたの購買力を低俗なものに使わないでください。若い女性の皆さん、ぜひ理解してください。慎みのない服装をする人は、あなたを見る男性にとってポルノグラフィーになり、この問題を悪化させているのです。

どうかこの警告を心に留めてください。わたしたちは皆、個人の行動を改め、いっそう努力して、霊性や結婚、子供たちを脅かすポルノグラフィーの容赦ない攻撃から、愛する者たちと環境を守ろうではありませんか。

これこそ、わたしたちが礼拝する御方から祝福を頂けるように、なすべきことであると証します。イエス・キリストが世の光であり命であられ、この教会が主の教会であることを証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

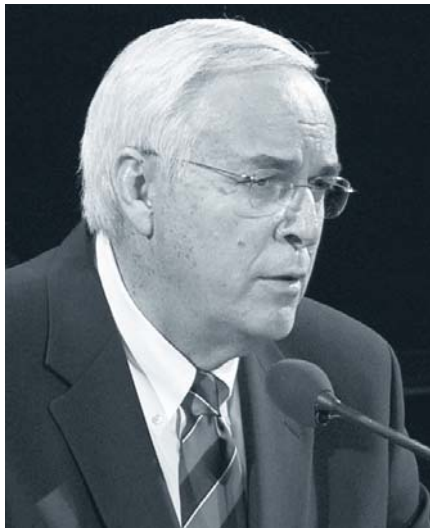
1. *Challenges for the Year Ahead* (小冊子, 1974年), 4-5. "Things They're Saying" *New Era*, 1974年2月号, 18で再版
2. 例えば、以下の記事を参照する。ゴードン・B・ヒンクレー「悲劇をもたらす悪」『リアホナ』2004年11月号, 59-62; デビッド・E・ソレンセン「毒蛇と戯れてはならない」『リアホナ』2001年7月号, 48-50; トーマス・S・モンソン「魔の運び屋——ポルノグラフィー」『リアホナ』2001年11月号, 2-6; デビッド・B・ヘイト「個人の性道徳」『聖徒の道』1985年1月号, 68-71
3. 例えば、以下の記事を参照する。ロリー・C・リード「義になつた生活に立ち返る——ポルノグラフィーを捨てる」『リアホナ』2005年2月号, 28-33; アリアンヌ・B・コープ "Internet Café" *New Era*, 2005年3月号, 34-37; ニコル・S・ラーセン "The Decision" *Friend*, 2004年3月号, 40-41

兄弟たちを カづけなさい

七十人

ロバート・J・ホエットン

**救い主が預言者とともに……常に教えてこられたことを行わなければなりません。
すなわち、奉仕し、信仰を培い、皆さんの愛と祝福を必要としている人々を養う
のです。**



「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか。」この問いにイエスは答えられました。「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』これらの二つのいましめに、律法全体と預言者が、かかっている。』¹

古代イスラエルから幾世代にもわたり、過去と現代の主の預言者は、すべてを包み込むこの永遠の真実を常に教えてきました。永遠の命を受け継ぐためには心に愛を持たなければなりません。永遠の御父である神と隣人への愛です。

地上での働きを終えようとするイエスは

ペテロに言われました。「しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちをカづけやりなさい。』²

ペテロはイエス・キリストの神性について、御霊によって受けた証がありました。ペテロは知っていました。その知識は啓示によって与えられたものでした。しかしながら、ペテロの改心、つまり生き方と根本的な性格の変化は、心を変える聖霊の賜物と証を受けた五旬節の日の後に、それまで以上に明白となったのです。

兄弟姉妹の皆さん、そうなのです。かつてのペテロと同じように、わたしたちにも証があります。しかし改心が人生の中で継続的な過程となっているのでしょうか。造り主の手の中にある未完成の作品として、わたしたち一人一人は進歩を続けているのでしょうか。神は皆さんを通じて人々を祝福しておられるのでしょうか。隣人の重荷を軽くするために、主が皆さんを通してだれに祝福をお与えになりたいのか、祈りによって尋ねているのでしょうか。自分を愛するように隣人を愛しているのでしょうか。

イエスが律法学者に向かって、永遠の命を受けるためには自分自身と同様に隣人を愛さなければならないと言われたとき、律法学者は尋ねました。「では、わたしの隣り人とはだれのことですか。」イエスは善いサマリヤ人のたとえによって答

え、次にこう尋ねられました。「この3人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。」律法学者は言いました。「その人に慈悲深い行いをした人です。』³ イエスはこのたとえを通して、一人一人が、御父のすべての子供たちに積極的な愛と慈悲の心を示すべきだと教えられたのです。

ベニヤミン王は当時の聖徒にこう教えました。「日々罪の赦しを続けて受けるために、……それぞれ持ち物を貧しい人に分け与えるようにしてほしい。例えば、飢えている人に食べさせ、病人を見舞い、各々の入り用に応じて靈的にも物質的にも助けを与えることである。』⁴ 助けを必要としている人に靈的または物質的な援助を行っているのでしょうか。現代の預言者に命じられたように、群れに加わってくる人たちに手を差し伸べ、信仰を強めているのでしょうか。

改心とは、助けが必要な人を世話し奉仕するために生活をささげ、賜物や祝福を分かち合うことです。主は都合のいいときに羊の世話をしなさいとか、忙しくないときに羊を見守りなさいとは言われませんでした。主は「わたしの羊や子羊を養いなさい、この世で生き抜けるように助け、いつもそばにさせなさい、そして永遠の命を受けるための正しい選びができるように、安全な場所に導きなさい」と言われました。⁵

一つ一つの無私の親切な行いや奉仕が靈性を高めてくれます。神はだれかを祝福するために皆さんをお使いになります。継続的な靈的成長と永遠の進歩は、人間関係や隣人との接し方と大いにかかわりがあります。皆さんはほんとうに人々を愛し生活を祝福する者となっているのでしょうか。人といかに接するかが、改心の度合いを測る尺度ではないのでしょうか。教会の中で自分にかかわりのあることしか行わない人は、決して完全という目標に達することはできないでしょう。奉仕こそが、福音と永遠の命が求めているものなのです。

人生の旅路の中で、ともに歩む旅人に手を差し伸べ、生活を祝福しなければな



りません。また皆さんを必要とする人に、自分自身をささげなければなりません。主は言われました。「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。」⁶

ヤコブは「離散している十二部族の人々」⁷ にあてて書簡を記しました。その教えは、回復された福音を末日に受け入れる主の民、つまりわたしたちにも応用することができます。ヤコブは教会員との人間関係を築くうえで指針となる原則を教えています。また自分自身のように隣人を愛しなさいという戒めを「きわめて尊い律法」⁸ と考えています。ヤコブにとって、ただ証があるだけでは不十分なのです。生活の中で福音を日々実践しなければいけないのです。ヤコブは語りました。「そうしたら、わたしの行いによって信仰を見せてあげよう。」⁹ 「そして、御言みことばを行う人になりなさい。……ただ聞くだけの者となってはいけません。」¹⁰ またヤコブは改心を次のように定義しました。「父なる神のみまえに清く汚れない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まらずに、身を清く保つことに

ほかならない。」¹¹ 彼はその短い書簡を次の言葉で終えています。「わたしの兄弟たちよ。あなたがたのうち、真理の道から踏み迷う者があり、だれかが彼を引きもどすなら、かように罪人を迷いの道から引きもどす人は、そのたましいを……救い出し、かつ、多くの罪をおおふものであることを、知るべきである。」¹² 道に迷った兄弟を引き戻すことによって、その人と自分自身の両方を救うことになるのです。人の救いのために働くことにより、罪は覆われ、赦されるのです。

わたしは大変恵まれて、ラテンアメリカで生活し、主御自身とその預言者による次のような預言や約束が成就するのを目の当たりにしました。

「わたし〔は〕自分の民、イスラエルの家を長年の離散した状態から集めて、彼らの中に再びわたしのシオンを設ける……。

……わたしは彼らの中にわたしの教会を設けよう。彼らは聖約を交わし、わたしがこの地を彼らの受け継ぎとして与えた、このヤコブの残りの者の中に数えられるであろう。」¹³

文字どおり何十万もの人々がラテンアメリカのほとんどすべての国から集まっ

ています。この発展はこれからも続くと預言されています。発展は非常に大きな課題ですが、同時に、わたしたち一人一人にとって、この上なくすばらしい機会でもあります。

使徒パウロも当時の新会員に言いました。「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。」¹⁴

教会が急速に発展している地域では、いまだに多くの人が自分は異国人や宿り人で道端に放っておかれていると感じています。もし預言が成就するのを見なければなりません。「そして人々はバプテスマを認められ、……キリストの教会の民の中に数えられ、その名が記録された。それは、彼らが覚えられ、……養われ、そして彼らを正しい道にとどめるため……である。」¹⁵

多くの活発な教会員は、活発に教会に集っていない会員や道からそれてしまった新会員が異なる行動を取るのには、教会の教義を信じていないからだと考えています。調査によるとこのような考えは正しくありません。現在教会に活発に集っていない会員で、調査を受けた人々の大部分が神の存在を信じており、イエスが救い主であり、ジョセフ・スミスが預言者であって、教会が真実であると信じていることが分かったのです。

多くのワードや支部には、善良で高潔でありながら、ただどうやって教会に戻ればよいのか分からない男女がたくさんいます。中には善い母親や父親もいます。少し教会から離れただけなのですが、だれも様子を見に来ないために、結局だれも気にかけてくれないという気持ちになっています。信仰を持った男女が訪れて友人になり、力づけてともに祈りをささげ、福音を教えるならば、彼らとその家族は戻って来ることでしょ。主は言われます。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」¹⁶ わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者とはだれのことでしょ。いちばん最近群れに加わった人ではないで

しょうか。あるいは活発に教会に集っていないけれども、もし真心からの励ましと助けの手が差し伸べられたなら戻って来る人かもしれません。

人々の霊の救いが懸かったこの大きな戦いの中で、伝道活動の基本方針がわたしたち一人一人にっそう明確に定められています。専任宣教師が求道者に福音を教え、改心の過程で重要な役割を果たすに当たって、会員がその場に同席することになっています。宣教師は「御霊……によって、……福音を宣べ伝え」るに際して¹⁷、自分自身の心からの言葉で、また、研究と祈りを重ねて心の中に蓄えた真理の言葉で語ります。継続的な改心の過程における宣教師の役割は、バプテスマで終わるわけではありません。宣教師は、霊的な養いを必要としている新会員らを続けて教えます。

最近の大管長会からの手紙は、神権指導者には新会員を強めて助ける責任があることを思い起こさせています。「フェローシップはワードのすべての会員が行うべきものです。……ホームティーチャーと訪問教師は、……大切な役割を果たすことができます。」新会員には、「ワードを強めるために奉仕し貢献する機会」を与える必要があります。¹⁸

兄弟姉妹の皆さん。新会員か古い会員かを問わず、もし改心と変化の過程を自らの内に継続させたいならば、人に仕え霊的な養いを与えなければなりません。また、人々が回復によるあらゆる祝福を受けられるように助けなければなりません。それには神殿の祝福も含まれます。

預言者ジョセフ・スミスは当時の聖徒にあてた手紙にこう記しました。「愛する兄弟たちへ。わたしたちの兄弟をいつも愛して助けること、これはすべての会員がその兄弟に対して進んで果たすべき義務です。神の前で義とされるために、わたしたちは互いに愛し合わなければなりません。……そして自分を愛するように隣人を愛し、^{かんなん}艱難の中でも誠実でなくてはなりません。」¹⁹

わたしたちの時代の預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう語っていま



す。「兄弟姉妹の皆さん、わたしには今、望み、祈っていることがあります。それは、……皆さん一人一人に、困っている人、苦しみを抱えて困難な境遇にある人を見つけ、愛の心をもって教会に導く決心をしていただきたいのです。そしてその人たちが、教会員の力強い手と優しい心によって温かく迎えられ、慰められ、支えられ、幸せの道を歩めるようにしてほしいのです。」²⁰

愛とは単なる言葉や宣言ではありません。第一の、大いなる戒めであり、行いを求める戒めなのです。主は言われました。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」²¹「わたしを愛するか。……わたしの羊を養いなさい。」²²

救い主が預言者とともに過去から現在にわたって常に教えてこられたことを行わなければなりません。すなわち、奉仕し、信仰を培い、皆さんの愛と祝福を必要としている人たちを養うのです。皆さんには、次のような主の約束があります。「そして、あなたがたを受け入れる者がだれであろうと、わたしもそこにいるであろう。わたしはあなたがたに先立って行こう。……わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。」²³

兄弟姉妹、愛をもって人の生活を祝福するとき、皆さんも主の御霊により祝福を受けるでしょう。主はこう説いておられます。両者ともに「理解し合い、……教化されて、ともに喜ぶ[であろう。]」²⁴

天の御父が、「御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられた」²⁵ 愛を注いでわたしたち一人一人を祝福してく

ださいますよう、祈っています。御子イエス・キリストが生きておられ、主の福音が愛の福音であることを証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. マタイ22:36-40
2. ルカ22:32
3. ルカ10:29, 36-37
4. モーサヤ4:26, 強調付加
5. ヨハネ21:15-16参照
6. マルコ8:35
7. ヤコブの手紙1:1
8. ヤコブの手紙2:8
9. ヤコブの手紙2:18
10. ヤコブの手紙1:22
11. ヤコブの手紙1:27
12. ヤコブの手紙5:19-20
13. 3ニーファイ21:1, 22
14. エペソ2:19
15. モロナイ6:4
16. マタイ25:40
17. 教義と聖約50:14
18. 2004年12月22日付けの大管長会の手紙。2005年2月11日付けの大管長会の手紙も参照
19. *History of the Church*, 第2巻, 229
20. 「援助の手を差し伸べる」『聖徒の道』1997年1月号, 99
21. ヨハネ14:15
22. ヨハネ21:17
23. 教義と聖約84:88
24. 教義と聖約50:22
25. モロナイ7:48

元気を出しなさい、 逆境の中で 忠実でありなさい

七十人

アデマール・ダミアニ

イエス・キリストの福音によって強さを得、永遠を見通す人は、未来に元気に立ち向かうことができます。



どうすれば世の中に平安を見いだし、最後まで堪え忍べられるでしょうか。困難や試練に打ち勝つには、どうすればよいでしょうか。

救い主イエス・キリストは言われました。「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」¹

この試しの世の一部として、人は苦しみや痛み、落胆を経験します。イエス・キリストにあってのみ、平安が見いだせるのです。主は人を元気づけ、この世の試練をすべて乗り越えられるようにしてくださ

います。

元気を出すとはどんな意味でしょうか。それは、希望を持ち、落胆せず、信仰を失わないで、喜びに満ちあふれて生活することです。「人が存在するのは喜びを得るため」²です。元気を出すとは、自信をもって生きることです。

イエス・キリストの福音によって強さを得、永遠を見通す人は、未来に元気に立ち向かうことができます。しかし、この時代に起こると預言されている試練を軽く考えてはなりません。

どのような試練があるのでしょうか。そして、どう対処したらよいでしょう。

来るべき試練には、希望の欠如、愛の欠如、平安の欠如などが挙げられます。

預言者モロナイは言いました。「もしあなたがたに希望がなければ、あなたがたは必ず絶望を味わうであろう。絶望は罪悪のために生じる。」³ 多くの人にとって、未来は絶望の時代かもしれません。罪悪が大きいほど、絶望も大きくなります。

救い主は言われました。「また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。」⁴ 罪悪が増すにつれ、真の愛は失われます。その結果、恐れ、不安、絶望が増すのです。

主は預言者ジョセフ・スミスに言われました。「わたしは……その日が速やかに来ることをすべての人が知るようにと望んで

いる……。〔そのときに〕平和が地から取り去られ、悪魔が自分の領域を支配する力を持つ……。そして、主も聖徒たちを支配する力を持ち、彼らの中で治め……。』⁵ 今は平和が地から取り去られた時代なのです。

一方、今はすばらしい時代でもあります。この時代に主は神権を回復なさいました。真実の福音も回復されています。地上における神の王国、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会もあります。今は、主イエス・キリストが来て自ら統治されるのに先立ち、地球を備える助けをする時代なのです。

なぜこの世には試練があるのでしょうか。

それは、信仰と従順を試すためであると、主は明言されました。「わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」⁶

伝道の書にはこう書かれています。「すべての人に臨むところは、みな同様である。正しい者にも正しくない者にも、善良な者にも……清い者にも汚れた者にも……善良な人も罪びとも異なることはない。すべての人に同一に臨む〔ことが一つある。〕」⁷ 福音の岩を土台として生きる賢い人の人生にも、この世のものを土台として生きる愚かな人の人生にも、試練は同じようにやって来るのです。⁸

そのような試練にどう対処するべきでしょう。

主は言われました。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」⁹ 毎日、自分の十字架を背負って進む必要があります。永遠の旅路を傍観しているだけではだめです。

試練と主の罰を見分けるには、どうすればよいのでしょうか。

試練は成長する機会です。主は言われました。「わたしの民は、すべてのことにおいて試みを受けなければならない。それは彼らが、わたしが彼らのために持っている栄光、すなわちシオンの栄光を受けるように備えられるためである。そして、懲らしめに耐えない者は、わたしの王国



日曜午前の部会が終わった後、ニュージーランド・オークランド・ハーバーステークセンターを後にする若い兄弟と、彼を助ける家族。

にふさわしくないのである。」¹⁰

試練のときには、深く考え、こう自問するべきです。「この状況の中で何をすることが主の御心みこころだろうか。」

主は預言者ジョセフ・スミスに、このような慰めの言葉をかけておられます。「息子よ、あなたはこのことを知りなさい。すなわち、これらのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となるであろう。人の子はこれらすべての下に身を落とした。あなたは人の子よりも大いなる者であろうか。」¹¹ 一つ一つの試練を成長の機会だと考えてください。いつの日か、試練の訳を知る時が来ます。

主は言われました。「わたしはまた、愛する者たちを懲らしめる。それは、彼らの罪が赦されるためである。わたしは懲らしめるとともに……彼らが……救い出される道を備えるからである。」¹² 主はわたしたち一人一人を愛し、幸福になるよう望んでおられます。幸福を得るには、イエス・キリストを信じ、真心から悔い改め、主の戒めに従い、最後まで堪え忍ぶ必要があります。

祈りが届かない、祈りの答えが得られ

ないと思うことがあるかもしれません。そのようなときには、時間を取り、これまでの行いをじっくり思い返してください。必要ならば、自分の生活をイエス・キリストの福音に一致させてください。主は預言者ジョセフ・スミスを通して言われました。

「主なるわたしは、彼らの背きのゆえに、彼らの受けている苦難が彼らに及ぶのを許した。……

彼らは主なる神の声に聞き従うのが遅かった。それゆえ、主なる彼らの神は、彼らの祈りを聴くのを遅くする、すなわち彼らの苦難の日に彼らにこたえるのを遅くするのである。

平穏な日には、彼らはわたしの勧告を軽んじた。しかし、苦難の日にはやむを得ずわたしを捜し求める。」¹³

生活を主の御心と一致させようと心から望むならば、主はいつでも喜んで重荷を軽くして下さるでしょう。

勇気と希望が砕かれる原因は何でしょう。

イエス・キリストは十二使徒への教えの中で、希望を打ち砕く原因を幾つか挙げられました。それは、自らを誘惑にさらすこと、苦難や試練、迫害を堪え忍ばない

こと、世の「思い煩い」に捕らわれること、富を第一とすること、最後まで堪え忍ばずにあきらめること、偽預言者の言葉に耳を傾けることです。¹⁴

勇気と希望を得るにはどうすればよいでしょう。

人は皆、主から次の御言葉を頂いています。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」¹⁵ イエス・キリストは人を苦痛や苦難から解放する力を持っておられるのです。

預言者モロナイはこう教えました。

「したがって、もし人に信仰があれば、必ず希望もあるに違いない。信仰のない希望はあり得ないからである。……

……また、人が柔和で、心がへりくだっており、イエスがキリストであることを聖霊の力によって認めるならば、その人には慈愛が必ずなければならない。」¹⁶

信仰、柔和、慈愛、へりくだった心を毎日持って生活し、イエスがキリストであられることを告白し、キリストの贖罪しよくざいを受け入れるなら、祝福として強さと希望が与えられ、この世の試練や苦痛に立ち向か

い、打ち勝つことができます。

主はすべての人に何を約束しておられるでしょうか。

「幼い子供たちよ、元気を出しなさい。わたしはあなたがたの中におり、あなたがたを見捨てていないからである。」¹⁷

「元気を出しなさい。わたしがあなたがたを導いて行くからである。王国はあなたがたのものであり、その祝福もあなたがたのものであり、また永遠の富もあなたがたのものである。」¹⁸

預言者エテルの言葉を引用します。「さて、神を信じる者はだれであろうと、もっと良い世界を、まことに神の右に一つの場所を、確かに望むことができる。この望みは信仰から生じ、人々にとって……^{いかり}錨となる。」¹⁹

神はわたしたちの御父であられ、わたしたちは神の子供です。神はわたしたちを愛し、この世と永遠においてわたしたちの幸福を望んでおられます。今日わたしたちは神の真の^{みこと}預言者に導かれています。イエスはキリストです。主を通して、わたしたちはこの世で安らぎを得ることができます。イエス・キリストの御名^なによって、アーメン。

注

1. ヨハネ16:33
2. 2ニーファイ2:25
3. モロナイ10:22
4. マタイ24:12
5. 教義と聖約1:35-36
6. アブラハム3:25
7. 伝道9:2-3
8. マタイ7:24-27参照
9. ルカ9:23
10. 教義と聖約136:31
11. 教義と聖約122:7-8
12. 教義と聖約95:1
13. 教義と聖約101:2, 7-8
14. マタイ13:19-23参照
15. マタイ11:28
16. モロナイ7:42, 44
17. 教義と聖約61:36
18. 教義と聖約78:18
19. エテル12:4

年齢を重ねた人々の 勧告に感謝する

七十人

スティーブン・B・オーブソン

^{あかし}証の力についての洞察と理解を深めることができるよう願っています。とりわけ、……(年齢を重ねた)人々の証に接したときに、それができ(ますように)。



愛する兄弟姉妹、このすばらしい総大会の終わりにゴードン・B・ヒンクレイ大管長の閉会の説教を聞くに当たり、わたしは一人一人が、自分がどれほど祝福されているか感じてほしいと強く願っています。わたしたちは主の預言者や使徒たちから、数多くの知恵や勧告を受けてきました。そして、もしその教えを心に留め、それに聞き従うなら、これまで以上に救い主に近づくことができるのです。わたしたちはこの時代に生を受けたことを特に感謝しなければなりません。教会の指導者は、その多くが高齢ですが、日々王国を前進させるために啓示と靈感を絶えず受けているのです。

若いころ、文書になった非常に力強い勧告を与えられました。それは自分が忠

実で従順な息子であることを示すために、成長して勧告や助言が必要になったときには、いつでも両親のもとへ行くようにというものでした。両親がどれほど「年齢を重ねて」いたとしても、彼らから知恵と慰めと導きを得るのです。父は20年以上前に亡くなりました。生涯を通じて、偉大で、典型的な知恵の源でした。そしてこの月曜日、101歳だった母のなきがらを、永遠の伴侶^{はんりよ}の傍らに横たえました。母は100歳になったとき、生涯守り通した証を次のように語りました。「福音は生き方そのものであり、苦しみをぬぐい去るために不可欠なものです。この人生はすばらしいものですが、次の世の生活はさらにすばらしいことを、これまで以上に実感しています。」(“Growing Old Graciously: Lessons from a Centenarian” *Religious Educator*, 第5巻, 第1話 [2004年], 11)

母はしばしば、「毎日、あなたやあなたの家族のために祈っているわ」と言っていました。そして、死期が迫るにつれ、母の祈りは特に熱心なものとなり、わたしにとって非常に意味のあるものとなりました。わたしの両親も、また妻の両親も同じように、義にかなった道を歩みながら、最後まで堪え忍んできましたし、現に堪え忍んでいます。そして、後に続くすべての子孫のために、信仰に満ちた献身という受け継ぎを残してくれているのです。

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、1990年1月号の『聖徒の道』でこう言って

います。「主は、主の民の中にいる高齢の方一人一人を理解し、愛しておられます。それは昔から変わりません。そして、高齢者にたくさんの大きな責任を課してこられました。様々な神権時代において、主は高齢の預言者を通して民を導いてこられました。彼らの年齢から来る知恵と経験、主の福音への長年にわたる忠誠からもたらされる靈感あふれる指導が、必要とされてきたのです。」(「教会の高齢の方々へ」4参照)

こうしたことを考えると、預言者や使徒たちが時代を超えて残した偉大な説教や祝福、証、訓戒、特に年老いて、ちりに下ろうとしているころの言葉を思い起こさせてくれます。このような別れのメッセージの中には、しばしば引用されるすばらしい聖句があります。例えば、モーセ書第6章57節で、エノクは次のように明言しています。「それゆえ、あなたの子供たちに次のことを教えなさい。すなわち、どこにいる人でもすべての人が、悔い改めなければならない。そうしなければ、決して神の王国を受け継ぐことはできない。清くない者は……神の前に住むことができないからである。」こうした福音の基本的な原則は、アダムとエバの時代から教えられ、世代を超えて伝えられてきました。そして聖文が証明しているように、それは現在も伝えられています。

エジプトに売られたヨセフは、イスラエルの民に次のような勧告の言葉を残しました。「わたしはやがて死にます。神は必ずあなたがたを顧みて、この国から連れ出し、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地に導き上られるでしょう。」(創世50:24)

時代が経過し、ヨセフの預言がまさに実現しようとしていたころ、モーセは、イスラエルの全部族のために祝福を残し、指導の責任をヨシュアに託しました。ヨシュアこそ、その民を約束の地に連れ戻した人物でした。自分の最期が近づきつつあることを知ったヨシュアは、次のような不滅の言葉を残しました。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に



仕えます。」(ヨシュア24:15)

その後の預言者である、エレミヤ、イザヤ、マラキといった人々も、その教導の業を通じて同じように忘れ難い証を残し、メシヤの来臨と無限の贖い^{あがな}について預言しました。

モルモン書にも全体にわたって同じような形が見られます。ニーファイ、ヤコブ、ベニヤミン王の最後の説教に注目しましょう。ベニヤミン王の力強い説教は、全国民の心を改めさせました。アビダナイのすばらしい言葉も忘れてはいけません。自分が間もなく死ぬことを知っていたアビダナイは、大胆に語りました。「贖いはまことの永遠の父である主なるキリストを通じて与えられるということを、民に教えなさい。」(モーサヤ16:15) ほかにもアルマ、息子アルマ、ヒラマンとその息子であるヒラマンが同じように語りました。ヒラマンは、自分の息子たちに実に貴重な勧

告を残しています。「わが子らよ、覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。……なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人がその上に基を築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」(ヒラマン5:12)

これらの預言者とモルモン書に登場するそのほかの預言者たちは、わたしたちの時代のために書き残しています。モルモンもその一人です。それは、この困難な時代にあるわたしたちが、彼らの知識と知恵を必要とすることを理解していたからです。モルモン書自体は、モルモンの息子であるモロナイの比類のない勧告で終わっています。こう記しています。「まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心^{みこころ}

に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と思いと力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分である。』(モロナイ10:32)

新約聖書にも同じような「最後の証」があります。例えば、パウロの言った「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした」という壮大な言葉は(2テモテ4:7)、パウロが最後まで耐え抜いたことを示す証言です。

力強い先任使徒ペテロの成長を見ると、深い洞察を得ます。「……また、みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。」(1ペテロ5:5-6)

そして、あらゆる時代を通じて、教えを請うべき最高の人物はだれかと問われれば、それは紛れもなく、復活された主御自身です。主は、使徒や従う者たちに次のようにお命じになりました。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ28:19-20)

こうした一連の聖句は、何と豊かな確信と知恵を与えてくれることでしょうか。その聖句一つ一つを結び合わせる共通の靈感を注ぐ糸が存在することに気づいているでしょうか。それは容易に見つけることができます。

- キリストである神の御子は生きていて、わたしたちの贖い主であり、救い主であられる。
- わたしたちは主を覚え、その戒めを謙遜に守ることにより、主に従い、主への愛を示すべきである。
- 主の贖いによって、わたしたちは悔い改めて清めを受けることができる。
- わたしたちは主の聖約の民であって、一度交わした聖約は常に守らなければ



ならない。

- わたしたちは世界中に主の福音を広める必要がある。
- わたしたちは信仰をもって、悔い改め、バプテスマと聖霊を受けて、最後まで堪え忍ばなければならない。

この神権時代においても、現代の回復の預言者たちが同じ原則を説き続けています。ジョン・テラー大管長の教えからは次のことが学べます。「主は人の子として、血肉が耐え得るあらゆる事柄に耐えられ、神の御子として、あらゆる事柄に勝利を取め、永久に神の右手に立つ御方となられたのです。」(『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』44)

こよなく愛するスペンサー・W・キンボール大管長の言葉から引用してみましょう。

「これらの古代の偉大な人々や使徒、同じ主であるキリストの業に携わった兄弟たちの証に、わたし自身の証も付け加えます。わたしは、イエス・キリストが生ける神の御子であり、世の罪のために十字架におかかりになったことを知っています。

イエス・キリストはわたしの友であり、わたしの救い主、わたしの主、そしてわたしの神です。

わたしは使徒たちが、……日の栄えの

王国において、主とともに永遠の受け継ぎを得られるよう心から祈っています。」(『キリストにあって永遠の望みを抱く』『聖徒の道』1979年2月号, 120参照)

現代の預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長も、力強い確信をもってわたしたちを導き続けています。大管長は、最近のステーキ大会でこう宣言しました。「わたしには、この業が真実であるという、真実の、熱烈な、いきいきとした証があります。永遠の父なる神が生きておられ、イエスはキリスト、わたしの救い主、贖い主であられるということを、わたしは知っています。この教会の頭として立っておられるのはキリストです。わたしがひとえに望んでいるのは、主がこの業を進めようとしておられるように、この業を前進させることです。」(『靈感を伝える言葉』『リアホナ』2003年10月号, 5)

古代から現代に至るすべての使徒や預言者の証を要約すると、預言者ジョセフ・スミスの不滅の言葉に行き着きます。ジョセフはこう宣言しました。

「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であられる。』(教義と聖約76:22-23)

わたしも、これまで引用してきた証が真実であるという、自分自身のささやかな証を付け加えます。わたしは、天の御父が文字どおりわたしたちの霊の御父であり、イエス・キリストが救い主、贖い主であり、わたしたちの主であることを知っています。主の戒めに従うなら、主は友となってください(ヨハネ15:14参照)。聖文の研究を重ねることによって、証の力についての洞察と理解を深めることができるよう願っています。とりわけ、偉大な知恵を備えた高齢の人々の証に接したときに、それができるよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

主の深い^{あわ}憐れみ

十二使徒定員会

デビッド・A・ベドナー

主の深い^{あがな}憐れみはすべての人に及ぶものであり、イスラエルの贖い主はそのような^{たまもの}賜物を授けたいと熱望しておられることを証します。



半年前、十二使徒定員会の最も新しい会員として初めてこの説教壇に立ちました。そのとき、わたしは自分に与えられた召しと、明確に教え権威をもって証する責任の重さを実感しました。その思いはさらに強まっています。話をするに当たって、聖霊の助けがあるよう祈っています。

今日わたしは、自分が受けた霊的な印象についてお話しします。昨年10月の総大会の日曜午前の部会で、わたしがこの説教壇に上る直前のことでした。ディーター・F・ワークトドルフ長老が説教を終え、救い主について力強く証を述べました。それから全員で起立し、ゴードン・B・ピンクレー大管長が事前に発表していた賛美歌を歌いました。そのときの賛美歌は、「イスラエルの救い主」(『賛美歌』4番)でした。

大会で歌われる音楽は何週間も前に決められています。そのときの曲も、わたし

が新しい召しを受けるずっと前から決まっていたことは確かです。しかし、もしこのカンファレンスセンターで初めて説教する前に、自分と聴衆にとって啓発的で心静まる賛美歌をその部会のために選ぶように頼まれていたら、きっといちばん好きな賛美歌である「イスラエルの救い主」を選んでいただいでしょう。皆さんとともに立って、回復について書かれたあの感動的な賛美歌を歌っているとき、目から涙があふれました。

歌い終えるころになると、モルモン書の一つの聖句が浮かんできました。「しかし見よ、主の深い憐れみは、信仰があるために主から選ばれたすべての者のうえに及び、この人たちを強くして自らを解放する力さえ与えることを、わたしニーフアイはあなたがたに示そう。」(1ニーフアイ1:20)

わたしは直ちに、「主の深い憐れみ」というニーフアイの言葉に引かれました。そしてまさにその瞬間に、そのような深い憐れみを実感していることに気づいたので、愛に満ちた救い主は、何週間も前に選ばれた賛美歌を通して、実に個人的で時宜にかなった慰めと確信の言葉を送ってくださいました。単なる偶然の一致だと言う人もいるかもしれませんが、しかし主の深い憐れみが実在することを証します。それらは決して無作為に、あるいは偶然に示されるものではありません。主の深い憐れみが御心に従って注がれるとき、わたしたちは度々それを識別し、認識することができるのです。

主の深い憐れみとは何でしょうか

昨年の10月以来、この「主の深い憐れみ」という言葉を幾度となく思い巡らしてきました。そして自ら研究、観察し、深く考え、祈りをささげる中で、主の深い憐れみについてさらによく理解できるようになったと感じています。主の憐れみはきわめて個人的です。それは主イエス・キリストから、主を通じて、一人一人の必要に応じた祝福、強さ、守り、確信、導き、愛と思いやり、慰め、支え、そして霊的な賜物として注がれます。主だからこそお与えになることができるのです。主はまさに「人の子らの状態に応じて憐れみを施」されます(教義と聖約46:15)。

救い主が使徒たちに、あなたがたを見捨てて孤児とはしないとおっしゃったのを思い出してください。救い主は「別〔の〕助け主」(ヨハネ14:16)、すなわち聖霊を送るだけでなく、御自身自らわたしたちのもとに来ると約束されました(ヨハネ14:18参照)。救い主が一人一人のもとに来られる方法の一つは、主の豊かで深い憐れみによります。例えば、皆さんやわたしが人生で問題や試練に直面するときに与えられる信仰という賜物と、そのときに必要な自分の能力を超える自信は、主の深い憐れみ^{ゆる}を表しています。悔い改めや罪の赦し、良心の平安も、主の深い憐れみの一例です。また、物理的な限界や霊的な困難に直面するときに、忍耐と不屈の精神をもって元気に前進できるのも、主の深い憐れみによるものです。

最近、あるステーキ大会で、わたしは主の深い憐れみを目の当たりにしました。4人の子供を抱える、ある若い母親の感動的な証を聞いたときのことで。彼女の夫は、2003年12月にイラクで命を奪われました。この信仰深い姉妹は、夫の死を知らされた後に、夫からのクリスマスカードとメッセージを受け取ったときのことを話してくれました。突きつけられた現実と劇的に変化する生活の中で、この立派な姉妹は、時宜にかなった、深い憐れみに満ちた言葉を思い出すことができたのです。それは、家族は永遠に一緒にいられるという夫の言葉でした。許可を頂きましたので、そのクリス

マスクードから直接引用します。

「世界一の家族へ。一緒にすばらしい時間を過ごして、クリスマスのほんとうの意味を思い出してください。主はわたしたちを永遠の家族にしてくださいました。だから、たとえ離れていても、わたしたちは一つです。

神様の祝福と守りがあって、このクリスマスをお父様へのお贈り物とすることができますように。

心からの愛を込めて。パパ、そして君の愛する夫より」

もちろん、このメッセージにある「離れていても」という夫の言葉は、軍務のために家族と離れていることを指していました。しかしこの姉妹にとっては、世を去った永遠の伴侶であり子供の父親である人からの、地から叫ぶ者の声として、最も必要としていた霊的な確信と証がもたらされたのです。先に述べたように、主の深い憐れみは無作為に注がれるものでも、偶然に示されるものでもありません。わたしたちの忠実さ、従順さ、謙遜さによって、生活に深い憐れみが注がれるのです。そして多くの場合、主の御心になかったときに初めて、そうした重要な祝福を認識し、心に留められるようになるのです。

以前、ある神権指導者と話す機会がありました。彼はあるとき促しを感じて、ステークの13歳から21歳までの青少年の名前を全部覚えることにしました。そして若い男性と女性の写真を使ってカードを作り、出張中やそのほかのときに何度も見たのです。彼はすぐにすべての青少年の名前を覚えしました。

ある晩この神権指導者は、写真でしか見たことのない一人の若い男性の夢を見ました。夢の中でこの若い男性はワイシャツを着て、宣教師の名札を付けていました。隣に座った同僚とともに家族を教えている様子でした。この若い男性はモルモン書を手に取り、この書物が真実であると証しているように見えました。その神権指導者はここで夢から覚めました。

その後神権者の集会が開かれた折、この指導者は夢に出て来た若者に声をかけ、しばらく話をしてもいいかと尋ねまし



た。短く自己紹介した後、彼はこの若者の名前を呼んでこう言いました。「わたしはめったに夢を見ないんだ。ステーキの会員が夢に出て来たのは、君が初めてだよ。わたしが見た夢について説明するから、どういう意味なのか分かるように助けてもらえないだろうか。」

この神権指導者は夢の内容を話した後、その夢が何を意味しているかを尋ねました。感動に声を詰まらせながら、この若者はただこう答えました。「それは、神様がわたしを御存じだということです。」その後の会話は、実に意義深いものとなりました。そして、それから数か月の間、頻繁に会ってともに話そうと約束したのです。

この若者は、靈感を受けた神権指導者を通じて主の深い憐れみを受けました。繰り返します。主の深い憐れみは、無作為に注がれるものでも、偶然に示されるものでもありません。忠実さと従順さによってこの重要な賜物を受けることができ、多くの場合、主の御心になかったときに、それらを認識することができるのです。

主の深い憐れみの力を過小評価したり、軽々しく見過ごしたりするようなことがあってはなりません。主の深い憐れみの簡潔さ、麗しさ、そして普遍性は、現在と将来にわたる困難に満ちた時代にあって、わたしたちを強め、守るうえで、非常に大きな役割を果たします。必要な慰めや内なる喜びを言葉では表現できないとき、説明がつかないことを伝えようとするとき、

人生の不公平や不平等について論理や理性に訴えても十分な理解が得られないとき、この世での経験や評価では、望ましい結果を十分に出せないとき、さらに、自分がまったく孤独に思えるとき、そのようなときこそ主の深い憐れみによって祝福を受けるのです。さらに自らを解放する力さえ与えられます(1ニーファイ1:20参照)。

主の深い憐れみを受けるように 選ばれた者とはだれでしょうか

ニーファイ第一書第1章20節の「選ばれた」という言葉が、主の深い憐れみという概念を理解する鍵になります。辞書によれば、「選ばれた」という言葉には、選ばれた者、選び取られた者、えり抜かれた者という意味があります。また、神に選ばれた者を指して使われる場合もあります(Oxford English Dictionary On-line, 第2版[1989年]“Chosen”)。

この話を聞いたり読んだりする人の中には、生活を振り返り、主の深い憐れみを受ける可能性を誤って過小評価したり、退けたりする人もいるかもしれません。「自分は選ばれていないし、選ばれることなどあり得ない」と思っているのです。わたしたちは、そのような祝福や賜物がもっと義になかった生活をしているように見える人や、教会の中で目立った奉仕をしている人のために取っておかれるのだと誤解してしまいます。主の深い憐れみはすべての人に及ぶものであり、イスラエルの贖い主はそのような賜物を授けたいと熱望しておられることを証します。

選ばれた者であること、選ばれた者となることは、限られた人にだけ与えられるものではありません。むしろ、自分が選ばれるかどうかは、皆さんもわたしも最終的には自分で決めることなのです。教義と聖約の次の聖句で、「選ばれた」という言葉がどのように使われているかに注目してください。

「まことに、召される者は多いが、選ばれる者は少ない。では、なぜ彼らは選ばれないのであろうか。

それは、彼らがあまりにもこの世のものに執着し、人の誉れを得ることを望んで



いる……からである。」(教義と聖約 121:34-35, 強調付加)

この聖句の意味するところは実に明快です。神は「お気に入りの名簿」など持っておられず、そこに自分の名前が加えられるよう望む必要はないのです。神は「選ばれた者」を限定しておられるわけではありません。むしろ、最終的に神に選ばれた者となるかどうかを決めるのは、わたしたちの心であり、わたしたちの望みであり、わたしたちの従順さなのです。

エノクは、教義上のこの重要な点について主から教えを受けました。これから引用する聖句で「選ぶ」という言葉がどのように使われているか注目してください。「これらあなたの兄弟たちを見なさい。

彼らはわたし自身の手で造られたものである。わたしは彼らを創造した日に、彼らに知識を与えた。また、エデンの園で人に選択の自由を与えた。

わたしはあなたの兄弟たちに語って、互いに愛し合うように、また父であるわたしを選ぶようにという戒めも与えた。」(モーセ7:32-33, 強調付加)

これらの聖句から学べることは、選択の自由という賜物の根本的な目的は、互いに愛し合い、神を選ぶことにあったということです。だからこそ、選択の自由を使って神を選ぶとき、わたしたちは神の選ばれた者となり、神の豊かな憐れみにあずかるのです。

最もよく知られ、度々引用される聖句の

一つにモーセ書第1章39節があります。この聖句は、永遠の御父の業を、明確かつ簡潔に説明しています。「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」(強調付加)

これと類似した聖句が教義と聖約の中にもあり、永遠の御父の息子や娘として第一になすべきことを、明確かつ簡潔に述べています。興味深いことに、この聖句はそれほど有名ではなく、度々引用されることもありません。「見よ、あなたの勢力と思いと力を尽くしてわたしの戒めを守ることが、あなたのなすべきことである。」(教義と聖約11:20, 強調付加)

以上のことから、御父の業とは、その子

供たちの不死不滅と永遠の命をもたらすことであると分かります。わたしたちのなすべきことは、勢力と思いと力を尽くして神の戒めを守ることです。それによって、わたしたちは選ばれた者となり、また聖霊を通して日々の生活の中で主の深い憐れみを受け、認識するようになるのです。

この週末にわたしたちが集っているこの大会も、主の深い憐れみを示す例です。わたしたちは祝福されて、救い主の教会の指導者から靈感あふれる勧告を受けました。それらはいずれも、この時代や、わたしたちを取り巻く環境、直面する問題に即した、実に時宜を得た勧告です。わたしたちは教えを受け、高められ、啓発され、悔い改めるよう告げられ、強められてきました。この大会にみなぎる御霊は信仰を強め、悔い改め、従い、改善し、仕えたいという心の望みをいっそう高めてくれました。そして皆さんと同じように、わたしはこの大会で気づかされたことや勧告、靈感に従って行動したいと強く望んでいます。間もなく、わたしたちは主の深い憐れみとして、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の結びの言葉と証を聞くことができます。まことに、「主はすべてのものに恵みがあり、そのあわれみはすべてのみわざの上にあります。」(詩篇145:9)

わたしは、預言者ジョセフ・スミスを通してイエス・キリストの福音が回復されたこと、また、主の深い憐れみについての知識を頂いていることに感謝しています。わたしたちが望みを持ち、忠実かつ従順であるなら、生活の中で主の憐れみを識別することができます。主の僕しもべの一人として、イエスがキリストであり、わたしたちの贖い主、救い主であられることをはっきりと証します。主は生きておられ、主の深い憐れみはすべての人に注がれることを知っています。すべての人は、この末日にわたしたちを強め、支えてくれる、主の深い憐れみを明らかに見、はっきりと聞くことができます。主の豊かで深い憐れみに対する感謝の念で心がいつも満たされますように。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

結びの言葉

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

主は確かに教会員を祝福してくださっています。ですから、助けを必要としている人々に、彼らがどこにしようと手を差し伸べなければなりません。



愛する兄弟姉妹の皆さん、すばらしい大会でした。主の御霊がともにありました。わたしたちは多くの真理を学びました。証が強められ、信仰が鼓舞されました。

まさに奇跡と言える近代技術により、大会の一部始終が全世界に放送され、世界中の教会員の約95パーセントが、わたしたちとともに参加することができました。

この大会は、預言者ジョセフ・スミスの働きを通してもたらされた、偉大な永遠の真理に対する信仰を新たに作るひとときでした。わたしたちは何と祝福されていることでしょうか。またこれらの卓越した真理を知る機会を与えられたことは、何と幸せなことでしょうか。

しかし、これまで語ってきたように、教会の会員として多くの祝福を受ける特権があるからといって、独善や高慢に陥ったり、他人を見下したり軽蔑したりするよ

うなことがあってはなりません。すべての人はわたしたちの隣人です。律法の中で最も大切な戒めは何かと尋ねられたとき、主はおっしゃいました。「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。……[また]自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。」(マタイ22:37, 39)

肌や目の色、話す言葉にかかわらず、わたしたちは皆、神の息子、娘です。愛と思いやりをもって互いに助け合わなければなりません。

住む地域は違っていても、わたしたちは親しい友人になることができます。また子供たちにきちんと教えさえすれば、彼らは教会員ではない子供たちと交わりながらも、堅固な会員でいることができます。さらに友人にとって宣教師となることさえできます。

教会のすばらしい青少年を誇りに思います。彼らは世の悪に立ち向かい、悪事を拒み、主に喜ばれる生き方をしています。またわたしたちは、彼らの両親が同じようにあらゆる点でふさわしく生活できるように常に祈っています。

以前伝えたことを繰り返しますが、主の宮を訪れることを習慣としてください。神殿参入ほど、正しい生活を保証するものではありません。神殿参入を通して、ポルノグラフィーや麻薬の乱用、霊性の低下などの悪影響をはねのけることができます。

教会は、大変な苦境にある人々の悲しみや苦しみを和らげるために、様々な組織と協力してきました。教会の人道支援活動は文字どおり、教会外の無数の人々



の生活を祝福してきました。恐ろしい津波災害や、紛争、疫病、飢饉などによる大きな不幸に対して、教会は名声について考えることなく、様々な組織とともに大いなる驚くべき業を行ってきました。

今年2月には、アメリカ赤十字社の社長から「人道支援の輪章」(Circle of Humanitarians Award)が教会に贈られました。アメリカ赤十字社が人道支援活動に対して贈る最高の栄誉です。これは、何千という幼い子供たちのはしか予防接種のために教会が行った多大な働きへの感謝を表すものでした。

また、国際ロータリーは先ごろ、第三世界でまだ根絶されていないポリオの撲滅活動に対する教会の貢献をたたえました。

これらの働きによって、無数の命が救

われ、苦痛や悲惨な状況が回避されてきました。

教会員から惜しみなくさげられた人力や財源により、わたしたちは苦境に立つ人々に手を差し伸べることができるのです。

主は確かに教会員を祝福してくださっています。ですから、助けを必要としている人々に、彼らがどこにしようと手を差し伸べなければなりません。

家路に就くに当たり、天の祝福が皆さんに注がれるよう祈ります。主の戒めに忠実でいてください。そうすれば主は天の窓を開いて、あふれる恵みを注いでくださるでしょう。わたしからの祝福と愛を皆さんに残します。そして、永遠の父なる神が生きておられるというわたしの証を皆さんに残します。神は人格を持った

実在する御方で、まことにわたしたちの御父であられます。神はわたしたちの祈りを聞き、こたえてくださいます。イエスがキリストであり、世の贖い主であられることを証します。キリストの御名は、わたしたちが救いを得ることのできる、天下に与えられた唯一の名です。神と主イエス・キリストが少年ジョセフに直接語って、この大いなる最後の神権時代の幕を開かれたことを証します。

愛する兄弟姉妹の皆さんを神が祝福してくださいますように。皆さんのうえに平安が常にとどまるよう、イエス・キリストの聖なる御名により、へりくだり祈ります。アーメン。

クモラからの 喜びのおとずれ

中央若い女性会長
スーザン・W・タナー

苦難の時代にあって真理のために立ち上がろうとするなら、わたしたちは単に生き残るだけではなく、モロナイのように勝利を手にすることでしょう。



ジョセフ・スミスが生前住んでいたとおりに復元された、小さく質素な丸太作りの家を訪れたとき、わたしは聖なる場所にいると感じました。そこは天使モロナイがジョセフ・スミスを最初に訪問し、イエス・キリストの福音を回復するという大なる驚くべき業の到来を告げた場所でした。古代の最後の預言者モロナイと、わたしたちの神権時代の最初の預言者ジョセフ、二人の偉大な預言者の人生のかかわり合いについて深く考えてみると、わたし自身の人生にも「当てはまる」点が数多くありました。この「大なる驚くべき業」について証を述べるに当たり、この二人にまつわる聖句を生活に「当てはめる」ことから学んだ事柄をご紹介します。

ジョセフが初めてモロナイに会ったのは、17歳のときでした。若い女性である皆さんの多くと同じ年齢です。いつどこで起こった出来事かも、正確に分かっています。それは1823年9月21日の夜、スミス家の2階の寝室で、ジョセフの5人のきょうだいが眠っている間の出来事でした。ジョセフは「神の前における自分の状態と立場を知る」ために祈り求めました(ジョセフ・スミス—歴史1:29)。ジョセフは自分の至らなさを感じ、神の御前にあってふさわしくないという思いを抱いていました。何か「大きな罪、すなわち憎むべき罪」を犯したわけではないものの、「愚かな誤りを犯し、若者としての弱さ……を示した」というのです(ジョセフ・スミス—歴史1:28)。そこでジョセフは、励ましを求めて祈りました。わたしは若き日のジョセフの思いをよく理解できます。きっと皆さんの多くも共鳴するところがあることでしょう。わたしたちはこれまで何度、自分の至らなさを恥じてひざまずき、神の励ましを求めたことでしょうか。

謙遜で、信仰深いジョセフの祈りにこたえて、天使モロナイが姿を現しました。ジョセフはこのように記録しています。「その方はわたしの名を呼び、……神がわたしのなすべき業を備えておられること……をわたしに告げられた。」(ジョセフ・スミス—歴史1:33)ジョセフは「この常ならぬ使者によって告げられたことを」不思議に思いました(ジョセフ・スミス—歴史1:44)。

ジョセフと同じようにわたしたちも、祈りの答えとして霊的な励ましを受けることができます。また、天の御父がわたしたち一人一人を個人的によく知っておられ、各自が地上で果たすべき使命を準備してくださっている、という証を得ることができます。

天使モロナイは、その夜のうちにさらに2回、ジョセフを訪れました。そして翌日には畑と、丘の中腹に現れたのです。それ以後4年間、毎年、現在クモラの丘として知られている場所に姿を現しました。最初の日に、モロナイは同じメッセージを繰り返し何度も伝えました。この出来事を自分自身の経験に当てはめて考えることができるのでしょうか。我が家の子供たちは時々、わたしが何度も同じ話をする、と言ってはからかいます。両親や指導者が同じ言葉を繰り返すからといって、うとましく思わないでください。主はモロナイに同じ言葉を繰り返させることによって、若き預言者を教えられました。繰り返すことによって、福音の原則は人の思いと心に深く刻み込まれるのです。

天使モロナイが定期的にジョセフ・スミスを訪れることにより、金版を封印した古代の預言者であるモロナイと、その金版を再び世にもたらすために選ばれた近代の預言者との間に、栄光に満ちたきずながはぐくまれていきました。古代から現代を通してすべての預言者を愛する心をはぐくむべきだと、わたしは信じています。ほとんどの現代の神殿の尖塔には天使モロナイ像が据えられています。モロナイ像は、神殿の建物と実によくマッチしています。この像を見ると、モロナイが、今夜聖歌隊が歌う賛美歌「長き沈黙破りて出ず」(『賛美歌』10番)の中に歌い上げられた、栄光に満ちた天使であることを思い起こすことができます。

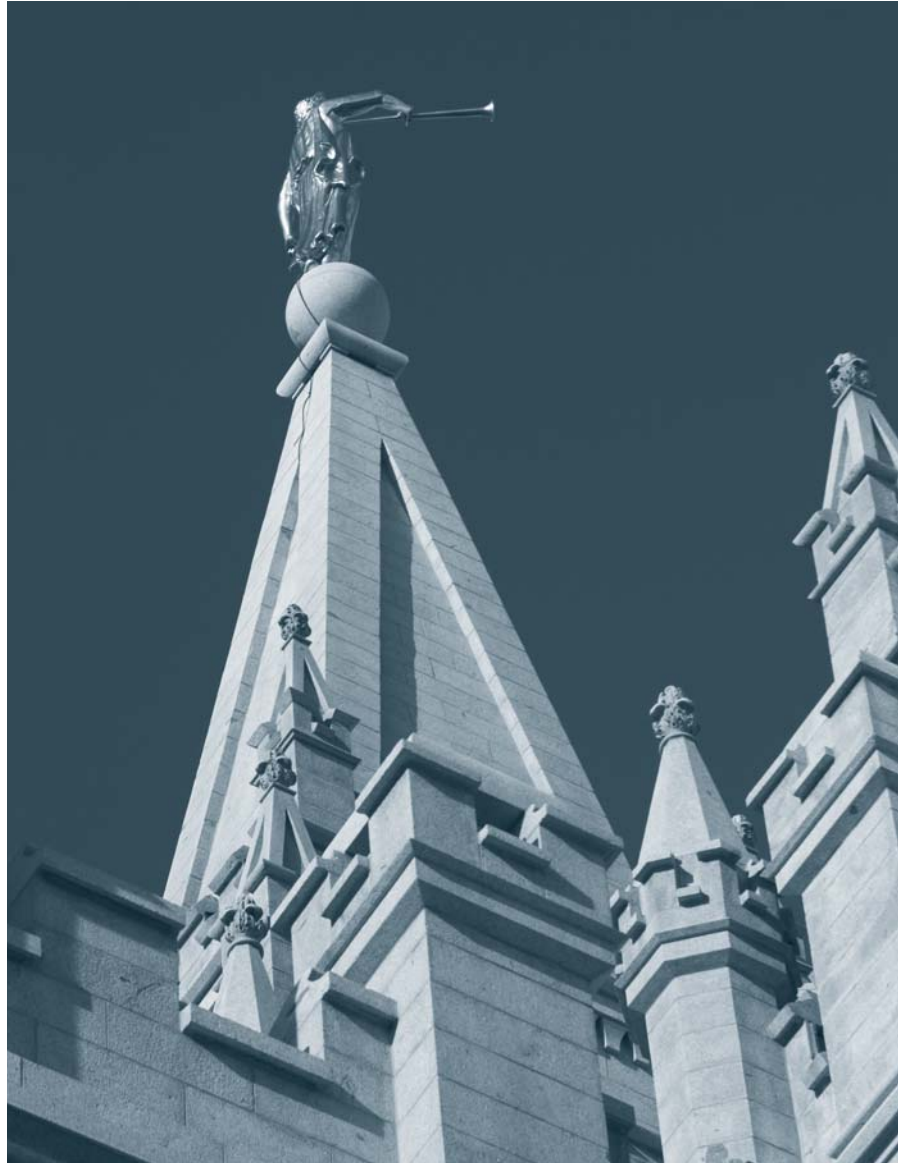
ジョセフ・スミスはモロナイから多くのことを学びました。そしてモロナイが姿を現したその丸太作りの家の、安全で聖い雰囲気の中で、ジョセフは学んだ教えの多くを、聞く備えのできた家族と分かち合いました。ジョセフの母親はこのように言っています。

「折にふれて、ジョセフは天からの教えを受け続けました。わたしたちは毎晩子供たちを集めて、ジョセフが受けた教えや知識について話すのを聞きました。……わたしたち家族は、地上に生を受けたどんな人よりも変わって見えたかもしれません。全員が輪になって座り、……18歳の少年の宗教的な教えに全神経を傾けたのです。」(The Revised and Enhanced History of Joseph Smith by His Mother, スコット・フェイサー・プロクター, モーリン・ジェンセン・プロクター共編, [1996年], 111)

このように日々行われた家庭の夕べについて、ルーシー・マック・スミスは、愛に満ちた家族のすばらしい一致、幸福、そして平安のひとつきだったと述懐しています。若きジョセフが家庭と家族を強めるためにこのような働きをしたことは、わたしたちにとって何とすばらしい模範でしょうか。ジョセフは自身の証や霊的な経験を心の内にしまっておくのではなく、しばしば両親やきょうだいと分かち合ったのです。わたしたちも家庭で同じように行うことができます。

当時執拗な迫害に悩まされていたジョセフと家族は、互いに支え合わなければなりません。邪悪な世の中において証人になる方法を預言者ジョセフが学ぶうえで、モロナイの教えと模範は役立ったことでしょう。モロナイが生きた時代には、彼自身が預言したように現代社会との共通点が多く見られました。つまり「殺人と強盗と偽りと欺きとみだらな行いとあらゆる忌まわしい行いがある時代」だったのです(モルモン8:31)。

またモロナイ自身も孤独と落胆を経験しました。ニーファイ人とレーマン人の間で繰り返された大規模な恐ろしい戦いで、すべてのニーファイ人が滅ぼされ、モロナイは嘆き悲しみました。「わたしは孤独である。わたしの父は戦いで殺され、親族も全員殺されてしまった。わたしには友もなく、行く所もない。また、主がわたしをいつまで生かしてくださるか、わたしには分からない。」(モルモン8:5)モロナイの孤独と落胆を押し量ることができ



るでしょうか。

この邪悪な世にあって、友人もなく孤独にさいなまれている人がわたしたちの中にも大勢いることを知っています。試練の前に「どこにも行き場がない」と感じる人もいるでしょう。けれども苦難の時代にあって真理のために立ち上がろうとするなら、わたしたちは単に生き残るだけではなく、モロナイのように勝利を手にすることでしょう。孤独と敵意に満ちた世の中でモロナイは何を行ったのでしょうか。信仰を貫き、父親の教えに従順に従いました。そして金版の記録を完成させたのです。モロナイはやがて預言者の言葉を熟知するようになりました。とりわけ、主が将来実現すると約束された言葉を固く信じることによって、落胆を克服しました。モロナ

イはまた、イスラエルの民を永遠に祝福するという神の聖約を信じ続けました。

モロナイは信仰を用い、子孫に約束された祝福を信じました。ジェフリー・R・ホランド長老は、モロナイを含めたこれまでの預言者が、示現を通してわたしたちの時代を見、喜びに満ちた期待を抱いたことについて次のように説明しています。預言者たちは、最後の神権時代に皆さんのように堅固で聖約に忠実な若い人々が、主の業を推し進める様子を見たのです。「当時の指導者が前進し続けることができたのは、……自分たち自身の成功を確信したからではなく、皆さんの成功を確信したからなのです。福音が宣べ伝えられ勝利を収める様を見ようと、たゆまぬ努力を続ける……皆さんのような若い〔女

性]のすばらしい集まりを……^ま目の当たりにしたからなのです。」「[恐怖、勝利、そして婚礼の祝宴]教会教育システムファイヤサイド、2004年9月12日。www.ldscs.org参照)モロナイの「喜びに満ちた期待」の実現に対して、わたしたちは大きな責任を負っているのです。

末日聖徒イエス・キリスト教会に所属するわたしたちは、主と聖約を交わしています。主は言われました。「わたしは、あなたを忘れることはない。……わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ。」(イザヤ49:15-16。1ニーファイ21:15-16も参照)

最近、親しい友人が家族を失うというつらい経験をしました。しかし、そんな中で、聖約が生活にもたらす力ときずなを、わたしは実感しました。キンボール・ヘロッドと妻のキャサリンには生後9か月から7歳までの4人の子供がいました。キャサリンの実家で夕食のひとつを過ごした帰り道でのことです。高速道路で対向車線を走っていた大型トラックの二重タイヤが突然外れて中央分離帯を飛び越え、ヘロッド家のワゴン車の運転席を直撃しました。運転していたのは夫であり父親であるキンボールで、重傷を負い、意識不明となりました。キャサリンはやっとの思いで車を路肩に寄せ、救急車を呼びました。キャサリンはバトカーの中で幼い二人の子供をひざに乗せ、救急隊が夫と二人の年長の子供を手当てする様子を見ていました。キャサリンは声に出して祈りました。「天のお父様、^{みこころ}御心ならば夫を癒す力をお父様がお持ちであることを知っています。しかしもしそれが御心でなかったとしても、きっと試練の間支えてくださるという信仰をわたしたちは持っています。」キンボールは救急ヘリコプターで運ばれましたが、病院に到着する前に息を引き取りました。

子供たちは傷や打ち身の手当てを受け、病院から帰り、無事に自宅のベッドで眠りに就きました。キャサリンはその後、病院に引き返し、夫にこの世での別れを告げました。つらい出来事でしたが、キャサリンは付き添ってくれた両親に言いま



た。「キンボールとは神殿の聖約で結び固められているんですもの。いつの日かまた一緒になることができるわ。」人生で最もつらい試練の中であって、主と交わした聖約がこの若い母親を支えたのです。

葬儀では、悲しみのときにあって聖約の力が支えとなることをわたしたちは思い起こしました。閉会の歌を歌うとき、参列者の声に交じって、「家族は永遠に」(『賛美歌』187番)を歌う5歳の息子テラーのひとつき大きな歌声が聞こえました。父親と母親に結び固められる聖約のことを子供が教わっていると知って、参列者の心は慰められました。

キャサリンの父親の述べた^{あいとう}哀悼の言葉も、聖約の力に関するものでした。キャサリンの父親は、モロナイが貴い記録を隠し、預言者ジョセフに再びもたらしたことについて記した^{あらし}聖句を引用しました。福音の約束は、嵐とつむじ風に吹き飛ばされる傘のような存在ではなく、岩のように確かなものであることを思い出すことができました。

「わが子らよ、覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありイエス・キリストである^{あがな}贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を……送るときにも、それが……苦悩の淵^{ふち}にあなたたちを引きずり落とすことはない。なぜならば、

あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられて[いる]からである。」(ヒラマン5:12)

ヘロッド家族が示した強さは、聖約の知識に深く根付いたものでした。家族として永遠に結び固められているという知識、また自分たちが天の御父と結び固められており、御父とのきずなは決して断たれることはないという知識が強さをもたらしたのです。

モロナイやジョセフ・スミス、そしてキャサリンやキンボールと同じように、わたしたちも試練や悪の力、そして迫害を乗り越えて勝利を取めることができます。神権の聖約は、家族を地上と天において永遠に結び固め、正義と力で強めてくれるのです。

福音が回復された大いなる驚くべき時代に生を受けているのは、何とすばらしいことでしょうか。わたしは、二人の偉大な預言者、モロナイとジョセフ・スミスに対する証と感謝を皆さんにお伝えします。モロナイとジョセフは2階の寝室で初めて顔を合わせて以来、協力してモルモン書を世に出しました。回復された福音に対する預言者ジョセフの喜びの声を引用して、わたしの話の結びとします。

「さて、わたしたちの受けた福音について、何を聞くでしょうか。

……クモラからの喜びのおとずれです。預言者たちの預言の成就と、明らかにされる書について宣言する、天からの天使モロナイ。……

兄弟たち[そして姉妹たち]よ、わたしたちはこのような偉大な大儀において前進しようではありませんか。……心を喜び楽しませ、大いに喜んでください。

……したがって、わたしたちは教会として、また民として、……義をもってささげ物を主にささげましょう。」(教義と聖約128:19, 20, 22, 24)

この教会がイエス・キリストの教会であることを知っています。わたしたち一人一人が福音を深く心に刻み、それによって神を愛し、十分に固い決意をもって神に仕えることができますように。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

わたしのなすべき業

中央若い女性第一副会長
ジュリー・B・ベック

主は天使をジョセフ・スミスに遣わし、なすべき業があると告げるように
おっしゃいました。その業は今日まで続いています。



子供のころ、家庭の夕べのレッスンで、父から、天使モロナイが預言者ジョセフ・スミスを訪れたことを教わりました。ジョセフが心から祈ると、天使がベッドのそばに現れたというあの物語です。その天使は神から遣わされた使者で、モロナイという名でした。モロナイが告げたところによると、神はジョセフのなすべき業を備えておられるということでした(ジョセフ・スミス—歴史1:33参照)。父はこう教えてくれました。「ジョセフはね、『とんでもない。わたしはどの教会が真実か知りたかっただけなんです。義務があるなんて知りませんでした』とは言わなかったんだよ。」ジョセフには確かに義務がありました。主からの特別な召しがあったのです。

ジョセフは驚くべき業を成し遂げました。ジョセフは一介の農場の少年にすぎませんでしたが、モルモン書を翻訳し、

世に出しました。ジョセフを通じて、神権とその鍵が地上に回復され、末日聖徒イエス・キリスト教会が組織され、聖なる神殿の建設が始まったのです。ジョセフ・スミスを通して、天の御父の子供たちが救われるために必要なすべての儀式が、現在地上に回復されています。これこそモロナイ書で語られている奇跡の日であり(モロナイ7:35-37参照)、何世紀も前にニーファイに告げられた、驚くべき業と不思議でした(1ニーファイ14:7参照)。

ジョセフが始めた業は、主イエス・キリストと回復された主の福音に対する信仰を持っていた初期の教会員に引き継がれました。彼らの努力により、イエス・キリストの福音は世界中に広がり始めました。まさに彼らは驚くべき業を行いました。

しかし、奇跡の時代は終わっていません。驚くべき業は今も続いています。バプテスマを受けたとき、わたしたち一人一人がこの業の担い手となりました。

去年、世界各地の教会員と親しく話しているうちに、主の聖約は、純朴な人々の信仰と行いを通して地上に確立しているということが理解できました(教義と聖約1:17-23参照)。

ある韓国人の若い女性は、家族の中で最初に教会員になりました。使い古した『成長するわたし』を握り締めた彼女は、福音を中心とした家庭を夢見ていると言いました。アルメニアの若い女性会長は、『教会指導手引き』が自分の言葉に翻訳されていないにもかかわらず、若い女性のプログラムを忠実に実行しています。

ロシアの会員は、定期的に神殿に参入

しています。貯金をして、バスと列車と船で、何日もかけて、スウェーデンにある最も近い神殿に行くのです。

9歳になるめいのキンバリーは、友達に教会のことを熱心に教えた後で、友達からこう言われました。「あなたの教会に入りたいわ。どうやって入るの?」

わたしのワードの若い男性・女性たちは皆、指導力や才能を伸ばしているところ。皆、喜んで歌い、楽器を演奏し、お話の責任を果たし、奉仕活動に参加し、そのほかたくさんすることをして、この驚くべき業の一端を担っています。

それから、ボゴタのある若い男性が言いました。「みんなを代表して言います。コロンビアの若い男性は皆ふさわしいです。今ほくたちは、奉仕するために備えています!」

教会員数が少ない所にも、多い所にも行きました。教会ができたばかりの所にも、立派に確立されている所にも行きました。しかし、どこにあっても個人の責任は同じです。皆、回復されたイエス・キリストの真実の福音に欠かせない存在なのです。なすべき業があります。皆が純粋に奉仕し、証を強め、今日の奇跡を担っているのです。

わたしは生涯を通じて、回復された福音の奇跡を見てきました。まだ子供だったころ、家族でブラジルのサンパウロに引っ越しました。父がブラジル伝道部の部長に召されたのです。その地で素晴らしい子供時代を過ごしました。当時、よくきょうだいでスーツやワンピースを着て、宣教師ごっこをしました。自分たちで伝道用のパンフレットを書いたり、庭で「福音を教え」たり、「新しい任地に移動」したりして何時間も遊びました。その5年間は、毎晩夕食を囲んで伝道に関する会話を交わしました。宣教師たちが語る信仰の物語を、わたしは夢中になって聞いていました。幼いながらも、大いなる業の担い手であることを自覚していました。

わたしたちが赴任したところ、ブラジルには教会員が3,000人ほどしかいませんでした。初等協会の規模はとても小さく、2、3人の子供たちと、当時ポルトガル語に訳



されていたたった5つの歌を、毎週繰り返して歌ったのを覚えています。わたしのお気に入りの2曲は、「神の光受け」(『賛美歌』191番)と森のウサギについての歌でした(“The Little Rabbit,” *Children’s Friend*, 1955年6月号, 257参照)。

いろいろな意味で、わたしたちは教会の初期の開拓者と同じような経験をしました。教会の本部からは、賛美歌も、視覚資料も、レッスンの手引きも送られて来ませんでした。ポルトガル語で福音を教えるために必要なものはすべて、伝道本部で作成し、印刷しました。大人も子供も、全員が伝道部の会報やレッスンを作るために奉仕しなければなりません。すべてがすでに整った教会をだれかが送ってくれることはありませんでした。預言者から、ステーキ会長や監督が派遣されることもありませんでした。扶助協会

の会長も、青少年の教科課程も送ってこれませんでした。ブラジルの教会は、初期の開拓者が持っていたようなものだけで成り立っていました。教会を確立するために必要なものは、人々の中にあったのです。

わたしたちがブラジルにいた数年のうちに、教会は大きく発展しました。何千人もの人々が末日聖徒になりました。伝道部はすぐに分割され、地方部と支部が組織され、新しい礼拝堂が建設されました。新しく会員になった人々は熱心でした。信仰をはぐくみ、教会の中で経験を重ねていきました。

あれから何年も過ぎました。そして昨年わたしは、サンパウロ神殿の再奉献式に出席するために、ブラジルに戻りました。その時点でブラジルにはステーキが187あると聞きました。伝道部が26、神殿が

4つ、そして、会員が約100万人いるとのことでした。6万人以上の会員がゴードン・B・ヒンクレー大管長の話を聞き、神殿の奉獻を祝うためにスタジアムに集いました。そこに足を踏み入れたわたしの驚きを想像してみてください。わたしにとって、何千人もの青少年が踊り、歌う姿を目にするのは奇跡でした。この喜びに満ちた祝典を見ながらずっと考えました。「すごい! 奇跡だわ! どうしてこんな奇跡が起きたのかしら?」

その晩ずっと、目の前の光景に驚異の目を見張りました。翌朝、神殿の奉獻式のために、初等協会であつたわたしを覚えてくれたグロリア・シルベイラ姉妹と再会しました。シルベイラ姉妹と会ったときに、奇跡のなぞが解けました。当時シルベイラ姉妹は新会員で教会の経験がまったくありませんでしたが、心からの証を述べる準

備をして初等協会に来て、ポルトガル語でわたしに信仰箇条を教えてくださいました。シルベira姉妹とご主人のウンベルト兄弟は今でも忠実です。長年にわたり、教会の様々な召しにこたえ、奉仕してきました。シルベira姉妹に会ったとき、ブラジルの教会が発展したのは、彼女のような人が何千人もいたからだと悟りました。シルベira兄弟姉妹は、あらゆる地に住む、主イエス・キリストと主の福音に忠実な人々を代表しています。彼らは知識や能力を増し加え、教会で奉仕してきました(教義と聖約88:80参照)。友達に福音を伝えてきました(教義と聖約30:5参照)。神殿で奉仕をしています(教義と聖約138:48参照)。5人の子供たちに正しい原則を教えてくださいました(教義と聖約68:28参照)。43人の子供や孫のうち、15人が専任宣教師として伝道しました。シルベira兄弟姉妹の孫の何人かは神殿で結婚しています。ひ孫たちは、ジョセフ・スミスが始めた驚くべき業の担い手であるシルベira家の4代目に当たります。このような人々のおかげで、信仰が地に満ちてきたのです。彼らは、主が話された奇跡の一つです。主は、御自分の福音が弱者や純朴な者によって宣べられる(教義と聖約1:23参照)、また小さな手段によって大いなることが成し遂げられる(1ニーフアイ16:29参照)、と言われました。

主は天使をジョセフ・スミスに遣わし、なすべき業があると告げるようにおっしゃいました。その業は今日まで続き、生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長によって導かれています。大管長はこう言いました。「この業は栄光ある業です。これは受け入れるすべての男女、少年少女の人生に祝福をもたらします。」「(伝道活動)『世界指者訓練集会』2003年1月11日、21)「この回復されたイエス・キリストの教会に関する証と権能と教義が授けられたことを、神に感謝します。」「(わたしたちの信仰の驚くべき基盤)『リアホナ』2002年11月号、81) イエス・キリストの御名により、アーメン。

主は皆さんの名前を御存じです

中央若い女性第二副会長
イレイン・S・ダルトン

主が皆さんを名前で呼ばれるのを聞いたことはないかもしれませんが、主は一人一人を御存じで、皆さんの名前を知っておられます。



それは「1820年の早春、美しい晴れた日の朝」のことでした。14歳のジョセフ・スミスは森に入ってひざまずき祈り、「筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方が[自分]の上の空中に立っておられるのを見ました。ジョセフはこう語っています。「そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」¹ 14歳のジョセフの心境を想像できるでしょうか。父なる神と御子イエス・キリストにまみえ、御父から自分の名前を呼ばれたのです。

聖なる森を訪れたとき、わたしは自分がジョセフ・スミスの立場だったらどう感じただろうかと思惟しました。その静か

なひととき、御霊は鼓動するわたしの胸に、そこが神聖な場所であり、預言者ジョセフ・スミスが告げたことがすべて真実であるとささやきました。すると、強い実感がわいてきたのです。わたしたちは皆、ジョセフの信仰、勇気、そして神に従いたいという確固とした望みによって祝福を受けているという実感です。ジョセフはその謙遜な祈りに対する答えを受け、御父とその愛する御子にまみえました。わたしは聖なる森で、御父がジョセフ・スミスの名前を御存じだっただけでなく、わたしたち一人一人の名前も御存じであり、この大いなる驚くべき業においてジョセフ・スミスが重要な役割を持っていたのと同じように、わたしたちもこの末日において重要な役割を担っていることを確信しました。

御父が皆さんを、名前を含めて個人的に御存じであることを知っているでしょうか。聖文はこれが真実であると教えています。エノスは、祈るために森に入ったときのことをこう記しています。「わたしに声が聞こえた。『エノスよ、あなたの罪は赦された。あなたは祝福を受けるであろう。』」² モーセは祈っただけでなく、神と顔を合わせて話し、神からこのように言われました。「わたしの子モーセよ、わたしはあなたに一つの業を用意している。」³ 主はヤコブの名前を御存じで、地上でのヤコブの使命をより正確に表すために、その名をイスラエルに変えられました。⁴

同様に、主はパウロやアブラハム、サラの名前も変えられました。教義と聖約第25章で、エマ・スミスは生きていくうえで慰めと導きを受けます。主はその祝福を次のような言葉で授けられます。「わたしがあなた、すなわちわたしの娘エマ・スミスに語る間、主なるあなたの神の声を聴きなさい。」⁵

主が皆さんを名前で呼ばれるのを聞いたことはないかもしれませんが、主は一人一人を御存じで、皆さんの名前を知っておられます。ニール・A・マックスウェル長老はこう言いました。「神はずっと昔から皆さん一人一人を御存じであったことを……証します(教義と聖約93:23参照)。神は遠い昔から皆さんを愛してこられました。すべての星の名前(詩篇147:4;イザヤ40:26参照)だけでなく、皆さんの名前、そして皆さんの喜びや悲しみもすべて御存じです。」⁶

天の御父がわたしたちの名前と必要を御存じであると、どうしたら分かるのでしょうか。ロバート・D・ヘイルズ長老はこう勧告しています。「聖典を開いてください。ひざまずいて祈ってください。信仰をもって願い求めてください。聖霊のささやきに耳を傾けてください。……堪え忍び、粘り強く福音に従って生活してください。」⁷

ジョセフも同じことをしました。ジョセフの証は、天の御父が一人一人を御存じで愛しておられることを、わたしたち皆が知るうえで助けになります。わたしたちは確かに「天父の娘です。天父はわたしたちを愛し[ておられます。]」⁸ ジェフリー・R・ホランド長老はこう語りました。「神がだれかをほかの人より大切にしたり、慈しんだりすることはありません。……自分に自信のない人や、不安を抱えている人、自分を否定的にとらえている人、そのほか[すべての人を]神は愛しておられ[ます]。……神は競技場で走るわたしたち一人一人に、この競技が参加者同士の争いではなく、罪との戦いであると呼びかけて……おられ[るのです。]」⁹

ジョセフ・スミスはこの知識を得ましたが、人生が容易になったわけではありません。実のところ、仲間や大人から強い



中央若い女性会長のイレイン・S・ダルトン姉妹は、この石版の言葉に励まされてきた。「あなたが何者であろうとも、自らの務めを十分に果たしなさい」と刻まれている。

圧力を受けました。ジョセフ・スミスの生涯はわたしたち一人一人に重要な手本を示しています。何をすべきか迷うとき、仲間から強いプレッシャーを受けているとき、また誘惑に囲まれていると思ったり、自分は価値がない、あるいは孤独だと感じたりするときに、ジョセフの教えを当てはめることができます。祈ることができるのです。聖なる御子イエス・キリストの御名によって神を呼び求め、慰め、導き、指示を願うことができます。問題が生じて、どうしたらよいか分からなかったことはないでしょうか。ジョセフはこう言いました。「わたしは心の中で深く考えさせられ、大きな不安を感じないではいられなかった。……わたしはしばしば心に問うた。『何をしなければならぬのだろうか。』」¹⁰

ジョセフはどのようにして慰めと導きを得たのでしょうか。聖文を研究し、その中にある約束について深く考え、『神に願い求め』ようと決意したのです。¹¹ あの

美しい春の日に受けた答えは、ジョセフの人生と進むべき道をすっかり変えました。ジョセフは確信を得たのです。神とイエス・キリストについての証を得たジョセフは、その証によって忍耐と粘り強さをもって福音に従うことができました。仲間の圧力や迫害を物ともしませんでした。それはジョセフの言葉から分かります。「わたしは示現を見た。わたしはそれを知っていた。神がそれを御存じであるのを、わたしは知っていた。わたしはそれを否定でき……なかった。」¹² ジョセフは自らの証によって確固として立つことができました。皆さんも同じことができます。

仲間から誘惑を受けそうになったときは、祈り、信仰をもって尋ね求め、聖霊のささやきに耳を傾けましょう。そして福音に従って生活するのです。ジョセフは自分の不完全さや弱さを痛切に感じたとき、再び祈りました。その祈りの答えとして、天使モロナイの訪れを受けました。ジョセフはこう記しています。「その方はわたしの名を呼び、……神がわたしのなすべき業を備えておられること……をわたしに告げられた。」¹³

祈るとき、主はわたしたちが自分の役目を果たせるように導き、備えてくださいます。ある夏、ブリガム・ヤング大学の国際フォークダンスチームの一員としてヨーロッパを巡業しているときに大切な教訓を学びました。そのときわたしは病気になり、落胆し、途中で投げ出して、家に帰りたと思っていました。わたしたちはスコットランドにいて、教会員、求道者、宣教師のために公演を行うところでした。皆で祈りをささげるために伝道本部へ行くと、前庭にある石版が目にとまりました。石版にはこのような言葉が彫られていました。「あなたが何者であろうとも、自らの務めを十分に果たしなさい。」この言葉は稲妻のように心に突き刺さりました。まるで石版が語りかけているかのようで、わたしの心は一変したのです。言葉を読んだ瞬間、自分にはダンスの公演で果たすべき務めがあるだけでなく、生涯にわたって果たすべき務めがあり、自らの務めを「十分に果た[す]」ことが重要であると悟

ったのです。¹⁴

主は何を期待しておられるのでしょうか。御自身の来臨に先立って、わたしたちが自分の役目を果たすよう期待しておられます。またみもとへ戻り、ともに住むにふさわしいことを示すように望んでおられます。御自身のようになることを望んでおられるのです。ジョセフの模範に倣いましょう。先ほど聖歌隊が歌った賛美歌の歌詞がわたしは大好きです。「恐れずみ父の助けに頼る」。¹⁵ 英語の歌詞にある *undaunted* という言葉は、くじけないで目的を遂げること、固い決意を持ち勇敢であることを意味します。ジョセフは自らを、敵対する者の王国を「妨げ悩ます者」と呼んでいます。こう語っています。「敵対する者が、……わたしが彼の王国を妨げ悩ます者になると定められていたことに気づいたかのように思われる。」¹⁶ わたしは自分の聖典の余白に「妨げ悩ます者になろう!」と書きました。御父の助けに頼りましょう。

ジョセフ・スミスが示した模範に倣うなら、わたしたちは重要な役割を果たすことができます。主はジョセフ・スミスがその神聖な使命を果たせるように強められました。そして皆さんをも強めてくださるでしょう。聖なる天使を遣わしてお教えることさえあるでしょう。皆さんへの課題はこうです。皆さんは天使の訪れを受けられるような場所にいるでしょうか。十分に心を研ぎ澄ませているでしょうか。確固として主を信頼しているでしょうか。

わたしたちは、主の預言者ジョセフ・スミスによって、完全な福音が地上に回復された時代に生きています。わたしたちを導くためにモルモン書が与えられている時代に生きています。また生ける預言者がいて、地上に神権の権能があり、聖なる神殿で家族を永遠に結び固める権能がある時代に生きています。今は確かに「決して忘れられない」時代なのです。¹⁷

一人一人が確固とした信仰を持ち、証を得るためにジョセフ・スミスが示した模範に従えるよう祈ります。また、主の御名を自分自身に受けることで、救い主を代表するにふさわしくあるよう祈ります。主



はこう約束されました。「わたしが造ろうとする新しい天と、新しい地がわたしの前にながくとどまるように、……あなたの名は、ながくとどまる。」¹⁸

回復されたイエス・キリストの福音に対する証は、わたしの人生において導き手となり、錨となってきました。今日皆さんの前に立ち、心からこう言えることに感謝します。「感謝を神に捧げん、予言者の導き。」¹⁹ 疑問の答えを求めて祈り、そのときに授かった知識に忠実であり続けた14歳の少年の誠実さに感謝しています。

皆さん一人一人は、この大いなる驚くべき業の中で果たすべき役割があります。救い主は皆さんを助け、手を取って導いてくださいます。²⁰ 主は皆さんの名前を御存じです。イエス・キリストの聖なる御名によって証します。アーメン。

注

1. ジョセフ・スミス—歴史1:14, 17, 強調付加
2. エノス1:5, 強調付加
3. モーセ1:6, 強調付加
4. Bible Dictionary, "Israel", 708参照
5. 教義と聖約25:1, 強調付加

6. 「『主が……どれほど憐れみをかけてこられたかを思い起こし』なさい」『リアホナ』2004年5月号, 46参照
7. 「回復されたイエス・キリストの福音の証を受ける」『リアホナ』2003年11月号, 31
8. 若い女性のテーマ参照
9. 「もう一人の放蕩息子」『リアホナ』2002年7月号, 72参照
10. ジョセフ・スミス—歴史1:8, 10
11. ジョセフ・スミス—歴史1:13
12. ジョセフ・スミス—歴史1:25
13. ジョセフ・スミス—歴史1:33, 強調付加
14. デビッド・O・マッケイ大管長は、スコットランドで伝道しているときにこの石版に感銘を受けた。大管長に召されたときにこの石版を購入し、宣教師たちが靈感を受けられるようにスコットランドの伝道本部の前庭に飾った
15. 「麗しき朝よ」『賛美歌』18番
16. ジョセフ・スミス—歴史1:20
17. ジョセフ・スミス—歴史1:71の注
18. イザヤ66:22
19. 『賛美歌』11番
20. 教義と聖約112:10; アブラハム1:18参照

模範になりなさい

第一副管長

トーマス・S・モンソン

皆さんが語る言葉、示す模範、生き方など、証^{あかし}を伝える方法はたくさんあります。



愛する姉妹の皆さん、この壮大なカンファレンスセンターに集まっている方にも、この集会の様を衛星中継で視聴している方にもお願いします。皆さんにここで話すという責任を立派に果たせるよう、わたしのために祈ってください。

中央若い女性会長会の話と美しい姉妹たちによって披露された美しい歌、そしてまさにこの集会に注がれる御霊^{みたま}によってわたしたちは高められ、鼓舞されました。預言者ジョセフ・スミスとその生涯に、そしてイエス・キリストの福音が回復されたことに、改めて感謝の念を抱いています。

わたしたち大管長会は、皆さんを愛しています。皆さんとその指導者たちを信頼しています。皆さんは世の中にあつて義の模範です。世の人々には皆さんの感化と力がどうしても必要なのです。

恐らく皆さんが掲げるべき標語は使徒

パウロが愛するテモテに書き送った次の言葉になるでしょう。「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」¹

今日、放縦^{こんじち}、不道德、ポルノグラフィ、仲間からの圧力によって、多くの人々は罪という海で翻弄^{ほんろう}され、チャンスを逃すという暗礁に乗り上げて、祝福を失い、夢を奪われています。

大切な若い女性とその母親の皆さん、若い女性の指導者、アドバイザーの皆さん、わたしは皆さんに、現世から天の御父のおられる日の栄えの王国へと至る道を安全に歩めるよう導いてくれる行動規範をお伝えします。この行動規範には4項目あります。

●皆さんには受け継ぎがあります。それを尊んでください。

●皆さんは誘惑に遭うでしょう。それに耐えてください。

●皆さんは真理を知っています。それを実践してください。

●皆さんには証^{あかし}があります。それを分かち合ってください。

まず、皆さんには受け継ぎがあります。それを尊んでください。シナイ山で次の言葉がはっきりと宣言されました。「あなたの父と母を敬え。」²

両親はどれほど皆さんを愛していることでしょうか。どんなに熱烈な祈りを皆さんのためにささげていることでしょうか。両親を敬ってください。

両親を敬うとは、どうすることでしょうか。わたしはウィリアム・シェークスピアの次の言葉が好きです。「愛情を示さぬ方

は、愛さぬのと同じこと。」³ お父さんとお母さんを心から愛していることを示せる方法は、無数にあります。両親に従順になり、その教えに従ってください。彼らは決して皆さんを間違った道に導くことではないからです。敬意をもって両親に接してください。彼らは皆さんのために多くの犠牲を払ってきましたし、これからも払い続けるのです。

お父さんとお母さんに対して正直になってください。両親に対して正直になると、その好影響の一つとして、両親とのコミュニケーションの度合いが増します。親を無視するような態度を執ってはいけません。暗い夜、遅い時間に大切な娘がまだ帰って来ないとき、気をもむ両親には、時計の音はより大きく聞こえ、時計の針はよりゆっくりと動くように感じられます。すぐに帰れないような事情があるのなら、電話してください。「お母さん、お父さん、わたしたちなら大丈夫よ。何か食べようと思っちょっと店に寄っただけなの。心配要らないわよ。大丈夫。もうすぐ家に着くわ。」

何年前も、ユタ州クラークストンで開かれていた青少年の活動に参加したときのことです。青少年たちはグループで、モルモン書の三人の証人の一人、マーティン・ハリスの墓碑を見学していました。そのとき別の墓碑が目に留まりました。小さな石に、名前とともにこんな痛ましい言葉が刻まれていました。「我が家から光が去った。わたしたちが愛したあの声はもう聞こえない。心の中のうつろな思いは、何をもってしても満たされることはない。」

皆さんの家から光が去る前に、慣れ親しんだ声を聞けなくなる前に、言ってください。「お母さん、大好きよ。お父さん、大好き」と。今こそよく考え、感謝を表す時です。皆さんがこの二つのことを実行してくれるものと信じています。皆さんには受け継ぎがあります。それを尊んでください。

次に挙げる行動規範は、「皆さんは誘惑に遭うでしょう。それに耐えてください」です。

預言者ジョセフ・スミスは誘惑に直面し

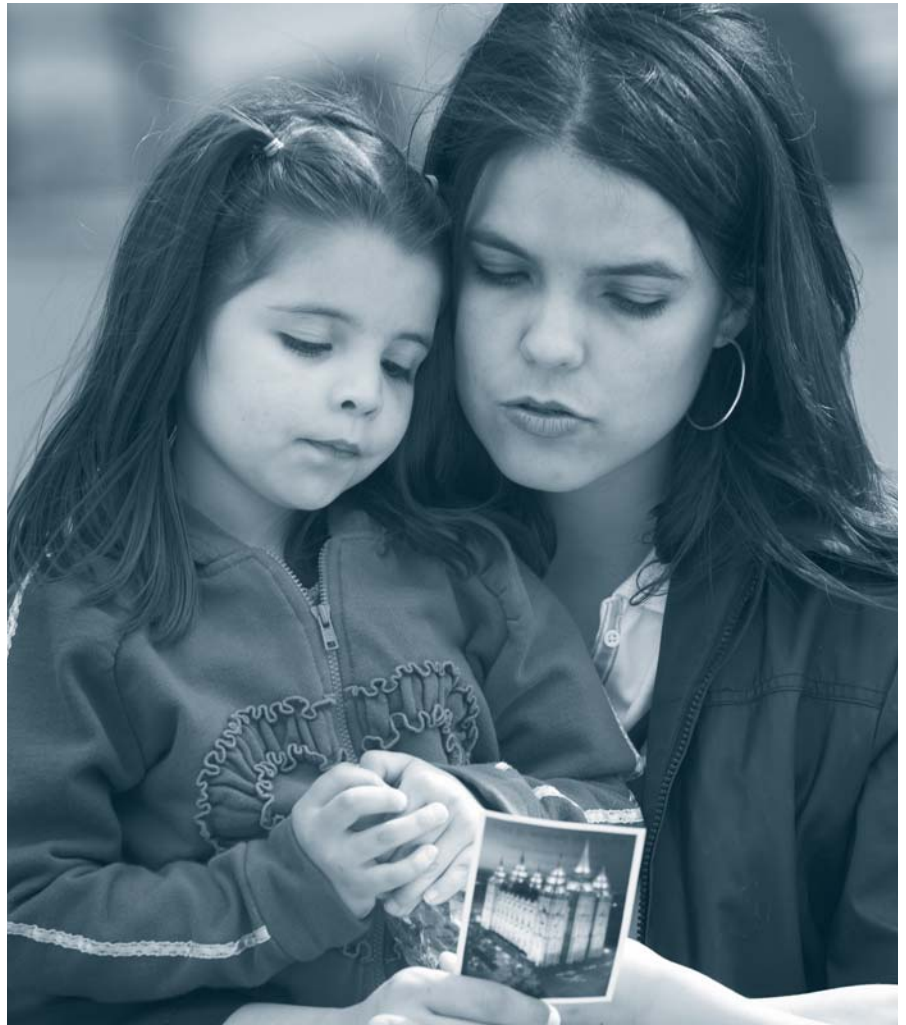
ました。示現を見たと言ったときに彼が繰り返し受けたあざけりやさげすみ、嘲笑ちやうしやうを想像できるでしょうか。少年には耐え難いようなものだったと思います。示現を見たという言葉撤回して、ただ平凡に暮らしていく方が楽だということはジョセフにもはっきりと分かっていたはずですが。しかし、ジョセフは屈しませんでした。彼の言葉はこうです。「わたしは実際に光を見た。その光の中に二人の御方を見た。そして、その方々が実際にわたしに語りかけられたのである。たとえ示現を見たと言ったことで憎まれ、迫害されたとしても、それは真実であった。……わたしは示現を見た。わたしはそれを知っていた。神がそれを御存じであるのを、わたしは知っていた。わたしはそれを否定でき……なかった。」⁴ ジョセフ・スミスは模範を通して勇気を教えてくれました。彼は、誘惑に遭っても、それに耐えたのです。

「キャメロット」というミュージカルを知っている人は皆さんの中にも多いことでしょう。この作品の中からわたしの好きな言葉を引用します。アーサー王とランスロット卿、ギネビア女王の間の確執が深まる中、アーサー王はこんな警告を与えます。「激情にわたしたちの夢を壊させてはならない。」今晚この言葉を皆さんに贈ります。激情に流されて夢を失ってはなりません。誘惑に耐えてください。

モルモン書にある次の言葉を思い起こしてください。「悪事は決して幸福を生じたことがない。」⁵

皆さんが人生で成功を取め、幸福になるために欠かすことのできない助言は、「友達を慎重に選びなさい」です。わたしたちは自分のあこがれる人ようになっていく傾向がありますが、あこがれる人は、たいてい友達です。当座の都合で計画を立てたり、どうでもいいようなことを目標にしたり、本筋でないことに情熱を燃やしたりするような人ではなく、わたしたち教会員のように最も重要なことを大切に、永遠の目標を内に抱いている人と同じあうようにするべきです。

永遠の観点から物を見るようにしてくだ



さい。ふさわしい生活をして将来神殿で結婚できるようにしてください。結婚をする特別な日ほど幸せな経験も神聖な瞬間もほかにはありません。そのとき皆さんは日の栄えでの喜びをかいま見めるのです。気をつけてください。誘惑に屈してこの祝福を失ってはなりません。

決断を下すときにはいつも、次のことを自問してください。この決断はわたしのためになるのだろうか。「ほかの人はどう思うだろうか」という基準で自分の取るべき行動を決めてはなりません。「わたしは自分のことをどう考えるようになるだろうか」という基準で行動するべきです。静かな細い声に従ってください。確認の儀式のとき、権能を持つ人が皆さんの頭の上に手を置いて「聖霊を受けなさい」と言ったことを思い出してください。心を開き、魂の扉を開いて真理を証するこの特別な声を聞くことができるよう努めてください。預言者イザヤが約束したように、「『これ

は道だ、これに歩め』という言葉に耳に聞く」のです。⁶

今日世の中に蔓延まんえんしているのは自由奔放な生き方です。映画に出てくるアイドル、スポーツ界のヒーローなど、多くの若者たちの目標にしたがる人々が、神の律法を軽んじ、罪深い行いを正当化して、何の悪い結果も生じないかのように見せているのをあちこちで目にします。信じてはいけません。その報いを受ける時は来ます。清算する時が来るのです。シンデレラに午前0時が訪れるように、現実を直視しなければならない「裁きの日」と呼ばれる時がだれにも訪れます。言ってみれば「人生の大きな試験」です。準備はできていますか。自分の成し遂げたことに満足しているのでしょうか。

皆さんの助けとなるものはいろいろなところにあります。その一つは、祝福師の祝福です。祝福師の祝福には、皆さんの永遠の可能性について書かれた書物の中



から様々な部分が示されているのです。自分の祝福文を頻繁に読んでください。綿密に研究してください。そこに書かれている注意に従ってください。その約束にふさわしく生活してください。

さて、旅の途中でつまづいた人がいれば、引き返す方法があります。悔い改めと呼ばれる方法です。わたしたちにこのすばらしい賜物たまものを与えるために救い主はお亡くなりになりました。道は険しくとも、次の約束は確かです。「たとあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。」⁷「もはやその罪を思わない。」⁸皆さんは誘惑に遭うでしょう。それに耐えられるよう祈っています。

次の行動規範は、「皆さんは真理を知っています。それを実践してください」です。

聖なる森で示現を受けた後、ジョセフ・スミスは3年間、聖なる交わりを受けることはありませんでした。父なる神とその御子イエス・キリストに会い、キリストから話しかけられて、その後3年間、何の言葉も交流もなかったらどう感じるでしょうか。想像できますか。疑いを持ち始めるのでしょうか。なぜだろうと戸惑ったり、疑念を抱いたりするのでしょうか。預言者ジョセフ・スミスは戸惑いませんでした。疑念を抱くこともありませんでした。主を疑うことがなかったのです。真理を受け入れ、

それに従った生活をしました。

愛する若い友人である皆さん、皆さんはイエス・キリストの福音が地上に回復されるこの特別な時代に生を受けるよう取っておかれました。福音と証について、ゴードン・B・シンクレイ大管長はこう言っています。「わたしたちが証と呼ぶこの確信は……この地上にある様々な力と同様に、現実に存在し、しかも、強力なのです。……〔証は、〕若い人も年老いた人も同じように持っています。……証は、人生には目的があり、ほかよりはるかに大切な事柄が存在するというのを、そして、わたしたちは永遠の旅路の途中にあり、また、わたしたちは神に報告する責任があるということ、確信させてくれます。」⁹

皆さんは両親や教会の教師から福音が真実だということを教わってきました。これからも聖文や預言者の教え、また、ひざまずいて神の助けを求めるときに得られる靈感を通して真理を見だしていくことでしょう。

疑いと信仰は、同じ人の心の中に同時には存在し得ないことを忘れないでください。一方が他方を排斥するからです。疑いを追い払い、信仰を養ってください。山をも動かし、心と家庭を天国に近づけることのできる、子供のような信仰をいつでも持てるよう努めてください。

福音や救い主、天の御父に対する証は、しっかりと根を下ろしていれば、生涯にわたって皆さんに影響を与えます。時間をどう使うか、だれとつきあうか決めるとき、助けになります。家族に対する態度にも、人への接し方にも影響を与えます。皆さんの生活に愛と平安、喜びをもたらします。昨今、教会の一部の若い女性の服装が激変してきていることにわたしたちは気づいています。ファッションは移り変わり、流行は移ろいます。しかし、大切なのは、慎みのない服装がはやっていたら、若い女性の皆さんはそれを避けなければならないということです。慎み深い服装をするということは、天の御父と自分自身を大切にしていることを示しています。今日、今をときめく映画スターや音楽界のアイドルが身にこみにち着けている露出度の高いファッションに倣ならって服は生産されていますから、店で慎み深い服を購入するのは難しいかもしれません。しかし、それは可能ですし、重要なことです。使徒パウロは宣言しました。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。……神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」¹⁰ 皆さんは真理を知っています。それを実践してください。

行動規範の最後は、「皆さんには証があります。それを分かち合ってください」です。皆さんの証が及ぼす影響力を過小評価してはなりません。皆さんはお互いに強め合うことができます。皆さんには目立たない人や友達がありません人の長所に気づいてあげる能力が備わっています。目をよく見開き、耳を澄まし、感受性を研ぎ澄ますなら、同年代の人に手を差し伸べ、救いの道に導くことができますでしょう。

一例として、何年も前、モンソン姉妹が転んで入院したときに体験したことを話しましょう。モンソン姉妹に頼まれて、わたしはスーパーマーケットにちょっとした買い物に行きました。それまで、わたしはこのようなことをしたことがありませんでした。持って行った買い物リストの中に、ジャガイモが入っていました。すぐにショッピングカートを見つくと、ジャガイモをその中にたくさん入れました。買った物は普通ビニール袋に入れるものだとすることをまったく知らなかったのです。カートを進めるとジャガイモが床の上にこぼれ落ちました。カートには手前に大きな穴が二つ開いており、そこからすり抜けてしまったのです。責任感の強い女性店員がわたしを助けるために駆けつけて、大きな声で言いました。「どうぞわたしにお任せください。」このカートは不良品だと言おうとしました。しかし、そのとき初めて、カートには皆、手前に穴が二つあって、小さい子供がそこから足を出せるようにしてあるのだと説明されたのです。

次にその店員はわたしが持っていた買い物リストを手に取り、品物を見つるのを手伝ってくれました。つきっきりで助けてくれたのです。そして、最後にこう尋ねてきました。「モンソン監督ではありませんか。」

確かにだいたい前に監督をしていましたと答えました。すると、その店員はこう言うのです。「あのころわたしはモンソン監督のワードが管轄するゲール街に住んでおり、教会員ではありませんでした。モンソン監督は、教会員の女の子が毎週わたしに連絡を取ってミューチャルやそのほ



かの活動に連れて行くように割り当ててくださいました。皆感じのよい若い女性たちで、その人たちが示してくれた友情と親切にわたしは心を打たれました。わたしに友情を示すよう割り当ててくださったおかげで、わたしはバプテスマを受け、教会員になれたのです。教会員になったことで、わたしの人生にすばらしい祝福がもたらされました。監督の親切に感謝しています。」

皆さんが語る言葉、示す模範、生き方など、証を伝える方法はたくさんあります。

預言者ジョセフ・スミスの偉大な模範に倣いましょう。彼は真理を教え、真理に従って生活し、真理を伝えました。皆さんには証があります。それを分かち合ってください。

愛する姉妹の皆さん、神が皆さんを祝福されますように。わたしたちは皆さんを愛しています。皆さんのために祈っています。皆さんは独りではないということをお忘れではありません。主は皆さんに約束しておられます。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」¹¹

明日は復活祭です。この復活祭の前夜、

わたしたちの罪を^{あがな}贖い、真の生き方と祈りの方法を示し、わたしたちが行うべきことを自らの行いで示してくださいました御方に心を向けることができますように。馬屋で生まれ、かいばおけに寝かされていた神の御子は、御自身に従うよう、わたしたち一人一人を招いておられます。「ああ、喜びの言葉『主は生けりと知る』。¹² 主の御霊が常に皆さんのうえに^{あがな}ありますよう、主イエス・キリストの聖なる御名によって祈ります。アーメン。

注

1. 1テモテ4:12
2. 出エジプト20:12
3. 三神勲訳「ヴェロナの二紳士」『シェークスピア全集1』111, 第1幕, 第2場, 筑摩書房刊
4. ジョセフ・スミス—歴史1:25
5. アルマ41:10
6. イザヤ30:21
7. イザヤ1:18
8. エレミヤ31:34
9. 「証」『聖徒の道』1998年7月号, 73-74
10. 1コリント3:16-17
11. 教義と聖約84:88
12. サミュエル・メドレー、「主は生けりと知る」『賛美歌』75番

指導者の言葉

大会の教えを生活に取り入れるために

2005年4月の総大会の教えを、自分自身または家族の生活に取り入れるために、以下のアイデアを個人の研究や家庭の夕べで用いるとよいでしょう。質問や活動、話し合いのアイデアを自分で考えてもよいでしょう。(ページの番号は、お話の最初のページを表しています。)

1. モルモン書は幾つの言語で翻訳されているでしょうか。今年の終わりまでに、幾つの神殿が利用できるようになるでしょうか。(4)

2. 教会では今年、ある重要な出来事の175周年と、ある預言者の生誕200年を祝います。その重要な出来事とは何でしょうか。またその預言者とはだれでしょうか。(43)

3. 主は、ポーカー、宝くじ、スロットマシン、その他の賭け事をどう思っておられるでしょうか。(58)

4. わたしたちは、「聖なる場所に立〔つ〕」
よう言われています。聖なる場所とはどこでし



ようか。なぜそこは聖いのでしょうか。その場所がいつも聖くあ

るように、あなたは何ができますか。(62)

5. 「熱心に働き、強い証^{あかし}を持った」宣教師となるために、あなたは今何ができますか。(69)

6. 「神が啓示された〔7つの〕偉大な事柄」とは何でしょうか。その7つは、ジョセフ・スミスを通して啓示され、この教会をほかの教会から区別するものです。この7つのほかに、どのような真理を知っていますか。〔80〕

7. ポルノグラフィの誘惑に打ち勝つためにできる4つのこととは何でしょうか。(87)

8. 落胆したことはありますか。モロナイが「孤独と敵意に満ちた世の中」で落胆していたときに行ったことを見つけてください。(104) ◆



「光の中進もう」の詩と曲を作った姉妹、13

読んで分かち合えるお話

以下のページで始まるお話には、分かち合うことのできる物語や知恵が含まれています。

- バプテスマを早く受けたくて仕方がなかった男性、10
- 困難に直面した開拓者の家族、19
- 子供たちに思いやりを示すジョセフ・スミス、26
- 病気の家族を助けるジェームズ・E・タルメージ、26
- 空気式オルガンのレバーを上げ下げする、少年のころのディーター・F・ウークトドルフ、36
- 世界中で奉仕する夫婦宣教師、39
- 伝道に出るために家族のもとを離れるヒーバー・C・キンボール、43
- 危険を知らせる声^{こゝろ}に聞こえた男性、46
- 新しい発見をするために、粘り強く努力したマリー・キュリー、51
- ハウズミルで撃たれたが、後に宣教師として働いた青年、51
- ロレンゾ・スノーを救った長老たち、51
- 監督を家に入れなかったが、後に教会に集うようになった男性、54
- 子馬をてなすけようとする男性、69
- 伝道に出ることを選んだ、若いころのデビッド・E・ソレンセン、72
- コーヒーを飲むことを断った兵士、72
- 初めて会った人に、車のスペアタイヤを差し出した父親、74
- バスに乗り遅れ、宣教師に出会った女性、84
- 夫が生前出したクリスマスカードを受け取った女性、99
- ステーキ内のある若い男性の夢を見た神権指導者、99
- 自動車事故で命を失った妻子ある男性、104

わたしたちの時代のための教え

メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンに関する以下の指示は、『教科課程に関する神権指導者と補助組織指導者への情報—2005年—2008年』にある指示に取って代わるものです。

毎月の第4日曜日のメルキゼデク神権と扶助協会の集会は、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。「わたしたちの時代のための教え」のレッスンは、すべて最新の『リアホナ』総大会特集号の説教から教えることとなります。総大会特集号は毎年5月と11月に出版されています。大会の説教はまた、www.lds.orgにアクセスすることにより、(多くの言語で)インターネット上で見ることもできます。(訳注—日本語版は、www.ldschurch.jpに掲載されています。)

各レッスンは一つまたは複数の説教を基に準備します。ステーク会長または地方部長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。ステーク会長または地方部長は、この責任を監督または支部長に委任することもできます。これらの神権指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日に同じ説教を学ぶことの意義を強調してください。教師はレッスンの力点をどこに置くかについて指導者に助言を求めてください。

第4日曜日の集会の出席者は、最新の教会機関誌の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するよう奨励されています。ワードまたは支部の指導者は、すべての会員が教会機関誌を読めるよう手配してください。

説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

- 説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよう祈ってください。時には、大会説教を用いずに、ほかの資料を使ってレッスンを準備したくなることもあるかもしれません。しかし、大会説教は承認された教科課程用資料です。あなたの務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それに従って生活できるよう助けることです。
- クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の内容を検討してください。また、原則と教義を教えるのに役立つ説教から、物語や参照聖句、声明を探してください。
- 原則と教義を教えるための大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。
 - 教えている説教に含まれる原則と教義を探す。
 - その原則と教義の意味について考える。
 - その原則と教義に関する理解や考え、経験、証を分かち合う。
 - その原則と教義を実生活に応用する。
- 『教師、その大いなる召し』の31–32章を復習する。

「何よりも大切なことは、生徒が御霊の影響を受け、福音をいっそうよく理解し、福音の原則を生活の中で応用することを学び、福音に従って生活しようとする決意を強めることです。」(『教師ガイドブ



ック]12)

「わたしたちの時代のための教え」に関するご意見をお寄せください。

あて先—Curriculum Develop-

ment, 50 East North Temple Street, Room 2420, Salt Lake City, UT 84150–3220, USA; 電子メール—cur-development@ldschurch.org ■

月	第4日曜日のレッスン教材
2005年5月—10月	『リアホナ』2005年5月号掲載の説教*
2005年11月— 2006年4月	『リアホナ』2005年11月号掲載の説教*

*これらの説教は、www.lds.orgにアクセスすることにより、(多くの言語で)インターネット上で見ることができます。(訳注—日本語版は、www.ldschurch.jpに掲載されています。)

アロン神権者および若い女性用 リソースガイド

以下は「アロン神権3」および「若い女性3」のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。参考資料の中にある「神への務め」は、小冊子「アロン神権—神への務めを果たす」を表しています。また、「成長するわたし」は、小冊子「若い女性「成長するわたし」」を表しています。本ガイドに掲載された「神への務め」および「成長するわたし」の活動の幾つかは、レッスン中に実施することもできますし、家庭で行うよう定員会の会員またはクラスの生徒に勧めることもできます。教えるためのそのほかのアイデアは「リアホナ」の「リアホナの活用法」および「教師、その大いなる召し」を参照してください。

レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。教師用手引きには、クリスマスのための特別なレッスンは掲載されていません。クリスマスのための特別なレッスンを教える場合は、救い主の生涯と使命に焦点を絞った聖句や大会説教、教会機関誌の記事、絵、賛美歌を活用することを検討してください。

インターネットを使用して、英語以外の幾つかの言語でこのリソースガイドを探す場合は、www.lds.orgを開き、世界地図をクリックした後、言語を選択してください。次に「リアホナ」をクリックし、2005年5月号を選択してください。（訳注—日本語の場合は、世界地図をクリックし言語を選択した後、国別サイトの「日本」を選択し、次に左のコラムにある「ライブラリー」を選択してください。後は上と同じように「リアホナ」をクリックし、2005年5月号を選択してください。）

リソースガイドの英語版を閲覧する場合は、www.lds.orgを開き、「Gospel Library」（福音図書館）をクリックしてください。右のコラムに最新のリソースガイドへのリンクがあります。

今後のリソースガイドは「リアホナ」5月号と11月号に掲載されます。幾つかの言語では、www.lds.orgにア

クセスすれば、教会機関誌をインターネット上で閲覧することができます。

『アロン神権3』

以下は「アロン神権3」第26課から第49課のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。

第26課—純潔の祝福

ゴードン・B・ヒンクレー「悲劇をもたらす悪」『リアホナ』2004年11月号、59。レッスンの補足として、ヒンクレー大管長の勧めを紹介することを検討します。

リチャード・G・スコット「真剣に考えるべき事柄」『聖徒の道』1997年9月号、28。この記事にある質疑応答を使い、レッスンで扱っている道德の問題について話し合います。

『神への務め—教師』「霊的な面での成長」の5

第27課—神の宮である肉體

ゴードン・B・ヒンクレー「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、30。「清い人になりましょう」の項をレッスンの導入で使うことができます。

ボイド・K・バッカー「霊の『わに』」『リアホナ』2002年10月号、8。この記事のたとえと経験は、不従順がどのような結果を招くかを示しています。

『神への務め—執事』「学業、人格、職業への備えの面での成長」の12

第28課—誘惑に耐える

ゴードン・B・ヒンクレー「国民の旗、世の光」『リアホナ』2003年11月号、82。現代の預言者の役割について話し合う際に、ヒンクレー大管長の勧めを紹介することを検討します。

ジェームズ・E・ファウスト「悪魔のどき」『リアホナ』2003年5月号、51。この説教のたとえと解説は、レッスンの補足として使うことができます。

第29課—安息日を守る

アール・C・ティンギー「安息日を聖日とする」『リアホナ』1999年2月号、48。この記事レッスンの導入として

使うことを検討します。

『神への務め—教師』「霊的な面での成長」の2

第30課—アロン神権者は女性を敬う

ジェームズ・E・ファウスト「女性であること—最高の榮譽」『リアホナ』2000年7月号、115。女性に与えられた特別な賜物^{たまもの}についての話を、レッスンの「男女の違いは神から与えられた」の項を教える際に用います。

『神への務め—祭司』「社会の一員としての社会的な面での成長」の2

第31課—永遠の伴侶を選ぶ

ダリン・H・オクス「時」『リアホナ』2003年10月号、10。この記事の中の「人生への適用」の部分レッスンの「結婚の時期」の項を教える際に紹介します。

『神への務め—祭司』「社会の一員としての社会的な面での成長」の4

第32課—神殿のエンゲウメントに備える

ハワード・W・ハンター「神殿に心を向ける民」『リアホナ』2004年3月号、40。この記事の「会員の偉大な象徴」の項を使うと、レッスンの「神殿の目的」の項の話し合いをより良いものにすることができます。

『神への務め—祭司』「家族の活動」の10

第33課—日の栄の結婚—永遠への備え

リチャード・G・スコット「神殿の祝福を受ける」『リアホナ』1999年7月号、29。この記事の最初の段落をレッスンの導入に使うことを検討します。

F・バートン・ハワード「永遠の結婚」『リアホナ』2003年5月号、92。この説教で挙げている3つの義務を使えば、レッスンの導入をより良いものにすることができます。

『神への務め—祭司』「社会の一員としての社会的な面での成長」の2、4

第34課—従順

R・コンラッド・シュルツ「従順による信仰」『リアホナ』2002年7月号、32。この説教で採り上げている「従順による信仰」に関する経験や話は、レッスンの「祝福は従順であるときにもたらされる」の項の補足として使うことができます。

『神への務め—執事』「社会の一員としての社会的な面での成長」5

『神への務め—祭司』「家族の活動」の1

第35課—主イエス・キリストを信じる信仰

ゴードン・B・ヒンクレー「信仰によって歩む」『リアホナ』2002年7月号、80。列車のたとえを使ってレッスンのまとめを補足します。

L・ホイットニー・クレイトン「不信仰なわたしを、お助けください」『リアホナ』2002年1月号、31。この説教で採り上げている聖文からの物語を一つか二つ使って、レッスンにある話に代えます。または、補足のためにこれらの話を使います。

『神への務め—教師』「家族の活動」の1

第36課—祝福師の祝福

ボイド・K・バッカー「ステーキ祝福師」『リアホナ』2002年11月号、42。バッカー長老の説教から必要な部分を抜粋して使い、「祝福師の祝福とは」の項を補足します。

「祝福師の祝福」『リアホナ』2004年3月号、18。この記事を復習として使い、レッスンのまとめを補足します。

『神への務め—教師、祭司』「家族の活動」の3

第37課—御霊の実と賜物

ジョセフ・B・ワースリン「言い尽くせない賜物」『リアホナ』2003年5月号、26。ワースリン長老による聖霊の賜物の説明を使って、レッスン導入を補足することができます。

第38課—キリストの純粋な愛

ウィリアム・W・パーマリー「わたしに従ってきなさい」『リアホナ』2003年11月号、93。この説教の話の中から一つを選び、キリストのような奉仕について説明します。

『神への務め—教師』「社会の一員としての社会的な面での成長」の3

『神への務め—祭司』「霊的な面での成長」の4

第39課—キリストの言葉を味わう

ロバート・D・ヘイルズ「霊と肉体の癒し」『リアホナ』1999年1月号、15。ヘイルズ長老の深く考えることに関する勧めを、レッスンの「神の言葉によって養いを受ける」の項を教える際

に使うことができます。

W・ロルフ・カー「キリストの御言葉——わたしたちの霊のリアホナ」『リアホナ』2004年5月号, 36。この説教の中の概念を「聖文の勉強は、天父に近く生活するのに役立つ」の項の最後に付け加えることを検討します。

『神への務め——執事, 教師, 祭司』「家族の活動」の1

第40課——伝道活動の実践

ダリン・H・オークス「福音を分かち合う」『リアホナ』2002年1月号, 7。オークス長老が挙げている3つのことをレッスンに付け加えることができます。

ゲリー・J・コールマン「まだそこにいたのですか」『リアホナ』2000年7月号, 34。福音を教える人々を見つけた例を紹介することを検討します。

『神への務め——祭司』「定員会活動」の3, 「霊的な面での成長」の11

第41課——さらに救い主のごとく

ジェームズ・E・ファウスト「新しく生まれる」『リアホナ』2001年7月号, 68。キリストのもとに来ることについての話し合いをする際に、アチアチの話を付け加えることができます。

L・ライオネル・ケンドリック「苦闘の中から生まれる強さ」『リアホナ』2002年3月号, 28。この記事の「一人一人のための救い主」の項は、救い主について話し合う際に補足として使うことができます。

第42課——謙遜で素直になる

マーリン・K・ジェンセン「へりくだってあなたの神と共に歩む」『リアホナ』2001年7月号, 9。レッスンにある物語を話した後で、この説教の中で挙げられている謙遜さの模範を幾つか話します。

アトス・M・アモリム「イエスの言葉——謙遜」『リアホナ』2003年3月号, 38。レッスンにある物語の代わりに、この記事で採り上げている謙遜に関する救い主の言葉と模範を使うことを検討します。

第43課——思いと言葉

ロバート・K・デレンバック「神を冒瀆する言葉」『聖徒の道』1996年9月号, 28。この記事は、「あらゆる場で清い言葉遣いをする」の項をさらに良いものにすることができます。

「前方に危険あり! ボルノグラフィの落とし穴を避ける」『リアホナ』



2002年10月号, 12。この記事にある勧めや引用を幾つか用いると、思いと言葉を清く保つ方法に関するレッスンをさらに良いものにすることができます。

『神への務め——教師』「霊的な面での成長」の5

第44課——奉仕

「回復された神権」『リアホナ』2004年4月号, 30。この記事の話は、神権者が人々にどのように奉仕できるかを教えるために使うことができます。

『神への務め——執事』「社会の一員としての社会的な面での成長」10, 『神への務め——教師』「社会の一員としての社会的な面での成長」12

第45課——人と分かち合うことにより証を強める

アダム・C・オルソン「歴史の試しに耐える」『リアホナ』2004年2月号, 36。この記事で採り上げられている青少年の言葉を引用して、個人の証を強める方法を教えます。

『神への務め——執事』「霊的な面での成長」の5

『神への務め——祭司』「定員会活動」の5

第46課——効果的なホームティーチング

ジョン・L・ハウター「後輩同僚」『リアホナ』2001年11月号, 28。同僚とどのように協力して働くべきか話し合う際に、この物語を紹介することができます。

『神への務め——教師』「霊的な面での成長」の3

第47課——正直

ダリン・H・オークス「悔い改め, 変わる」『リアホナ』2003年11月号, 37。オークス長老の説教の中ごろにある正直に関する話を、「正直はあらゆる

よい関係の基本である」の項を教える際に補足として使うことができます。『神への務め——祭司』「霊的な面での成長」の1

第48課——将来に備えて教育を受ける

ジョン・K・カーマック「永代教育基金——希望に満ちた明るい光」『リアホナ』2004年1月号, 32。職業に就く備えとして教育がいかに大切か話し合う際にこの記事を使うことを検討します。

『神への務め——執事, 教師, 祭司』「学業, 人格, 職業への備えの面での成長」の1

第49課——すばらしい受け継ぎ

ラッセル・M・ネルソン「根と枝」『リアホナ』2004年5月号, 27。この説教からネルソン長老の証を引用してレッスンをまとめることもできます。

『神への務め——執事, 教師』「霊的な面での成長」の6

『若い女性3』

以下は『若い女性3』第26課から第47課のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。

第26課——悔い改め

リチャード・G・スコット「良心の安らぎと心の安らぎ」『リアホナ』2004年11月号, 15。この課の「悔い改めはわたしたちの生活に平和と幸福をもたらす」の項を教える際に、悔い改めの段階に関するスコット長老の教えを紹介することを検討します。

ヘンリー・B・アイリング「引き延ばさないでください」『リアホナ』2000年1月号, 38。「毎日悔い改めなければ

ならない」の部分教える際に、アイリング長老の勧告を紹介します。

『成長するわたし』「徳質の体験——「選択と責任」」の4

第27課——自分自身を赦す

ニール・A・マックスウェル「偉大な栄えある贖罪を証する」『リアホナ』2002年4月号, 6。自分自身を赦すことの難しさについて話し合う際にマックスウェル長老の証を紹介することを検討します。

ジェフリー・R・ホランド「教え, 宣べ伝え, 癒す」『リアホナ』2003年1月号, 12。この記事の「キリストは歩むべき道を知っておられる」の項は、赦しの賜物について教える際に補足として使うことができます。

『成長するわたし』「徳質の体験——「信仰」」の5

第28課——奉獻と犠牲

ニール・A・マックスウェル「あなたがたの行くことを神聖にしなさい」『リアホナ』2002年7月号, 39。レッスンで引用するジョセフ・スミスの言葉について話し合う際に、マックスウェル長老の言葉を紹介します。

キース・B・マクマリン「約束の伴う招き」『リアホナ』2001年7月号, 75。日の栄えの律法について提示した後に、この世的な事柄を避ける方法を紹介することを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験——「信仰」」の7

第29課——改心

エズラ・タフト・ベンソン「最も価値あること」『聖徒の道』1990年2月号, 2。レッスンの応用方法について話し合う際、証をはぐくむことが宣教師になる準備として大切であることを説明している段落を引用します。

『成長するわたし』「徳質の体験——「誠実」」の2

第30課——聖文の学習

ラッセル・M・ネルソン「聖文の導きに従って生活する」『リアホナ』2001年1月号, 19。この説教で語られていることを、「聖文は、日々のチャレンジに打ち勝つための導き手となり、助け手となる」の項の補足として使います。

ジュリー・B・ベック「わたしは聖文に喜びを感じる」『リアホナ』2004年5月号, 107。ベック姉妹の聖文勉強



の経験を紹介することを検討します。

『成長するわたし』「徳質のプロジエクト——『信仰』」の黒丸4

第31課——教会での奉仕

ヘンリー・B・アイリング「主の力を受けて」『リアホナ』2004年5月号, 16。この説教の中から例の一つ挙げて、教会で進んで奉仕することについて説明します。

スーザン・W・タナー「万事があなたがたの益となるようにともに働くであろう」『リアホナ』2004年5月号, 104。この説教で挙げられている奉仕の例を紹介することを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『善い行い』」の1

第32課——地域社会での奉仕

ジェームズ・E・ファウスト「何の得になるんだ」『リアホナ』2002年11月号, 19。この説教の物語の一つ紹介して、奉仕するとはどういうことか説明します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『善い行い』」の6

第33課——だれもが神の子で永遠の存在である

ゴードン・B・ヒンクレー「より善い人になりましょう」『リアホナ』2002年11月号, 99。自らの内にある神の資質を高めるようにこの勧告をレッスンの導入に使うことができます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』」の1

第34課——不正直を避ける

ゴードン・B・ヒンクレー「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号, 30。「誠実な人になりましょう」の項を使って、レッスンの導

入をより良くすることができます。

トーマス・S・モンソン「静まれ、黙れ」『リアホナ』2002年11月号, 53。この説教に出てくる、不正直にならないための二つの質問を紹介して、レッスンをまとめます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『誠実』」の4

第35課——デートに関する決断

スーザン・W・タナー「正しいデート 結婚に向けた穏やかな航海のために」『リアホナ』2004年10月号, 42。レッスンの「欲情を制する」の部分の補足として、この記事にある4つの原則を教えます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の2

第36課——結婚の標準

ゴードン・B・ヒンクレー「理想の女性となるには」『リアホナ』2001年7月号, 112。「わたしたちは正しい標準をいつも守らなければならない」の項を教える際にこの説教の話を使うことを検討します。

「デートと神殿結婚」を特集した『リアホナ』2004年10月号。レッスンを補足する話を探します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『個人の価値』」の2

第37課——標準としての神の言葉

ゴードン・B・ヒンクレー「確かな道を歩みなさい」『リアホナ』2005年1月号, 2。「若い女性たちは皆、チャレンジに遭遇する」について話し合った後に、「確かな道を歩む」の項を使います。

ジャン・ピンボロー「すべての善良で美しいもの」『リアホナ』2003年3月

号, 14。慎み深さの標準について話し合う際にこの記事引用します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の2

第38課——健康についてのよい習慣

ボイド・K・パッカー「あなたがたは神の宮である」『リアホナ』2001年1月号, 85。この説教の話を、レッスンの「主は指針を与えられた」の項を教える際に使います。

『成長するわたし』「徳質のプロジエクト——『知識』」の黒丸3

第39課——自分の価値に気づく

シドニー・S・レイノルズ「主はわたしたちを御存じて、愛しておられます」『リアホナ』2003年11月号, 76。シオンの陣営の話に加えて、この説教の物語を紹介することを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『個人の価値』」の1

第40課——自分を愛し、人を愛する

「質疑応答」『リアホナ』2004年12月号, 40。自分を愛することについての話し合いの補足として、この記事の提案を使います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『個人の価値』」の3

第41課——信頼される人になる

「時間を管理し、バランスを保つ」『リアホナ』2003年4月号, 33。信頼に足る人となることについて教える際に、この記事のリストを使って補足します。

『成長するわたし』「徳質のプロジエクト——『誠実』」の黒丸1

第42課——変化に備える

ラネー・ハーディング「わたしだけではない」『リアホナ』2004年2月号, 26。レッスンにある物語の代わりにラネーの体験談を使うことを検討します。

ジュリー・ハウスホルダー「髪の毛なんて」『リアホナ』2003年8月号, 18。この記事は、「変化にうまく対処するすべを学ぶ」の項の導入に使うことができます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『誠実』」の4

第43課——人との交わり

ジェームズ・E・ファウスト「生活にバランスを」『リアホナ』2000年3月号, 2。批判について話し合う際の補足としてこの記事を使うことを検討します。

リチャード・H・ウィンケル「友情の網」『リアホナ』2003年8月号, 32。アメリカスギのたとえは、「積極的に人に近づく」について話し合う際の補足として使うことができます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』」の7

第44課——時間に追われる生活をしていない

リチャード・G・スコット「知識と強さを得て、賢明に用いる」2002年8月号, 12。この記事の話を使うことによって、知恵と秩序を持つことについての話し合いをより良いものにするすることができます。

ポーラ・J・ルイス「ストレスを和らげる5つの方法」『リアホナ』2000年9月号, 24。ここにある提案は、「時間に追われないようにする」の項を教える際に使うことができます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『個人の価値』」の2

第45課——職業を選ぶ

ゴードン・B・ヒンクレー「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号, 30。職業選択についての話し合いをより良いものにするために、「知性を備えた人になりましょう」の項を使うことを検討します。

ジョン・K・カーマック「永代教育基金——希望に満ちた明るい光」『リアホナ』2004年1月号, 32。この記事の提案は、「職業選択のための指針」の項に付け加えることができます。

『成長するわたし』「徳質のプロジエクト——『知識』」の黒丸2

第46課——金銭管理

「あふれる恵み」『リアホナ』2003年12月号, 18。この記事の物語は、じゅうぶん 十分の一の項に付け加えることができます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『知識』」の2、「徳質の体験——『選択と責任』」の7

第47課——末日の預言者のメッセージ

ゴードン・B・ヒンクレー「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号, 30。この記事から適切な勧告を選んでレッスンで使います。

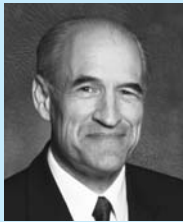
『成長するわたし』「徳質の体験——『信仰』」の1

中央補助組織会長会

日曜学校



第一副会長
ダニエル・K・ジャッド



会長
A・ロジャー・メリル



第二副会長
ウィリアム・D・オズワルド

若い男性



第一副会長
ティーン・リード・バージェス



会長
チャールズ・W・ダークキスト



第二副会長
マイケル・アントン・ナイダー

扶助協会



第一副会長
キャスリーン・H・ヒューズ



会長
ボニー・D・パーキン



第二副会長
アン・C・ピングリー

若い女性



第一副会長
ジュリー・B・ベック



会長
スーザン・W・ターナー



第二副会長
イレイン・S・ダルトン

初等協会



第一副会長
マーガレット・S・リファース



会長
シェリル・C・ラント



第二副会長
ビッキー・F・松森

チャーチ・ニュース

ベンハミン・デ・オヨス長老

七十八



七十人第一定会会のベンハミン・デ・オヨス・エストラーダ長老と親

族は、今年の7月に、母方の曾祖母が教会に加わった1905年から数えて100年目を迎えるため、そのお祝いをする事になっています。

けれども、長年にわたる教会とのかかわりだけがこの一族の遺産ではありません。この家族は代々教師を輩出し、数え切れないほどの人に影響を及ぼしてきました。

デ・オヨス長老の母親は教師でした。二人のおじはブリガム・ヤング大学で教鞭を執っていました。デ・オヨス長老の3人の姉妹も教師です。娘を含め、一族の教職者は3代にわたっています。

デ・オヨス長老は技術者になるつもりでしたが、結局は教育学を専攻して、教会教育システムで26年間働くことになりました。「技術者でなく教育者になろうと決意したときに主の導きがありました。教会ではあらゆる人が教師です。教会で奉仕するときに教師という職業が役立

ちました」とデ・オヨス長老は語ります。

デ・オヨス長老と妻のエベリア・ヘネスタ・メンディビル・デ・オヨスは長老が教会教育システムに勤務していた間、メキシコのほとんどの州で生活しました。長老はセミナー教師、教会教育システムコーディネーター、インスティテュートディレクター、地域ディレクター補佐、メキシコ全域を担当するディレクターを歴任しました。その間、4つのステークの会長会で会長や副会長、メキシコ・トゥストラ・グティリエス伝道部部长、地域七十人、メキシコ南地域会長会第二副会長を務めました。

デ・オヨス長老とエベリアは1975年6月4日、アリゾナ州メサ神殿で結婚しました。度重なる引っ越しや長時間に及ぶ教会の召しにもかかわらず、夫妻と6人の子供は家族で聖文を学んだり、一緒に過ごす計画を立てたりすることによって一致を強めてきました。

専任の奉仕の召しを果たすため、長老は職を辞することになりますが、教える仕事は今後も続けます。「教えたり学んだりすることに終わりはないのです」とデ・オヨス長老は語ります。「教師の務めは大きな特権です。」

デ・オヨス長老は1953年2月20日、メキシコのモンテレーでアルフレド・デ・オヨス、サラ・エストラーダ・デ・オヨス夫妻のもとに生まれました。デ・オヨス長老はメキシコ・エルモシージョ伝道部で伝道しました。◆

デビッド・F・エバンズ長老

七十人



「で きるうちはずっと、最善を尽くし続けなさい。」七十人第一委員会のデビッド・フルーウィン・エバンズ長老は、この知恵にあふれる言葉をいつも念頭に置いています。父親が人生を閉じる前のつらい時期に言った言葉でした。

人は皆試練や問題に遭います。けれども、「大切なのは主を信じる信仰を持つことです」とエバンズ長老は語ります。「主はすべての人に永遠の祝福へ通じる道を開いておられます。しかしそれだけでなく、今の生活で平安と幸せとチャンスを得るといすばらしい祝福へ通じる道を開いておられるのです。」福音の証^{あかし}を得たら、「人に伝えなければなりません」とエバンズ長老は勧めています。

伝道はエバンズ長老の半生を通じて大きな位置を占めてきました。1970年代初期に日本で伝道し、1998年から2001年まで日本名古屋伝道部の部長として再び日本で奉仕しました。エバンズ長老、妻であるメアリー・ディー・シェファード・

エバンズ、そして8人の子供は、故郷ソルトレーク・シティーに戻ってから伝道活動を続けています。

エバンズ長老は伝道のほかにも、様々な召しを果たしてきました。七十人に召される前はステーキ会長でした。それ以前はステーキ副会長、ステーキ若い男性会長、監督を務めました。

1951年8月11日、ソルトレーク・シティーで、デビッド・C・エバンズ、ジョイ・F・エバンズ夫妻のもとに生まれたエバンズ長老は、二人を模範的な両親として絶賛します。1973年1月24日にソルトレーク神殿で結婚した妻のメアリーもまた、エバンズ長老の大きな支えとなってきました。

エバンズ長老は高い教育を受けることに情熱を注ぎ、地域保健学と法律学の学位を取得しました。ユタ州内の複数の法律事務所を共同経営し、また、弁護士としても活躍しました。現在も投資銀行の役員です。

エバンズ長老は、人生に訪れる試練の後には必ず祝福があることを知っています。しかし、ヒンクレー大管長が教えているように「信仰をもって前進すること」にしています。信仰をもって前進し、できることをすべて行うなら、「やがて、主が試練の間ずっとともにおられたこと、そして今もともにおられることを実感できるようになります。」エバンズ長老はそう語ります。◆

C・スコット・グロー長老

七十人



七十人第一委員会のセシル・スコット・グロー長老は日曜学校に通っていた7歳のときから証^{あかし}が花開き始めたと言います。「麗しき朝よ」(『賛美歌』18番)を歌っていたとき、ジョセフ・スミスが神の預言者であることについて証を得たのです。

それを機に、福音の教義に対する理解が深まり、証が強まって、確かな土台が築かれていきました。「イエス・キリストが救い主、贖^{あがな}い主であることに疑問を持ったことは一度もありません」とグロー長老は言います。

グロー長老と妻のロンダ・リー・パッテン・グローは、1969年10月10日にソルトレーク神殿で結婚しました。二人とも都会育ちでしたが、(当時地区代表を務めていた)L・アルディン・ポーター長老の勧めに従って、5エーカー(約2ヘクタール)の土地に家を建てて、子供に労働の価値を教えるために、馬や牛、鶏、羊を飼育しました。

後に、グロー長老夫妻は8人の子供とともにウルグアイへ移りました。グロー長老はそこでウルグアイ・モンテビデオ伝道部の部長を務めました。

「夫に授けられた賜物^{たまもの}は、楽観的で熱意があることです。夫は温かく、愛をもって人に接しますし、皆さんも夫の愛にこたえてくださいます」とグロー姉妹は言います。

グロー長老は1948年5月5日、アイダホ州モスコでセシル・ウッド・グロー、エルシー・メイ・リー・グロー夫妻のもとに生まれました。アイダホ州ボイシで成長し、アイダホ州メリディアンで長い間生活しました。プリガム・ヤング大学で会計学を修めた後、会計およびビジネスコンサルティング事務所の大手数社で働きました。その後、会計事務所を共同で設立しました。この度、教会の専任の召しを受けるまで、グロー長老は地域七十人としてアイダホ地域会長会会長を務めていました。それ以前には、北アメリカ北西地域会長会副会長、ステーキ会長、ステーキ副会長(2回)、伝道部長、高等評議員、ステーキ若い男性会長、副監督、メキシコ南東伝道部で専任宣教師を務めました。◆

リチャード・G・ヒンクレー長老

七十人



七十人第一委員会のリチャード・ゴードン・ヒンクレー長老は七十人の召しを受けたときの気持ち、断食献金を集める割り当てを受けて気恥ずかしさを覚えた執事のころや、伝道部長に召されてしばらくの間感じた気持ちに似ていると話しています。

「断食献金を集めることが怖かったのです。けれどもすばらしい経験となりました」とヒンクレー長老は言います。「伝道部長の召しはどれほど準備しても準備し切れるものではありません。最初の数か月は沈みかけた船に乗っているような気分でした。けれどもその後すばらしい経験をしました。」

新しい召しを受けたヒンクレー長老は今、圧倒され、自分はその器ではないと感じると話します。けれどもこれまでの経験から次のことを学びました。「召しを拒んではいけません。召しに応じるときに、学び成長できるように主が助けてくださいます。やがて、小さくても何らかの貢献ができるようになるの

です。」

ヒンクレー長老はソルトレーク・シティーで生まれ、成長し、現在も同市に住んでいます。伝道部長としてユタ州ソルトレーク・シティー伝道部を管理しました。

ユタ大学で経済学の学位を、カリフォルニア州のスタンフォード大学で経営学修士号を取得したヒンクレー長老は、全国展開型あるいは地域密着型のベンチャー企業や会社の役員、共同出資者、諮問委員として活躍してきました。ドイツで専任宣教師として働きました。そして、これまで世界各地を訪れてきました。

伝道部長として、世界42か国と合衆国の46州から召された宣教師を管理しました。「まるで国際伝道部にいるようなものでした。」その経験によって「この教会の将来に対して強い確信を持つことができました」とヒンクレー長老は語っています。

これまでに、ソルトレーク神殿の結び固め儀式執行者、ステーキ会長、ステーキ副会長を2度、監督を2度務めてきました。ヒンクレー長老は1941年5月2日、ゴードン・ビトナー・ヒンクレー、マージョリー・ペイ・ヒンクレー夫妻のもとに生まれました。ヒンクレー長老と妻のジェーン・フリード・ヒンクレーは1967年7月28日にソルトレーク神殿で結婚して、4人の子供がいます。◆

ポール・V・ジョンソン長老

七十人



七十人第一委員会のポール・V・ジョンソン長老は、大学時代、歯学を学ぶ準備を進めていました。やがて父の医院を継ぐつもりでした。

そのころ、宣教師訓練センターの前身である言語訓練センターで教えていました。自分の将来は歯科医になることではないと知ったのはいつのことか憶えていませんが、将来セミナーの教師になると言ったときに二人の大切な人から受けた言葉は忘れられません。

最初は父でした。「もしわたしがほかの道を選んだとしたら、教師になっていただろうね。」

もう一人は彼の婚約者でした。彼女は泣きだしました。セミナーの教師と結婚したいとひそかに思っていたからです。セミナー教師の家族と親しくしていて、その家庭の雰囲気にもあこがれていたのです。

ジョンソン長老は1954年6月24日、フロリダ州ゲーンズビ

ルで、ビア・ホッジズ・ジョンソン、ウインフレッド・エメシユール・ジョンソン夫妻のもとに生まれました。ジョンソン長老はユタ州ローガンで成長し、1976年8月18日にユタ州ローガン神殿でレスリー・ジル・ウォッシュバーンと結婚しました。

ジョンソン長老はブリガム・ヤング大学で動物学の学士号、また同大学でカウンセリング・ガイダンスの修士号、そしてユタ州立大学で教育工学の博士号を取得しました。

ジョンソン長老はアリゾナ州とユタ州で12年間セミナーを教えました。その後ソルトレーク・シティーの教会教育システムで教科課程開発と宗教教育教育長をはじめとする管理職を歴任しました。

長年にわたって青少年とヤングアダルトに接してきた経験から少なくとも一つのことを感じています。それは、教会の将来は明るいということです。「預言者はこの世代の人々について述べていますが、預言者の言うとおりで。教会には非常にしっかりした若人がいます。」

七十人に召される以前にジョンソン長老は、地域七十人、ステーキ副会長、ステーキ高等評議員、監督、ワード若い男性会長を務めました。また、宣教師としてノルウェー・オスロで伝道しました。◆

ポール・E・コーリカー長老

七十人



7人の子供の父親であり、教会神殿部の実務運営ディレクターを務めた、七十人第一委員会のパール・エドワード・コーリカー長老にとって、家族が最も大切であり、神殿は家族を養い、支えるためにあると信じることは不思議なことではありません。

「主はその深い^{あわ}憐れみにより、生活を豊かに祝福してくださいました」とコーリカー長老は言います。「定期的集まり、家族で神殿に参入します。子供たちはおじいさん譲りの話し上手で、わたしたち夫婦をひっきりなしに笑わせてくれます。」

1943年3月12日、カリフォルニア州ピッツバーグ生まれのコーリカー長老は、エドワード・C・コーリカー、ロイス・オルソン・コーリカー夫妻のもとに生まれた5人きょうだいの長男です。家族は1945年にユタ州ソルトレーク・シティへ移りました。

コーリカー長老は、後に妻となるフレダ・アン・ニールソンと同じ高校に通いましたが、二人ともユタ大学に通っていた1964年までデートをしたことがあり

ませんでした。コーリカー長老はドイツのベルリンにおける伝道からすでに帰還していました。コーリカー長老とアンは、1966年3月18日にソルトレーク神殿で結婚しました。

伝道中の経験についてコーリカー長老はこう語ります。「ドイツで家族と引き離された人々に出会いました。両親がベルリンの壁を隔てた向こう側に住んでいる家族を教えたことがあります、そのような中で家族の意味がはっきりと理解できるようになりました。」

ステーク会長や監督として教会で奉仕する機会があったことに感謝するコーリカー長老は、そのような経験を通して神殿部で働く備えができたと言います。

「神殿部で働くのが大好きです」とコーリカー長老は言います。コーリカー長老は、経営学の学位を持ち、1966年以来、教会の様々な役職を果たしてきました。「実務運営ディレクターという職に就いてから、69の神殿が建ちました。その間、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の熱意と行動力を直接目の当たりにしてきました。大管長の思いは神殿の業に向けられています。この神聖な召しにあって大管長を支持します。ヒンクレー大管長はこの時代のために備えられた人です。わたしには、ヒンクレー大管長が神から^{あかし}召された預言者であるという強い証があります。」◆

ポール・B・パイパー長老

七十人



教会のワードや支部の発展のために人生の大半を費やしてきたため、七十人第一委員会のポール・ボーウェン・パイパー長老には、王国の発展を主が導かれることに対して強い証^{あかし}があります。

「主は王国の発展に必要な人や物を御存じであり、その必要に応じて道を備えられます」とパイパー長老は言います。「主は進んで行く心と意を持つ人に、参加する特権を与えてくださいます。」

パイパー長老が支部長として働いていたときのことです。あまり教会に来ていない兄弟を副支部長に召すようにという促しを受けました。その兄弟は現在ステーク会長として働いており、ニカラグアの教会再建を支援しています。パイパー長老は自分が奉仕してきたほかの国でも、同じような出来事が繰り返されるのを見てきました。

過去6年にわたって、パイパー長老と家族は旧ソ連に住んでいました。パイパー家族は、

カザフスタンなど中央アジアの国々で教会が発展するのを見てきました。七十人に召されたときに、パイパー長老はロシア・サンクトペテルブルク伝道部の部長の任にありました。「この教会は主の教会です。」パイパー長老はそう語ります。「主はこの教会を愛し、世界中に広がることを望んでおられます。」

パイパー長老は両親と祖父母をたたえるだけでなく、1979年11月7日にソルトレーク神殿で結婚した妻のメリサ・タトル・パイパーと6人の子供の助けにも感謝しています。ふさわしい父親、そして神権者となれるよう助けてくれたからです。

パイパー長老は1957年10月7日、アイダホ州ボカテロで、ディー・メイヤーズ・パイパー、ノーマ・ボーウェン・パイパー夫妻のもとに生まれました。ブリガム・ヤング大学で国際関係学を学び、ユタ大学で政治学の学士号、さらには法学の学士号を取得しました。これまで弁護士ならびに国際開発コンサルタントとして働いてきました。

パイパー長老はステーク会長会、高等評議会、支部長会で奉仕し、メキシコ・モントレイ伝道部の専任宣教師として働きました。◆

ユリス・ソアレス長老

七十人



信仰と従順、この福音の二つの原則は、七十人第一定員会のユリス・ソアレス長老の人生で最も大切にされてきました。

ブラジル・サンパウロの生まれのソアレス長老と妻のロサナ・フェルナンダ・モルガド・ソアレスは、ブラジル南地域の実務ディレクターとして訓練を受けるために、しばしば合衆国へ旅しました。どこに行っても教会には必ず出席しようと決心していたソアレス家族は、ある日曜日に教会で一人の善いサマリヤ人が示してくれた友情を忘れることはありません。このときの友情に感謝したソアレス長老と姉妹は、その日の夜、この友人の助けが再び必要となったときに、さらなる祝福を実感することになりました。妊娠していたソアレス姉妹が流産したのです。

ソアレス長老は目に涙を浮かべながら当時を振り返ります。「知っている人はなく、医療システムについても何も知りませんでした。しかし主は守ってくださったのです。」新しくでき

た友人が二人の祈りへの答えでした。その友人のおかげでほんとうに必要な治療を受けることができました。「わたしたちは守られました。」ソアレス長老はそう証します。「その日、教会に出席したからです。」

ソアレス長老は、伝道部長、ステーキ会長、高等評議員、ブラジル・リオデジャネイロ伝道部の専任宣教師など、様々な責任を果たしてきました。ソアレス長老は、MBA(経営学修士号)と、経営会計学ならびに経済学での二つの学士号を取得しています。

1958年10月2日に、ブラジルのサンパウロでアパレシド・ソアレス、メルセデス・カレチョ・ソアレス夫妻のもとに生まれたソアレス長老は、両親から主の戒めに従うことの大切さを学びました。ソアレス長老は最愛の妻ロサナと1982年10月30日に、ブラジル・サンパウロ神殿で結び固められました。二人は3人の子供を育て、家族はエタ州バウンティフルに住んでいます。

ソアレス長老は、天の御父と御子イエス・キリストへの従順と信仰を通して授かったすべての祝福に常に感謝しています。「贖いを通して得られる成長は実にすばらしいものです。」長老はさらにこう言います。「信仰をもって贖いの効力を生活に生かすなら、幸福な生活を永遠に送ることができます。」◆

高元龍長老

七十人



1962年に教会に入ったばかりのころから、七十人第二定員会の高元龍長老は、責任という名の「上着」を着るために努力してきました。それはこの世の「仕立屋」から与えられた課題ではありませんでした。

「与えられた召しは、いつも能力を超えていました。」高長老はそう語ります。「どの召しも大きすぎて、体に合わない上着のように思えました。しかし、いつも努力してきました。」

高長老は1945年10月15日、韓国の釜山で高昌洙、李相順夫妻のもとに生まれました。1960年代の韓国でこの教会に籍を置くことは容易ではありませんでした。しばしばマスコミが固めた様々な誤解があったからです。しかし高長老は、主が御自身を尊ぶ者を尊ばれることを知りました。教会の会員であったからこそ、3年間の兵役義務を無事に果たし、また後にシステムエンジニアから社長兼CEO(最高経営責任者)へと昇進することができたのです。

高長老は、ステーキ会長、地

区代表などの責任を果たし、最近では、地域七十人として、2003年からアジア北地域会長会第二副会長の割り当てを受けて働いています。

高長老と妻の金銀姫は1978年4月1日に結婚し、韓国ソウル神殿で結び固めを受けました。高長老は、妻と二人の子供が大きな支えになったと語ります。また様々な召しや試練の中にあって支えてこられた救い主の愛に感謝しています。

「イエス・キリストは、その必要がなかったにもかかわらず、だれ一人として経験したことのないようなところにまで自らを低くされました。だからこそ、わたしたちの苦しみ、試練、そして困難を理解することがおできになるのです。」高長老はそう語ります。「イエス・キリストは、確かにわたしたちの救い主、贖い主です。」

高長老は新たな召しを受けるに当たって、このあまりにも大きく見える上着を着ようとするときに、救い主に頼らざるを得ないと語っています。

「わたしはこの召しを自分から求めたものではありません」と高長老は言います。「召しは主から与えられるものです。ですから『神の栄光にひたすら目を向けて』(教義と聖約4:5)働くなら、主は助けてくださいます。この聖句が大好きです。この言葉はわたしの決意を表しています。これが過去40年以上の信仰生活から得た証です。」◆

ウォルフガング・H・ポール長老

七十人



ドイツで育った七十人第二定員会のウォルフガング・ハインツ・ユルゲン・ポール長老の家族は、町で唯一の教会員でした。ポール長老は其中で、自分の意見を確固として貫き、擁護する能力をはぐみました。

軍務に就いていたときに、ポール長老はモルモン書をそれまで以上に深く研究し、祈ることで証を強めました。

「証を得てから、いつも主を第一にすることを人生の基本原則にしました。」長老はそう語ります。「主を第一にすると、ほかのことはすべてふさわしいところに落ち着くのです。」

長老はさらに、証が強まったことで、人生の大切な事柄に目を向けられるようになったと言います。ポール長老は教会員の若い女性と結婚し、福音に添って子供を育て、正しいことに心を向けようと決心しました。

ポール長老は決心を固く貫きました。1964年4月2日に、スイス・ベルン神殿でヘルガ・クラッパートと結婚し、3人

の子供を福音の中で育てました。また、正しいことを行うという姿勢も変わりませんでした。

長老はヨーロッパ中央地域で地域七十人として奉仕してきました。ドイツ連邦政府の行政管理学校を卒業したポール長老は政府職員として働きました。また、ヨーロッパにおける教会実務面の管理者としても様々な職に就き、最近退職しました。

教会では、ヨーロッパ東地域会長会第二副会長、地区代表、伝道部長、ステーク副会長、ステーク若い男性会長、監督、大祭司グループリーダー、支部長、そして長老定員会会長などの責任を果たしてきました。

ポール長老は、1988年にドイツ・ハンブルグ伝道部の部長として働く召しを受けました。しかし、1989年3月に召しに変更され、1991年まで、ベルリンの壁の反対側、ドイツ・ドレスデン伝道部の初代部長として働いたのです。ポール長老は1940年2月28日、ドイツのミュンスターでヨハン・ポール、バータ・スターバティ・ポール夫妻のもとに生まれました。◆

ローウェル・M・スノー長老

七十人



七十人第二定員会のローウェル・ミラー・スノー長老は、これまで10年にわたって専任宣教師として奉仕し、贖いの力と伝道活動の重要性についての証を培ってきました。

「人生で得た良いものはすべて、贖いの業のおかげです」とスノー長老は語ります。「わたしがこれほど伝道活動が好きなのはそのためです。自分が受けてきたのと同じ祝福を人々にも経験してほしいと願っています。」

人生を祝福してくれた人たちについても、感謝を込めてこう語ります。「成長する中で、家族は福音を教え、福音に従って生活しました。また、妻は改宗者であり、すばらしい証を持っています。神権指導者や教師、兄や姉、監督、伝道部長やステーク会長など、すべての人がわたしを導き、高めてくれました。」

スノー長老はこれまで数々の召しを果たしてきましたが、彼にとって最も大切なのは、「父親、夫、そしてキリストの

弟子としての役割です。わたしが関心を抱いているのは、それだけです」と語ります。

スノー長老は1944年1月2日、ユタ州セントジョージで、ルーロン・A・スノー、マリアン・M・スノー夫妻のもとに生まれました。プリガム・ヤング大学在学中、同じ大学の学生であり、将来の妻となるタマラ・アン・ミーンズ・スノーと出会います。二人は1966年9月8日、カリフォルニア州ロサンゼルス神殿で結婚し、5人の子供がいます。

スノー長老は、七十人定員会の会員として専任の召しを受ける前、ユタ州北地域の地域七十人として奉仕していました。スノー長老はプリガム・ヤング大学を卒業し、動物学と化学の学位を取得しています。ウェイン州立大学からカウンセリング・ガイダンスの修士号を受け、ユタ大学で法学の学士号を取得しています。これまで弁護士、またビジネスコンサルタントとして働いてきました。

教会においては、地域会長会の幹部書記、教会案内ディレクター、伝道部長、ステークおよびワードの若い男性会長、ステーク副会長、監督、副監督、支部長を務め、西ドイツ伝道部で専任宣教師として働きました。◆

ポール・K・ジブラウスキー長老

七十一人



七 十人第二定員会のポール・ケイ・ジブラウスキー長老の人生において、伝道活動は常に大きな位置を占めてきました。1964年から1966年、青年であったジブラウスキー長老はグレート・カナディアン伝道部で専任宣教師として働きました。また去年、カナダ・トロント西伝道部の部長の責任から解任されました。現在でも、ジブラウスキー長老の伝道活動への愛は、子供たちの生活に如実に表れています。

ジブラウスキー長老と妻のリン・ブライアー・ジブラウスキーには、9人の子供がいて、まだ家にいる2人を除き、残りの7人全員がすでに伝道を終えたか、あるいは現在伝道中です。

ジブラウスキー長老はこう述べています。「若い男性や女性たちが伝道活動の価値を理解するなら、伝道は人にできる最も価値ある事柄の一つだということが分かるようになるだろうと、わたしは思います。……わたしにとって、最初の伝道は、人生の錨となり、基盤となっ

ています。」

また、自分の子供たちが伝道に出るのを見るのは「すばらしい」ことだったと言います。子供たちが仕えたいという望みを抱くことができたのは、妻が必ず、家族の祈り、聖文の勉強、夕食、家庭の夕べを家族でともに行うようにしてくれたおかげだと感じています。

ジブラウスキー長老は、教会にあまり集っていない家族のもとで育ちましたが、回復された福音に対する証は決して揺らぐことはありませんでした。「わたしは常に、キリストが生きておられることを知っていました。その証の賜物を受けたのは、まだとても幼いときのことです」と長老は語ります。「その証は、多くの奇跡や、信仰を増し加える経験によって強められました。」

ジブラウスキー長老は、1944年8月22日、ソルトレーク・シティーで、ポール・H・ジブラウスキー、ベティ・アン・ジブラウスキー夫妻のもとに生まれました。ジブラウスキー長老夫妻は、1968年5月15日、ソルトレーク神殿で結婚しました。

長老は、ブリガム・ヤング大学で学び、社会学の学士号を取得して卒業しました。幾つかの多国籍情報サービスやソフトウェア開発会社の管理職を務めた後、現在は事業を営んでいます。教会においては、ステーキ会長、ステーキ副会長、ステーキ高等評議員、監督として奉仕してきました。◆

シェリル・C・ラント

中央初等協会会長



第 11代中央初等協会会長に召されたシェリル・クラーク・ラントは、子供とどのように接したらよいかをよく知っています。彼女自身の家族、教育、職業、そしてこれまで受けてきた教会の召しを含めて、「人生のすべてが、この召しの備えとなりました」とラント姉妹は語ります。主は、わたしたちのために用意しておられる事柄についてよく御存じであり、「喜んで従うならば、人生を通じて常に導き、様々な経験を通して備えてくださるのです」と語ります。

そのような備えの一つが、9人の子供を育てたことでした。「子供たちが幼かったころはよく、寝る前におとぎ話を話して聞かせました」とラント姉妹は言います。子供たちは決まって「そのお話はほんとうのことなの」と聞きました。やがてラント夫妻は、「この時間を使って真理を教えよう」と決め、おとぎ話の代わりに聖文の物語を聞かせることにしました。

「寝る前に聖文の物語を聞かせると、次の日、子供が我を張って親の勧めに従おうとしないときに、『ニーファイみたいになり

いの? それともレーマンやレムエルみたいになりたいの?』と聞けるのです。すると、子供たちはちゃんと分かるのです。」

ラント姉妹は、1944年1月30日、チャールズ・パール・クラーク、ピアノ・ケラー・クラーク夫妻のもとに生まれ、ユタ州プロボで育ちました。ブリガム・ヤング大学において幼児発達学を学びました。1963年9月17日、高校時代から恋人であったジョン・グレン・ラント・ジュニアとソルトレーク神殿で結婚しました。二人は大きな幼稚園を設立し、フォニックス(訳注——単語の読み方を発音と関係づけて教える方法)に基づいた、初歩の読み書きを教えるプログラムを開発し、すばらしい成果を上げました。

「子供たちを愛しています」と姉妹は語ります。「子供の心は傷つきやすいですが、霊は強いのです。」

姉妹は、子供に福音を教えるということはただ、彼らの霊がすぐによく知っている真理を思い出させるだけだと信じています。「子供たちの持つ、御霊を感じ、霊的な事柄を理解する能力を、決して過小評価しないでください。」

ラント姉妹はこれまで、中央初等協会管理会会員、ステーキとワードの初等協会会長、ステーキ扶助協会副会長、ワード若い女性会長、初等協会教師として召しを果たしてきました。中央初等協会で奉仕することを楽しみにしています。なぜなら、そこは「子供たちに彼らが神の子供であることを知らせることによって、生活を祝福」しようとする組織だからです。◆

マーガレット・S・リファース

中央初等協会第一副会長



7人の子供の母として、マーガレット・スウェンセン・リファースは、子供たちの生活のささやかな出来事の瞬間に、両親がともにいることの大切さを強調しています。子供の一人が4歳で、友達と仲違いをして泣きながら家に帰って来たときのことを思い出してこう語ります。「わたしはただ、息子をひざに乗せて『どうしたらいいかしら』と言いました。そして話し合い、友達のところへクッキーを1皿持って行くことに決め、それで問題は解決したのです。」

このようなちょっとしたひとときこそ、ほんとうに教えることができる瞬間であり、そのような機会を通して、子供たちがこの世でどう生きていったらよいかを示すことができるのです。」

リファース姉妹は1947年3月30日、ワシントンDCで、ジェニー・ロムニー・スウェンセン、アルバート・スウェンセン夫妻のもとに生まれました。ユタ州プロボで育った彼女は、ブリガム・ヤング大学で英語学の学位

を取得し、1968年8月16日、ソルトレーク神殿でデニス・リファースと結婚しました。

リファース姉妹は、幼いころから祈りについての証^{あかし}を持っていました。それは簡単な経験の数々によって強められてきました。例えば、両親が神殿に出かけたある日のこと、ベッドの中にいた幼い彼女は、悪天候のために両親が安全に帰って来られるかどうか心配していました。しかも、風邪を引いてせきがまだ治らず、なかなか眠ることができませんでした。こう語っています。「ベッドから出てひざまずくと、せきが止まるように、そして両親が無事に帰って来られるようにと祈りました。」すると、ほんとうにせきは止まり、静かに眠りに就くことができました。そして、翌朝目が覚めると、両親は無事に家に帰っていたのです。

「天の御父は子供たちを愛し、祈りにこたえてくださり、その時代の難しい問題に立ち向かう力を与えてくださいます」とリファース姉妹は語ります。「初等協会は、どうしたらその知識が得られるかを子供たちが分かるように助けます。それは戒めを守り、聖約を交わし、天の御父の計画に従う中で得られる知識です。」

リファース姉妹はこれまで、中央初等協会管理会、ステーキ扶助協会副会長、ワード初等協会副会長として奉仕してきました。◆

ビッキー・F・松森

中央初等協会第二副会長



ビッキー・藤井・松森姉妹は、教会員になる以前から初等協会に通っていましたが、まだ幼いころ、両親は娘に教会に通ってほしいと思っていましたが、ちょうどユタ州マーレイの自宅のそばに、末日聖徒イエスキリスト教会の集会所があったのです。

「わたしはいつも、教会が真実であるを知っていました」と松森姉妹は語ります。自分の一について学んだときには納めたいと思いましたが、断食について学んだときも断食したいと思いましたが。そして8歳になったときには、バプテスマを受けたいと思いましたが。

しかし、バプテスマを受ける許可を求めたとき、両親であるジョージ・ヤスユキ・藤井、ヨシエ・マツモト・藤井夫妻は、娘が入ろうとしている教会について娘自身にもっと知ってほしいと思いましたが。教会について多少の知識があった父親は、監督からバプテスマの面接を受ける前に、信仰箇条を学んでおくべきだと

話しました。そして、彼女は、その勧めに従いました。

監督からは、信仰箇条を暗誦するようには言われませんでした。松森姉妹は今でも、初等協会で学んだ福音の知識を大切に心にとどめています。

両親は、松森姉妹と妹が教会に出席できるようにずっと助けてくれ、やがて松森姉妹が高校生のとき、両親も教会に入りました。

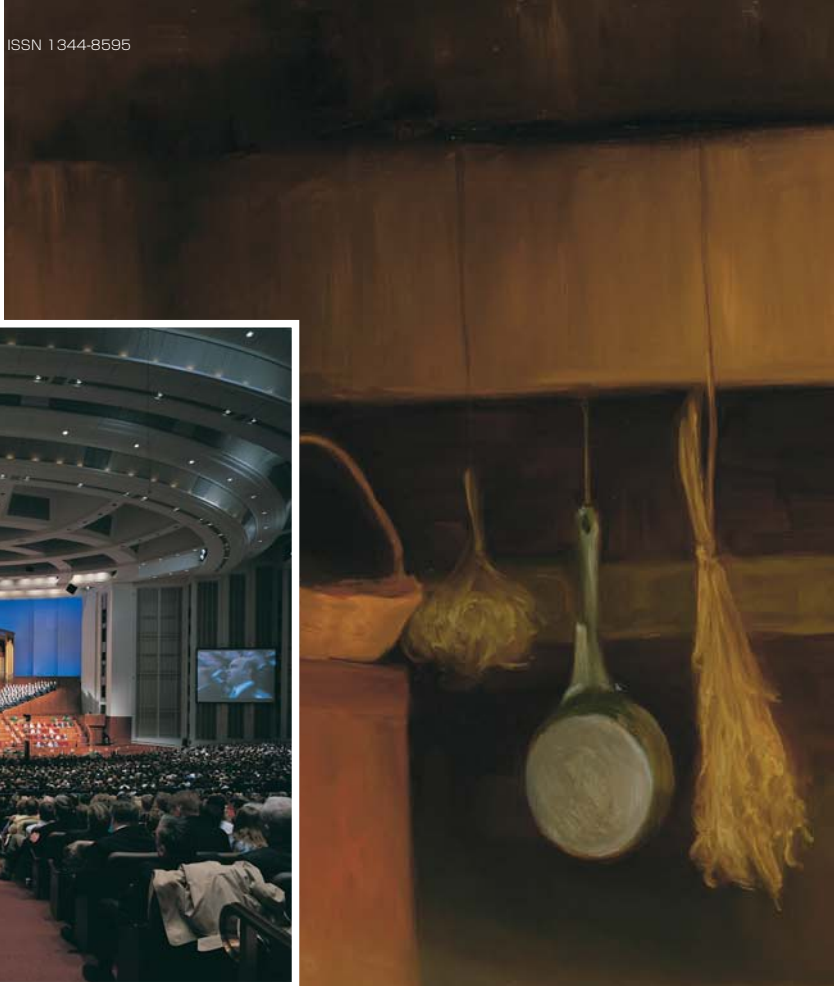
松森姉妹は、1950年12月15日、ユタ州マーレイで生まれました。グラナイト高校に通い、1973年ユタ大学を卒業し、ジャーナリズムと英語学の学士号を取得しました。教員免許も取得し、中学、その他の学校で教育に携わりました。

1973年6月6日、ソルトレーク神殿でジェームズ・松森と結婚し、二人の娘と一人の息子がいます。中央初等協会第二副会長としての召しを受けるに当たり、その備えに最も役立ったのは、母親としての召しだったと彼女は語ります。そのほかにも、初等協会教師、ワード初等協会会長、カブスカウト指導者などの責任も、備えに役立ちました。また5年以上にわたり、中央初等協会管理会の一員として召しを果たしました。◆



「メイド・オブ・アイオワ」 ジョセフ・ブリッキー画

預言者ジョセフ・スミスが、ルイジアナ州ニューオーリンズからイリノイ州ノーブーにたどり着いたイギリス人の改宗者たちは、「メイド・オブ・アイオワ」号という蒸気船でミシシッピ川を渡ってノーブーに來た。活力に満ちたウェールズ人の末日聖徒、ダン・ジョーンズが船長を務めた「メイド・オブ・アイオワ」号は、1842年から1845年にかけて聖徒たちを乗せた。



「回復という美しい物語は、教会が組織される場面へと移りま[した]。それは今週からさかのぼってちょうど175年前の1830年のことでした。」2005年4月2, 3日の両日に開かれた第175回年次総大会で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はそう語った。「教会の名前そのものも啓示によって示されました。だれの教会だったのでしょうか。ジョセフ・スミスの教会でしょうか。それともオリバー・カウドリの教会でしょうか。いいえ。この末の日に地上に回復されたイエス・キリストの教会だったのです。」

